

日本学生氷上競技
選手権大会
75回史



日本学生氷上競技連盟

日本学生氷上競技
選手権大会
75回史



耀かしい歴史を誇る 75周年を記念して



日本学生氷上競技連盟が主催する日本学生氷上競技選手権大会が、本年、75回大会という記念すべき佳き年を迎える事が出来ました事は誠に嬉しく喜びに堪えません。

50回大会が日光市に於て開催され、皇太子同妃両殿下（現天皇后両陛下）をお迎えして盛大に挙行されたのが、早1/4世紀前、つまり25年も前の事になるとは、「光陰矢のごとし」という諺を、身に浸る思いで実感せざるを得ません。

学生スポーツ界に於いては、我が学連が、最古の歴史を有しているのは間違いの無い事と思います。他のスポーツ連盟に於ては、通常、全国組織が成立した後、学生連盟や社会人連盟が誕生するわけですが、本連盟に限っては、学連所属のOB・OGによって、現在の日本スケート連盟が設立され、又、その後、日本アイスホッケー連盟が独立するという歴史があります。

以上の経緯と共に、我が学連は、スピード・フィギュア・アイスホッケーの三部門が、75年の長い歴史の中、仲良く合同で、インカレを開催するという学生らしい特徴をも合わせ持っています。

そして最も学連が誇るべき事実は、75年の長い歴史の中で、創立以来、現在迄、途切れる事なく、スケート界に、豊富な人材を供給し続けている事であります。

全日本選手権・世界選手権・オリンピックを頂点とする各種大会に、学連は数多の名選手を輩出してきました。

学連所属の選手・役員そして、関係するすべての皆様には、我が国のスケート界の創立以来の輝かしい伝統の火を絶やす事なく、次世代に繋げて行かれん事を心から祈りつつ御挨拶と致します。

日本学生氷上競技連盟
総裁 寛仁親王

日本学生氷上競技

選手権大会

75回史

第1回～第49回

(大正14年～昭和52年)

諏訪湖の予定だった

Speed

暖 気 の た め 中 止

Figure

男子シングル①村津（東大）席次数5②佐藤（東大）③平川（東大）

Hockey

1 回 戦	早 大	6 - 2	慶 大	早 大	松本高
準 決 勝	早 大	6 - 2	東 大	小 口	新 村
	松 本	高 不 戦 勝	日 本 歯 大	柳 沢	中 沢
				小 里	飯 沢
決 勝	早 大	8 - 1	松 本 高	坂 名	D 渡 辺
				大 久 保	F 松 居
				後 藤	GK 岩



両角 政人 (早大OB)

学生連盟の大会が、もう50回を数えることになったという。この連盟の創立に関係したものの一人として、まことに感慨が深い。同時にまた、この連盟を引きつぎ、大会を年ごとに盛んにしてくれた代々の学生諸君に対しては、最大の敬意と感謝の意を表してしかるべしと思っている。

学生連盟が創立されたのは、今を去る54年前の大正13年のことである。そして出来上がった連盟に対しては全国学生氷上競技連盟という名称がつけられた。

この学連の結成に参画したのは、当時まだ各大学にスケート部という体育会の承認部門の出来ている大学が少なく、早稲田、慶応、明治、東京帝大、日本歯科医大、確かにこの5校だったと思う。早稲田には柳沢、小口、両角、慶応は高島、青木、明治は塚本、東京帝大佐藤、中西、村津、日本歯科が青木。こんな顔ぶれが、この年のはじめから話し合いをはじめ、晩秋の頃ようやく実を結んだわけである。話をここまで持ってきた中心は、早稲田と東大である。その頃の日本のスケート界は、河久保子郎さんを首班（しゅはん）とする日本スケート会が勢力をふるっており、大学の中にスケート部をつくっていた早稲田と東大のほかはまだ同好会程度の倶楽部組織だったので、河久保さんの日本スケート会に圧倒されて、なかなか各大学間の連絡をとろうなどというところまでは話がはずまなかった。それがとにかく大正11.12年頃から各大学の当事者間の交流がはげしくなり、それにその頃の学生スポーツ全般の台頭に刺激され、また機会の熟したこともあって大正13年秋全国学生氷上競技連盟の創立、そして翌大正14年1月第1回大会を長野県松本市郊外（現在は松本市であろう）の六助池で開くことになった。学生連盟の第1回大会は予定

としては諏訪湖で開くことになっていたが、この年は全国的に珍しい暖冬で、諏訪湖結氷見込みなし、ということで実際に六助池に変更したわけである。

諏訪湖というのは、明治、大正、昭和にかけて、日本中のスケーターにとっては、かけがえのないスケート場であって、いわば、揺籃と発展のすべての場所となっていた。だから、各大学スケート部の人は、何をおいても諏訪湖へは必ず顔を出すという状態で、当然のことながらこの諏訪湖が学生連盟発祥の母体のようなものとなっていた。当時諏訪湖は、年の暮れになれば必ず結氷して正月休みの学生を持ちかまえていたものである。各大学は、早稲田は下諏訪町、東大、慶応、明治などは上諏訪町というように、別々の町に合宿していたが、滑る場所は同じ諏訪湖だから知らず知らずのうちに意志は通じ、学連の結成となったともいえる。

大正13年の晩秋、学連結成と同時に第1回大会の準備にとりかかったが、12月中旬がすぎ、20日頃になっても諏訪湖は結氷の気配がない。準備委員は大いに慌てた。ほかに予定地を持っていなかったのだから慌てるわけである。大会中止、の土壇場に立ったわけだが、松本高校の先輩村津君らが六助池を想い出し、曲がりなりにも第1回大会を六助池で開くことができたのは、創立当時の関係者にとっては忘れがたいことであった。

六助池ではアイスホッケー、スピード、フィギュアの3種目を行う予定であったが、その年の暖気は六助池もご多聞にもれず、アイスホッケーとフィギュアは何とかこなしたものの、スピードはとうとう流れてしまった。六助池はもともと養鯉の池だから規模も小さく、スピードなども250mがせいぜい。その氷が滑走不可能となったのだから、その年の暖気が想像できる。

この第1回大会のアイスホッケー優勝チームは早稲田だが、この時代のチーム編成は、早稲田といわず東大といわず、どこもスピード、フィギュアのかけ持ち選手ばかりで、欲張ったのは3種目に出ていた。僕はフィギュアは不得手だったのでアイスホッケーとスピード2種目となったが、スピードが流れてアイスホッケー1種目だけとなった。

学連は大正13年結成されたが、会長にどなたをお願いするか、全然目処がなく鳩首した結果、慶応の大先輩で、スポーツ界に名を知られ、またスケートに理解も持たれる平沼亮三さんということで、平沼さんのご諒解を得て初代の会長さんをお願いしたと覚えている。平沼さんはスポーツ界の大先輩であるだけに、陸上競技連盟の会長、そのほか沢山の競技団体の会長を兼ねていたので、スケートの会合や競技会まではなかなか手がまわらず、ほとんど顔を見せなかった。終戦後、日本体育協会の会長になり、それから間もなく横浜市長になった。学連ばかりでなくスケート界全体の恩人だった。

平沼さんに何年間会長をお願いしていたか、はっきり覚えていないが、その次が確か早稲田のスケート部長喜多壮一郎さんだったと思う。喜多さんも忙しい人で滅多に競技会には顔を出さなかったから、その頃名誉主事という肩書のあった僕が芝浦や蓼の海、盛岡高松池、八戸などの会場に顔を出していた。

さて、学連の大会が50回を迎えると聞いて感慨無量のわけだが、同時にまた、当時に語り合う仲間の少なくなったのに、今更のような寂しさを感じる。だが、大きな救いは、学連が年々堅実さを加え盛大になっていくことである。これからも、会長さんを中心に、学生諸君が協力して、伝統と歴史を堅持し一層発展していくよう、ご活躍を祈る気持ちでいっぱいである。

松原湖を根拠地に

Speed

男子 200①西田 (早大) 22秒 4②平林 (慶大) ③林 (明大)
 500①窪田 (早大) 1分5秒 4②平林 (慶大) ③後藤 (北大)
 1000①平林 (慶大) 2分31秒 6②西尚 (早大) ③中沢 (松本高)
 1500①窪均 (早大) 3分26秒 8②小里 (早大) ③平川 (慶大)
 5000①窪田 (早大) 13分33秒 2②新城 (慶大) ③小里 (早大)
 2000リレー①慶大 (平川、高島、新城、平林) 4分40秒 2②早大③明大
 得点①早大47②慶大34③明大7

Figure

男子シングル①村津 (東大) 得点②久保 (明大) ③赤羽 (北大)
 順位①北大②東大③明大

Hockey

1 回 戦	東 大 7 - 0 二 高	東 大	北 大
	慶 大 3 - 1 早 大	飯 田	清 水
	北 大 4 - 2 松 本 高	小 野 木	岡 村
準 決 勝	東 大 2 - 1 慶 大	漆 山	南 須 原
	北 大 8 - 0 明 大	高 松	後 藤
		手 塚	D F 実 藤
決 勝	東 大 4 (1 - 0)	田 中	GK 小 川
	0 - 0		幸
	3 - 1		
	1 北 大		



久保 信 (明大OB)

信州八ヶ岳の裏山麓、佐久郡の松原湖がスケート場として開発されたのは全く学生連盟の手に依るものであります。

スケートの学連が創立されたのが大正13年のことで、当時日本でのスケート場として一応著名とされている処は北は札幌の中岳、青森県の八戸、盛岡市、仙台市、それに長野県では諏訪湖、南では兵庫県の六甲等が挙げられておりましたが何と云っても諏訪湖の油氷の魅力は毎年多くのスケーターを集めておりました。この諏訪湖に集まったスケーターの内、

各大学のスケート部員がお互いに挨拶をし、名のりをあげ話し合っている内に、スケート競技としての学連を結成することの必要を認め、前述の如く大正13年の暮れに東都各大学が集い、スケートのインカレを結成し、諏訪湖に集まっていた各スケート部員に連絡し、明るく大正14年の1月に松本市の六助の池で第1回の競技会が行われました。

いよいよ学生が冬の競技スケートを、冬季休暇中に合宿し、1月の10日頃までに競技会を終了させなければならぬということに实际的に取つ運んで見ますと、諏訪湖を初め前述のスケート場はいずれも年末の結氷は危ぶまれどこか適当なスケート

場はないかと方々捜した結果、佐久郡の松原湖が結氷も早く適当であるということになり、第2回大会からはここを根拠に合宿、競技会が行われることとなりました。

当時、松原湖に入るには信越線小諸駅から小海線に乗り換え、小海駅を経て松原湖駅で下車し、駅から湖畔までは徒歩か自動車で3キロほど入らなければならず、各大学の部員はこの道を徒歩で湖畔までたどりついたものです。

また、当時の松原湖には、旅館が高野旅館と日野旅館の2軒と、3、4ヵ所に貸別荘のような小さな家が点在していて、ここに各大学の部員が合宿しておりました。

当時の学連は東大、東北大、北大と、早、慶、明、旧制の二高と松本高が加わって発足し、それに法大、満州医大、立大、東洋大等が加盟し、松原湖を基盤に昭和5年までの4回の大会を行っております。

ここで特に申し述べたいことは、当時の学連は自らの手で松原湖を捜し、ここを学連の根拠地として、合宿を行い、競技会の準備、運営の一切もOB諸氏と学生の手で行い、当番校を中心に各大学が部員を出し合ってトラックの測定、氷の手入れ、除雪等もし、最後に競技会を行い、散会するという全くの自治的運営を行っていたことです。

当時のスケートの技術は競技的には幼稚なものであったことも事実で、スピード競技の種目の中に200mという種目があったり、フィギュアのスクール課題(現在のコンパルソリー)に価値係数(2)程度のものでしか実施出来なかったこと、またホッケー・フェンスの枠は30呎の板で囲ったものが使用されたりして、今考えるとむしろ不思議に思えることが行われておりました。

合宿の雨戸の隙間から吹き込んだ粉雪が朝、蒲団の襟を白くしていたり、旅館の浴場の湯が電熱で沸かされていて、入る部分によっては湯舟がピリピリと軽度の感電を起こしたり、色々面白い懐かしい思い出があります。

今日の日本のスケート界、特に学生連盟の活躍の実体を見て、私共は常に当時の松原湖時代の学連の活躍は、日本のスケート界発展の礎であり、一見誠に幼稚であった事柄も学生が自らの手で築き上げた史事であり、再度日本に冬のオリンピックを迎えようとする日本のスケート界の隆盛を思うとき、特に感銘深きものがあります。



ホッケー優勝の東大チーム

ホッケー 満医大優勝の陰に

Speed

男子 500①小西 (早大) 58秒 0 = 大会新②伴野 (明大) 58秒 2 ③平田 (早大) 59秒 4
 1000①平野 (満州医大) 2分 0秒 8 = 大会新②影山 (早大) 2分 2秒 2 ③伴野 (明大) 2分 5秒 8
 1500①川村 (法大) 3分 3秒 0 = 大会新 ②窪田 (早大) 3分 7秒 4 ③金子 (明大) 3分 11秒 0
 5000①金子 (明大) 10分 40秒 1 = 大会新②蔭間 (早大) 10分 45秒 0 ③川村 (法大) 10分 47秒 4
 10000①金子 (明大) 21分 11秒 0 ②窪田 (早大) 22分 1秒 2 ③金子 (慶大)
 2000リレー①満州医大 (林、北川、庄司、平野) ②早大③慶大
 順位①早大40②明大25③満州医大14

Figure

男子シングル①金子諭吉 (慶大) ②久保 (明大) ③大宮 (法大)
 得点①慶大②北大③明大

Hockey

1 回 戦 早 大 9 - 1 明 大
 2 回 戦 慶 大 不 戦 勝 法 大
 北 大 16 - 0 松 本 高 大
 満州医大 16 - 0 東 北 大
 早 大 3 - 2 東 大
 準 決 勝 満州医大 12 - 0 早 大
 慶 大 6 - 2 北 大

満医大	}	F	金 子
北 河 林			
庄 司	}	W	平 川
平 野			
稲 葉	}	D	太 田
大 賀			
西 内	}	F	新 城
高 橋			
		GK	三 島

決 勝 満州医大 7 (5 - 3) 3 慶 大
 (1 - 0)
 (1 - 0)

林 三大 (満州医大OB)

昭和の初め東京大学のアイスホッケーチームが満州遠征に来た。当時は一般にレベルが低く、ルールも今と違い従って戦法も異なっていた。それにしても、今では信じられない様な競技技術の停顿状態があった。満州育ちで日本を知らなかった私達は、東京大学チームの試合振りを見て初めてこの技術的な立ち遅れが日本にある事を知った。それはフォアハンドのシュートでは当時の日本ではバックは空中を飛ばずにただ水面を滑走してゴールに向かうだけであって、今では選手であれば誰でもわけなくやっている飛ぶシュートは、日本ではまだ行われていなかった、というわけであった。

私達はアイスホッケーの経験をそれぞれの本国で持っている人々が加わっていた

奉天外人チームとたびたび試合をしていたので、はじめからシュートは飛ぶものと決めていた。前記東大チームとの奉天での往時の対戦でも、私達はシュートの際は当然飛ばせていたのであって、東大もこれを体験し、痛かった満州土産として紹介する。そのため日本内地のチームもバックを空中に飛ばせているものと決めていた。

ところが、昭和3年に私達が松原湖に到着した時でも、どのチームもシュートは空中を飛んでおらなかった。開会前の私達の練習を見て、いち早く着目したのは慶応チームであって、大会の前にバックを飛ばす方法を謙虚に教わりに来られた。そこで私達は勝負での影響を度外視して、一般レベルの向上のために要領を伝授した。習いに来なかったものには教えようがない。そのため大会開催中も、慶応を除いた他のチームは依然としてバックはゴールに向かって空中に飛ぶことはなかった様である。

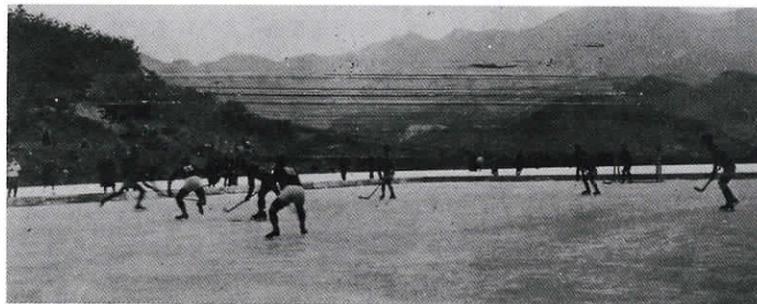
さて私達は決勝戦で慶応と対戦した。前日までは気温が低く、松原湖特有の油氷で誠に申し分ない状態であったが、決勝戦当日には気温が急に上がった。第1ピリオドの途中ですでに水面は雪氷の様になり、まるでフィールドホッケーをやっている様で、スケATINGでなく、ただスケートをはいてスタコラ走り回るだけ、スティックワークは不能でバックをはたき合っているだけの最悪の状態となった。日頃硬い氷でやっていた私達は、この状態になるとまるでお手上げで、得点するどころかかえって3点を慶応に先取されてしまった。

ここで私達は連盟に対して氷質の回復するまで試合の中断方を申し出たのであった。この時に感激したことは、連盟が私達の申し出を直ちに採用した事もそうであったが、それにもまして深く感銘したのは、それまで3-0と私たちに勝っていた慶応が、こころよく中断に賛成してくれたことであつた。50年後の今になっても、その時の試合の経過を折にふれて思い出すが、その度に当時の慶応チームを尊敬すると共に、その厚意に対する感謝の念はまだ消えてはいない。

日がかげりかけて気温が下がり結氷しはじめたので、あらためて第1ピリオドの途中から試合が再開された。その後は次第に水面は固まったものの極めて粗雑で、細かいスティックワークは出来ず、縦横自在なスケATINGにも不適であった。しかし、ややスピーディーな試合運びは出来る様になったのであるが、バックは終始不規則なバウンドをしてスティックからこぼれ、又、これに縦の転がりも加わったりして、敵味方双方共に意の如くには得点は出来なかった。試合が終わった頃は鳥が鳴き、すでに夕闇がせまってきた。

結果は7-3と幸運に私共が勝ったのであった。天然自然の条件に従わざるを得なかったが故の成り行きとして50年前の学生氷上連盟のアイスホッケー決勝戦で起こった記録にないきさつを余録として残して置いて貰いたいと考える。技術はともかくとして、フェアプレーの精神を最も重要視する学生スポーツの具現的な好ましい例として。

第1回大会のホッケー
準決勝、早大-東大戦



慶大ホッケー初優勝

Speed

男子 500①倉町太郎 (明大) 53秒8 ②伴野 (明大) 54秒2 ③小西 (早大) 54秒4 ④牛山 (早大) = 以上大会新
 1000①牛山昌人 (早大) ②伴野 (明大) 1分59秒0 = 大会新③小西 (早大) 1分59秒4
 1500①牧貞夫 (早大) 2分57秒6 ②影山 (早大) 3分6秒0 ③伴野 (早大) 3分9秒6
 5000①牧貞夫 (早大) 11分28秒8 ②影山 (早大) 11分29秒0 ③小西 (早大) 11分29秒2
 10000①牧貞夫 (早大) 22分44秒8 ②影山 (早大) ③金子 (慶大)
 2000リレー①早大 (小西、牛山、影山、牧) 3分43秒8 ②明大③慶大
 得点①早大5 ②明大26③慶大4

Figure

男子シングル①金子諭吉 (慶大) ②久保 (明大) ③西川 (慶大)
 得点①慶大②明大③東大

Hockey

1回戦	慶大 2 - 1 早大	慶大 大川平	東大 久保田
	東大 4 - 2 明大	金子賀野	山田
	東大 6 - 2 二高	有賀野	
準決勝	慶大 10 - 0 松本高	三島川	中沢
	東大 3 - 1 東北大	緑齋	
決勝	慶大 15 (4-2, 4-1, 7-2) 5 東大	太田	山本
		小沢	藤田
			池田



太田幸兵衛 (慶大OB)

インターカレッジ50回を迎えられましたこと誠にめでたくご同慶の至りに存じます。

ご紹介いただく様な代表的選手ではありませんが、当時はスケーターが少ない時でしたから、大正14年1月第1回から卒業する昭和4年1月第5回まで連続選手として出場した実績があります。

卒業後は日本スケート連盟の創立に参加して役員になりました。在任中、室内スケート場建設に奔走しました。もの

なりませんでした。多少なりとも、その機運を促進したと思っています。もう一つは盛岡市の高松池に会場をもって行くことについて地元のご協力を得て実現したことです。

当時は日本勧業銀行員で昭和8年6月、現行で地方勤務を命ぜられまして日本スケート連盟役員は後進にゆずり東京を離れましたので、スケート界と疎遠になってしまい、終戦となりました。以後はOBの一員として会合等には出来る限り出席する様にしています。

当時の思い出として第1回から第4回までを記憶をたどってみます。

大正14年1月第1回は諏訪湖でやる予定でしたが、氷のコンディションが悪いので急に浅間温泉六助の池に変更されました。ゴールキーパーとして初出場したのですが、早稲田の柳沢選手はバックをリフトシュートして来るので驚きました。

大正15年1月昭和元年ですが、このときも諏訪湖の氷はだめ。六助の池は氷の下の鯉が脳震盪をおこすからと貸してもらえなかったそうで、各選手関係者はリュックサックを背負って松原湖まで山坂道を登って行ったのです。風も吹いてプレーに苦労したことをおぼえています。

昭和2年は大正天皇御大葬のため大会は開催されませんでした。

昭和3年1月第4回は松原湖で行われました。この時満州医大が初参加したのでゲームは大いに盛り上がりました。夜には合宿日野屋旅館の二階で座布団を的に、リフトシュートのコーチをうけました。試合には胸をかりるつもつでぶつかりました。ところが前半こちらがリードしたのです。これは氷がやわらかすぎたためでしたので、氷のかたいリンクに移って後半を戦いましたが、実力通り負けました。でもくやしき等は少しもなく、すがすがしい気分でした。医大チームは本場カナダ選手のコーチをうけていたので段違いに強かったのです。

昭和4年1月第5回は前同様、松原湖に於て開催されました。卒業の年で最後の試合にレフトディフェンスで出場しました。満州医大は参加していません。対早大戦にさえ勝てば優勝出来る状態でした。合宿中にも一人追いつめられた気持で思い悩み考え抜きました。そして一応の心構えをもって試合に臨んだので持てる力を出しつくして戦うことが出来たと思っています。1回戦でいきなり早稲田に当たりました。敵はマムシ酒を飲んで氣勢をあげたそうだが等耳にしても、こちらは何等の不安も心の動揺もありませんでした。闘志は満々。たおれて後止むの心境にあったからです。幸い2対1の大接戦で勝ったのです。決勝の2点目のゴールゲッターはライトディフェンス齋藤精三君で今でもそのスケートとスティックワークのうまかったことは忘れられません。名選手だったと思っています。

あれ以来50年間半世紀を経て、今日尚毎日を健康に過ごして居るのも、在学中の合宿訓練と練習の賜物と深く感謝しています。

選手の皆様、どうぞ心残りの試合を戦って下さい。それには、日頃から力を出しつくす練習をして、心構えとスタミナと技術をつくらなければならないと思うのです。

第2回大会のフィギュア競技、演技するのは小野木 (東大)



慶大、総合2連勝

Speed

男子 500①倉町太郎 (明大) 52秒8 =大会新②牛山 (早大) ③保坂 (早大)
 1500①矢崎猶重 (明大) 2分59秒0②倉町 (明大) ③小口 (早大)
 5000①景山伸一郎 (早大) 10分40秒8②羽田 (早大) ③寺尾 (明大)
 10000①景山伸一郎 (早大) 22分9秒4②羽田 (早大) ③寺尾 (明大)
 2000リレー①明大 (矢崎、寺尾、金子、倉町) 3分40秒4②早大3分45秒4 =
 以上大会新③立大
 得点①早大51②明大32③立大3.5

Figure

男男子シングル①金子諭吉 (慶大) ②久保 (明大) ③帯谷 (慶大)
 順位①優大②明大

Hockey

1 回 戦	慶 大 9 - 0 明 大	慶 大	北 大
	東 北 大 26 - 0 東 洋 大	有 賀 川	安 田
2 回 戦	松 本 高 5 - 2 二 高	翠 川 子	F W 西
	北 大 27 - 0 立 大	金 平 川	
	早 大 14 - 3 東 大	木 島	D 清 水
	慶 大 棄 権 東 北 大	久 保 石	
準 決 勝	慶 大 5 - 1 早 大	白 村	F 齋 藤
	北 大 棄 権 松 本 高	中	GK 三 島 沢
決 勝	慶 大 5 $\begin{pmatrix} 2 & - & 0 \\ 2 & - & 2 \\ 1 & - & 1 \end{pmatrix}$ 3 北 大		



倉町 太郎 (明大OB)

昭和3年に明大に入学して、夏の間は陸上競技に入部してトレーニングを行い、12月の休暇とともにスケート部の合宿に入り大会に臨むことにしていた。

松原湖が12月下旬に結氷するので、それまでは陸上でトレーニングをするのが常識であったが、私は陸上競技部のグラウンド(高田寺)で練習して冬に備えることができた。12月下旬に上野から旅立ちして小諸に夜中に到着、小海線に乗り換えるのであるが、待ち時間が1時間以上もあるので各自、

駅近くで夜食をとるのが常の様であった。私も先輩の案内で鍋焼うどんを食べに行き、実に美味であった事を覚えている。

小海線は単線で列車は2両編成、客車の真ん中にダルマストーブが置いてあり、客の誰かが石炭を入れる役目を交代で行い、雑談して朝を迎えるのである。かつて

は木炭の火鉢であった由。かくして早朝松原湖に到着するのである。

湖水の周囲には旅館が4、5軒あり、明大と早大が葛屋、慶応が日野屋、立教、東洋大、法政が田畑。その他に東大、北大、東北大、松高、二高が当時の参加校であった様に記憶している。

結氷すると各校がホッケーリンクを共同作業で造成し、スピードコースとフィギュアリンクは共通に造り、時間割によって練習していたと思う。

スピードのコースは当時1周が500mで、ストレートがものすごく長く感じ、あきあきする程長かった事を覚えている。

又、雪が降ると各校から新人が集められて除雪、撒水の作業を行うので、中々練習も大変で、大会前夜は必ず懐中電燈とバケツ持参で集まったものである。それも日没以後の作業であった。楽しい思い出として残っている。

「ああ、オットセイだ」と呼ぶ声が聞こえた。明大のGK齋藤君が試合終了後、1人で陸に上がるつもりで滑っていたところ、突然氷が裂けて落ちてしまい、氷につかまって上がるうとしても次々に氷が割れて、どうしても水中から出られない。しばらくして我々部員が氷の上に腹這いになり、先頭の者がスティックを差し出して引き上げた。そのまま水風呂に入れて、火をつけた。温まるまで冷たかった事だろう。ようやく温まってユニフォームや防具を脱ぐと、中から即製の段ボールがベトベトになって出てきた。まだ十分な防具が揃わないので段ボールで補強していたのである。幸いにも齋藤君元気に宿に引き揚げたが、それ以来彼のニックネームはオットセイとなった。現在齋藤君の消息は不明であるが、武運長久を祈る。

幸か不幸か私は500mの組合せで余り強い人とはペアを組まなかったし、殆ど相手を覚えていない。ところが入社した保険会社が終戦後合併して、慶大の平川君と職場を共にした時、彼が私のペアとして滑り、大分差をつけられて恥をかきましたと述べられた。トップを滑り優勝したので、全然覚えが無い筈である。申し訳ありませんでしたと言う言葉以外になかった。

スーパーマンといえば現代語であるが、当時は恐らく怪物と呼んでいたであろう。慶大の金子諭吉君である。フィギュアで団体、個人優勝。ホッケーではCFとして活躍、優勝。スピード10000mでも4位入賞。三冠王とまではゆかないが、正に驚き入りました。彼も今は亡く、冥途でも張り切っていることと思う。

松原湖の大会は昭和5年までで、その後は他の場所で行われることになった。結氷時期が次第に遅くなったのと、加盟校の増加で宿舎難に陥った関係と思う。

昭和5年は結局松原湖が結氷せず、裏山に当たる所の貯水池で行われた。八ヶ岳の眺望の大変良い所で印象深い場所であった。山を背景にした写真が多く撮られたのが印象に残っている。

私の記憶として現在覚えている各校の部員は、早大で小西、飯田、影山、牧、羽田、保坂、それに主将の朝長の諸氏で、役員では柳沢、小口先輩である。

慶応では先述の金子氏の他、三条、齋藤、平川、フィギュアの西川、和田の諸氏である。

法政では大宮氏、立教の富田、榎本氏、東洋は宮崎君1人で主将と旗手を兼ねていた。北大では久保、五十嵐氏、東大の三浦、中沢、手塚、先輩の村津、佐藤の諸氏である。

明大では久保、藤野、今野、小林兄弟、寺尾、難波、小林、矢崎、金子、伴野等、母校だけにその他大勢の方々が頭に浮かんでくる。

消息不明者や、第一線より勇退された人々も多いと思うが、松原湖の印象は特に深いのではないと思う。折があったら一堂に会して昔をしのぶ機会でもあればと念じている。50回をしのんで。

ホッケー 早慶、雪中の死闘 決勝

Speed

男子 500①牛山昌人(早大) 54秒 4②保坂(早大) 55秒 6③倉町(明大) 55秒 7
 1500①小西健一(早大) 2分56秒 9 = 大会新②矢崎(明大) 3分1秒 4③保坂(早大) 3分3秒 8
 5000①牧貞夫(早大) 10分21秒 3②羽田(早大) 10分35秒 2③寺尾(明大) 10分35秒 3 = 以上大会新
 10000①牧貞夫(早大) 21分32秒 5②矢崎(明大) 21分44秒 4③寺尾(明大) 21分46秒 8
 2000リレー①明大(矢崎、寺尾、高山、倉町) 3分40秒 3 = 大会新②早大③慶大
 得点①早大54②明大35③慶大5

Figure

男子シングル①帯谷(慶大) ②和田(慶大) ③小林(明大)
 順位①慶大②明大③北大

Hockey

1 回 戦 北 大 26 - 0 岩手医専
 東 北 大 3 - 1 東 大

2 回 戦 慶 大 23 - 11 立 大
 京城帝大 1 - 0 明 大
 北 大 6 - 1 東 北 大
 早 大 不 戦 勝 東 洋 大

準 決 勝 慶 大 3 - 2 北 大
 早 大 4 - 1 京城帝大

決 勝 早 大 3 $\begin{pmatrix} 1 & - & 0 \\ 0 & - & 2 \\ 2 & - & 0 \end{pmatrix}$ 2 慶 大

早 大	慶 大	
保 坂	有 古	F
篠 原	屋 場	
小 西	川 沢	W
牧	伊 田	
左右田	太 斎	D
	阿 部	
桑 山	荒 居	F
羽 田		
		GK



小西 健一 (早大OB)

〈スピードスケートは早大5年の甘夢にひたる。〉
 日本学生水上選手権大会 早大スケート部 小西健一記
 インターミドル以来非常に悪いコンディションの氷が、僅か一晚の寒気で幸いに二枚氷にもならず、6日からのインターカレッジの大会には充分間に合うコンディションとなった。漸く我々一同愁眉を開いたと云ったわけだった。午後1時半から愈々スピード競技の幕は切れて落とされた。毎年スピード王国と云われている早大、果たして明大の鋭鋒をかわし切れるか、亦早大連勝の喜びに浸り得るだろうか。

(第1日)

1500M コースは400Mのダブルコースだ。1500Mの結果は全く各校の予想を裏切った感があった。戦前病後の為不調を伝えられていた明大矢崎の頑張り反し、倉町(明大)のあの不振は全く早稲田にとって思い掛けないことだったが、又明大自身でさえ意外なことだったにちがいない。確かに早稲田にとっては思いがけない大きな拾い物であって此の一戦こそ早明のへだたりを一層深めた大きな原因だったろう。

5000M 長距離を得意とする早大として、これは予想に近い結果だった。

(第2日)

500M 此のレースも第1日の1500Mと同じような結果となった。明治にとっては泣いても泣き切れぬ辛いところだったろう。倉町、新人高山ともに振るわず、短距離のあの牙城は全くめちゃくちゃに踏みにじられた形だった。

2000M 昨冬松原湖上に於いてこの一戦にみじめにも敗れた早稲田にとって、是が非でも勝ちたいレースだった。保坂の転倒は大きな原因ではあったが、私自身ラストを走る時余りにもあせりすぎ、向かい風の直線120Mでピッチを上げすぎラストに弱くなってしまったことも、敗因の一つであった。

10000M 決勝は明治の矢崎、寺尾、早大の牧、左右田、羽田の5選手の間で行われることは戦前からの予想だった。牧、寺尾、矢崎、羽田と二人ずつ、好レースで最後までいずれに軍配が上がるかと思われたが、寺尾はあせりすぎ自ら墓穴を掘った様に思われる。

(各校総得点) 早稲田54点、明治35点、慶応5点、立教3点、京城2点、斯くして明治との差19点をもって早稲田5年連勝甘夢にひたったのである。

〈慶応決勝に惜敗して、覇権は遂に早大に帰す。〉

ホッケー戦 慶応大学 斎藤精三記

5日間にわたる戦いの跡を辿って見るに、第一に目につくのは3種目競技の殊にその中でも、アイスホッケーに於いて著しく各校の技術が接近して来たことである。東京帝大対東北帝大の第1回戦より早慶決勝戦に至るまで、終始龍虎相撃つ白熱戦を演じた。その戦跡は如実にそれを物語るものである。斯くの如く見物人の血を湧かしたアイスホッケー競技は、何と云っても本大会の花であった。自分は今3日間に渡るその戦跡を辿って少し感想を述べてみたいと思う。

今年もこの日準決勝戦に於いて遂に両雄(慶大、北大) 相対するに至った。先年の接戦よりして今年の白熱戦は誰も予想し得るところであったが、強剛西君を再び起用して必勝の意気に燃ゆる北大を眺めては、吾々は早稲田に対する以上に全神経と全力とを傾注せずにはいられなかった。

大会最終日の9日は思わぬ大雪に見舞われて、遂に10日に順延のやむを得ざることとなった。この日も朝より雪多く僅か午前小康を制して漸く準決勝を終え得たが如何にせん午後3時までに決勝戦の幕が切れて落とされる頃、いよいよ天魔その暴威を逞しくせんとしつつあった。極めて不規則なる準決勝の後を受け早慶両軍は著しくそのコンディションを悪くしていた。殊に時間の遅い早大はより以上にハンデアがつけられていたに違いない。此機に慶応は遂に3年連勝の夢を自ら水泡に帰せしめたのである。

以上、昭和6年2月1日発行アサヒスポーツからの抜粋である。

読み返して見ると、半世紀前のこの5日間の事が走馬燈の様に駆けめぐっていった。5連勝を果たしたスピード、ピッチを上げたのに少しもスピードが出ず苦しかったリレーの思い出。ホッケーの決勝戦は雪中の大接戦で第2ラウンドまで1点をリードされ、迎えた第3ラウンドは降雪愈々激しく3センチも積もる状態だった。牧とグラウンドホッケーの戦法で行こう、兎に角、俺とお前で1点宛もぎ取ろうと話合って臨んだ第3ラウンドだった。同点を自分が押し込み、決勝点を牧が同じ様にねじ込み、漸くにして宿敵慶応を破り、慶応3連勝の夢を打ちくたくことが出来たのだ。苦しかったゲームだったが、雪中のあの一戦だけは生涯忘れざることはいないだろう。

スピード 早大6連勝ならず

Speed

男子500①濱英(明大) 49秒0 ②三浦(早大) 49秒4 ③柴山(早大) 50秒8 = 以上大会新
 1500①崔(明大) 2分46秒2 ②濱英(明大) 2分47秒4 ③三浦(早大) 2分55秒2
 5000①崔(明大) 9分51秒2 ②金(明大) 9分57秒2 ③矢崎(明大) 9分57秒6
 10000①金(明大) 21分21秒0 = 大会新②矢崎(明大) ③羽田(早大)
 2000リレー①明大(矢崎、崔、濱英、倉町) 3分26秒0 = 大会新③早大3分34秒6 慶大3分38秒0
 得点①明大57②早大26③慶大9

Figure

男子シングル①片山敏一(関学大) 席次5②小林勝(慶大) ③小林庄(明大)
 順位①慶大②明大③北大

Hockey

1回戦 京城帝大 10 - 0 東北大
 2回戦 慶大 5 - 0 北大
 早大 6 - 0 岩手医専
 明大 8 - 0 東大
 京城帝大 8 - 0 立大
 準決勝 慶大 8 - 2 京城帝大
 明大 2 - 1 早大
 決勝 慶大 2 (0-0, 1-0, 1-0) 0 明大

慶大 藤野正	F	大波町
亀井		難倉
	古屋	W
田部		
監阿	D	山本
		新城
新荒	F	近
		森
井	GK	斎藤



渡辺善次郎(慶大OB)

慶應義塾幼稚舎6年(小学校6年)の時、鶴見花月園リンクで初めてスケートをはきました。慶応大の当時の選手金子氏、和田氏にフィギュアを教わってもらい、その年の冬には大学のスケート部の合宿(松原湖)に参加、自後毎冬合宿に参加しました。普通部時代(中学時代)はインターミドル大会に参加、昭和8年より慶大スケート部フィギュア部員としてインターカレッジ大会に参加出場しました。当時は、慶応の長谷川、星野両君、明大の小林兄弟、関西学院の片山君等の

如き良き競争相手であり、かつ仲の良い多くの友人達をスケートを通じて持つことが出来、幸福でした。

当時、数多くの競技会に出場参加いたしました。何といたってもインターカレッジ大会は、全日本選手権の様な個人的なものと違って、学校を代表しての参加でしたので、大きな責任を感じましたし、またチームが優勝出来た時の喜びは格別でした。昭和8年インターカレッジに初参加し、明大を破って優勝した時の感激は今でも忘れられません。その後も幸いにいつも優勝出来ていたのは、本当にチーム全員の努力と協力の結果だったと信じております。

よみがえる50年前

平野 進(満州医大OB)

約50年前のこととなると、記憶も薄れてしまっておりますが、ことスケートとなると、青春時代血を沸かせたこととて、記憶も比較的、確かなつもりです。

私が満州医大のスピード選手として出場したのは、第4回インターカレッジで、昭和3年の1月でした。私が満大予科に入学した年のことで、大正15年の12月には大正天皇が崩御されたので、全満州の中学校のスケート大会は中止となり、又その年は満州は暖冬異変で、冬休み中はリンクの氷は解け、さざなみがたつ有様で、ちょうど私の受験勉強の時でもあったので、このシーズンは殆どスケートをはかなかった様に記憶します。

昭和2年の期末試験も迫った或る日、アイスホッケー部がインターカレッジに参加するので、私にスピードに出場してみないかとの誘いがあり、急遽決定を見た次第でした。1年間のブランクがあり、試験中で練習も出来ぬので、試験終了を待ってホッケー部より一足先に松原湖に先発隊として出発し、現地で練習する事となりました。

松原湖に着いたのは夕闇せまる頃でしたが、荷物も宿に投げやり、氷にのった事を覚えています。翌日は朝から集まっている選手等とリンクを回ってみました。私の1年間のブランクで案じていた危惧の念は吹っ飛んで、自信満々でした。元来私は長距離走者でしたから、一万、五千、千にエントリーしたと思います。

いよいよ第1日五千人に出場となりました。当時はオープン・コースであり、他校の選手の実力も前日の練習でわかっておりましたので、最後の1周あれば必ず勝てると思い、スローペースで飛び出したのが間違いで、満州から来た無名の私を大会前の練習で見て、内地(当時、私等外地におる者は日本をこの様に呼んでいました)の選手等が策を練ったので、私は多勢の選手にかこまれ、その進路をふさがれたのみならず、スケートをひっかけられ、転倒こそしませんでした。散散な目に遭い、レースを放棄しました。

後で思えば、初めから飛び出し、独走体勢を作ればよかったです。後の祭りでした。したがって一万は棄権し、千に出ましたが、問題なく勝ちました。しかし中学3年の時に五百位 53~54秒でしたから、その時の記録は私としては不本意なものです。

さて、スピードレースの最終日に行われた2千位リレーに私等の学校も出場することとなりましたが、レース用のスケートは私と他に1人で、しかもこれが借り物で、他の2人はホッケー用ときております。私はアンカーでしたが、バトンを受け取った時は、先頭の走者は五百のリンクの半ばを滑っておりました。まさかこれを抜けるとは思いませんでしたが、第4コーナーでこれをとらえ、私等が勝ってしまいました。当時の記録に、スピード部門で満大得点14点(第3位)とある由ですが千位と二千位リレーの1位の合計点数と思われま。

当時のインターカレッジのレベルは、以上でもわかると思いますが、満州の中学生の一流を連れて来れば、恐らく全種目に優勝したかと思えます。

松原湖に於ける大会以後、私はスピードをやめ、アイスホッケー部には入り、満大の単独欧州遠征と、ガルミッシュユバルテンキルヘンの冬季オリンピックに、アイスホッケーの選手として参加させてもらいました。

フィギュア 片山(関学)2連勝

Speed

男子 500①崔龍振(明大) 47秒9 = 日本新②濱英(明大) ③大沢(早大) 柴山(早大)
 1500①崔龍振(明大) 2分37秒5 = 大会新②濱三(明大) ③大沢(早大)
 5000①金正淵(明大) 9分31秒1 = 大会新②矢崎(明大) ③寺尾(明大)
 10000①金正淵(明大) 19分50秒4 = 大会新②矢崎(明大) ③安(明大)
 2000リレー①明大(矢崎、金、崔、濱) ②早大③慶大
 順位①明大②早大③慶大

Figure

男子シングル①片山敏一(関学大) ②長谷川(慶大) ③渡辺(慶大)
 順位①慶大②関学大③明大

Hockey

1 回 戦	明大 3 - 0 早大	慶大 大野井	}	北大 佐藤忠
	北大 4 - 2 東北大	藤亀 屋川		
	慶大 6 - 1 立大	古平	} F	千田
	岩手医専 5 - 1 東大	伊丹		
準 決 勝	北大 5 - 3 岩手医専	波田	} D	五十嵐
	慶大 2 - 1 明大	監		
3 位 戦	明大 3 - 2 立大	新城	} F	青光山
決 勝	慶大 6 (2-0, 3-0, 1-0) 北大	阿部		
		部	GK	佐藤正

片山 敏一 (関学大OB)

当時インカレは、全日本選手権に匹敵する水準の高い大会で、参加ごとに好成績を取ることができたということは、私にとって幸せなことでありました。特に、当時は例年関東の大学が優勝者を出し、また総合優勝をも争うことが多かっただけに、関西出身(関学出)の、それもフルエントリーできないような学校から出場し、優勝することができたということは、意義のあることだったと思います。私にとっては、なんととっても第11回大会が記憶に残っています。私は、この大会の前より、ペアの練習を十分しないまま、大会に臨まなければなりません。得意の規定では、なんとか首位に立つことができましたが、自由で長谷川、渡辺の両君に逆転を許すことになったのです。それまでの各大会で順調に好成績を上げてきていただけに残念でした。しかし、この失敗をよい経験とすることにより、私は次の全日本選手権で長谷川君に勝つことができ、オリンピック選手として選ばれる事になったのです。

インカレという大会は、私のように大学から1名しか出場しなかったような者に

当時のスケート大会としては、やはり独特のものであったと思われます。今後、インカレという大会が、参加各選手が、より高度の技術を競い合うような、水準の高い大会へと発展することを希望いたします。



矢崎 猶重 (明大OB)

第10回大会は昭和9年1月2日より6日まで初めて日光細尾リンクに於いて開催されました。

我が明大スケート部にとり前は総合優勝こそ惜しくも逸したが、ホッケー部は私が昭和4年スピード部に入部以来1勝も出来なかったのに慶応と決勝を争い2位。スピード部は第1回大会より連続優勝の早大を52対26の大差で破り待望の初優勝。フィギュア部は総合優勝がかかり覇権分岐の紛糾審判まで出来の大接戦の末慶応に敗れ2位の成績をおさめ、3部門優勝の希望を与えてくれました。

この大会を最後にフィギュアの小林庄、スピード、ホッケーの倉町両主力選手であり好指導者を卒業でお送り致しました後、きたるべき次回の総合優勝はスピードの連覇とフィギュア、ホッケーの何れかが慶応に勝つ事以外にないとの結論に達しこの事をよく認識自覚し、寺尾主将、難波副主将を中心にそれぞれの任務達成の為積極的に猛練習を繰り返し、相励み、或る期待をもって大会に臨んだ次第です。

競技第1日の結果、フィギュアの形勢不利、スピード1500m 1、2、4位、10000m完勝で連覇ほぼ確実。第2日フィギュアは打倒慶応ならず2位。スピード500mで1人入賞こそ逸したが1、2位、5000、2000リレー完勝、予想以上の大差62対早大24で連覇を達成快哉!! 反面我がスピード部内の試合観を呈した感じで一抹の淋しさ虚しさ!! これが強者の悩みというものでしょうか? 遂にホッケーの慶応との成績如何が総合優勝の鍵となり、第3日早大を3対0で破り第4日準決勝で慶応と対戦なる事となった。前回の戦いの跡を小出記者(朝日新聞)審判の一部は『明大がスピードの好選手をホッケーのラインアップに加えたのが東大や早大を破り慶応に内薄した最大の原因である。この優勝戦の結果2対0は決して明大に得点機会の絶対になかった事を意味していない。明大が攻めても攻めても慶応のGKと塩田、新城の二人のDF防御が非常に強く得点する好機会を今一步のところでつぶされたものであった(以下略)』と伝えております。試合は好天に恵まれ、事実上の優勝戦とあって観衆多数で応援戦から始まり、第1ラウンドより前回以上の熱戦で、両軍の猛襲逆襲の連続。第2ラウンド慶応が続げざまに得点。前回の轍を踏んでたまるものかと必死の猛追撃も今一步で効を奏せず。第3ラウンド後半ようやく1点回復したものの時すでに遅く2対1で惜敗す。終盤の形勢からこの時程『試合時間に制限ある』競技の悲哀を痛感した事はなかった。この試合の勝敗を決めたものは試合流れの機を掴む巧拙にあったと思っており、大試合の経験不足(特に私のホッケー歴2年)を痛感し、慶応の巧さ、底力の強さを改めて知らされました。又、我が方の攻撃の都度、慶応応援席から『矢崎をぶっつぶせ』とどなる大声に反撥出来なかった事、奇しくもその大声の主は私の誼中の先輩であり慶応スケート部OB金子諭吉氏で、世にいうご恩返しが出来なかった自分の未熟さ不甲斐なさが印象に残っております。

ここに故人となられました小出、寺尾、難波、金子各先輩のご冥福をお祈り申し上げます。

石原(早大)500に日本新

Speed

男子 500①石原省三(早大) 45秒0 = 日本新②崔(明大) 47秒1 ③張(明大)
 1500①張祐植(明大) 2分39秒1 ②濱(明大) ③崔(明大)
 5000①李聖徳(早大) 9分13秒8 = 参考日本新②金(明大) 9分14秒2 ③穂口(早大)
 10000①金正淵(明大) 18分46秒3 = 参考日本新②李(早大) ③穂口(早大)
 2000リレー①明大3分16秒0(矢崎、張、崔、金) ②立大③慶大
 得点①明大51②早大40③立大5

※ 参考日本記録はオープンコースのため未公認となったもの。

Figure

男子シングル①長谷川次男(慶大) 席次数8、得点519、6②渡辺(慶大) ③片山(関学大)
 順位①慶大②明大③関学大

Hockey

1 回 戦	東 大 3 - 0 東 北 大		
	京 城 帝 大 12 - 0 北 大		
	立 大 15 - 1 京 大		
2 回 戦	京 城 帝 大 11 - 2 東 大	慶 大	立 大
	立 大 5 - 3 早 大	藤 野	田 中
	同 大 12 - 3 岩手医専	堤	金 谷
	慶 大 8 - 5 明 大	亀 井 川	F 小 柳
準 決 勝	立 大 12 - 0 京 城 帝 大	平 井	W 大 橋
	慶 大 26 - 1 同 大	古 屋	井 川
		荒 井	D 大 西
		監 田	F 須 藤
決 勝	慶 大 10 $\begin{pmatrix} 2 & - & 1 \\ 4 & - & 0 \\ 4 & - & 2 \end{pmatrix}$ 3 立 大	五 嵐	F 須 藤
		丹 羽	D 須 藤
		千 村	GK 河 崎

石原 省三 (早大OB)

昭和10年の学生大会で私は500m45秒0の日本新記録を作ったが、これは私にとって大きな意義があった。昭和6年の世界選手権(ヘルシンキ)昭和7年の第3回オリンピック(レークプラシッド)に参加した時、転倒したことで冷え込みが原因で船中から左脚が座骨神経痛に冒され、帰京と同時に病床に伏してしまった。灸、針、注射、マッサージ、温灸療養等との約2カ年の闘病生活を余儀なくされてしまった。両親からはスケートは取り上げられてしまったが、2年間の海外遠征で得た

ものからなんとか世界新記録に近づけたいと念願し、闘病生活中遠征した時に写して来たフィルムや自分のイメージを姿見に写して研究し、又、欧州選手やアメリカ、カナダ選手等の相違点の分析など2年間研究し、頭の中には一応のフォームが出来上がって来ていたのであった。徐々に神経痛も回復しつつあった時、昭和9年満州安東県(鴨緑江リンク)で全日本選手権が開催されることを知った。

私の家が安東県にあったのと、長距離はだめでも短距離なら技術でカバー出来ると信じ、私の2年間のプランクを試して見たく500mのみ出場して見た結果は1位となり、自分の考えにますます自信を深めたのであった。この時の総合優勝者は金正淵(明大)であった。

身体もなんとか回復出来る見通しもつき、又、闘病生活中色々の方から温情あふれる激励やお見舞いの手紙を戴いたうれしさは忘れることが出来ない。その方々の励ましの言葉に力を得、再びスケートをはくことを決意し、上京して学生生活に入ったのである。

昭和10年のインカレは2年前に完成した細尾リンク(日本で初めて溜水の正式の400mリンク)で行われたが、過去のスケート界はインカレでシーズンの開幕で、学生対抗意識もいやが上にも高まり、海外遠征を経験している私でさえ異常な興奮をおぼえたものであった。

競技の結果は他を大きく引き離して45秒フラットの日本新を樹立したが、当時の世界記録は43秒であったので、まだまだの感が強かった。

私は病気を持つ身体なので500メートルを分析し、如何にしたら滑走出来るかが課題だった。それには500mを100m単位に力の配分を研究し、それを基礎に練習に向かって努力を続けた。

過去を振り返り、学生諸兄に申し上げたいことは、滑って滑って滑り抜くことによって身体で滑走技術を獲得出来るのであって、柔軟な身体と強靱な筋力(背筋、腹筋)を養成することが必須条件なのである。現在500mの5傑の中に2名の長距離選手が出ているという事は滑り抜いた賜物であり、オリンピックの入賞も希望が持てると思う。

第9回大会スピード優勝の明大チーム



立大、ホッケーで初優勝

Speed

男子 500①石原省三(早大)②李(早大)45秒8③崔(明大)
 1500①金正淵(明大)2分27秒1=大会新②崔(明大)③張(明大)
 5000①崔龍振(明大)9分16秒0②張(明大)③金(明大)
 10000①李聖徳(早大)19分37秒0②張(明大)③南洞(早大)
 2000リレー①早大(中村、南洞、石原、李)3分3秒8②明大(泉山、許、金、崔)3分6秒5=以上日本新③慶大
 得点①明大50②早大41③慶大8

Figure

男子シングル①渡辺善次郎(慶大)1282.8②長谷川(慶大)③黒田(早大)
 得点①慶大25②早大15③明大14

Hockey

1 回戦	明大 6 - 0 東大	決	立大 2 (0-0)	早大 0 (0-0)
	東北大 1 - 0 京城帝大		0 (0-0)	
	京大 6 - 2 同大		2 (2-0)	
	慶大 4 - 0 北大			
2 回戦	慶大 7 - 2 京大	立大	大村	早大
	明大 11 - 0 東北大	大	砂田	安田
	早大 棄権	砂	金谷	安部
	立大 棄権	金	柳谷	鬼田
		小	柳	富堀
		新	開	西川
準決勝	立大 4 - 2 明大	大	橋	市田
	早大 1 - 0 慶大	砂	谷	平田
		大	橋	中
3 位戦	明大 2 - 1 慶大	山	木	沢
			GK	



砂田 重民 (立大OB)

昭和12年、日光で行われたインターカレッジの思い出を書けとの学連からのご指示を受けた。これは困ったことだ。なぜ困るかといえば、12年のインカレに優勝したとはいえ、私はホンチャンに登用されたばかりのシーズンで、どの試合もどの試合もいわゆる「あがって」いた試合ばかり、試合内容など覚えていない。どうして14、5年の思い出を書けといってくれないのか、少々うらみながら一文を。

昭和11年、芝浦リンクでの大学リーグ戦に立教は初優勝した。この時に私はじめて小柳、田中の両ウイングにセンターとして第1フォワードに起用された。全く無我夢中の各試合で、いずれも大接戦の末全勝して、その次

の大会が日光でのインカレだったのだ。当時どの大学でもメンバーの殆どの選手は北海道、満州育ち。私や谷(立大)、堤(慶大)、鬼鞍(早大)といったインドア育ちの選手が第一線に出始めたのが11年リーグ戦、12年インカレだった。そしてこの頃を境として名門満州医大や実業団より東京の大学チームが優位にたった。12年のインカレで優勝はできたものの、まだこの年の立教はチームプレーらしいものは何もできず、小柳のワンマンプレーを我々が助けるといったチームだった。

しかしリーグ戦、インカレの連続優勝は、もっと高度のプレーをという意識も私たちにもたせて、バスケットボールの攻撃フォーメーションをとり入れることを手はじめに、「華麗な」とさえいわれたパスフォーメーションによるチームプレーを完成させることができ、その後3年間ばかり立教の黄金時代をうちたてた。12年インカレは、そのスタートであって、立教大学スケート部の歴史には大へん重要な大会であった。

第9回大会スピード1万に力走る金矢崎の明大コンビ



ホッケー 早、立で王座争う

Speed

男子 500①崔龍振(明大) 45秒9 ②中村(早大) ③許景日(明大)
 1500①崔龍振(明大) 2分33秒2 ②南洞(早大) ③莊燈(明大)
 5000①張祐植(明大) 9分11秒5 ②南洞(早大) ③尹寛植(明大)
 10000①張祐植(明大) 19分14秒5 ②尹寛植(明大) ③安重照(明大)
 2000リレー①明大3分11秒7(泉山、崔旻、許、崔) ②早大③慶大
 得点①明大59②早大31③慶大9

Figure

男子シングル①長谷川次男(慶大) 席次5、得点1336、75②片山(関学大) ③渡辺(慶大)
 得点①慶大28②明大16③関学大10

Hockey

1 回 戦	慶大 2 - 1 京城帝大	明大 10 - 1 同大	大
	満州医大 9 - 0 東北大	東大 不戦勝	北大
2 回 戦	立大 不戦勝	京大 大	早大 大
	早大 15 - 0 関大	大	中川
	満州医大 3 - 1 慶大	大	鬼鞍
	明大 9 - 1 東大	大	小須田
準 決 勝	立大 8 - 1 満州医大	大	吉島
	早大 1 - 0 明大	大	左右田
決 勝	早大 3 (0 - 1)	立大 2	市川
	(2 - 0)		安田
	(1 - 1)		中沢
			立大
			小柳
			砂田
			後藤
			田中
			谷橋
			大橋
			山本



鬼鞍 弘起 (早大OB)

アイスホッケー界は昭和10年頃を境とし、第二次大戦突入まで、各大学が華と咲き隆盛を迎えていた。

昭和10年世界の強豪カナダ・サスカトンチームの来朝と、11年ドイツ・ガルミッシュの冬季オリンピック初参加が大きな契機となったと思う。

カナダの来朝は世界の本場アイスホッケーに接したことで大きな意義があった。日本は当時攻撃ゾーンはラグビー式の横パスだったものが急に今のルールで対戦したのだから、全

日本選抜といえどもたまったものではなかった。

カナダの華麗な個人技と、見たこともない速いテンポのフォーメーションに全試

合ダブル・スコアで敗れる結果となった。以後日本のアイスホッケーは大きな変革を遂げたのである。

翌年のオリンピックには慶応、満州医大、王子製紙他各地区の連合チームが参加した。そして多くの教訓を得て帰ったのは勿論である。

近代アイスホッケーはこの辺からスタートしたといえるのではなからうか。

新しいホッケーのフォーメーションは早、慶、明、立各大学の努力で早い熟成力を見せ日本のトップレベルは学生チームが主流を占めるに至って華々しく連続制覇を唱えることになった。

学生選手権は全日本選手権と全く同じで昭和11年～14年まで早、立、早、立の順で交互に選手権者となっている。この間、慶、明とまんじどもえ、ときたま王子、古河や満州勢がその一角を崩すこともあったが、決勝はほとんど早、立の間で争われた。芝浦の室内スケート場は毎回満員の盛況、熱気に溢れていた。

スケート界は満州、北海道出身の選手の多いなかで、私は東京育ちであった。早稲田に入学当時16才で初めてスティックを手にしたのである。立教の砂田君も同様だった。インドア育ちはとかく部内でナメられたものである。しかし、早大第一学院の3年のとき名CF富田正三氏のRWとして出場する幸運を得た。

その頃は極限とも思えるほど、陸上、氷上練習に打ち込んだものである。のちの人生に大きな想い出と、かけがえのない経験をもったと考えている。

昭和13年、私が大学一年生になったとき、早稲田は主力選手4人を卒業生で送り、大幅な新人起用で苦しいシーズンを迎えていた。

さらにインカレに備えた松原湖の練習で、特に吉島君など絶好調でチームも明るい見通しになってきたとき、突然彼は病気になり、急遽大連商業より入学早々の新人中川哲を第1RWに起用せざるを得ぬアクシデントに見舞われたのである。

しかし、早大は準決勝で明大を破り、立教は満州医大を大差で破って早、立は決勝に進出した。この模様は次に転載する朝日新聞の名スポーツ記者小出秀世氏の記事でご想像頂きたい。

『早大闘志に勝つ 追撃戦立教に悲運』

◆前日の戦いぶりから見れば立大の快走巧技に対し若手選手揃いの早大に苦戦のものと予想させたのであるが、早大は小須田主将を中心として固く結ばれた団結力はチーム実力を二倍にも三倍にも強化して堂々立大と対等の試合を気概で行ない見事にこの栄誉を早大のものとした。立教小柳の先取得点にひるまず中盤戦に入った早大は鬼鞍、中川のパスワークで同点に追いついた直後、小須田の単身ドリブルからフリーシュートで1点をリードするや全軍にわかに戦意をたぎらして秒速回立大砂田の得た巧みなゴールも早大は中川のプッシュで翻いて二年振りの制覇となった。◆技術を補った早大の闘志にも目をみはるものがあつたが、立大はFWに代員なく対満州医大戦に存分の動きを示した砂田、小柳なども休養を得られぬ欠点が歴然と立教のプレーに顕われ立大に懸念された唯一の弱点を暴露して敗れたものと云う事が出来る。

勿論この日の早大が、立大のスティックワーク癖を良く見ぬいて砂田、小柳等のドリブルを完全にチェックして味方ゾーン内に寄せつけなかった用意も買うべく、GK中沢の相も変らぬ好防ぶりが目立ってはいいたものの立大が技巧に頼りすぎて体力の消耗はやがては精神力の衰微、反発力の低下を招来する事を度外視していた点は見逃せない。

◆ゲームは一進一退、近来にない追撃戦となって全スタンドを湧かせたが、立大のFWの人員不足が招いた結果を見る時に氷上ホッケーの真価を比処に知るといふ事が出来た。』

この年の全日本選手権も早大が優勝した。そして昭和15年中止となり、まぼろしのオリンピックとなった札幌大会代表候補選手は学生が大半を占め、当然主力であった。まさに学生ホッケー開花時代だったといえるだろう。

フィギュア 慶大11連勝ならず

Speed

男子 500①山下勝久 (早大) 44秒9 ②崔 (明大) 45秒1 ③高林 (明大) 45秒2
 1500①安重熙 (明大) 2分33秒9 ②崔 (明大) 2分35秒9 ③李 (明大) 2分37秒3
 5000①張祐植 (明大) 9分21秒0 ②尹 (明大) 9分22秒9 ③泉山 (明大) 9分30秒3
 10000①張祐植 (明大) 18分58秒0 ②尹 (明大) 19分16秒4 ③金 (明大) 19分21秒9
 2000リレー①早大 (中村、穂口、山下、南洞) 3分3秒5 ②明大③慶大
 得点①明大60②早大32③慶大7

Figure

男子シングル①長谷川次男 (慶大) 席次数7、総得点1386.9 ②有坂 (明大) ③小林 (明大)
 得点①明大21②慶大12③早大8

Hockey

1 回 戦 慶 大 3 - 2 満州医大
 同 大 7 - 1 北 大
 早 大 14 - 0 中 大
 京 城 大 4 - 1 法 大
 明 大 16 - 0 京 大

2 回 戦 慶 大 11 - 1 東 北 大
 立 大 16 - 4 同 大
 早 大 11 - 0 東 大
 明 大 大 不 戦 勝 京 城 大

準 決 勝 立 大 9 - 1 慶 大
 早 大 6 - 1 明 大

決 勝 立 大 3 $\begin{pmatrix} 2 & -1 \\ 1 & -0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$ 2 早 大

立 大	大 中 田	F	早 大	大 島
砂 田	村 藤		吉 鬼	鞍 川
大 後	橋 橋	W	中 島	津 田
高 鬼	鞍 谷	D	七 川	西 川
内 山	藤 本		F	市 鈴
		GK	小 野 田	



長谷川次男 (慶大OB)

昭和10年インターカレッジについては、当時の第1人者の片山敏一君に勝ったのが思い出として残っています。この年は翌年のオリンピックをひかえて、その代表選抜大会もあり、その為一生懸命練習した様に記憶しています。

昭和14年は卒業の年でもあり、片山君はじめ慶応の渡辺、星野両君も居らず、気楽にやった様な気がします。

私共の時代は日本がフィギュアスケートとして初めてオリンピックに参加した頃であり (1932年初参加)、その後オーストリアのフリッチ・ブルガー嬢の来日により世界の新しい技術が紹介され、世界と日本が従来より非常に近くなった時代でありました。また、オリンピックに参加して世界的選手に接して更に技術をみがくことが出来たのが、その後の日本スケート界のレベル向上に役立ったと思っています。

時代も環境も変わったので、現在の選手の皆さんに対しては、何とも言えませんが、フィギュアスケートは個人競技なので、上手になるのも個人の努力次第であるということは、今も昔も同じだと思います。上手になるには他人の2倍3倍の努力が必要でしょうし、それがあってこそ、人に抜きんでることが出来ると思います。

第17回大会で明大のスピード9連勝を阻む原動力となった早大の山下



五百山下(早大)の1人舞台

Speed

男子 500①山下勝久(早大) 45秒5 ②阿部46秒2 ③高林(明大) 46秒4
 1500①南洞邦夫(早大) 2分31秒3 ②李(明大) 2分33秒1 ③山下(早大) 2分33秒5
 5000①深井恒雄(慶大) 9分7秒1 =大会新②南洞(早大) 9分11秒0 ③李(明大) 9分11秒7
 10000①中楠聡(早大) 18分52秒6 ②深井(慶大) 18分53秒2 ③尹(明大) 18分53秒2
 2000リレー①明大(阿部、金、高林、李) 3分6秒0 ②早大③慶大
 得点①明大44②早大37③慶大17

Figure

男子シングル①有坂隆祐(明大) 得点1418.91 ②小林(明大) ③高山(慶大)
 得点①明大45②慶大36③早大26

Hockey

1回戦	明大	20 - 0	北大				
	同慶	3 - 2	法大				
	中慶	5 - 1	関学大				
	慶大	16 - 1	東北大				
2回戦	明大	7 - 0	同大				
	早大	7 - 0	中大				
	立慶	14 - 0	京大				
	慶大	8 - 0	東大				
準決勝	明大	7 - 4	早大				
	立慶	5 - 2	慶大				
決勝	立大	3 $\begin{pmatrix} 0 & -0 \\ 1 & -1 \\ 2 & -1 \end{pmatrix}$	明大				

南洞 邦夫 (早大OB)

戦前の日本スピード・スケート界の隆昌期は、昭和10年から昭和18年に至る8カ年の間であった。昭和11年、第4回冬季オリンピック大会がドイツで開催され、7人のスピード・スケート選手が参加したし、4年後の昭和15年には、日本の札幌で第5回大会が開かれることがすでに決まっていた。従って、これらの時期に日本のスケート界はあげてこの準備と強化に全力を傾けていた。

当時、言うまでもなく、スケート界の中心をなすものは学生選手であり、なかなく早、明両校のスピードは学生選手権始まって以来、覇権争いを続けた。そして

多くの記録もこの中から生まれたのであった。特にドイツの第4回オリンピック大会で早大の石原選手が短距離の500mで第4位に入賞したのを出発点として、スピード・スケート短距離界の充実を目を見張るものがあった。

すなわち、この時期の前業には石原省三、李聖徳、中村礼吉、南洞邦夫の早大勢と、崔龍振、李仁源の明大勢とのぶつかりあい、そしてこれらを追うように山下勝久(早)、高橋三郎、阿部剛(明)、内藤普(日)等の新勢力の台頭がめざましかった。昭和10年の日光リンクにおける学生選手権大全の石原選手の500m45秒0の日本記録は、それまでの本人のもつ47秒8を大幅に上回る驚異的なものであり、立ち遅れていた日本のレベルを一挙に北欧の国際レベルに近づけたものであった。

しかしながら、戦争の中国における果てしない拡大で札幌のオリンピックは返上ときまり、又、昭和16年12月太平洋戦争の勃発で日本スケート界はにわかには暗転するのであるが、それまでのこの時代はまさに日本スケート界の中興の期と言えるだろう。長距離レーサーとしても、金正淵、張祐植などにつづいて慶応の新人、深井恒雄はインドア育ちのピッチ走法で5000と10000mの学生記録と日本記録を書き換えたのであった。(深井選手は昭和20年4月北島にて名誉の戦死を遂げた)

こうした背景のもとに亡き山下勝久選手のことを語らねばならない。

彼は正10年、満州の(現在の中国東北)大連で生まれた。スポーツ熱心の両親のもと、特に祖父母の寵愛と励ましの中に育った彼は、小、中学校を通じあらゆるスポーツに才能を発揮したが、特に夏はサッカー、冬はスケートの選手として頭角を現わしてきた。大連一中の年少中学選手時代、すでに全満州のスピードスケート選手権大会に活躍、大連にこの人ありと将来を嘱望された。昭和13年、早大に入学以後スピードスケートに全力を打ちこんだのであった。

この年、早大スピードは大量の卒業生を送り出し、宿敵明治との戦いに持ち駒不足をかこっていたのであるが、南洞、藤原哲夫などの上級生とともに部の中心勢力となって部の再建に努力したのである。彼の同期生には、中楠聡、角本正、市川健一などがおり、遅れて彼の弟山下定男や中村栄治も入部してきた。

両親及び祖父母の期待と愛を一身に受けた彼は性格が豪放磊落、明朗で友情に厚く、後輩の面倒を良くみた。彼と知り合った者は誰でも一度で彼を好きになった。身長は1m80、体重75kgの隆々たる筋肉質で、全身がバネそのものであった。

外見は柔和ながらレースにおける闘志は激しく、常に相手を圧倒するものがあった。氷上ではもとよりオフシーズンにおける訓練にも音を上げたことはなかった。スピードスケートが本来記録への挑戦であり、孤独と苦しさで耐えしのぶ自分との戦いであって、従って真の敵も自分の心の中にあることを彼は良く知っていた。戦いに敗れた時や記録の上からぬ時は、よく自分の心の弱さを先輩である私に訴えていた。オフシーズンの訓練のため部員とともにレース用の自転車にも乗ったが、彼が作った公式の500m自転車日本記録は、遂に戦後まで本職の自転車選手でも破ることができなかった。

昭和18年学徒動員令が下るとともに、この年の9月、彼は海軍予備学生を志願、学園と部を後にするのである。彼は三重航空隊に第13期生として入隊、成績優秀により恩賜の賞を受けるが、同年12月士官候補生として台湾高雄航空隊に配属、さらに九州大村航空隊に転じて士官に任官、戦闘機零戦を操縦して九州及びフィリピンを基地として数多くの空戦に参加し、米機14機撃墜の武勲を樹てたのであった。しかし米マッカーサーの太平洋反攻により、戦局は日増し悪化し、昭和20年4月沖縄上空で敵グラマン数十機の包囲攻撃を受け激しい空中戦の後、散華したのであった。

彼の学生氷上界での華々しい活躍と、空中戦での壮烈な最期を思い合わせれば、全力を出し切って青春を燃焼しつくした短くはあるが彼らしい、いや彼に相応しい人生の生き方と死であったのかもしれない。だが一方でもし、戦争がなく、平和の裡に昭和15年と19年のオリンピックが開催され、また何回かの世界選手権大会に参加のチャンスが彼にあったなら、山下選手が世界スピードスケート界における一つの輝ける星となったであろうことを、彼を知るすべての人が疑わないであろう。

スピード 明大9連勝ならず

Speed

男子 500①山下勝久 (早大) 47秒1 ②高林 (明大) 47秒9 ③林 (明大) 48秒0
 1500①山下勝久 (早大) 2分35秒7 ②李 (明大) 2分37秒3 ③蔡 (明大) 2分41秒0
 5000①深井恒男 (慶大) 9分23秒2 ②中楠 (早大) 9分56秒2 ③金 (明大) 9分58秒8
 10000①深井恒男 (慶大) 19分7秒5 ②村上 (慶大) 20分5秒3 ③藤原 (早大) 20分18秒9
 2000リレー①早大 (山下弟、角本、中楠、山下兄) 3分22秒2 ②明大 3分27秒4 ③慶大
 得点①早大38②明大37③慶大24

Figure

男子シングル①小林達雄 (明大) 席次数6、得点894、34③高山 (慶大) ③塩田 (五大)
 得点①慶大31②明大27③早大16

Hockey

1 回 戦	早大	26 - 0	東北大
	同立東	6 - 4	中大
		9 - 2	北大
		9 - 2	京大
2 回 戦	明大	4 - 2	法大
	慶大	15 - 0	関学大
	早大	7 - 2	同大
	立大	11 - 0	東大
準 決 勝	明大	3 - 1	早大
	立大	3 - 0	慶大
決 勝	明大	7 (3-1, 2-2, 2-0)	立大

明大	立大
山本	江副
多賀	江副
鬼靴	F 渡瀬
大村	W 田村
後藤	内藤
高橋	D 中村
中村	F 滑川
内藤	F 山之内
三宅	GK 中川
	小島

消えた金メダル



星野 正三 (慶大OB)

学生氷連から原稿をとの電話があつて、とんでも無いと思つていたところ、昭和11年1月10日付けの朝日新聞縮刷版のコピーが郵送されてきた。40年前の出来事である。

じつと見ていると、わずかな紙面から、様々な当時の様子が浮かぶ。

インターカレッジのフィギュア部門は、各校3名ずつの出場選手の合計点で争われた。当時の慶応は、長谷川、渡辺の両君はオリンピック出場の為不在で、残った小林勝利、和田

亀藏の両氏と共に諸先輩の残した8年連続優勝の記録を本年もつないで10年目に引き継がねばならなかった。

粒のそろつた明治大学の3君とどう戦うかが焦点となつていた。また関学の倉橋君に個人優勝をさらわれても勝ち目は薄くなるというような状況下で、当時としてはかなり切羽詰まつた思いで出場したことと思う。結果は、慶応25点、明治23点の僅差で目的を達した事になったが。

スクールフィギュア (コンパルソリー) は、1位小林、2位倉橋、3位星野の順で、フリースケーティングに全てを賭けることになった。(新聞発表は規定と自由の点数が逆になっている)。

寒い寒い芝浦スケートリンクの控え室で最終に近い出場順位を待つ間、あがらぬ様に、また体を冷やさぬ様に心掛けねばならない。

後輩の最賀君、高山君、中上川君 (戦死)、田中君等々が有難いことに、気を紛らす様に、スケートに無関係の話をしたり、ゲームをやったり、また甘いレモンジュースを作ってくれたり、色々といふ話をきかされた。

そうしている内に、リンク内で変わったどよめきが聞こえて来た。倉橋君が2度も転倒したという。(慶応にとっては良いニュース)。

次は、小林勝利君出場。優秀な出来ばえで、これなら優勝確実と思つた瞬間、緊張しすぎたか小林君も転倒 (全く悲観的状况)。和田君もリンクに下りる時にころんで調子出ず。これを見ていると先程の落着きはどこへやら、ガタガタのあがりっぱなし。気持の調整も出来ない内に呼び出しが掛かる。万事休す。中上川君等の心配そうな顔がチラッと掠めたが、もう氷の上。音楽はなり始める、自動的に体は動き始める、ぎこちない、足がもつれそう。あっ、そうだ、まわりの景色を見なければ、と思つた瞬間、急に落ちてきた。先にあがり過ぎたので、その頂点を通りすぎたのか、無事プログラムを終わった。予想より拍手がなりひびいた。

両君不在の留守を守り抜いた。来年はもう安心だ。
 芝浦の氷は外気温も低かつた為か、その日は特に硬かつたと思う。初めに滑った人はちょっとしたバランスのくずれが転倒につながつたのではないか。その点、出場順位の遅い方が氷面の冷たい空気もかきまわされて多少とも有利になつたのではないか。倉橋、小林両君の出場時より、終わりの方が氷温にして1、2度位の差があつたのではないかと今でも思い返される。

先年、軽井沢の塩壺温泉ホテル・スケートリンクにサイドハウスを新築し、そのショーウィンドウに、当時のメダル、バッジ類を並べて見たが、インカレのメダル (直径6センチ、厚さ0.7センチ) の銀と銅が計2個あるだけで、どう捜してみても、この時の金色の優勝メダルも無いし、優勝を裏付ける何物も残っていない。

昔の朝日新聞を見ながら40年の過去を思い浮かべることはむずかしい。正確には言えないが、競技会中、親身になって面倒を見てくれた後輩の諸君に志として差し上げてしまつたのではないか。自分ではまだ何個でももらえると勘違いしていたのかも。その様な気風は、諸先輩から受け継がれていたのではないか。なぜなら、銀と銅が手元に残っているのも解せない話である。

明大、総合で4連勝

Speed

男子 500①山下勝久 (早大) 45秒7 ②高林 (明大) 46秒5 ③阿部 (明大) 46秒8 (明大) 9分37秒8
 1500①山下勝久 (早大) 2分28秒5 ②高林 (明大) 2分31秒2 ③阿部 (明大) 2分33秒4
 5000①深井恒男 (慶大) 8分57秒0 =大会新②中村 (早大) 9分27秒8 ③坂本
 10000①深井恒男 (慶大) 18分15秒0 =大会新②中村 (早大) 19分20秒7 ③土橋 (明大) 19分33秒5
 2000リレー①明大 (安部、坂本、安保、高林) 3分6秒8 ②早大③慶大
 得点①明大44②早大30③慶大19

Figure

男子シングル①高山方明 (慶大) 得点689. 8②神田 (京大) ③塩田 (立大)
 得点①慶大22②早大17③京大10

Hockey

1 回 戦 法 大 11 - 3 立 大
 東 大 13 - 1 慈恵医大
 関 学 大 棄 権 北 大
 中 大 3 - 2 慶 大

2 回 戦 早 大 19 - 0 京 大
 法 大 22 - 1 東 大
 中 大 11 - 0 関 学 大
 明 大 14 - 0 同 大

準 決 勝 法 大 5 - 3 早 大
 明 大 4 - 1 中 大

決 勝 明 大 6 $\begin{pmatrix} 2 & - & 0 \\ 3 & - & 1 \\ 1 & - & 0 \end{pmatrix}$ 1 法 大

明 大 法 大
 木 村 } F 大西
 田 中 } W 崎
 中 村 } 津
 滑 川 } D 山
 山之内 } F 口
 中 川 } GK 武 吉
 反 田

インカレ誕生の頃

中沢 周平 (東大OB)

私が松本高に入学したのは大正12年である。東大の合宿が上諏訪の布半だったので、それに便乗しながらアイスホッケーの練習をはじめた。学連の第1回大会は大正14年であるが、それには前衛戦があり、大正13年の正月に早大と慶大を加えた4校による日本最初のアイスホッケーの競技会がそれである。1回戦の松本高対早大では、早大には当時最高のプレーヤーと言われた柳沢敏文氏(エルさん)、小口孫六

氏(マゴさん)がいたので、とても歯がたたず8対2ぐらいの大差で負けた。当時のルールは7人制でハーフセンター役のロバーなるものがある。早大で柳沢、松本高では私であった。今のボディチェックなど許されていない幼稚な頃なのだから、バックを見ずに顔を見ろ、膝をねえである。何度もエルさんを転ばしてやった。フェンスぎわの水の中へも。彼の「コラ、中沢」のどなり声が今でも耳の底に残っている。

この競技を契機に学連を作ろうと相談がもたれ、松本高からは平川一郎氏と私が、鷺の湯でのその会議に参加し、来シーズンに発足と決まった。松本高がインカレに参加したのは、今から考えると奇異に思えるかもしれないが、そういう経緯があったのである。来諏された秩父宮殿下に東大と松本高とのホッケーの試合をご覧頂いたのも、この頃のことである。

さて学連の第1回競技会が大正14年1月に行われることになったのだが、暖冬異変で氷がない。氷を求めて浅間の裏山を歩きまわり、結局岡田村はずれの六助の池に堅氷を発見、予定地とした。そのリンクの経営者は中村さんという軍医で、六助の池の大会には、大会のポスターも沢山作ってくれた。「第1回 インターナショナル カレッチ ホッケー大会」その「ナショナル」を消して歩いた。決勝の相手は早大、エルさんは去年通り。「コラ、中沢」と何度もどなられたのも同じ。当時は学連規約は文書としてあったとは思えず、後に東大と早稲田の人が中心になってやったのだと思う。インカレの競技場は暖冬にこりて大正15年からは早大などが合宿していた松原湖に移され、更に昭和6年からは盛岡に移された。松本高も本来の姿に還ってインターハイに移行してゆく。昭和2年は大正天皇がなくなられた翌年であったので中止。

昭和3年、私は東大の2年としてインカレに参加したが、満州医大が日本へ来ていたので強力だった。その少し前、東大は満鉄に呼ばれて満州遠征し、満医大から飛ぶシュートを教えてもらっていたので、かなり自信があった。慶応には金子君がいたので負けたかもしれぬが、早稲田には勝てると思っていた。その早稲田に負けたのは、今考えてもくやしい。早大は、スピード選手が中心で、当時はアイシングがなかったのが、ラッシュ戦法をとったのだが、スラッシングをよくやり、後に満医大が試合をするのをいやがっているという程であった。しかし、ジャッジが不慣れな飯島氏(当時東北大)であったので、抗議するのにも気が逆転すると余裕を持っているうちに負けてしまった。当時、東大の学生は、しるこ屋の女の子たちにもてたので、早大の諸君にはそれをうらやむ気持ちもあったかもしれない。

この大会あたりからOB諸氏との連携がうまくいき、松原湖はOB、学生プレーヤーが協力し合い、たいへんよい場であった。

大会の運営は、現役選手との協力のもとに、うまくとけあい、非常によい場所であった。盛岡大会あたりから、地元の方が協力してくれて、現役選手は大会の準備には関係ないという風潮が出てきた。これには賛否両論あるだろうが、私は初めの頃の松原湖の大会が懐かしい。

河久保氏の日本スケート協会は、ホッケーはスケートではないという意見を持っていたので、ホッケーは学連でやっていこうという発想が私にはあった。また、当時の日本スケート協会は、クラブ的なものであったので、ISU(国際スケート連盟)に対して日本を代表する組織的なものを作ろうとして、学連のOBたちが全日本氷上競技連盟を作った。

私は当時、明治の久保君たちと一緒に仕事をしていたが、駿河台の喫茶店に集まったものだ。

最後に今の諸君に一言。学生の力だけでは出来ないのだから、ありがたく先輩諸氏の援助を頂き、毅然とした態度で大会を運営してゆけばよいと思う。

今では、昔の事を知る人も少なくなり、新しい役員の中には私らの事を知らない人もふえた。それはそれでよいと思っている。それらを基礎として、それぞれの人ががんばってくればよいと思っている。

参加10校で大会復活

Speed

男子 500①高林忠三郎 (明大) 49秒 2②高林清 (明大) 49秒 6③久保田 (日大) 52秒 4
 1500①高林忠三郎 (明大) 2分33秒 9②高林清 (明大) 2分43秒 6③井原 (慶大) 2分45秒 3
 5000①高林忠三郎 (明大) 9分50秒 7②久保田 (日大) 9分59秒 5③井原 (慶大) 10分0秒 0
 10000①高林忠三郎 (明大) 22分55秒 8②高林清 (明大) 23分0秒 0③井原 (慶大) 23分2秒 9
 2000リレー①慶大 (青山、石川、井原、細川) 3分46秒 2②日大③明大
 得点①明大44②日大27③慶大26

Figure

男子シングル①原口 (京大) 席次数 7、得点56. 7②川島 (早大) ③渡辺 (早大)
 得点①早大12②京大 6③東大 2

Hockey

1 回 戦	立 大 4 - 2 早 大				
	法 大 7 - 4 東 大				
2 回 戦	中 大 6 - 2 明 大	立 大	大 嵐	中 橋	大 本
	青学 大 棄 権 北 大 予 科	五 十 村	田 索	F W	市 瀬
	立 大 11 - 2 法 大	村 高	楠 西		
	慶 大 9 - 3 日 大	安 高	木 村	D F	梅 田 中 沢 井 部 和
準 決 勝	立 大 7 - 4 慶 大	中 村	若 宮		
	中 大 12 - 2 青学 大			GK	葛 和
3 位 戦	慶 大 6 - 3 青学 大				
決 勝	立 大 5 $\begin{pmatrix} 1 & - & 0 \\ 2 & - & 1 \\ 2 & - & 2 \end{pmatrix}$ 3 中 大				



矢野 博一 (早大OB)

新宿駅の地下道には、長い行列ができていた。大晦日の夜、この行列に加わって、ふるえながら改札を待った。たしか、11時30分発長野行きの列車だった。これに乗って、小淵沢で小海線に乗り換えたのが元旦の午前5時。松原湖駅に着いたのは午前9時ごろだった。新宿駅の行列がたたって、着いた時は39度前後の熱でふらふらだった。当時はバスもなく、駅から松原湖まで、約1里の山道を歩かなければならない。迎えてくれた後輩たちに、脇を抱えられてこの山道を登っ

た。1年前、学連を再興しようとして果たさず、そのまま卒業、かけ出し記者として、学連復活後最初のインカレ取材に向かう私だった。

昭和20年8月、予備士官学校の教官として内地にいた私は、終戦除隊して間もなく早大へ復学した。大連にいる家族とは連絡がつかず、仕送りが途絶えて、苦しい学生生活だった。しかし、スケートへの情熱は捨てることができず、何とか学連を再興できないものかと走り回った。

そのうちどうして連絡がとれたのかおぼえていないが、慶大の小菅、立大の石橋両君と会って、そんな話を何度か重ねた。だが先輩には未復員者が多く、各大学も部員が揃わないため、この運動は具体化しなかった。

その後、自ら生計を立てなければならなかった私は、21年9月の卒業を前にスポーツ記者になった。そして学連復興については、卒業までもう1年あったチームメートの加賀谷君にあとを託した。東京に家があった加賀谷君は、それは熱心に学連再建のためにかけ回り、立大の村田君ともども各大学に呼びかけて同志を糾合した。機は熟して昭和21年も暮れに迫った11月8日、東京御茶ノ水の岸記念体育会館(東京オリンピックの際、渋谷区神南へ移転)に早、慶、立、法、日、青学の代表者が集まって再建委員会が開かれた。この会議で学連の再興が決議され、同時に戦時中失われた規約の再編、22年1月上旬長野県松原湖で復活第1回(第19回)全国学生水上競技選手権大会の開催などが決まった。

しかし前途は多難だった。そのころ、木材の公定価格のワケがはずされたため、アイスホッケーのフェンスに使用する板が、1リンク分約1000円だったのが3500円にもはね上がっていた。フェンスといっても、巾30センチぐらいの板で周りを囲った程度のもので、バックがしょっちゅうリンクの外へ飛び出していくような代物だ。それでさえ、こんな値段では各校それぞれリンクを持つのはむずかしかった。そこで早大のように戦前からの古材を現地に持っている学校を中心に、共同使用のリンクづくりが相談されたりした。

そればかりではなかった。地元旅館組合は宿泊料1等級32円、2等級30円(ともに3食付)のほかに、1人1日分の食糧として4合5勺の米と薪炭の持参を求めている。各人1日2合7勺の配給のほかに1合8勺のヤミ米を都合しなければならない。これは学生にとって過大な負担だった。そこで学連は加賀谷、村田の両代表を現地へ派遣して、県や地元旅館組合などと交渉させることになった。その結果、宿泊料は24円~28円に、漁業組合が要求していたワカサギ漁保証金は撤回、薪炭は県が公定価格で60俵を配給してくれることになり、米も安く現地調達の見通しを得て開催にこぎつけた。最近の学生諸君には見当もつかぬだろうが、当時の①でスピード、フィギュア、ホッケーともエッジが20円、靴40円、ヤミでエッジ200円、靴800円。大卒の初任給が500円ぐらいの時代だ。

こうして迎えた復活第1回大会は1月4日10校200余人の参加で開幕した。学連会長はまだ決まっていなかったので、開会式では東大OBの松田忠雄氏が挨拶を述べ、明大の高林忠三郎主将が宣誓した。(会長にはこの年の暮れに早大の林信雄部長が就任した)この第1日は快晴、気温零下6度、氷厚25センチという絶好のコンディションに恵まれたが、第2日は気温が上昇したうえ吹雪に見舞われた。このためフィギュアのフリーは吹雪がおさまった日没後、月あかりもない暗ヤミで実施され、ホッケー決勝はついに翌日回しとなり、2日間の予定だった大会は1日延びて1月6日に閉幕した。

競技の内容にふれると、スピード競技にホッケーの選手も出場するというインカレ初期のようなレースが行われた。そんな中で地元出身の高林兄弟が活躍した明大がスピードに優勝、フィギュアは個人で原口(京大)が優勝したものの、団体では川嶋、渡辺、岩崎の戦前派を揃えた早大が優勝、ホッケーも村田、中村の戦前レギュラーを抱えて豊富な陣容を誇る立大が快勝、当時の大会規程でホッケー優勝の立大に総合優勝の栄冠が輝いたのだった。

猛吹雪で1日延期

Speed

男子 500①高林清高 (明大) 48秒 1 ②佐藤忠 (日大) 48秒 4 ③寺島 (明大) 50秒 3
 1500①佐藤恒夫 (日大) 2分32秒 6 ②安田 (明大) 2分33秒 2 ③佐藤忠 (日大) 2分36秒 9
 5000①菅原和彦 (日大) 9分17秒 5 ②佐藤恒 (日大) 9分39秒 7 ③寺島俊 (明大) 9分52秒 5
 10000①菅原和彦 (日大) 19分17秒 1 ②安田 (明大) 20分12秒 9 ③寺島俊 (明大) 20分36秒 1
 2000リレー①明大 (寺島弟、寺島兄、安田、高林) 3分13秒 1 ②日大③慶大
 得点①日大75②明大70③早大10

Figure

男子シングル①渡辺須恵雄 (早大) 得点69. 12②首藤 (早大) ③吉川 (東大)
 得点①早大36②関学大24③立大14

Hockey

1 回 戦	日 大 14 - 0 二 高	明 大 12 - 0 慈恵医大	立 大 7 - 1 北 大	早 大 不戦勝 都立大	中 大 22 - 0 成城高	関 大 14 - 0 関学大	法 大 25 - 3 青学大	岩手医専 4 - 1 東 大	決 勝	早大 4 (1-0 0-0 3-2)	立大 2
2 回 戦	法 大 6 - 2 日 大	立 大 4 - 3 中 大	早 大 3 - 1 慶 大	明 大 2 - 1 岩手医専							
準 決 勝	法 大 3 - 0 法 大	早 大 3 - 1 明 大									
3 位 戦	立 大 5 - 4 明 大										

G	早 大	立 大	G
1	山 添 村	仲 田	0
0	西 村	門 司	0
3	上 原	F 水 野	2
0	藤 原	W 安 西	0
0	荒 尾	五十嵐	0
0	佐々木	百 束	0
0	掛 尾	D 山 田	0
0	田 島	F 佐々木	0
0	川 辺	GK 保 本	0
4	計		2



山添 義雄 (早大OB)

今から30年も前にさかのぼるが、昭和22年12月も20日過ぎの深夜、新宿駅の中央線乗り場に大きなリュックを背負って早大スケート部員はプラットホームにならんだ。松原湖が結氷したかどうかは判らないが、現地に行ってよその大学よりも1日も早く氷にのり、練習で差をつけようと一番乗りを目指した。特に前年は立大に1回戦で敗退しているので何としても勝ちたい。

立大には満州出身のベテラン水野、門司、仲田、百束、佐々木、山田、保本選手達がずらり顔をならべている。早稲田も新人に盛岡から佐々木、大連出身の藤原、上原、石原、奉天 (今の瀋陽) 出身の荒尾選手、そして野球部で肩を痛めた川辺選手をスカウトし、初のグローブでバックをつかむゴールキーパーに仕立て、戦前からの掛尾主将に、大連出身の西村、新京 (今の長春) 出身の田島選手を加えて多彩な陣容をととのえた。

当時の日本は廃虚の中に埋もれ、インフレや物資の不足に悩み、いまだ戦争の傷あとも生々しい灰色の世相を呈していた。軍服で登校している学生も見かける時代に、せめてスポーツでもして大らかにと校内はさまざまな運動部員募集の貼り紙が目立っていた。この頃、学生達は夏の間にアルバイトをして冬の貯えをはかり、インターカレッジに一縷の光明を見出だして己れの情熱を思い切り発散させることに生き甲斐を感じていた。参加校18校という戦前を上回る学生達がぞくぞく松原湖に集まってきたが、どの顔も明るく輝いていた。

試合のルールは、現在のようにレッドラインがなく、ブルーラインでゾーンが分けられ、パスする際も、攻めも守りもそのゾーン内でしか出来なかった。フェンスも角材がおいてあるだけなのでバックもすぐ外へ出てしまう。ゴールは木枠に金網が張ってあるため強いシュートがその網目から抜け出して点に結びつかなかったりしたこともあった。

その頃のスタイルといえば、レガードは竹製のお粗末なものに短いストッキング、パンツは小さくももが出て、ポロポロのグローブに新人は軍手を使用し、ユニホームは色褪せて虫が食ってはいたが、いかめしく古風であり、色ちがいの認められた。スケートのエッジはネモとかサイコとかカナダ製CCMの中古品が幅をきかせ、スティックは折れないようにテープをグルグル巻きつけ、ブリキ板で囲っているものもいた。たしかバッシングシュートなどはやらなかったように記憶している。

当時の特色として満州出身の選手を多く抱えている大学が最後まで勝ち残っていた。法大の黒崎、山本選手、明大の中山、西村選手、中大の市瀬、渡辺、葛和選手等々懐かしい面々である。

結局、最終日が猛吹雪で一日延びたが、ホッケーは野永監督采配の早大、フィギュアも戦前からの渡辺、首藤選手を擁する早大、スピードは戦前最高を出した日大が菅原、佐藤恒選手 (共に苦小牧出身) の活躍で優勝、総合優勝は、ホッケー、フィギュアに1位、スピードに3位を占めた早大のものとなって終わった。

こうした時代を華やかにすごした思い出を息子達に得意になって語り伝えている。

割れた氷で競技強行

Speed

男子 500①佐藤忠 (日大) 49秒3 ②高林 (明大) ③工藤 (盛岡農専)
 1500①佐藤恒夫 (日大) 安田高男 (明大) 2分46秒0 ③工藤 (盛岡農専)
 5000①菅原和彦 (日大) 10分9秒9 ②小口 (日大) ③飯島 (明大)
 10000①菅原和彦 (日大) 20分41秒4 ②佐藤恒 (日大) ③小泉 (明大)
 2000リレー①日大 (長沼、佐藤恒、菅原、佐藤忠) 3分26秒3 ②明大③慶大
 得点①日大44. 5②明大33. 5③慶大10

Figure

男子シングル①渡辺須恵雄 (早大) 106. 10②大矢 (関学大) ③神原 (関学大)
 得点①関学大30②早大27③法大13

Hockey

1 回 戦	早大	20 - 0	二大	日大	6 - 0	静岡工専
	法大	4 - 1	北大	日明	9 - 1	岩手師範
	岩手医大	12 - 0	都立高	慶立	25 - 0	青学大
	東大	3 - 2	成城高	立大	5 - 3	中大
2 回 戦	早大	4 - 1	日大	G 早大		立大
	法大	4 - 3	慶大	1 西村	仲田	0
	明大	6 - 0	岩手医大	0 藤原		0
	立大	2 - 0	東大	0 上山	F 百東	0
準 決 勝	早大	6 - 1	法大	1 山掛		W 野部
	立大	6 - 5	明大	0 掛尾	五十嵐	0
3 位 戦	明大	4 - 0	法大	0 佐々木	松本	0
	明大	4 - 0	法大	0 岡島	D 山田	0
決 勝	早大	2 (2 - 0)	立大	0 田島	F 相田	0
	早大	2 (0 - 0)	立大	0 荒尾	F 佐々木	0
	早大	2 (棄権)	立大	0 川辺	GK 保本	0
				2 計		0



佐藤 恒夫 (日大OB)

第50回大会記念に際し昭和24年度の第21回大会についてペンのとれることを光榮に思います。

私達の選手時代はパイピングリンクは無く、どの大会も、天然氷リンクであった。そのため記録も氷の状態で好記録が出たり、又滑走順位によって運、不運が今より大きく各種目順位、得点に影響が非常に多かった。

特に昭和24年度開催地盛岡市高松池での第21回大会は暖気のためコンディションが悪く、中止の声も出ていたが、ダブルトラックでのレースは氷の状態から不可能と判断され、1校3名を2名に制限し、5000^円、10000^円をシングルトラックで行うと発表された。

リンクに行くと氷の状態を見ていた私は、全競技が出来るかと心配だった。試合が始まってから、心配したように氷が割れて離れ、氷から飛び移って滑ったり、氷が離れない様に筏で氷を押えたり、運営担当者や競技役員は大変だったろう。競技内容を変え、大会を無事終了させた審判長の判断に対し頭が下がった。

スピード部門の全種目を4時間たらずで終わってしまったが、現在の様にパイピングリンクを使用しての大会では、これよりも短い時間で競技が終わる様なことはないだろう。第21回大会は休む暇のない忙しい大会であった。日本大学が、スピード部門で第20回大会に続き2連勝したが、この大会は私のスケート選手生活で忘れる事の出来ない思い出の一つになっている。

レースの思い出では、5000^円のシングルトラック (オープンレース) で日本大学から菅原和、小口両選手が出場し、明治大学から飯島、金子両選手が出場した。他の大学の選手もいたが、スタートしてすぐ小口が氷の割れ目にスケートを入れて転倒し、100^円程一団から離れてしまった。たまたまこの種目がシングルトラックだったので、日本大学から菅原和も一緒に組に走っていたので、色々作戦を練り、ゴールした時は1、2位が日本大学だった。この成績はシングルトラックでのレースの為になしえた事で、ダブルトラックでは、お互いの力は甲、乙つけがたい接近した選手ただだけに、この様な結果には終わらなかつたと思っている。

現在の選手諸君に良きライバルを持つ様に心掛けてもらいたいと望む。これは、スポーツだけでなく、学問についても同様である。

私のライバルと言えば菅原和彦君 (昭和37年死亡) がすぐ出てくる。小学校から苦小牧工業学校、日本大学、王子製紙、又、世界スピードスケート選手権 (ダボス) 第6回冬季オリンピック (オスロ) も共に一緒にであり、勿論、大学時代は下宿も一緒に、学校に行くのも帰るのも、トレーニングや風呂に行くのも一緒だった。

スケートチャンピオンに成る為のライバルとしては菅原和彦君以外の選手を意識した事がない。私は独自のトレーニングを考え、研究し、隠れても練習をつんだし、菅原君とはトレーニング方法や氷上での意見など交換を良くした。知らない人が聞いたら、喧嘩しているのではないかと勘違いする様な口調で、自分の思っている事を話し、相手の考えもよく聞いた。

全日本選手権保持者に成る為にも、菅原君に勝たなければチャンピオンになれない。大会中に笑顔で作戦を練ったのは、日本学生氷上競技選手権大会と国体だけ、全日本選手権大会の時などは、前日から互いに目と目が会っただけで、顔が赤くなって来てどうしようもなかった。それでいて困った時や、何かあった時は一番先に菅原君のところ相談したものだ。本当に良きライバルだったと思っている。

それに比べ、現在の選手は大学が違っても、大会当日でもライバル意識があるのかないのか、冗談を言って笑っている様に見える、これで良いのかと考えさせられる。

普段までとは言わない。日本代表選手選考競技会や全日本選手権大会のときぐりは、もっとも闘志を燃やさなければならぬと思うし、闘志がわかない様では、その選手は、記録にも挑戦出来ないのではないだろうか。良きライバルとして誰にでも胸を張って自慢の出来るライバルをお互いに育ててもらいたいものだ。

女子選手初めて参加

Speed

男子 500①高林清高 (明大) 佐藤忠 (日大) 45秒8 ③工藤 (早大) 47秒3
 1500①佐藤恒夫 (日大) 2分28秒5 ②安田 (明大) 2分31秒4 ③高林 (明大) 2分36秒9
 5000①菅原和彦 (日大) 9分5秒8 ②小口 (日大) 9分24秒2 ③飯島 (明大) 9分25秒8
 10000①菅原和彦 (日大) 18分40秒4 ②飯島 (明大) 19分26秒6 ③小泉 (明大) 19分33秒6
 2000リレー①日大 (長沼、佐藤恒、菅原、佐藤忠) 3分6秒8 ②明大③立大
 得点①日大64. 5②明大63. 5③早大13

Figure

男子シングル①徳江洋 (早大) 118. 8②神原 (関学大) ③森川 (明大)
 得点①早大32②関学大31③明大25
 女子シングル①加藤礼子 (早大) 190. 2②宮川 (神戸女大) ③近藤 (神戸女大)
 得点①神戸女大6②早大4

Hockey

1 回 戦	関学大	棄権	岩手大
	岩手医大	20 - 0	東大
	中大	49 - 0	青学大
	法大	6 - 4	慶大
	明大	11 - 5	日大
	北大	27 - 0	成城大
2 回 戦	法大	33 - 1	関大
	立大	8 - 3	北大
	明大	7 - 6	中大
	早大	15 - 8	岩手医大
準 決 勝	早大	5 - 2	明大
	立大	10 - 9	法大
3 位 戦	法大	9 - 5	明大
決 勝	早大	4 (1 - 0) 2 (2 - 0) 1 - 2	立大

G	早大	大村	立大	G
3	西藤	原	仲田	1
0	藤上	木	門司	1
0	佐々木	添	野部	0
1	山岡	野	相田	0
0	辻	五十嵐	佐伯	0
0	荒尾	百東	山田	0
0	川西	F	山田	0
0	川辺	GK	保本	0
4	計			2



加藤 礼子 (早大OG)

第22回大会は、スピード競技が長野県蓼の海、ホッケーとフィギュア部門が栃木県日光と、会場を二箇所に分けて開催された。

戦後インドア・リンクが東京や大阪などの大都市に再開されたのが昭和25年末から26年にかけてであるから、それ以前は、練習をするにも天然氷の結氷期を待つ以外に方法はなく、十分な練習量も無いまま度胸をきめて試合に臨んだと言えるだろう。

インター・カレッジに女子部門があることは、今日ではむしろ当然のこととして受けとめられている。かつて男子だけに許されていた参加資格が、昭和25年のこの大会で、初めて女子にも与えられたといった経過については、もはや知る人は少ない。

伝統を守ろうとする意見や新しい学連の在り方を創ろうとする意見があるなかで、諸先輩は後者を選ばれ、女子部創設の運びとなったとうかがっている。

ところで、練習する氷が無くては簡単にフィギュア選手が育つはずも無く、女子部第1回の大会は、神戸女学院と早稲田の2大学、戦前から滑っていたわずか4名だけの参加にとどまった。

場所は、東照宮の山内リンク。風が吹くたびに、リンクの周りに林立する杉木立の枯葉がパラパラと落ちて来たり、粉雪が舞って、描いたばかりのトレースが隠れてしまったりした。タイツが入手出来ない物資不足の時代、素肌に吹きつける冷たい風が刺すように痛く感じたことを覚えているが、コンパルソリーの課題が何であったか、またフリー・スケートイングを何の曲で滑ったか、肝心の試合内容はどうしても想い出せない。個人1位の賞状を戴いたものの、2・3・4位を神戸女学院が占め、大学対抗は得点4対6で女学院の勝利。人数さえ揃っていればと残念に思う気持ちが先立った。

四半世紀余の年月が流れ、すべてが懐かしい青春の想い出である。



野部 収 (立大OB)

我々の合宿所は長野県松原湖にあった。当時は東京、関西の各大学共この地に12月下旬頃集まってきた。氷造り、フェンス造りと自分達で行ったのである。暖気のため、朝リンクに行くと湖上にフェンスが浮かんでいることなどがあり、氷を求めあちこち歩いたものである。また薄い氷の上を無理して滑ったため湖水に落ち、寒中水泳したこともあり、今はよきなつかしい思い出の一頁である。

日本学生氷上競技選手権大会が第50回を迎えましたことは非常に喜ばしいことで、学生の皆さんと共に「おめでとう」のお祝いの言葉を贈ります。この輝かしい学連の足跡を振り返り、更に未来を築くためのステップとするよう皆さんの一そうの努力を望みます。

私としても、ここ数年アイスホッケー審判長として大会に参加していますが、年年休力、スピード等の向上に伴い、ややもするとラフプレーに走ることがあるようです。今回大会を契機として、伝統ある50回の歩みを十分自覚し認識を新たにして、ルールにのっとって学生らしいプレーを続けられるよう望み、飛躍的な発展をお願いいたします。

総合 早大 4 連覇阻まる

Speed

男子 500①高林清高 (明大) 48秒 1 ②竹村 (日大) 48秒 3 ③工藤 (早大) 49秒 1
 1500①安田富雄 (明大) 2分33秒 9 ②飯島 (明大) 2分34秒 3 ③竹村 (日大) 2分37秒 1
 5000①小口広 (日大) 9分35秒 3 ②飯島 (明大) 9分37秒 2 ③矢口 (日大) 9分51秒 5
 10000①小口広 (日大) 18分54秒 5 ②矢口 (日大) 19分16秒 9 ③安田 (明大) 19分55秒 2
 2000リレー①明大 (寺島碩、寺島俊、飯島、高林) 3分15秒 9 ②日大③早大
 得点①明大69②日大56③早大28

Figure

男子シングル①小林正水 (明大) 197. 30②重野 (明大③徳江 (早大)
 得点①明大30②早大24③関学大12
 女子シングル①加藤礼子 (早大) 207. 82②小林 (早大) ③宮川 (神戸女大)
 得点①早大9②神戸女大6

Hockey

1 回 戦 早 大 35 - 0 関 学 大
 明 大 46 - 0 関 大
 日 大 不 戦 勝 成 城 大
 北 大 不 戦 勝 青 学 大
 中 大 不 戦 勝 慈 恵 医 大
 東 大 3 - 2 岩 手 大
 立 大 9 - 3 岩 手 医 大
 慶 大 7 - 6 法 大

2 回 戦 早 大 10 - 4 日 大
 明 大 10 - 1 北 大
 立 大 5 - 3 中 大
 慶 大 14 - 1 東 大

準 決 勝 早 大 10 - 2 慶 大
 明 大 7 - 0 立 大

3 位 戦 立 大 7 - 3 慶 大

決 勝 早 大 3 $\begin{pmatrix} 0 & - & 0 \\ 0 & - & 0 \\ 3 & - & 0 \end{pmatrix}$ 0 明 大

早 西 藤 上 佐 々 山	大 村 原 原 木 添 岡	野 林 藤 西	荒 川	尾 辺	GK	明 沢 松 中 今 横 馬 入 小 北 神 宮 山 川 門 前	大 口 原 島 泉 野 越 沢 林 堀 田 崎 本
---------------	---------------	---------	-----	-----	----	---------------------------------	---------------------------



女子選手として初めてインカレに参加した加藤 (早大)

早大 ホッケー 5連勝

Speed

男子500①寺島俊(明大) 47秒6 ②山田(慶大) 48秒2 ③寺島碩(明大) 48秒5
 1500①安田富男(明大) 2分29秒1 ②五味(明大) 2分33秒1 ③山田(慶大) 2分38秒8
 5000①細川三男(明大) 9分35秒9 ②小口(日大) 9分39秒8 ③矢口(日大) 9分49秒4
 10000①五味信雄(明大) 19分15秒7 ②小口(日大) ③矢口(日大)
 2000リレー①日大(小口、矢口、三宅、佐藤) 3分22秒2 ②立大③明大
 得点①明大52②日大26③慶大14

Figure

男子シングル①小林正水(明大) 299.33 ②重野(明大) ③藤沢(早大)
 得点①明大28②早大19③関学大13
 女子シングル①小林玲子(早大) 79.6 ②宮川(神戸女学院) ③早崎(早大)

Hockey

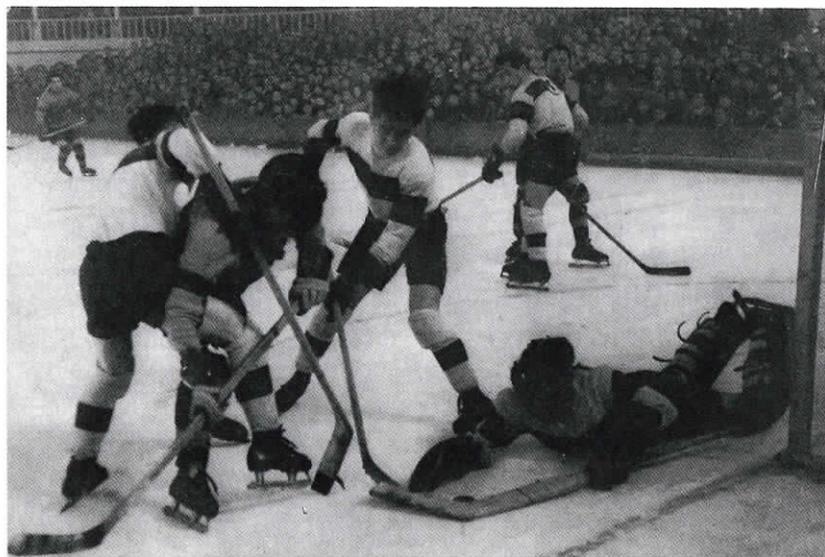
1 回 戦	岩手大	不戦勝	慈恵医大	0 - 0	
	法大	11 - 0	関学大	3 - 0	1 明大
	青学大	7 - 1	成城大	3 - 1	
	学習院大	3 - 2	横浜市大		
2 回 戦	日大	6 - 0	東大		
	立法大	11 - 0	岩手大		
	慶立大	7 - 2	北大		
	青学大	13 - 0	岩手医大		
	中法大	14 - 0	関学大		
準々決勝	早大	10 - 1	日大		
	法大	4 - 2	立法大		
	慶明大	21 - 0	青学大		
	明大	7 - 1	中法大		
準決勝	早大	10 - 5	法大		
	明大	4 - 1	慶大		
3 位 戦	法大	7 - 4	慶大		

PG	早大	明大	GP
03	山田	松原	00
02	藤原	沢中	00
00	上原	今島	00
00	佐々木	横泉	00
00	西村	山本	10
00	岡	石原	00
01	川西	黒崎	00
00	荒尾	馬越	00
00	川辺	宮崎	00
		金田	00
		GK 川門前	00
06	計		00



第20回大会総合優勝の早大チーム(昭和23年、松原湖)

メモリアルホール(現在の日大講堂)を満員にした早慶戦(昭和24年)



史上初 明大完全優勝

Speed

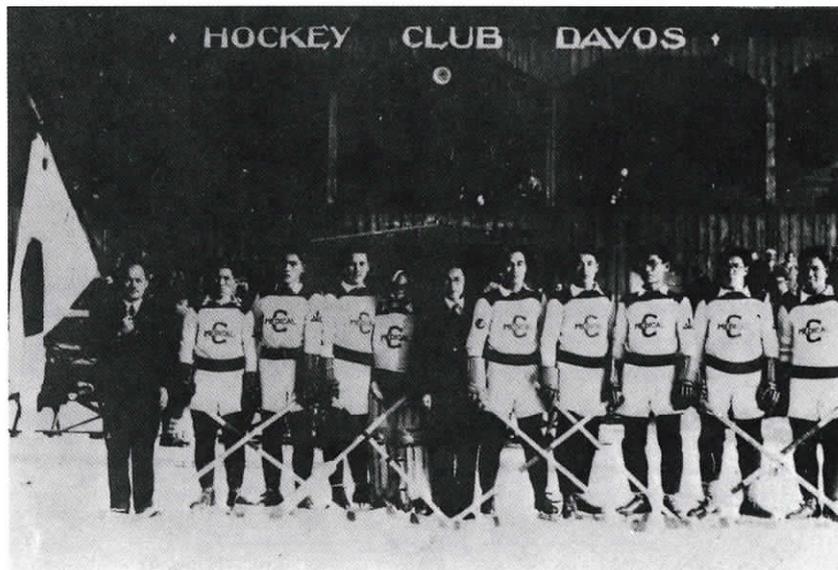
男子 500①竹村晋吉 (日大) 46秒8 ②尾崎 (明大) ③吉田 (明大)
 1500①安田富男 (明大) 2分30秒7 ②細川 (明大) ③竹村 (日大)
 5000①五味芳保 (早大) 9分7秒3 ②細川 (明大) ③浅坂 (立大)
 10000①五味芳保 (早大) 18分25秒2 ②五味信 (明大) ③矢口 (日大)
 2000リレー①明大 (尾崎、青木、吉田、寺島弟) 3分29秒7 ②法大③立大
 順位①明大②日大③早大
 女子 500①金原きえ子 (明大) 56秒0
 1000①金原きえ子 (明大) 1分59秒0 ②小平 (明大)
 3000①小平千枝子 (明大) 6分34秒2

Figure

男子シングル①小林正水 (明大) 182②重野 (明大) ③藤沢 (早大)
 得点①明大30②早大27③慶大15

Hockey

1 回 戦	東 大 12 - 3 北 大	学 院 大 3 - 2 同 大	決 勝	明 大 13	$\left(\begin{matrix} 6 - 0 \\ 5 - 1 \\ 2 - 0 \end{matrix} \right)$	1 中 大	
2 回 戦	立 大 17 - 1 関 学 大	東 北 大 3 - 0 関 大					
	法 大 27 - 0 横 濱 市 大	中 大 6 - 4 早 大					
	日 東 大 14 - 1 青 学 大	東 大 13 - 1 学 院 大					
準々決勝	明 大 15 - 6 日 大	中 大 18 - 0 東 北 大					
	慶 大 15 - 2 東 大	法 大 10 - 3 立 大					
準決勝	中 大 7 - 5 慶 大	明 大 8 - 3 法 大					
3 位 戦	法 大 4 - 2 慶 大						
			PG	明 大	大 口	中 大	GP
			0 2	沢 松	原 島	小 平	0 0
			0 3	松 中	泉 野	菅 原	0 0
			0 1	今 横	野 野	岸 野	1 0
			0 2	横 岩	岡 守	鈴 木	0 2
			0 0	江 黒	崎 本	薄 井	0 0
			1 0	山 小	林 野	松 本	0 2
			0 0	清 宮	崎 田	三 浦	0 0
			0 0	宮 金	野 野	三 村	0 1
			0 3	郷 川	野 前	渡 辺	0 1
			0 0	川 門	本 本	高 野	0 0
			0 0	橋 本			
			3 13	計			1 6



日本のアイスホッケーチームとして初めて海外遠征した満州医大 (昭和4年、スイスのダボスで)



にぎやかに勢ぞろいした満州医大OBチーム (昭和50年、品川スケートセンターで)

男子フィギュア 明大が完勝

Speed

男子 500①竹村晋吉 (日大) 45秒8 ②尾崎 (明大) 47秒1 ③小川 (早大) 47秒3
 1500①竹村晋吉 (日大) 2分27秒4 ②浅坂 (立大) 2分27秒8 ③尾崎 (明大) 2分30秒1
 5000①細川三男 (明大) 9分5秒8 ②浅坂 (立大) 9分9秒0 ③五味芳 (早大) 9分11秒1
 10000①加藤惣エ門 (日大) 19分22秒7 ②五味芳 (早大) 19分26秒8 ③五味信 (明大) 19分51秒0
 2000リレー①明大 (能登、山崎、吉田、尾崎) 3分10秒8 ②日大③早大
 得点①明大89②日大32③早大16

Figure

男子シングル①小林正水 (明大) 205.85②杉田 (明大) ③竹内 (明大)
 得点①明大57②早大、慶大40
 女子シングル①小林玲子 (早大) 92.3②早崎 (早大) ③美土路 (慶大)
 得点①早大17②神戸女学院6 ③慶大5

Hockey

1 回 戦	立 大 8 - 0 東 大	決	勝 早 大 9	(0 - 3)	5 法 大
	早 大 12 - 0 横浜市大			(5 - 2)	
	青 学 大 9 - 0 立 命 大			(4 - 0)	
2 回 戦	関 学 大 2 - 0 中 大	PG	早 大	法 中 大	GP
	青 学 大 7 - 0 浪 速 大	0 3	山 田	今 泉	2 0
	法 大 14 - 2 北 大	1 4	小 野	藤 原	0 2
	早 大 5 - 1 慶 大	0 1	渡 辺 和	宮 島	1 0
	立 大 5 - 2 日 大	0 0	宮 崎	竹 末	0 1
	明 大 9 - 3 関 学 大	2 0	有 沢	江 間	0 0
	東 北 大 2 - 1 学 習 院 大	1 1	須 藤	立 花	0 1
	同 大 10 - 0 成 城 大	0 0	安 藤	島 掛	0 1
		0 0	木 村	川 村	1 1
準々決勝	明 大 9 - 0 同 大		格 地	高 橋	0 0
	早 大 10 - 3 立 大	2 0	坂 本	依 田	0 1
	法 大 21 - 0 青 学 大	0 0	渡 辺 忠		
	関 学 大 11 - 2 東 北 大	0 0			
準決勝	法 大 8 - 1 関 学 大	6 9	計		5 7
	早 大 6 - 4 明 大				



小林 正水 (明大OB)

昭和26年1月の学生選手権大会は、北海道の苫小牧で開催されましたが、私は自分で商売をしていましたので他の部員とは一緒に行かず、開会式の前夜、東京から26時間もかかってやっと現地へ到着。だが着いたのが夜中の12時頃。1時間以上もあっちこっちうろろしてやっとのおもいで合宿所にたどりつきました。

私は在学中に東京後楽園で2回もインカレを開催する役を致しました。最初は2年生の時で当時学連のフィギュア部の委員長だった法大の鈴木君が開催場所がわからず、私に相談に来たので、それでは責任をおって会場を捜してみるからと言って私一人で後楽園に交渉をし、戦後初めてインドアで大会を開きました。2度目は4年生の時、伊香保で規定だけ終了したが暖気の為にその晩から氷が溶けてこれでは明朝のフリーは出来ないことがはっきりとしてきた。当時私は学連フィギュア部の委員長をしていたので直ちに委員会を召集、このまま試合を流会にするか、それとも私に案があるので会場を他に移して競技を続けるか採決したところ、全校が私の意見に賛成してくれたので、審判員、新聞記者の方にも事情を説明し、夜10時頃後楽園に電話をしたところ、丁度鹿野さんがおられてOKとなり、未だかつてない真夜中の試合となり、中一日おいて1時から始まり、終わったのは朝の5時頃。無事に大会を終了させることが出来ました。そのおかげで個人4年間連続優勝と、29年は1校で2位杉田秀男、3位竹内己喜男の成績で完全優勝という未だに破られていない記録を作ることができました。

私が大学に入った動機は、当時自分で商売をし、又二人も子供がいましたが、戦後昭和25年初めて浜松町にインドア・リンクが出来ました。年齢も28才。大好きなこのスポーツにもう一度青春をかけてみたいとその気になって大学に入ったが、やはり商売と家庭と学校と競技スポーツを四立させるのは大変で、何度かスケートをやめようと思いました。

又、私はプロコーチに習った事が一度もなく、酒井克巳選手等の動作をみて研究しながら選手生活を続けたので、技術的な面においては随分と苦勞させられました。この最後の学生生活の年に全日本選手権、国体、全関東、その他の試合も合わせて、全部1位であった事は、本当に運が良かったのだとしみじみ思いました。

さあインカレへ。
上野駅に集合した早大チーム



ホッケー 立大、若手で栄冠

Speed

男子 500①尾崎繁樹 (明大) 45秒2 ②真々田 (法大) ③吉田 (明大)
 1500①浅坂武次 (立大) 2分27秒0 =大会新②尾崎 (明大) ③小飼 (立大)
 5000①浅坂武次 (立大) 8分56秒6 =大会新②加藤 (日大) ③五味 (早大)
 10000①五味芳保 (早大) 18分16秒9 ②笠原 (明大) ③五味信 (明大)
 2000リレー①明大 (荒井、吉田、山崎、尾崎) 3分9秒6 ②日大③立大
 順位①明大②立大③日大

Figure

男子シングル①竹内己吉男 (明大) 席次数7、得点46.95②杉田 (明大) ③呉城 (同大)
 順位①明大②関学大③同大
 女子シングル①美土路耀子 (慶大) 5、26.36②西尾 (樟蔭女短大) ③桑名 (早大)
 順位①神戸女学院②早大③慶大

Hockey

1 回 戦	東 北 大 8 - 2 大阪工大	3 位 戦	明 大 9 - 0 関 大
	中 大 5 - 3 関 大		
	関 学 大 10 - 2 立 命 大		
	日 大 9 - 0 東 大		
	近 大 5 - 3 明 学 大		
	同 大 19 - 2 学 習 院 大		
	立 大 16 - 3 大 阪 市 大		
	成 城 大 5 - 2 関 東 学 大		
	浪 速 大 10 - 1 都 立 大		
2 回 戦	立 大 30 - 0 横 浜 市 大		
	法 明 大 18 - 1 大 阪 市 大		
	成 城 大 8 - 4 日 浪 速 大		
	慶 大 6 - 4 早 大 大		
	青 学 大 6 - 3 東 北 大 大		
	中 関 学 大 30 - 0 近 大 大		
	関 学 大 3 - 2 同 大 大		
準々決勝	関 学 大 6 - 2 成 城 大 大		
	立 法 明 大 8 - 2 慶 大 大		
	法 明 大 16 - 2 中 青 学 大		
	法 明 大 37 - 0 青 学 大		
準決勝	法 立 大 13 - 3 関 大 大		
	立 大 7 - 3 明 大 大		

決 勝	立 大 8	$\left(\begin{array}{l} 0-0 \\ 1-2 \\ 3-2 \\ 4-1 \end{array} \right)$	5	法 大
-----	-------	--	---	-----

PG	立 大	大 張 川	法 竹	大 末	GP
0 2	風 大	瀨 川	今 泉	0 0	2 0
0 4	瀬 大	藤 原	藤 原	0 0	0 0
0 1	佐 大	山 崎	則 俊	1 0	0 0
0 0	山 大	久 慈	岸 野	0 0	0 0
0 0	久 大	横 内	江 間	1 0	0 0
0 0	横 大	菅 原	高 原	0 0	0 0
0 0	菅 大	桜 井	上 尾	0 0	0 0
0 1	小 大	島 田	野 村	0 1	0 1
0 0	島 大	田 名 部	川 村	1 0	0 0
2 0	田 大	吉 田	依 田	0 0	0 0
0 0	吉 大				
2 8	計				5 1



田名部匡省 (立大OB)

23年前の大会ですが、今でもはっきり記憶に残っています。参加29校と現在のように多くはなかったのですが、好ゲームが多く、早、慶、明、立、法の5大学と日大、中大の実力差が無く、特定の学校がタイトルを独占することがほとんどなかったのです。3年連続入替戦の立教がインカレで優勝したり、2部の早大が8大学で優勝するなど、ファンにとっては、この頃のアイスホッケーは興味深かったと思います。

立教の主力メンバーが1年、2年で、出身者の多くは苦小牧、八戸、盛岡、日光の選手でした。慶応を除くと北海道、東北勢が多く、特に苦小牧と八戸の選手の集まったところが強かったのも特徴でした。

しかし高校生は氷に乗る期間が少なかったため、インドア育ちの選手が多くなり、上手な選手が現われたのもこの頃です。東北、北海道の選手達は、陸上トレーニングに頼らなければならなかったために足が早く、パワーのある選手が多く、組織的なアイスホッケーでなかったため、個人技の秀れた選手が多かったのです。この頃の選手に近代アイスホッケーを教えたら相当強いチームが出来たかも知れません。

一方、防具やスティックに丈夫なものがなく、スティックに針金を巻きつけたり、糸を巻いて割れるのを防いだり、シュートもバッティングシュートはしませんでした。試合中でも折れたような音がするとプレーをやめてスティックが折れていないかどうか見たものです。

ところで大会では優勝候補の明治を7対3で破り決勝は法政と対戦しました。楽なはずの法政に終始リードされ延長戦に持ち込むのがやっとなりました。優勝経験の無いチームの弱さでしょうか。延長戦で法政はすっかりペースをくずして8対5で立教が優勝を果たしました。

しばらく振りの優勝だったようで、鬼怒川ホテルの金谷先輩に招待された温泉での祝賀会、高校時代3年間苦小牧に負け続けた私にとって生まれて初めての優勝経験を味わった大会でした。

ホッケー優勝の立大。カップを手に
田名部(左) 瀬川(右)の両選手



スピード

日大が6年ぶり

Speed

男子 500①御子柴光礼(日大) 46秒0 ②岡安(明大) 46秒1 ③長久保(専大) 46秒2
 1500①堀泰明(立大) 2分26秒0 ②長久保(専大) 2分26秒5 ③白沢(日大) 2分26秒8 = 以上大会新
 5000①笠原稔(明大) 9分0秒0 ②加藤(日大) 9分8秒9 ③松井(日大) 9分14秒0
 10000①加藤惣エ門(日大) 18分24秒9 ②笠原(明大) 18分33秒0 ③星野(立大) 18分35秒8
 2000リレー①専大(鈴木、池上、長久保文、長久保忠) 3分4秒7 ②明大③日大
 順位①日大②明大③立大

Figure

男子シングル①杉田秀男(明大) 得点271.82②大橋(立大) ③呉城(同大)
 順位①明大②立大③慶大
 女子シングル①美土路耀子(慶大) 206.0②桑名(早大) ③石野(中大)
 順位①早大②慶大③神戸女学院

Hockey

暖気のため中止



加藤惣エ門(日大OB)

私は当時4年生で、最後の学生生活であり、伝統ある部の総合主将の重任を担い、必勝の夢を持ち、春から一糸乱れぬ統制下で計画的練習を積み重ね、打倒明治大学を合言葉に猛練習を続けた。日本大学の氷上合宿は例年北海道苫小牧が根拠地で11月下旬寒波来襲の第1報を受け合宿入りをしたが、到着2日日より連日暖気が続き氷は溶け、陸上練習が続き、氷を求め氷上練習を期待して来た部員達にも焦りが見え、信州白樺湖での他校の合宿報告が入り、我々としても信州白樺湖に移動することを決定した。

白樺湖は学生大会を目指す各校の練習地であり、専用リンクを持たぬ我々は10日間程度の氷上練習で大会に臨んだ記憶が残っている。

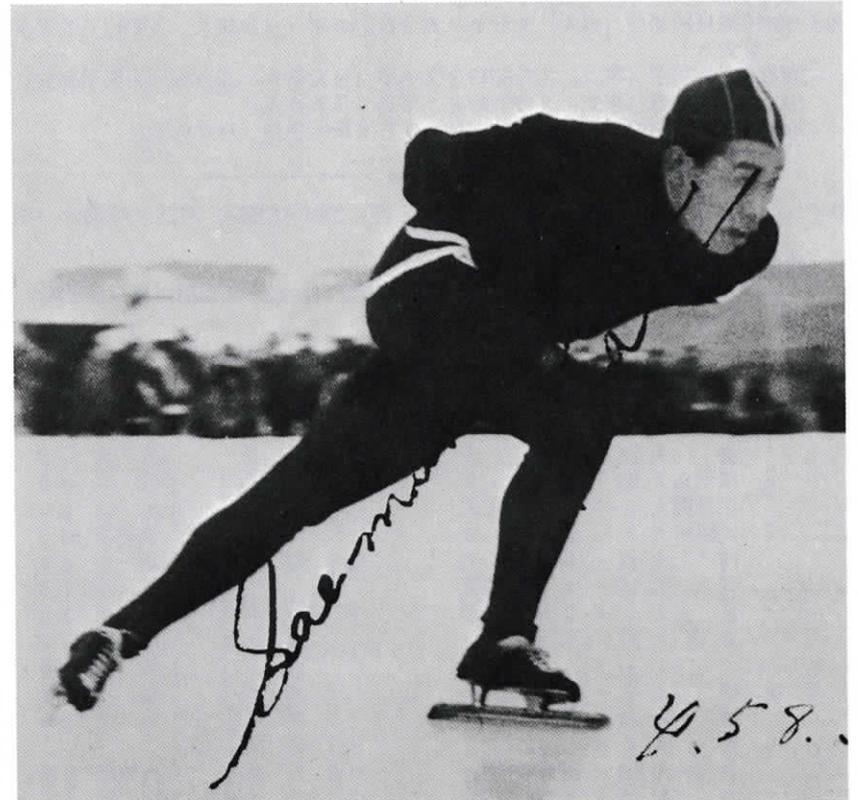
大会当日は暖気に災いされ、3日間中断して、競技が開始されたが、氷質は関係者の徹夜の整備、努力もむなしく最悪のリンク・コンディションだった。

第1日目、御子柴君が500mに優勝、幸先の良いスタートを切った。リンク・コンディションも日増しに良くなり、最終日には氷質、気温も最適、無風で記録的にも当時としては満足の記録の様に記憶している。1年生部員もよく健闘し、明治大学の6連勝を阻み、日大が6年ぶりの優勝が出来、個人的な種目別優勝よりも今も

心に残る蓼の海での感激であった。

栄冠のかけに涙あり、努力こそ栄冠への道であり、努力なき者は進歩も発展もない。私の好きな言葉です。

現在の選手にひと言。あまりにも環境に恵まれ、努力することを忘れてる様に思う。我々の時代から見ると、体格的にも外国選手に比べて劣ることもなく、氷上練習も充分過ぎるほど滑っているのになぜ勝てないのか？私感だが計画的な基礎体力の訓練が十分に積まれてないのではないか。科学的、医学的練習方法も結構だが、鍛えぬかれた基礎体力が出来ていない者には、科学的練習方法など通用しない。また出来ない。すべてのスポーツは走る事が基本であり、スケートは特に高度な技術を必要とするだけに、基礎体力の養成と、たゆまぬ研究・努力が必要だ。選手たる者は、酒、たばこ、不摂生な生活をやめること。実行できない者は愛好者になれ。



1万メートルに優勝した加藤(日大)の力走

五百、三千とも高見沢

Speed

男子 500①長久保文雄(専大) 42秒9 ②長久保忠(専大) ③御子柴(日大)
 1500①溝尾武夫(明大) 2分23秒5 ②長久保(専大) ③山崎(日大)
 5000①松本充雄(明大) 8分39秒7 ②星野(立大) ③土屋(日大)
 10000①松本充雄(明大) 17分11秒4 = 日本新②土屋(日大) ③星野(立大)
 2000リレー①専大(鈴木、池上、長久保文、長久保忠) 3分7秒3 ②明大3分8秒2 ③日大3分9秒4
 得点①日大30.5②明大28③専大24.5
 女子 500①高見沢初枝(専大) 50秒8 = 大会新②小平(日女体大) ③会田(大阪学芸大)
 1000①宮坂和栄(専大) 1分55秒3 ②小平(日女体大) ③会田(大阪学芸大)
 1500①宮坂和栄(専大) 2分53秒8 ②平島(日女体大)
 3000①高見沢初枝(専大) 5分36秒7 = 日本新②平島(日女体大)

Figure

男子シングル①村上弘(関学大) 席次数6、得点139.64②道家(明大) ③朽木(明大)
 得点①明大66③慶大46③関学大40
 女子シングル①美土路耀子(慶大) 3、92.74②石野(中大) ③朝田(神戸女学院)
 得点①慶大13②神戸女学院9③中大7

Hockey

1 回 戦 成城大 不戦勝 東北大
 関東学大 7 - 4 青学大
 慶大 24 - 0 都立大
 横浜市大 20 - 2 京大
 学習院大 8 - 2 大阪工大
 大阪府大 6 - 5 明学大
 同大 12 - 0 東大
 関大 15 - 4 大阪商大
 近大 7 - 3 早大
 立命大 25 - 1 大阪市大

2 回 戦 関大 7 - 5 成城大
 慶大 25 - 0 近大
 日大 8 - 3 中大
 立命大 16 - 2 関東学大
 立法大 10 - 2 同大
 法大 9 - 0 大阪府大
 明大 16 - 0 横浜市大
 関学大 11 - 0 学習院大

PG	明大	大藤	立大	大原	GP
03	佐藤	菅原	00	張	00
00	村野	風張	00	時	00
02	尾形	小林	00	中	00
00	木村	長江	10	平	30
10	飯野	小山	00	崎	00
02	大松	久慈	10	野	00
10	金宮	鶴田	10	田	10
11	赤沢	小林隆	00		
00	三国	崎野	00		
00	富田	山田	00		
38	計		60		

準々決勝	法大	立命大	3位戦	法大	関学大
関学大	6 - 2	関大			
明大	6 - 2	日大			
立大	7 - 1	慶大			
準決勝	立大	9 - 4	関学大		
明大	7 - 2	法大			
決勝	明大	8	立大		

長久保初枝(旧姓高見沢、専大OG)

学生氷上競技選手権第50回記念大会おめでとうございます。今から20年も昔の学生時代を思い返して、つたない筆を取って見ました。

当時、私達の冬季練習は氷を求めて各地を転々と歩きまわりました。なにしろリンクは寒くなるのを待つよりほかに、必然的にシーズンも限定されます。11月下旬より2月下旬頃までしか氷がないため、練習、試合はすべてこの3ヵ月が勝負。現在から見ますと大会数も少なく、全国的な大会はインカレ、全日本選手権、国体と言った所。この他に地方大会が2競技会位のもの。どの大会も記録をおろそかにすることは出来ず、唯自分の記録を少しでも更新しなければと必死でした。

従って大会は1月に入ってからインカレが初競技会と言う状態でした。1年間夢中になって練習して来た成果がどう出るか期待と不安で一杯、真剣そのものでした。

天然リンクでしたので、湖に自分達の大学が自由に練習出来るリンクを作れたのは良かったのですが、除雪から整備管理まで自分達でしなければなりません。練習時間も計画通りには行きません。除雪、リンク作りで2~3日が過ぎ去ってしまうことも珍しくはありませんでした。はいてもはいても雪が降り、とうとう私達の力ではどうしようもなく、リンクを見離してしまわなければならない羽目に何回かありました。大みそかの夜から元旦まで雪かきをして過ごした事も忘れられない思い出です。予定の練習を半分も消化出来ずに競技会にのぞまなければならない有様でした。又、競技会も暖気のため延期、途中中止などやむない事態も再三でした。

今思い出すと自然との戦いであり、人工リンクの現在とでは比較する事は出来ない事と思います。こんな時代に過ごした私の選手生活でしたが、それなりに充実しており、夢があり、希望があり、こよなくスケートを愛することが出来ました。

大学生生活初めてのシーズン合宿中での練習記録会では、自分の記録はもとより、日本記録更新も何回かあり、インカレには大きな希望を持って臨みました。果たせるかな長距離には新記録更新を達成し、ますますスケートへの情熱を燃やし、以後幾多の日本新記録を書きかえると同時に、夢としか思っておりませんでした世界選手権、オリンピックの出場を果たしました。(当時、日本の女子は海外遠征には参加しておらず、オリンピックも第8回大会が女子の初参加と言うような状態でした)

大学時代以後の私にはスケートの敵は自分であり記録でありました。自分に勝つ事がすなわち相手にも勝つ事であり、記録の更新にもつながる事でした。当時を振り返って見ますと、皆なつかしい良き思い出として残っておりますが、現在の私に2度とあのような苦しく、辛い選手生活をする勇気があるだろうか、と静かに思い起こして見る有様です。私の力の限界まで挑戦した、自然とも戦った、その成果が私の選手時代の全てを表わして来たのでした。尊い青春時代を私はスケートによって教えられ成長しました。私に与えられたすばらしい時代でした。

私達のこの良き時代には日本を代表する選手は学生にあったように思います。現在は如何でしょうか? 現在は現在なりに苦しみ悩みも多いことと思いますが、目指して来たスケート選手としての自覚をしっかりと持って、学生として悔いない選手生活を過ごされますよう、祈ってやみません。

17年ぶり八戸開催

Speed

男子 500①白沢清治 (日大) 46秒8 ②大久保 (明大) ③鈴木 (専大)
 1500①溝尾武夫 (明大) 2分28秒5 ②大久保 (明大) ③白沢 (日大)
 5000①榛葉重喜 (日大) 9分2秒3 ②溝尾 (明大) ③土屋 (日大)
 10000①松本充雄 (明大) 18分36秒②榛葉 (日大) ③村井 (日大)
 2000リレー①日大 (矢崎、富岡、土屋、森越) 3分9秒8 ②明大③立大
 順位①日大②明大③専大
 女子1500①宮坂和栄 (専大) 3分9秒9 ②会田 (大阪学芸大)

Figure

男子シングル①西倉幸男 (立大) 席次数3、得点186.98②朽木 (明大) ③道家 (明大)
 順位①明大53②立大45③慶大44
 女子シングル①高橋和枝 (立大) 席次数3、得点95.10②徳江 (専大) ③山内 (立大)
 順位①神戸女大23②立大22③同女大12

Hockey

1 回 戦	明学大 3 - 2 学習院大	早大 33 - 0 東北大
	関大 10 - 1 青学大	立命大 10 - 3 東大
	同大 13 - 0 大阪工大	大阪商大 11 - 1 大阪市大
	関東学大 3 - 2 横浜市大	中大 不戦勝 京大
	日大 12 - 1 大阪府大	
2 回 戦	明大 17 - 1 明学大	
	同大 4 - 0 関大	
	中大 19 - 0 関東学大	
	日大 9 - 2 関学大	
	早大 8 - 2 立命大	
	立大 17 - 3 大阪商大	
準々決勝	明大 21 - 1 同大	
	法大 6 - 5 中大	
	早大 7 - 6 日大	
	立大 12 - 7 慶大	
準決勝	明大 9 - 3 法大	
	立大 8 - 1 早大	
3 位 戦	法大 7 - 2 早大	
決勝	明大 9 (4-1, 2-3, 3-2) 立大	

PG	明大	立大	GP
14	佐藤	菅原	10
00	村野	桜井	00
02	尾形	小林	00
01	藤盛	稲津	01
01	飯野	長江	00
01	乙部	小平	00
00	赤沢	畑中	00
10	小川	風張	00
00	富田	柴山	20
29	計	島田	31
		松井	01
		崎野	00
		GK	00
		計	63



	早	明	慶	教	尖
計	54	35	5	3	2
1500	13	5		1	2
5000	14	6	1		
500	11	8		2	
2000	5	7	3		
10000	11	9	1		

第7回大会、高松池。雪中のホッケー決勝、早大-慶大戦。①はスピードの得点掲示板

明大 フィギュア 9連勝

Speed

男子 500①長久保文雄 (専大) 43秒2 ②鈴木 (専大) 44秒1 ③富岡 (日大) 44秒9
 1500①溝尾武夫 (明大) 2分17秒0 = 日本新②長久保 (専大) 2分23秒5 = 大会タイ③井上 (明大)
 5000①溝尾武夫 (明大) 8分31秒9 ②榛葉 (日大) 8分33秒4 ③松本 (明大) 8分36秒7 = 以上大会新
 10000①松本充雄 (明大) 17分24秒0 ②小林 (明大) 17分40秒3 ③榛葉 (日大) 17分54秒6
 2000リレー①専大 (鈴木、井出、長久保、宮沢) 3分0秒3 = 日本新②明大③日大
 得点①明大37②専大28③日大25
 女子 500①高見沢貞子 (日体大) 56秒2 ②会田 (大阪学芸大) 57秒8 ③福井 (専大) 1分9秒5
 3000①高見沢貞子 (日体大) 6分55秒3 ②会田 (大阪学芸大) 57秒8 ③福井 (専大) 7分25秒2

Figure

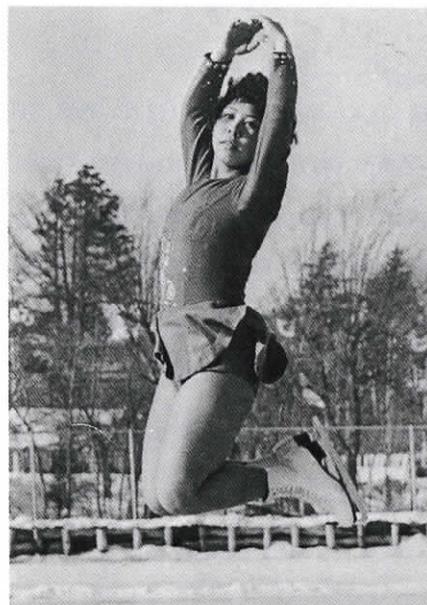
男子シングル①西倉幸男 (立大) 席次数5、得点307.48②道家 (明大) ③佐々木 (同大)
 得点①明大23②同大18③立大16
 女子シングル①本多久子 (慶大) 席次数3、得点142.52②大岩 (立大) ③山内 (立大)
 得点①慶大21②立大21③神戸女学院大15 (1、2位は上位者による)

Hockey

1 回 戦	学習院大 9 - 6 京大	日大 26 - 0 北大
	大阪商大 6 - 2 近大	青学大 20 - 1 関東学大
	横浜市大 14 - 3 東北大	立命大 19 - 0 大阪市大
	同大 49 - 0 都立大	関学大 11 - 3 中大
	明学大 11 - 0 横浜国大	関大 17 - 0 中京大
	成城大 5 - 3 東大	
2 回 戦	明大 20 - 3 学習院大	関大 11 - 6 立命大
	法大 32 - 0 大阪商大	日大 15 - 2 成城大
	立大 26 - 0 明学大	同大 15 - 1 横浜市大
	慶大 8 - 4 早大	関学大 15 - 3 青学大
準々決勝	明大 8 - 1 同大	慶大 7 - 4 関学大
	法大 14 - 5 関大	立大 8 - 2 日大
準決勝	明大 10 - 8 慶大	立大 8 - 4 法大
3 位 戦	慶大 13 - 7 法大	

決勝 立大 8 $\begin{pmatrix} 4 & - & 3 \\ 2 & - & 0 \\ 2 & - & 1 \end{pmatrix}$ 4 明大

PG	立大	大本	明大	GP
01	岡本	江津	佐藤	21
02	長江	津野	飯野	00
01	稲部	藤盛	乙部	00
02	柴山	久保	藤盛	00
01	瀬川	荒川	久保	00
00	橘	山田	荒川	10
00	金田	山田	山田	10
00	松井			
01	西谷			
00	高良			
00	崎野			
00			小川	00
			小野寺	00
			鄭	00
08		計		41



フィギュア女子で華やかな演技を見せた吉沢 (明大、43回大会から)



テ31回大会のリレーに日本新で優勝した専大カクル (左から鈴木、井出、長久保、宮沢)

フィギュア男子 同大が制す

Speed

- 男子 500①鷹野春雄 (日大) 45秒6 ②加藤清 (立大) 45秒8 ③森越 (日大) 齋藤 (日大) 沖 (慶大) 46秒3
 1500①大久保次朗 (明大) 2分27秒6 ②井上 (明大) 2分28秒3 ③鷹野 (日大) 2分28秒4
 5000①井上歳広 (明大) 8分46秒3 ②橋本 (日大) 8分55秒4 ③下河原 (日大) 9分0秒5
 10000①町田隆夫 (立大) 18分23秒3 ②井出 (専大) 18分23秒8 ③柳沢 (立大) 18分24秒0
 2000リレー①明大 (狩野、口田、井上、大久保) 3分4秒1 ②日大③立大
 得点①日大31②明大23③立大22
 女子 500①門倉文子 (専大) 54秒9 ②河合 (日体大) 1分0秒8 ③和田 (日体大) 1分5秒8
 3000①門倉文子 (専大) 6分12秒8 ②和田 (日体大) 6分20秒9 ③河合 (日体大) 7分1秒8

Figure

- 男子シングル①西倉幸男 (立大) 席次数3、得点180.7 ②道家 (明大) ③佐々木 (同大)
 得点①同大70②明大68③立大67
 女子シングル①吉原とき子 (武庫川女大) 3、145.15②村上 (慶大) ③大岩 (立大)
 得点①立大44②慶大32③同大31

Hockey

回戦	対戦校	スコア	得点者	アシスト	ゴールキーパー	
1 回 戦	法大	12 - 4	中京大	PAG	明大	
	同大	19 - 3	学習院大	0 2 0	高島	
	関学大	15 - 1	青学大	0 1 2	瀬川	
	立命大	6 - 2	東大	0 0 1	橘	
	大阪工大	7 - 2	帯広畜大	0 0 1	近藤	
	近大	13 - 3	北海学園	0 0 0	小野寺	
	中大	棄権	権関大	0 0 1	古市	
				0 0 0	谷木	
	2 回 戦	同大	26 - 0	北工大	1 0 1	柴山
		成城大	12 - 4	明学大	0 0 0	京極
明大		11 - 3	早大	0 1 0	深谷	
中大		23 - 1	近大	1 0 0	西谷	
法大		21 - 0	大阪府大	0 0 0	金田	
慶大		12 - 6	関学大	0 0 0	岡本	
立大		30 - 0	大阪工大	1 0 0	齋藤	
日大		9 - 2	立命大	0 0 0	小野寺	
				3 4 6	計	
					2 0 5	

準々決勝	明大	12 - 9	同大	大	3 位 戦 中	大 棄 権	法 大	大
	法大	9 - 7	成城大	大				
	中大	12 - 3	慶大	大	決 勝	立 大	6	2 明 大
	立大	9 - 2	日大	大				
準決勝	明大	10 - 7	法大	大				
	立大	5 - 0	中大	大				



稲津 秀則 (立大OB)

インターカレッジも50回目を迎えましたが、この輝かしい伝統ある大会に私も名を連ねていることは大変光栄に思うと同時に心からお祝い申し上げる次第です。

最近の開催地は日光に固定したかのように、ここ数年連続して行われていますが、私は勤務の関係で現在日光在住であるため、かかさずインカレを見ている1人です。ここで当時は想い出しながら後輩に感想を述べてみようと思います。

第31回大会のアイスホッケー部門は青森県の八戸市で行われましたが、我々に与えられた課題は優勝しなく、優勝はインカレにおける使命感でもありました。それというのも昭和33~34年のシーズンで残された選手権はインカレしかなく、そのシーズンの大会は全て優勝と言う実績を残していたからです。

大会前の釧路合宿では心・技・体をチームが一丸となって鍛えました。当時の冬の地方合宿といえば、リンクは我々の手作りで、しかも管理まできなければならずこれがまた大変な仕事の一つでありました。釧路は厳寒地で、氷点下25、26度の夜に明日に備えて氷作りをしましたが、体についた水しぶきが凍って真っ白になりながらも誰1人不満も言わず、ただ自分達の為に氷を作っているのだという自覚から練習以外の厳しい任務にも耐えた点が、選手1人1人の精神力、チームワークの強化にも重要な役割りを果たしたと思います。冬合宿を無事終了すると、何か人間が一回り大きくなったような気がして、合宿地を後にした時のあのさわやかな気持が今日の自分を築き上げてくれたのだと確信します。

八戸に乗り込み、目標の決勝戦に近づいたとき、はやる気持を押えながらも小さな不安が一つ心の隅にあったことを今でも思い出します。それはシーズン中コンビを組んでいた同僚の岡本君(現在、日光で自営)が釧路合宿で練習中、氷の割れ目に入って転倒し(当時、ヘルメットは付けていなかった)軽い脳内出血のため絶対安静の診断を受け、練習は勿論、決勝戦出場も不可能に近かったからです。

ところが決勝戦の朝、それまで安静が続いていた本人が、回りの止めるのも聞かず、キャプテンの長江さん(福徳相互銀行大阪勤務)にぜひ出場させて欲しいとせがんだのです。キャプテンとしても、まかり間違えば命を落とすか片輪になるかという危険な状態であった岡本君を出場させていいものかどうか判断に苦しんでいた様子でしたが、本人の強い意思に負け、とうとう出場させることに決めました。

こんなことから、周囲は、試合の心配よりも彼の体に不安を抱きながら決勝戦に臨んだ訳ですが、試合は我々の予想に反して、彼の超人的な活躍と見事なチームワークで目標の優勝を遂げることができました。

次元の違いから、今の現役にあまりきつい要求は出来ませんが、最近の大会の雰囲気を見てみると、勝負魂と気力が全く欠けています。それは現在の恵まれた世の中がそうさせるのかも知れませんが、決してそれだけではないはずです。君達は他人は勿論、自分に対する甘えの意識が強過ぎるのです。この伝統ある大会を、名ばかりの大会にしないように、現役が大切に受け継ぎ、内容のある大会、人格を築き上げる組織にするよう、切に願います。

佐藤(関大)関東勢を制す

Speed

男子 500①加藤清人(立大)46秒3 ②鷹野(日大)46秒6 ③森越(日大)森(明大)46秒8
 1500①鷹野春雄(日大)2分25秒9 ②加藤(立大)2分28秒1 ③斎藤(日大)2分29秒7
 5000①小林秀司(明大)9分11秒6 ②鷹野(明大)9分12秒8 ③箕島(日大)9分16秒5
 10000①小林秀司(明大)18分4秒2 ②石幡(早大)18分8秒2 ③加藤(明大)18分30秒5
 2000リレー①明大(蔦森、小林、森、狩野)3分6秒6 ②日大③立大
 得点①明大33.5②日大27.5③立大16

Figure

男子シングル①佐藤信夫(関大)席次数5、得点348.58②西倉(立大)③佐々木(同大)
 得点①立大63②明大63③同大53(1、2位は上位者による)
 女子シングル①大岩美恵子(立大)5、255.77②本多(慶大)③吉原(武庫川女大)
 得点①慶大29②立大27③同大24

Hockey

1 回 戦 同 大 17 - 1 都 立 大
 2 回 戦 早 大 24 - 0 大阪府大
 横 濱 市 大 9 - 8 大阪 市 大
 中 大 39 - 1 北海学 園
 日 大 17 - 5 関 大
 明 大 23 - 3 成 城 大
 立 大 18 - 4 同 大
 関 学 大 17 - 0 神奈川大
 中 京 大 14 - 3 帯広畜大
 法 大 棄 権 東 北 大
 学 習 院 大 7 - 4 立 命 大
 静 岡 大 5 - 2 明 学 大
 3 回 戦 中 大 14 - 1 関 東 学 大
 立 大 18 - 0 東 大
 早 大 17 - 8 関 学 大
 明 大 15 - 2 学 習 院 大
 慶 大 20 - 0 青 学 大
 法 大 6 - 3 福 岡 大
 横 濱 市 大 6 - 1 上 智 大
 日 大 12 - 5 中 京 大

PG	明大	大栗	立大	大藤	GP
10	小栗	盛	近瀬	川	10
02	藤盛	盛	瀬	市	00
01	山田	盛	橋	津	20
03	久保田	盛	高	島	11
02	乙部	盛	古	市	10
00	岸	盛	稻	津	00
00	松田	盛	深	谷	00
10	井上	盛	金	本	00
01	小川	盛	谷	木	00
00	丸井	盛	岡	本	10
00	小野寺	盛			00
00	菊地	盛			10
29	計	盛			71

準々決勝	中法明立	大7-4	慶大	3位戦	中法明立	大7-4	法大
準決勝	明立	大10-3	中大	決勝	明大	9	立大
						$\begin{pmatrix} 3 & - & 2 \\ 0 & - & 1 \\ 3 & - & 3 \\ 3 & - & 1 \end{pmatrix}$	



佐藤 信夫 (関大OB)

私がインカレに出場した当時は、ちょうどフィギュア選手の質の転換期でありました。それまでの大学のクラブ内で先輩後輩の関係できたえられた選手が優勝していた時代から、私のようなプロのインストラクターにコーチを受けた選手が活躍する時代へと移りつつあったのでした。

今は、ほとんどの選手がインストラクターにコーチを受けていますが、当時、大学(関大)から1人しか出場していなかった私にとっては、大学のクラブのまとまりというものが

印象に残っています。

現在のインカレは、年に1度全国のスケート仲間が一堂に集う大会として意義があるものと思います。また、そういう意味でアウトドアのリンクで競技が行われることもやむを得ないと思いますが、大会の条件を良いものにして、学生選手がベストをつくせるようにしていただきたいと思います。

現在の学生選手に関していえば、基礎を大切に、流行を追わない自分の個性を大切に演技を心がけてほしいと思います。それが上達への最善の道と考えます。そして、学生という立場の中でスケートに全精力をうちこんでいるような選手になっていただきたいと思っています。



鷹野 春雄 (日大OB)

スポーツの試合は、自己の試練の場であるといわれます。レースによって己の力を試し、練習の経過を省みて足らざるを認め、それを次の練習によって磨き鍛える努力と、全精力を注ぎこみ新たな情熱を燃やし続ける。自己の能力は、このようにして高めていくことができます。

苦しい練習の途中で、ともしれば安楽を求めようとする気持から練習を放棄することもあるでしょう。「科学的練習法によって……」という抜け道を選んで苦しみを乗り越えよう

とすることも……。

科学的、合理的な練習とは、決して練習の量を軽くしようとか、安易に練習効果を挙げようとするものではなく、あくまでも練習上の原理や法則に照らしてそれぞれの条件の下で理にかなった方法で練習を進めていくことであります。

時勢はまさに激動を続け、スポーツは寸時も休みなく発展を続けています。“常に携えず厳しいトレーニングのうち勝つ者のみが最後の栄光に輝くことができるのだ”ということを忘れないでください。そして選手の皆さんの大いなる活躍が日本スケート界の輝ける実績に新たな足跡を残し、更にはスポーツ界の活動全体の力強い牽引力となってくれることを心から期待します。

最後に、スケーターとしての誇りに生きる皆さんのご健闘を切に祈るとともに、50回をめでたく迎えたインターカレッジを、かくも盛大に盛り上げていただいた地元関係者の皆様、大会役員の皆様、学連委員の皆様から敬意を表します。

スピード 3種目に日本新

Speed

- 男子 500①鷹野春雄 (日大) 43秒9 ②加藤 (立大) 宮沢 (専大) 44秒6
 1500①鷹野春雄 (日大) 2分15秒9 = 日本新②柳沢 (立大) 2分20秒1 ③加藤 (立大) 2分20秒7
 5000①石幡忠雄 (早大) 8分17秒2 = 日本新②新保 (明大) 8分29秒2 = 大会新③鷹野 (明大) 8分37秒1
 10000①前島孝 (専大) 17分4秒7 = 日本新②新保 (明大) 17分15秒0 ③石幡 (早大) 17分29秒0
 2000リレー①立大 (北沢、柳沢、有賀、加藤) 2分58秒2 ②日大③明大
 得点①立大28②明大22③日大18.5
 女子 500①鷹野淑子 (専大) 52秒9 ②加藤 (日体大) 53秒8 ③守屋 (専大) 54秒8
 3000①鷹野淑子 (専大) 5分28秒3 = 大会新②加藤 (日体大) 5分55秒0 ③三城 (専大) 5分55秒2

Figure

- 男子シングル①佐藤信夫 (関大) 席次数5、得点456.05②佐々木 (同大) ③今野 (明大)
 得点①明大75②同大66③立大51
 女子シングル①上野純子 (関学大) 3、312.52②吉原 (関学大) ③大岩美 (立大)
 得点①関学大43②慶大39③同大28

Hockey

- 1 回 戦 成 城 大 12 - 0 都 立 大 早 大 22 - 1 福 岡 大
 大阪府大 9 - 2 東 洋 大 同 大 20 - 4 甲 南 大
 大阪市大 5 - 4 神 奈 川 大
- 2 回 戦 明 大 27 - 0 北 海 学 園 中 大 31 - 0 大 阪 工 大
 日 大 7 - 2 学 習 院 大 大 阪 商 大 8 - 1 大 阪 市 大
 法 大 7 - 0 中 京 大 青 学 大 8 - 5 関 東 学 大
 関 大 8 - 5 成 城 大 明 学 大 15 - 5 上 智 大
 早 大 13 - 7 近 大 東 大 19 - 1 桃 山 学 大
 横浜市大 11 - 5 大 阪 府 大 慶 大 20 - 2 同 大
- 3 回 戦 明 大 19 - 1 関 大 京 大 11 - 3 立 命 大
 立 大 19 - 2 日 大 早 大 14 - 4 関 学 大
 法 大 16 - 5 大 阪 商 大 慶 大 8 - 3 明 学 大
 中 大 11 - 0 横 浜 市 大 東 大 10 - 6 青 学 大
- 準々決勝 明 大 11 - 3 京 大 中 大 18 - 0 東 大
 早 大 7 - 6 法 大 立 大 8 - 1 慶 大
- 準決勝 立 大 8 - 3 中 大 明 大 6 - 1 早 大

3 位 戦 中 大 7 - 5 早 大
 決 勝 明 大 5 $\begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & -1 \\ 4 & -2 \end{pmatrix}$ 4 立 大

PAG 明 大		立 大 GAP		
0 1 2	久保田	F	近 藤 0 0 0	
0 2 0	山 田		岡 島 0 0 0	
0 0 3	岸		稲 津 1 0 0	
0 0 0	加藤哲	W	高 島 1 0 1	
0 0 0	松 田		堀 井 0 1 0	
0 0 0	大 西	D	橋 2 0 0	
0 1 0	井 上		小 野 寺 0 0 0	
1 0 0	丸 井		F	菊 池 0 0 1
0 0 0	浅 井	GK		大 野 0 0 0
0 0 0	小野寺			
1 4 5	計		4 1 2	

平松 純子 (旧姓上野、関学大OG)

私達関学女子は昭和37年、38年に学生選手権で団体優勝しました。もうはるか昔、十数年も前の事となりましたが、初優勝した軽井沢の大会は特に懐かしく思い出されます。

10才からフィギュアを始め、すでに全日本選手権者となり、世界選手権、オリンピックの出場経験も持っていた私でしたが、大学生の仲間入りをして初めてその出場が可能となる学生選手権には、早くから一種の憧れを持っていました。それまでも私個人として良い成績を残すべく努力を重ねて来たのですが、学生大会は個人の他に団体としてもその王座が競われることを知り、母校の榮譽の為、部員一同が力を合わせ目標達成の為に努力したことは、個人競技としてのフィギュアを続けた11年の間でも得難い経験だったと思います。

37年の大会の女子フィギュアは、早くから関学と慶応の首位争いが予想されていました。慶応にはベテランの本多さん、村上さんなどがおられ、こちら関学は堺井さん、吉原さん、私のメンバーでした。1位の差が団体優勝に影響するとあって、両校共に激しい火花を散らしました。結局、1位、3位、5位を占めた私達関学が初の全国優勝を勝ち得たのですが、それは大変接近した試合でした。軽井沢の試合に使用したリンクは、建物の半分がオープンされた半アウトドア式リンクで、屋外リンクでの練習や試合経験の少ない我々には、大分勝手が違いました。

技術には関係なく、下級生は下級生として上級生や先輩に接し、部のルールに従いながらの合宿生活。朝の雪道を、澄み切った冬空に輝く星座の下を皆と校歌を歌いながら歩いた事。天然水での試合等々……、懐かしい青春のひとつとして思い出されます。

軽井沢大会後、スイスのピラースで行われた、世界の学生のオリンピックといわれるユニバーシアード大会で優勝した事も、関学の団体優勝と共に忘れ難い学生時代の大切な思い出です。

ホッケー 早大9年ぶりの優勝

Speed

- 男子 500①鈴木恵一 (明大) 42秒9 = 大会タイ②鷹野 (日大) 43秒1 ③関口 (専大) 43秒6
 1500①鈴木恵一 (明大) 2分20秒0 ②鷹野 (日大) 2分20秒5 ③富原 (明大) 2分21秒2
 5000①出町嘉明 (日大) 8分27秒4 ②新保 (明大) 8分35秒9 ③河野 (立大) 8分40秒1
 10000①出町嘉明 (日大) 17分21秒9 ②河野 (立大) 17分22秒1 ③石幡 (早大) 17分24秒6
 2000リレー①日大 (力石、鷹野幾、鷹野春、高村) 3分2秒8 ②明大③専大
 得点①日大57.33②明大42.33③立大39
 女子 500①鷹野靖子 (専大) 50秒5 = 大会新②高村 (専大) 52秒2 ③三城 (専大) 53秒2
 3000①鷹野靖子 (専大) 5分53秒1 ②高村 (専大) 6分15秒5 ③三城 (専大) 6分41秒1

Figure

- 男子シングル①佐藤信夫 (関大) 席次数5、得点453.16②小泉 (明大) ③寺野 (明大)
 得点①明大88②同大83③日大56
 女子シングル①上野純子 (関学大) 5、399.35②吉原 (関学大) ③大岩 (慶大)
 得点①関学大52②日大39③慶大27

Hockey

- 1 回 戦 大阪工大 4 - 3 愛知学大 北 大 7 - 3 神奈川大
 中 京 大 4 - 1 東 洋 大 福 岡 大 5 - 1 北海学園
 近 大 4 - 1 東 北 大
- 2 回 戦 関 学 大 7 - 1 大阪府大 中 大 5 - 4 日 大
 横 浜 市 大 2 - 0 東 大 明 大 18 - 0 立 命 大
 同 大 11 - 0 関 東 学 大 中 京 大 7 - 3 学 習 院 大
 慶 大 7 - 2 成 城 大 近 大 3 - 2 大 阪 商 大
 京 大 3 - 2 青 学 大 立 大 16 - 2 関 大
 北 大 6 - 2 明 学 大 福 岡 大 3 - 0 上 智 大
- 3 回 戦 慶 大 19 - 0 桃 山 学 大 早 大 8 - 2 北 大
 京 大 6 - 5 同 大 法 大 6 - 0 中 京 大
 近 大 8 - 6 横 浜 市 大 明 学 大 3 - 2 関 学 大
 中 大 棄 権 大 阪 工 大 立 大 5 - 3 福 岡 大
- 準々決勝 慶 大 4 - 2 明 大 立 大 14 - 4 近 大
 中 大 2 - 1 法 大 早 大 棄 権 京 大

準決勝	中 大 3 - 0 立 大	早 大 7 - 4 慶 大
3位戦	立 大 10 - 6 慶 大	
決勝	早 大 8 $\begin{pmatrix} 4 & - & 4 \\ 2 & - & 1 \\ 2 & - & 0 \end{pmatrix}$ 5 中 大	

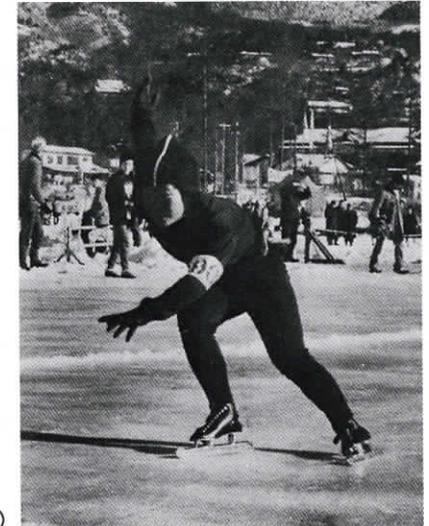
PAG	早 大	中 大	GAP
011	福 田	星 野	100
001	金 人	門 馬	000
002	升 井	田 村	000
001	黒 滝	堀 井	010
020	塚 本	真 山	010
002	安 保	崎 城	300
000	下 館	根 崎	000
000	浦 島	赤 松	000
001	江 田	中 里	000
000	木 村	埜 田	100
100	金 入		
010	森 出		
000	平 有	佐 藤	000
000	有 賀		
000	杉 山	ニッ塚	000
148	計		520

前島 靖子 (旧性鷹野、専大OG)

第35回インターカレッジは、私が大学1年生で初めての選手権でした。また蓼科湖で行われたこの大会は、天然リンクでの競技会として末期の頃だったと思います。役員の方々が雪をかいたり、雪と水を合わせて亀裂を直したりしてリンク作りをしている姿、また試合中は各校の選手がそれぞれほうきでリンクを整備したこと等が思い出されます。

大会当日、あちらこちらで各校の選手が校歌や応援歌をうたい、校旗を高々と掲げている様子を見まして驚くとともに、入学以来打倒〇〇大学、インカレ必勝の合言葉の中でトレーニングをしてきましたが、大会に参加してこの大会が学生にとってまさに最後の目標大会であることを感じました。また単に大学間の対抗という活気だけでなく、記録的にも充実しており、学生が日本スケート界をリードしているのだという実感もありました。

しかし、この感覚を肌で感じていたのは男子選手だけだったように思います。当時女子の参加者は少なく、専修大学の3名で大会参加もオープンという形でした。男子の活気の中にあつて、女子は一抹の淋しさを感じたものです。現在では各大学に女子選手も増え、女子の大学対抗もできるようになったことをとても羨ましく思っています。



女子500に大会新で優勝の鷹野 (専大)

明大2度の完全優勝

Speed

男子 500①鈴木恵一(明大) 41秒3 = 大会新②渡辺(専大) 43秒0 ③肥田(専大) 43秒1
 1500①鈴木恵一(明大) 2分17秒6 ②有賀(立大) 2分18秒3 ③富原(明大) 2分18秒5
 5000①河野義博(立大) 8分10秒4 ②新保(明大) 菊池(日大) 8分12秒9 ④出町(日大) 8分13秒6 = 以上大会新
 10000①新保鋭(明大) 16分56秒4 ②有賀(立大) 16分56秒8 ③菊池(日大) 17分1秒9 = 以上大会新
 2000リレー①専大(長久保、矢島、渡辺、肥田) 2分57秒7 = 日本新②明大③早大
 得点①明大51.5 ②日大44.5 ③立大32
 女子 500①鷹野靖子(専大) 49秒7 = 大会新②有賀(東洋大) 51秒2 ③森(専大) 52秒3
 3000①鷹野靖子(専大) 5分34秒4 ②有賀(東洋大) 5分55秒8 ③清水(専大) 5分58秒4

Figure

男子シングル①服部義明(同大) 席次数7、得点443.4 ②守永(明大) ③松本(明大)
 得点①明大63 ②日大51 ③立大49
 女子シングル①福原美和(早大) 5、431.1 ②大川(関大) ③石田(同大)
 得点①慶大61 ②同大52 ③関学大51

Hockey

1 回 戦	愛知学大 6 - 0 学習院大	横浜市大 17 - 2 帯広畜大
	同 大 8 - 3 神奈川大	成 城 大 14 - 3 横浜国大
	青 学 大 10 - 2 愛 知 大	大阪商大 6 - 4 明 学 大
	立 命 大 5 - 2 関東学大	
2 回 戦	早 大 14 - 0 甲 南 大	北 大 4 - 1 近 大
	立 大 25 - 0 大阪府大	関 大 8 - 1 都 立 大
	上 智 大 8 - 2 京 大	慶 大 21 - 1 東 北 大
	日 大 17 - 0 大阪工大	東 大 3 - 0 桃 山 学 大
	東 洋 大 6 - 2 中 京 大	福 岡 大 9 - 1 成 城 大
	中 大 8 - 4 同 大	法 大 14 - 0 愛 知 学 大
	横浜市大 5 - 2 関学大	明 大 21 - 1 立 命 大
	大阪商大 3 - 2 名 大	青 学 大 不 戦 勝 大 阪 市 大
3 回 戦	上 智 大 5 - 2 大阪商大	法 大 18 - 1 東 大
	早 大 9 - 2 関 大	明 大 9 - 0 東 洋 大
	福 岡 大 3 - 1 北 大	立 大 5 - 0 横 浜 市 大
	日 大 3 - 0 中 大	慶 大 14 - 1 青 学 大

準々決勝 明 大 8 - 6 慶 大
 早 大 22 - 2 上 智 大
 日 大 7 - 1 福 岡 大
 法 大 6 - 3 立 大
 準 決 勝 日 大 6 - 3 法 大
 明 大 3 - 2 早 大
 3 位 戦 早 大 9 - 1 法 大
 決 勝 明 大 9 (3 - 2) (2 - 1) (4 - 0) 3 日 大

PG	明 大	日 大	大 島	GP
0 1	荒 城	前 島	1 0	
0 2	中 塚	青 山	0 0	
0 2	大小 島	瀬 川	1 1	F W
0 2	小 高	野 萱	0 0	
0 0	富 岡	近 藤	0 0	D F
0 2	中村保村	石 井	0 0	
0 0	木 村	菊 地	1 0	GK
0 0	中村忠	鶴 木	0 1	
1 0	葛 西	岡 村	0 0	
0 0	浅 井	木 菅	0 0	
0 0	古 島	小	0 0	
1 9	計		3 2	

福原 美和(早大OG)

インカレは学生としての解放感にひたれる楽しい場でした。他の試合では、緊張の連続で少し、またコーチと母がいつも付き添っていたのですが、インカレではスケート部の友達と一緒に、スピードやアイスホッケーを応援しについてキャアキャア騒いだことなどを憶えています。

自分の成績の方といえば、富士での第37回大会では優勝しましたが、富士山が青空に浮かび上がって見える屋外リンクでしたので、思い切った演技が出来ました。その結果の優勝でしたから、気分爽快でした。

蓼科での第39回大会では大川久美子さんに優勝を譲る結果となりましたが、私のフリーの得点が思ったほど伸びずりがっかりしたのを覚えています。この大会は早稲田としても総合優勝を目指していたのですが、スピードで得点出来ず負けてしまいました。その夜のコンパでは、男子部員が酔って荒れていたものです。

その当時は大学同士がライバル意識をもち、皆のくやしさも大きかったようです。

とにかく、インカレは学生時代のよい思い出です。選手の皆さんも悔いのないよう頑張ってください。



福原(早大)の華やかな演技

明大、総合で14連勝

Speed

男子 500①鈴木恵一(明大) 42秒2 ②肥田(専大) 43秒1 ③長久保(専大) 44秒4
 1500①出島民雄(立大) 2分23秒2 ②小薺(日大) 2分23秒7 ③長久保(専大) 塚本(日体大) 2分25秒4
 3000①河野義博(立大) 4分57秒7 ②荒井(明大) 5分5秒2 ③小薺(日大) 5分7秒7
 5000①安田善孝(中京大) 8分31秒1 ②河野(立大) 8分35秒6 ③荒井(明大) 8分43秒1
 2000リレー①日大(樋口、白沢、新井、武田) 2分57秒6 = 日本新、大会新②専大③立大
 得点①日大44②立大39③明大26
 女子 500①鷹野靖子(専大) 50秒8 ②有賀(東洋大) 51秒6 ③高村(日体大) 清水(専大) 52秒9
 3000①三野宮則子(東洋大) 5分56秒3 ②長田(東洋大) 5分57秒6 ③清水(専大) 6分4秒7

Figure

男子シングル①小塚嗣彦(早大) 席次数5、得点462.4 ②田村(早大) ③守永(明大)
 得点①早大65②明大53③日大51
 女子シングル①田島蓉子(大阪大) 7、381.1 ③田上(慶大) ③峰松(桃山学院大)
 得点①日大74②関学大56③立大53

Hockey

1 回戦	北 大 棄 権 名 大	近 大 2 - 1 東 大
	成 城 大 棄 権 大阪府大	甲 南 大 3 - 1 東 北 大
	明 学 大 棄 権 立 命 大	関 東 学 大 4 - 2 北 海 学 園
	横 浜 国 大 5 - 3 関 学 大	神 奈 川 大 棄 権 大 阪 工 大
2 回戦	日 大 棄 権 桃 山 学 大	明 学 大 10 - 7 学 習 院 大
	立 大 棄 権 京 大	大 阪 商 大 4 - 3 関 東 学 大
	東 洋 大 3 - 1 法 大	横 浜 市 大 8 - 1 神 奈 川 大
	明 大 9 - 0 愛 知 学 大	関 大 7 - 4 北 大
	福 岡 大 10 - 0 大 阪 市 大	横 浜 国 大 4 - 1 帯 広 畜 大
	中 京 大 7 - 2 上 智 大	甲 南 大 4 - 3 都 立 大
	早 大 23 - 0 愛 知 大	中 大 8 - 4 近 大
	慶 大 2 - 0 同 大	成 城 大 4 - 1 青 学 大
3 回戦	日 大 5 - 2 中 大	早 大 11 - 0 大 阪 商 大
	東 洋 大 11 - 0 成 城 大	明 大 11 - 2 明 学 大
	中 京 大 9 - 0 甲 南 大	関 大 2 - 0 福 岡 大
	立 大 8 - 1 横 浜 国 大	慶 大 5 - 2 横 浜 市 大

準々決勝 明 大 5 - 1 関 大
 早 大 4 - 1 慶 大
 日 大 14 - 3 中 京 大
 東 洋 大 4 - 0 立 大
 準決勝 明 大 12 - 0 東 洋 大
 早 大 4 - 0 日 大
 3位戦 日 大 5 - 4 東 洋 大
 決勝 明 大 4 $\begin{pmatrix} 3 & - & 0 \\ 0 & - & 1 \\ 1 & - & 1 \end{pmatrix}$ 2 早 大

PG	明 大	大 城 塚	早 大	大 守	GP
1 2	荒 中	大 塚	江 秋	大 葉	0 0
1 0	中 大	大 島	江 塚	葉 本	0 0
0 1	大 小	大 林	塚 丸	本 山	1 2
1 1	小 高	木 村	丸 升	山 井	0 0
0 0	高 中	忠 村	丸 高	井 橋	0 1
0 0	中 高	森 橋	升 高	橋 入	1 1
0 0	高 葛	谷 西	金 大	福 塚	0 0
0 0	葛 丸	山 山	大 福	島 島	0 0
1 0	丸 山	GK	計		
4 4					2 5

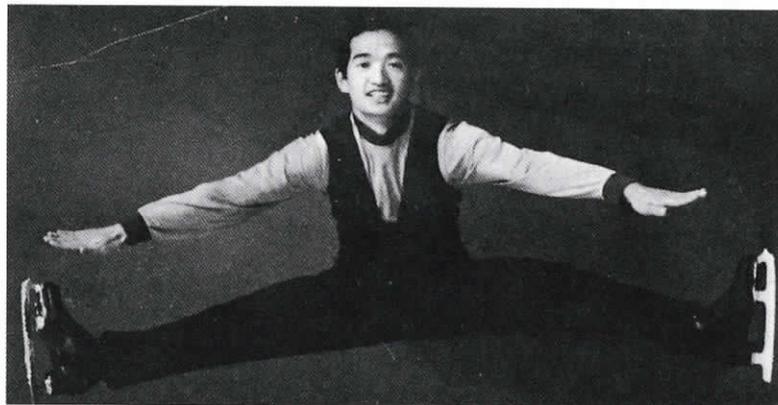


小塚 嗣彦 (早大OB)

早大フィギュア部は、私の他に田村君と高橋さん、女子では、福原さんがいた。男子は3名出場出来れば、優勝出来ると思っていたが、当時世界選手権の代表選手に選ばれていたもので、その練習と重なり日程的に大変苦しかった。しかし、学生の最終目標はインカレで勝つことだと思っていたので、なんとか出場すべく強化合宿先の箱根仙石原の山の中から東京へ下り、空路帯広へ飛んで、やっと試合に間に合わせ、規定の課題は試合当日知るといふあわただしさだった。はじめインターハイに出場したのも帯広だったし、帯広は、私にとって、なつかしい場所だ。以上は38回大会の思い出だが、39回大会にはくやしい思い出があり、よく覚えている。早大はフィギュアとホッケーに優勝し、スピードが上位へ入れば総合優勝のはずであった。ところが、男子1500mで、我々の全く知らなかった埼玉大の平という選手が優勝してしまい、九分九厘確実と思っていた20年ぶりの総合優勝のがした。この時は、部員全員で平選手をうらんだものだ。当時は、大学間で険悪な空気が流れる程、気合が入っていた。現役諸君も張り切って頑張してほしい。

現在、なんとかこの時の借りを返すべく、総合優勝をと思っているのだが……。

第38回に次ぎ41回大会にも優勝した小塚(早大)のジャンプ



日大、少差で初栄冠

Speed

男子 500①樋口維夫(日大) 43秒0 ②肥田(専大) 43秒2 ③武田(日大) 43秒4
 1500①平智次(埼玉大) 2分19秒8 ②前田(明大) 2分20秒0 ③樋口(日大) 2分20秒3
 5000①鮎沢正弘(立大) 8分21秒2 ②大塚(専大) 8分22秒0 ③平原(日大) 8分24秒9
 10000①鮎沢正弘(立大) 17分24秒7 ②松岡(明大) 17分24秒9 ③三田村(日大) 17分25秒0
 2000リレー①東洋大(小川、市川、関、佐々木) 2分57秒8 ②立大3分1秒2 ③日大3分2秒6
 得点①日大43②明大27③専大26.5
 女子 500①斎藤幸子(東洋大) 48秒2 = 大会新②児玉(東洋大) 51秒1 ③栃原(日体大) 52秒4
 1000①有賀秋子(東洋大) 1分40秒1 ②児玉(東洋大) 1分48秒8 ③栃原(日体大) 1分50秒2
 1500①斎藤真理(東洋大) 2分40秒2 ②三野宮(東洋大) 2分44秒6 ③福岡(日体大) 2分49秒9
 3000①長田良子(東洋大) 5分43秒4 ②斎藤真(東洋大) 5分47秒1 ③福岡(日体大) 6分6秒8
 2000リレー①東洋大(斎藤幸、児玉、有賀、斎藤真) 3分22秒5 ②日体大3分50秒8

Figure

男子シングル①田村正人(早大) 席次数7、得点468.7 ②小塚(早大) ③道家(明大)
 得点①早大71②日大62③明大61
 女子シングル①大川久美子(関大) 7、439.03 ②福原(早大) ③石田(同大)
 得点①玉川学園43②同大36③同女大31

Hockey

1 回戦	明大	大不戦勝	大阪商大	横浜市大	6 - 1	同大
	日大	16 - 2	関学大	東洋大	6 - 1	関大
	立大	4 - 0	北海学園	慶大	3 - 2	愛知学大
		19 - 1	京大	早大	11 - 0	近大
2 回戦	法大	5 - 3	明大	早大	9 - 3	立大
	慶大	3 - 2	日大	東洋大	12 - 5	横浜市大
準決勝	早大	9 - 4	慶大	法大	7 - 3	東洋大
3 位戦	東洋大	13 - 2	慶大			

決勝 早大 11 $\begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 5 & -1 \\ 6 & -0 \end{pmatrix}$ 2 法大

PAG	早大	大山	法大	大GAP
0 1 2	丸江	山守	長福	大縄
0 0 0	江守	丸江	福平	縄井
0 0 3	高橋	山橋	平野	野
0 0 1	鈴木	木田	山田	田
1 1 1	荒田	中入	小平	平
1 0 1	山金	中入	青名	畑
2 1 0	大金	入塚	河西	村
1 0 1	大秋	葉藤	河村	本
0 0 2	丘藤	島堂	楠本	田
0 0 0	福東		金田	
0 0 0			久野	
0 0 0				
5 3 11		計		2 2 3

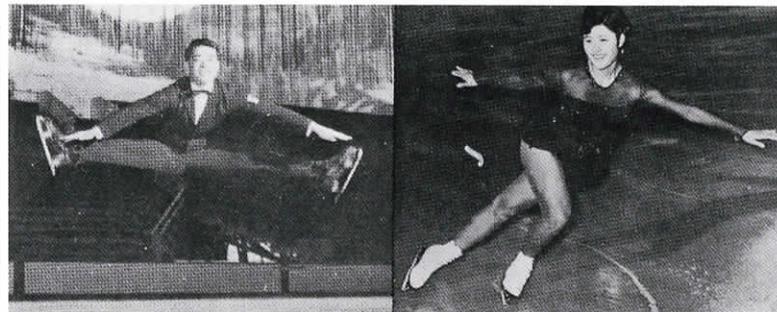
佐藤久美子(旧姓大川、関大OG)

第39回大会は私のスケート生活において思い出多い年でありました。単に試合に勝てたというだけでなく大変充実してすごせたと思っています。私の場合は、常に福原さんという技術的に接近した好ライバルの存在もあったでしょう。私はその年の前半を足のケガで棒にふる苦しみましたが、回復後の1ヵ月間猛練習を積み全日本とインカレに優勝することができました。世界選手権も間近のインカレでは十分な練習はできませんでしたが優勝できて幸運だったと思っています。

インカレという大会は、参加する選手たちは全日本と変わらないのですが、その雰囲気、他の大会ではあじわえないようなもので、クラブや他のスケート仲間と親しくつきあいができるという親しみやすい大会でした。他の大会では勝負にやっきになっている選手たちも、インカレではなごやかに話すことができました。そんな大会に参加できて、ほんとうによかったと思っています。

フィギュアスケートというスポーツは、幼い時からの訓練が大切なので、大学から始めた選手が技術的におとるということはやむを得ない事だと私は思っています。しかし、そういう人もまた練習を積む事によって、大学生として立派な選手になれると思いますので、努力をおこたらず練習に励んでいただきたいと思っています。また、小さい頃からやっている選手も、大学生選手のまじめな態度から学べる点も多いと思います。互いにより影響を及ぼしあって、上達してほしいと思います。

佐藤久美子(旧姓大川)と関大



ホッケー 明大、苦戦の栄冠

Speed

男子 500①出島民雄 (立大) 42秒7 ②進藤 (日大) 42秒9 ③首藤 (明大) 43秒4
 1500①合路孝夫 (東洋大) 2分14秒5 = 大会新②土橋 (明大) 2分18秒2 ③佐々木 (早大) 2分18秒4
 5000①三田村清 (日大) 8分18秒5 ②鮎沢 (立大) 8分20秒4 ③松岡 (明大) 8分21秒2
 10000①三田村清 (日大) 16分51秒1 = 大会新②松岡 (明大) 17分3秒3 ③鮎沢 (立大) 17分5秒5
 2000リレー①日大 (樋口、竹内、進藤、武田) 2分52秒6 ②明大 2分53秒1 ③専大 2分53秒7 ④東洋大 = 以上大会新
 得点①日大56②明大35③立大28
 女子 500①鈴木あや子 (東女体大) 50秒7 ②児玉 (東洋大) 51秒0 ③畠山 (中京短大) 51秒6
 1000①有賀秋子 (東洋大) 1分36秒3 = 大会新②児玉 (東洋大) 1分42秒0 ③進藤 (日体大) 1分43秒1
 1500①有賀秋子 (東洋大) 2分33秒9 = 大会新②斎藤 (東洋大) 2分45秒0 ③鈴木 (東女体大) 2分46秒6
 3000①長田良子 (東洋大) 5分35秒5 ③山岸 (中京短大) 5分47秒5 ③斎藤真 (東洋大) 5分50秒5
 2000リレー①東洋大 (有賀、斎藤真、児玉、斎藤春) 3分23秒6 ②日体大 3分27秒9 ③東女体大 3分45秒4
 得点①東洋大60②日体大40③東女体大23

Figure

男子シングル①田村正人 (早大) 席次数7、得点471.1②道家 (明大) ③長久保 (日大)
 得点①明大63②日大57③早大46
 女子シングル①宮川恵子 (相愛女大) 5、391.99②田上 (慶大) ③石川 (日大)
 得点①日大37②専大37③慶大35

Hockey

1 回 戦 明 大 37 - 0 大阪商大 大阪府大 8 - 2 横浜市大
 中 京 大 12 - 0 横浜国大 立 大 11 - 0 福 岡 大
 中 大 28 - 0 立 命 大 明 学 大 20 - 0 同 大

2 回 戦 明 大 8 - 3 早 大 慶 大 22 - 0 北海学園
 立 大 不 戦 勝 近 大 日 大 12 - 1 関 大
 北 大 9 - 4 大阪府大 東 洋 大 12 - 1 中 京 大
 中 大 10 - 4 愛知学大 法 大 14 - 2 明 学 大

準々決勝 明 大 6 - 1 立 大
 慶 大 11 - 0 北 大
 東 洋 大 12 - 3 中 法 大
 日 大 3 - 1 法 大

準 決 勝 明 大 12 - 3 慶 大
 東 洋 大 6 - 0 日 大

3 位 戦 日 大 10 - 3 慶 大

決 勝 明 大 5 $\begin{pmatrix} 1 & -2 \\ 2 & -1 \\ 2 & -1 \end{pmatrix}$ 4 東洋大

PG	明 大	東洋大	GP
0 1	松 川	杉 本	0 0
0 1	西 村	堀 田	0 2
0 1	丸 井	佐 藤	0 0
0 0	目 白	大 草	1 0
0 0	米 谷	中 塚	1 0
0 1	島 田	伊 藤	1 0
0 0	山 本	宮 沢	1 0
0 0	高 橋	箕 和	0 1
0 0	黒 田	黒 津	0 0
0 0	富 田	黒 野	0 0
0 0	松 井	川 瀬	0 0
0 5	計		4 3



佐藤 一彦 (東洋大OB)

当時の東洋大学は部創立7年目で1部に昇格を決め、部内は最高の状態であった。

合宿所内はチームの和を強調し打倒明大を目標に練習練習の毎日に明け暮れていた。

学生選手権を目標に、12月の強化合宿は青梅リンクで1ヵ月間と言うロングランで基本練習を中心に元旦も返上して大会にそなえていた。そしてインカレ直前に苫小牧入りする強行スケジュールだった。

試合の方は1回戦はなく2回戦、準々決勝、準決勝と勝ち進み、初めてのベスト2に勝ち残った。

試合前夜のミーティングはなごやかでチーム状態はベストに近かった。各々が部屋に戻り雑談していても明るく、3年生を中心としたチームとは思えなかった。決勝戦も最初のうちは東洋大のペースで出来たが、終生から明大の伝統の強さに負けしてしまった。

学生スポーツと言う事を忘れず、何事も自分から進んでやってほしい。今考えてみると、チームの和が、最高のチームにするのではないか。

奪つ39、た41回で3タイトルを
 齋藤幸 (東洋大)



前田(明大)1500に日本新

Speed

男子 500①進藤聖一(日大)42秒0②出島(立大)42秒8③佐々木(東洋大)43秒0
 1500①前田睦彦(明大)2分8秒2=日本新②米倉(日大)2分15秒0③合路(東洋大)土橋(明大)2分15秒5
 5000①前田睦彦(明大)7分48秒2②大塚(専大)7分56秒6③鮎沢(立大)7分59秒7④内藤(日大)8分2秒0=以上大会新
 10000①内藤修(日大)16分26秒6②大塚(専大)16分38秒6③三田村(日大)16分36秒5④伊藤(日大)16分44秒2⑤鮎沢(立大)16分49秒=以上大会新
 2000リレー①東洋大(市川、伴野、関、佐々木)2分48秒3②日大2分50秒9=以上日本新③専大
 得点①日大40②専大30.5③立大20
 女子 500①斎藤幸子(東洋大)48秒7②鷹野(専大)49秒2③畠山(中京短大)53秒8
 1000①鈴木アヤコ(東女体大)1分41秒3③鷹野(専大)1分42秒3③斎藤春(東洋大)1分42秒5
 1500①斎藤春江(東洋大)2分36秒0②北沢(東女体大)2分38秒9③山岸(中京短大)2分39秒6
 3000①斎藤幸子(東洋大)5分38秒3②浅川(日体大)5分51秒5③山川(中京短大)5分52秒7
 2000リレー①東女体大(畑、三宅、北川、鈴木)3分38秒6(独走)
 得点①東洋大29②東女体大25③中京短大18

Figure

男子シングル①小塚嗣彦(早大)席次数6、得点613.3②吉沢(明大)③田村(早大)
 得点①早大82②明大81③日大67
 女子シングル①福井真理子(横浜国大)6、453.8②小林(専大)③北野(青学大)
 得点①専大48②青学大45③同女大29

Hockey

1 回 戦 大 東 大 5 - 1 大阪商大 早 大 7 - 3 福岡大
 北海学園 6 - 5 関 大 成 城 大 11 - 0 近 大
 同 大 9 - 1 神奈川大 法 大 15 - 2 愛知学大

2 回 戦 明 大 5 - 2 早 大 法 大 13 - 0 明学大
 関学大 棄 権 慶 大 立 大 4 - 2 中京大
 日 大 5 - 0 大 東 大 北海学園 5 - 1 横浜国大
 成 城 大 7 - 6 東北学大 東 洋 大 13 - 0 同 大

準々決勝 法 大 36 - 0 関学大 日 大 26 - 3 北海学園
 明 大 15 - 2 成 城 大 立 大 4 - 3 東 洋 大

準決勝 明大 3 - 2 法大
 日大 7 - 1 立大

3位戦 法大 5 - 4 立大

決勝 明大 9 (6-1) (0-0) (3-1) 2日大

PAG	明大	日大	GAP
102	松川	徳岡	000
001	西丸	根城	100
010	丸根	鈴木	000
110	井城	山本	000
000	加賀	伊藤	010
013	島田	柳川	100
000	山本	田村邦	001
000	山泉	前中	000
000	今泉	石橋	002
002	久保田	飯田	000
001	黒田	三上	000
100	伊藤		
000	武藤		
000	柴田		
339	計		213



前田 睦彦(明大OB)

第41回インカレ(軽井沢)は私にとって、全てが忘れられない大会でした。当時、私は前年の外国遠征で外国選手のフォームを研究し、自分なりのフォームを作り出し、それに加え鈴木恵一先輩の教えにもより、シーズン当初から調子にのりこの大会では1500mの日本記録樹立に狙いを定め、激しい練習を消化、日本人初の2分10秒の壁を破ることに全力を傾けました。

初日の500mでは日本記録にはわずかに及ばなかったが、2位を大きく引き離して優勝。そして最終日の1500mでは2位に7秒の差をつけ、2分8秒2の日本新記録で優勝する事ができました。しかし総合優勝はスピード部門の4位がたたり日大にさらわれました。そのため日本記録樹立の喜びは半減し、悔し涙を流したものでした。

しかし、この大会が私のスケート生活において、大きな自信を生み出し、1973年に引退するまで数々の日本記録樹立と5度の海外遠征ができるような一人前の選手にさせてくれました。そして青春の思い出としていつまでも私の心に残ることと思います。

これからの学生諸君も、スケートをやめた時に後悔しないような努力と、若き良き時代の思い出となるような、素晴らしい活躍を期待しています。

日大 スピード 5連勝

Speed

男子 500①進藤聖一(日大) 43秒0 ②佐々木(東洋大) 43秒2 ③金子(東洋大) 43秒3
 1500①前田睦彦(明大) 2分14秒1 ②田中(法大) 2分18秒1 ③内藤(日大) 2分17秒3
 5000①小林茂樹(専大) 8分29秒6 ②伊藤(日大) 8分29秒9 ③三田村(日大) 8分32秒3
 10000①内藤修(日大) 16分39秒3 ②伊藤(日大) 16分48秒1 ③小林(専大) 16分49秒0
 2000リレー①日大(米倉、田中、小笠原、進藤) 2分53秒7 ②専大③明大
 得点①日大61.5 ②専大28 ③明大21.5
 女子 500①小野沢良子(東女体大) 49秒4 ②高橋(専大) 49秒5 ③土屋(中京短大) 51秒3
 1000①高橋京子(専大) 1分39秒7 ②鷹野(専大) 1分39秒8 ③小野沢(東女体大) 1分41秒4
 1500①鷹野妙子(専大) 2分38秒8 ②小池(中京短大) 2分46秒0 ③田中(中京短大) 2分47秒8
 3000①小池もと子(中京短大) 5分57秒5 ②北沢(東女体大) 6分0秒5 ③遠藤(専大) 6分10秒4
 2000リレー①専大(岩立、遠藤、高橋、鷹野) 8分21秒4 = 大会新 ②東女体大
 得点①東女体大57 ③専大53 ③中京短大32

Figure

男子シングル①道家敏充(明大) 席次数4、得点352.7 ②吉沢(明大) ③佐藤(法大)
 得点①明大80 ②専大59 ③日大53
 女子シングル①山下一美(関学大) 3、290.3 ②福井(横浜国大) ③藤本(武庫川女大)
 得点①関学大38 ②専大37 ③青学大36

Hockey

1 回 戦 東洋大 10 - 0 中 大 青学大 4 - 1 福岡大
 明学大 16 - 2 京 大 帯広畜産大 3 - 1 開 大
 同 大 5 - 2 北 大 慶 大 4 - 1 中京大
 大阪商大 不戦勝 近 大
 2 回 戦 慶 大 13 - 0 横浜国大 立 大 5 - 1 青学大
 関 大 4 - 0 帯広畜産大 日 大 13 - 1 神奈川大
 明 大 8 - 0 同 大 早 大 12 - 0 大阪商大
 法 大 3 - 0 東洋大 明学大 10 - 7 愛知学大
 準々決勝 明 大 10 - 2 早 大 法 大 31 - 2 明学大
 立 大 5 - 4 慶 大 日 大 21 - 4 関 大

準決勝 明大 19 - 0 立大
 法大 16 - 4 日大
 3位戦 日大 13 - 5 立大
 決勝 明大 8 $\begin{pmatrix} 3 & - & 2 \\ 3 & - & 3 \\ 2 & - & 0 \end{pmatrix}$ 5 法大

PAG	明大	根城	丸井	今泉	加賀	星野	小野	清野	泉山	黒田	久保田	伊藤	柴田	計	法大	佐藤	大田	GAP
000	011	000	020	013	000	000	003	100	001	000	000	000	148	110	100	110	100	110



大西 一美(旧姓山下、関学大OG)

当時の大会は、のんびりした学生同士の試合であったように思います。またリンク状態は、屋外であるため直射日光を受けたり、室内リンクでは考えられない条件があり、自然との戦いという感じでした。時には向かい風のためにスタートに戻れないようなこともありました。課題そのものは難しくはなかったので完璧を期すように努力しましたが、まわりからは優勝が当然と決めつけられていましたし、自分でも優勝しなければと思っていましたので、精神的にはかなり重荷で

した。優勝した時は、うれしいというより、ほっとしました。でもやはり新しいタイトルを手に入れて満足でした。

後輩の皆さんに何か言葉を、というご要望ですので一言。フィギュアは個人種目ではあっても、やはりスポーツなのですから、いつの時代でもスポーツマンシップを忘れずに。また最近の学生は上下のけじめとか尊敬というものに欠けているきらいがあると思います。スケートというスポーツを通じて学生の本分というものを理解し、人間関係を通して精神的に向上してほしいと考えます。

大正14年の諏訪湖風景。対戦するのは東大と松本高



フィギュア 吉沢兄妹で独占

Speed

- 男子 500①進藤聖一(日大) 41秒2 = 大会新②金子(東洋大) 41秒5③長岡(明大) 42秒2
 1500①田中信明(法大) 2分10秒2②辻(専大) 2分10秒3③河西(専大) 2分12秒0
 5000①伊藤清美(日大) 8分6秒7②内藤(日大) 8分6秒9③小林(専大) 8分12秒7
 10000①内藤修(日大) 15分39秒9②伊藤(日大) 15分47秒5③小林(専大) 15分54秒2④小笠原(専大) 16分19秒8⑤佐藤(明大) 16分23秒0 = 以上大会新
 2000リレー①日大(鳥貫、小笠原、佐々木、進藤) 2分50秒3②明大③法大
 得点①日大54.5②専大40.5③明大24.5
 女子 500①高橋京子(専大) 小野沢良子(東女体大) 47秒1 = 大会新③斎藤(専大) 48秒4
 1000①高橋京子(専大) 1分36秒0 = 大会新②斎藤(専大) 1分38秒1③小野沢(東女体大) 1分39秒9
 1500①鷹野妙子(専大) 2分31秒2②大出(専大) 2分32秒2 = 以上大会新③高村(中京短大) 2分34秒0
 3000①鷹野妙子(専大) 5分36秒3②大出(専大) 5分38秒2③佐藤(専大) 5分43秒4
 2000リレー①中京短大(土屋、丸山、小池、高村) 3分16秒6 = 大会新②東女体大③専大
 得点①専大76.5②中京短大40③東女体大39.5

Figure

- 男子シングル①吉沢昭(明大) 席次数5、得点578.8②佐藤(法大)③酒井(愛知学大)
 得点①明大80②日大73③専大68
 女子シングル①吉沢春水(明大) 5、475.8②原田(専大)③小林(専大)
 得点①専大51②富士短大45③青学大38

Hockey

1 回 戦	大 東 大 4 - 3 福 岡 大	大 阪 商 大 6 - 4 神 奈 川 大
	早 大 19 - 0 横 浜 国 大	北 大 不 戦 勝 関 学 大
	慶 大 7 - 0 愛 知 学 大	東 洋 大 8 - 0 明 学 大
	同 大 10 - 2 東 北 大	
2 回 戦	明 大 12 - 1 大 東 大	日 大 19 - 3 大 阪 商 大
	早 大 16 - 1 大 阪 府 大	北 大 6 - 1 関 学 大
	慶 大 9 - 3 青 学 大	東 洋 大 15 - 2 近 大
	立 大 7 - 4 同 大	法 大 15 - 1 中 京 大

準々決勝	明 大 7 - 3 早 大	大 7 - 4 立 大
	日 大 7 - 2 北 大	法 大 12 - 1 東 洋 大
準決勝	明 大 11 - 6 慶 大	法 大 18 - 3 日 大
3位戦	慶 大 7 - 6 日 大	
決勝	明 大 4 (0-0, 2-1, 2-2)	法 大 3

PG	明 大	法 大	GP
10	泉 山	丹 野	00
02	根 城	清 野	10
00	今 泉	松 田	00
00	小 野	山 内	21
00	加 賀	小 菊	00
02	星 野	佐 藤	00
00	伊 藤	瀬 戸	00
00	河 原 本	上 田	00
00	山 本 尾	伊 藤	00
00	柴 田	葛 森	00
		岩 本	00
14	計		31



内藤 修 (日大OB)

この度、日本学生氷上競技大会が第50回記念を迎えられた事に心からお喜び申し上げます。昭和43年から4年間、私も学生連盟の選手として頑張って参りました。ごく短い期間の中にも意義かつ生き甲斐のあった時ではなかったかと思えます。先頃まで現役選手だった私ですが、いざ立場が変わりますと、選手時代も一瞬に感じられます。

特に、学生時代の私のスケートは、試練の多い豊富な経験が出来ました。国外へもスケートの視野を向ける事が出来たのもその一つです。私自身一番の成長期だった時期に、この様な経験を積めた事が一層、私のスケートに幸いました。

最もスケートを研究し、自分を試せる時期が学生時代ではないかと思えます。長距離を主体としてきた私の場合、インターカレッジでは5千、1万に出場してきましたが、1万に於いて15分台に突入する事が私の大きな課題でした。45年の世界選手権壮行競技会(浅間国際スケートセンター)で初めて16分の壁を破り15分台を記録した時は、私自身にある1つの区切りを与えました。その年のインターカレッジに2度目の15分台を記録して、区切りから自信へと変わりました。その後は、15分台の中の1週のラップタイムの割合とスケータイングリズム等々で左右する記録を最も平均させ、ベストに近づける為にトレーニングと実践で私なりの試みもしたものです。その時私は、自信から生まれる力の大きさを身をもって体得しました。自信を持てるまでになる長い時間と努力とが個人差になり、また記録となって表われるものだと確信します。これは単にスケートに限らず全ての日常生活にも通じる事と思えます。学生選手時代の4年間はスケート生活の中で一片でしたが、一筋に没頭でき、またその後のスケートへの意欲へと駆り立てられました。

今年もまたインターカレッジを目指す皆さんの氷上の勇姿が見られます。私には見るだけとなってしまいましたが、二度とない現在に少しでも自分自身のスケートとなる様、明日への力の糧にして頂きたい心境です。

最後に、日本学生氷上競技連盟が今後増々発展されます事と、選手諸君の精進される事を心から望みます。

ホッケー 法大36年目の栄冠

Speed

男子 500①金子篤博(東洋大) 41秒4 ②湯本(大東大) 長岡(明大) 42秒3
 1500①田中信明(法大) 2分11秒3 ②篠原(明大) 2分12秒8 ③辻(専大) 2分12秒9
 5000①内藤修(日大) 7分46秒4 ②佐藤(明大) 7分47秒0 = 以上大会新③伊藤(日大) 7分49秒1
 10000①伊藤清美(日大) 15分56秒1 ②内藤(日大) 16分3秒2 ③石山(明大) 16分14秒8
 2000リレー①東洋大(井出、門倉、中川、金子) 2分46秒9 = 大会新②専大③日大
 得点①日大41②明大32.5③専大29
 女子 500①高橋京子(専大) 46秒2 = 大会新②斎藤(専大) 47秒6 ③高村(中京短大) 48秒1
 1000①斎藤恵理子(専大) 1分35秒4 ②高橋(専大) 1分35秒7 = 以上大会新③丸山(中京短大) 1分40秒2
 1500①高橋豊子(中京短大) 2分29秒6 = 大会新②大出(専大) 2分32秒8 ③鷹野妙(専大) 2分35秒2
 3000①鷹野啓子(専大) 5分29秒0 ②新津(東女体大) 5分33秒6 ③大出(専大) 5分42秒0
 2000リレー①専大(斎藤、大出、鷹野妙、高橋) 3分14秒0 = 日本新③中京短大 3分15秒8 = 大会新③東女体大
 順位①専大③東女体大③中京短大

Figure

男子シングル①佐藤友美(法大) 席次数5、得点588.6②酒井(愛知学大) ③渡辺(明大)
 得点①明大71②日大70③専大41
 女子シングル①湯沢恵子(法大) 6、489.7②吉沢(明大) ③藤本(武庫川女大)
 得点①富士短大42②青学大38③関学大33

Hockey

1 回 戦	早 大 23 - 0 神奈川大	福岡大 9 - 6 青学大
	北 大 5 - 2 関 大	大東大 4 - 2 立 大
	北海学園 17 - 1 愛知大	
2 回 戦	愛知学大 4 - 3 同 大	中京大 7 - 1 近 大
	東洋大 15 - 0 横浜市大	早 大 7 - 2 日 大
	慶 大 6 - 2 福岡大	北 大 9 - 2 国士館大
	法 大 9 - 2 大東大	明 大 13 - 1 北海学園
準々決勝	法 大 10 - 1 東洋大	早 大 5 - 0 北 大
	慶 大 10 - 4 愛知学大	明 大 17 - 0 中京大

準決勝 法大 11 - 3 慶大
 明大 5 - 3 早大
 3位戦 慶大 7 - 5 早大
 決勝 法大 8 $\left(\begin{matrix} 3 & - & 0 \\ 1 & - & 1 \\ 4 & - & 2 \end{matrix} \right)$ 3 明大

PAG	法大	明大	GAP
013	松野	二瓶	大瓶
000	清野	加賀	賀野
021	飯田	小野	野村
001	小山内	田村	村尾
011	菊地	平尾	尾川
021	佐藤	荒川	川村
000	吉田	志野	野村
000	鈴木	大金	金沢
000	上田	河原	河原木
010	広田		
000	伊藤	笠崎	崎
001	佐藤	伊藤	藤
000	葛原		
000	瀬戸	高島	島
000	堀井	野々垣	垣
000	岩本		
078	計		322



飯田 広文(法大OB)

第44回大会は、母校法政大学スケート部アイスホッケー部門の初優勝という記念すべき大会であった。

昭和10年部創立以来、36年目にして、OB、現役並びに父兄の念願であった全国制覇を達成することが出来、我々選手一同感無量であった事を忘れない。前年度に引き続き、5大学、8大学リーグで宿敵明治を倒しては来たものの、前回のインターカレッジにおいて苦杯を喫しており、しかも私個人としては学生最後の年に果たすことのできた初優勝なので、喜びもひとしおであった。そして、この年初の“三冠王”を飾ることができたのである。これは、私の生涯忘れることのできない歴史のひとつである。

試合終了後、リンクの中央で円陣を組み校歌を歌う仲間達の顔には、苦しい練習の末にやっと栄冠をかちえた新鮮な輝きがあった。

※ 札幌オリンピック開催の年(昭和47年2月)に当たった44回大会は、46年12月に繰り上げて行われた。

男子連勝45回大会フィギュア(佐藤)



日大フィギュア初連勝

Speed

男子 500①生田武士 (明大) 41秒3 ②東出 (日大) 41秒5 ③長岡 (明大) 41秒6
 1500①佐藤尚二 (明大) 2分9秒3 ②越智 (専大) 2分12秒9 ③佐々木 (日大) 2分13秒0
 5000①根岸次郎 (東洋大) 7分47秒5 ②佐藤 (明大) 7分48秒5 ③狩野 (日大) 7分52秒7
 10000①根岸次郎 (東洋大) 16分11秒0 ②石山 (明大) 16分12秒4 ③千葉 (日大) 16分15秒6
 得点①明大48②日大34.5③東洋大33.5
 女子 500①高橋京子 (専大) 46秒3 ②加藤 (日体大) 46秒9 ③石川 (中京短大) 48秒9
 1000①斎藤恵理子 (専大) 1分35秒4 ②加藤 (日体大) 1分36秒8 ③篠原 (日体大) 1分37秒4
 1500①斎藤恵理子 (専大) 2分30秒5 ②大出 (専大) 2分32秒9 ③鷹野 (専大) 2分34秒5
 3000①篠原たか子 (日体大) 5分19秒0 ②加藤 (日体大) 5分23秒5 =以上大会新③新津 (東女体大) 5分29秒2
 2000リレー①専大 (鷹野、大出、高橋、斎藤) 3分12秒6 =大会新②日体大③東女体大
 得点①専大66②日体大40③東女体大26

Figure

男子シングル①佐藤友美 (法大) 席次数5、得点588.7②酒井 (愛知学大) ③菊地 (明大)
 得点①日大64②明大43③関学大39
 女子シングル①深沢涼江 (日大) 6、480.9②湯沢 (法大) ③岡崎 (中京女大)
 得点①日大54②富士短大49③関学大31

Hockey

1 回 戦 同 大 7 - 5 成 城 大 立 大 13 - 1 横 濱 市 大
 東 洋 大 6 - 3 日 大 中 京 大 10 - 2 神 奈 川 大
 関 大 6 - 4 北 大 愛 知 学 大 7 - 2 国 土 館 大
 福 岡 大 8 - 1 甲 南 大
 2 回 戦 明 大 29 - 0 同 大 北 港 学 園 7 - 4 中 京 大
 早 大 12 - 0 関 大 慶 大 7 - 0 立 大
 東 洋 大 10 - 0 青 学 大 法 大 15 - 0 愛 知 学 大
 大 東 大 13 - 2 福 岡 大
 3 回 戦 明 大 7 - 4 東 洋 大 慶 大 5 - 1 北 海 学 園
 大 東 大 8 - 3 早 大 法 大 不 戦 勝

準決勝 明大 12 - 5 慶大
 法大 10 - 2 大東大
 3位戦 大東大 15 - 4 慶大
 決勝 法大 9 $\begin{pmatrix} 0 & -2 \\ 4 & -1 \\ 5 & -2 \end{pmatrix}$ 5 明大

PG	法大	明大	GP
12	上田	志村	00
00	川村	小野	10
01	鈴木	星野	32
01	瀬戸	荒川	00
12	斎藤	田村	10
01	葛藤	大野	00
00	福井	河原木	00
00	相吉		
00	石井		
11	佐原		
01	小山		
00	岩崎		
00	堀井		
00	藤井		
00	吉野		
00	佐藤		
00	木谷		
39	計		53

日光開催の経緯



星野仁十郎 (日光市長)

昭和47年、東京において当時のスケート連盟代表委員会が開催され、諸問題の討議が終了したあと、学生氷上連盟学生委員長から、第45回インカレの開催地引受け方について請願があったが、各代表委員からは色よい返事が得られず、ションボリとしており、本当に気の毒であった。私もこの件については、それまで44回も続いた大会であり、この大会の存続にも影響するので、どこも引受け地がない場合は引き受けてもよいと考えたが、開催については種々の問題があり、その場は何も申し上げずに帰路についていたのである。しかし帰路、東武鉄道にゆられながら、それまでの学生大会のこと、今後の大会のことなど考えていたが、どうしてもこの伝統ある大会を続けなければならないとの観点から日光市において大会開催地引受けを決意した次第である。ちなみに日光開催は18年ぶりである。このことは後日、学生委員長に連絡すると共に、種々大会開催の打合せをする為来訪するよう要請した。各県が引き受けを渋った要因としては、大会予算の問題及び学生の風評等もあったと思う。日光市としては引き受ける以上は、日光市の条件を提示し、それを守ってもらうことである。条件としては、学生としての自覚のもとに運営を行うこと、及び学生諸君の大会中の規律等について責任ある行動をすること、また、市としては大会開催経費については補助金として一定額を差しあげることにし、不足する経費については学連自体で調達するという事で話がまとまったのである。第45回後、毎年日光市において開催しているが、当初の約束を学生諸君が守って、市内の評判もよく、市の年中行事の一つとして現在定着している次第である。現在の学生大会が何の問題もなく開催できることの裏には、先輩諸君の多大なる苦勞があったからであり、このことを知っていただくことも必要であろうと思うので、あえてここに記した次第である。

明大、総合5連勝

Speed

男子 500①青田正己(日大)石上輝昭(日大)41秒5③越智(専大)老月(日体大)菅原(明大)41秒6
 1500①越智加津則(専大)2分9秒1②佐藤(明大)2分9秒9③石上(日大)2分10秒6
 5000①千葉真次(日大)7分49秒9②佐藤(明大)7分59秒4③大貫(専大)8分0秒4
 10000①千葉真次(日大)16分11秒4②大貫(専大)16分32秒7③佐藤政(法大)16分36秒8
 2000リレー①明大(牛田、野村、佐藤、菅原)2分48秒2②日大③日体大
 得点①日大51専大34③明大29
 女子 500①斎藤恵理子(専大)47秒3②加藤(日体大)48秒6③高見沢(大東大)49秒2
 1000①斎藤恵理子(専大)1分34秒7=大会新②篠原(日体大)1分39秒1③高見沢(大東大)1分39秒9
 1500①篠原たか子(日体大)2分30秒4②今村(日体大)2分30秒7③鷹野(専大)2分33秒8
 3000①今村恵美子(日体大)5分18秒6②鷹野(専大)5分26秒6③新津(東女体大)5分30秒3
 2000リレー①専大(大出、中村、鷹野、斎藤)3分19秒5②日体大③中京短大
 得点①日体大50②専大48③中京短大20

Figure

男子シングル①大西勝敏(法大)席次数5、得点95.45②酒井(愛知学大)③菊池(明大)
 得点①明大77②日大77③専大64(1、2位は上位入賞による)
 女子シングル①深沢涼江(日大)8、89.88②上田(明大)③岡崎(中京女大)
 得点①日大67②明大61③富士短大61(2、3位は上位入賞による)

Hockey

1 回 戦	福 岡 大 12 - 2	甲 南 大	北 大 15 - 1	神 奈 川 大
	専 大 4 - 0	明 学 大	同 大 12 - 7	大 阪 商 大
	中 大 15 - 1	横 浜 市 大	日 大 20 - 0	青 学 大
	関 大 8 - 1	東 大	中 京 大 5 - 1	愛 知 学 大
2 回 戦	法 大 21 - 0	同 大	早 大 9 - 1	中 京 大
	大 東 大 6 - 3	専 大	北 海 学 園 12 - 2	関 大
	東 洋 大 4 - 3	日 大	明 大 14 - 1	北 大
	中 大 12 - 1	立 大	慶 大 5 - 2	福 岡 大

準々決勝	法 大 15 - 3	東 洋 大
	早 大 6 - 2	慶 大
	大 東 大 14 - 3	中 大
	明 大 10 - 3	北 海 学 園
準 決 勝	法 大 8 - 1	早 大
	大 東 大 3 - 3	明 大
	(大東大はPSで2-1)	
3 位 戦	明 大 17 - 1	早 大
決 勝	法 大 12	1 大 東 大
	(4 - 0)	
	(0 - 1)	
	(8 - 0)	

PAG	法 大	大 東 大	GAP
1 2 0	瀬 戸 大	高 橋 0 0 0	
1 0 1	上 田 大	菊 田 0 0 1	
0 1 0	鈴 木 大	三 上 0 0 0	
1 1 3	中 島 大	長 谷 川 0 0 0	
1 2 4	川 村 大	嶺 岸 0 0 2	
0 2 1	葛 森 大	関 渡 寺 崎 0 0 1	
1 0 0	斎 藤 大	渡 邊 0 0 0	
0 1 0	後 藤 大	安 藤 崎 0 0 0	
0 0 2	唐 牛 大	赤 坂 1 0 0	
0 0 0	風 岩 大	村 橋 0 0 0	
1 0 0	藤 原 大	榎 本 0 0 1	
0 0 1	佐 藤 大		
0 2 0	藤 井 大		
0 0 0	佐 藤 大	古 川 0 0 0	
0 0 0	森 大		
0 0 0	小山内 大	柴 田 0 0 0	
0 0 0	木 谷 大	小 沢 0 0 0	
6 1 1 1 2	計	1 0 5	

45、46回大会優勝の深沢(日大)



第44回大会優勝の湯沢(法大)



フィギュア男子 佐野(日大)が楽勝

Speed

男子 500①野村幸司(明大) 40秒5 ②福田(日大) 40秒9 ③鈴木(明大) 41秒0
 1500①越智加津則(専大) 2分9秒6 ②柳沢(法大) 2分10秒5 ③菱田(東洋大) 2分11秒0
 5000①千葉真次(日大) 7分50秒8 ②佐藤(法大) 7分54秒8 ③大向(日大) 7分59秒3
 10000①千葉真次(日大) 16分15秒8 ②大貫(専大) 16分18秒5 ③東(明大) 16分44秒8
 2000リレー①明大(牛田、鈴木、野村、菅原) 2分44秒3 = 日本新②専大③日体大
 得点①明大47②法大30③日大29.5
 女子 500①加藤妙子(日体大) 46秒8 ②北本(日体大) 47秒7 ③高見沢(大東大) 48秒3
 1000①加藤妙子(日体大) 1分31秒9 = 大会新③御子見(中京短大) 1分38秒6 ③中村(中京短大) 1分40秒2
 1500①今村恵美子(日体大) 2分31秒1 ②鷹野(専大) 2分35秒4 ③野原(中京短大) 2分35秒5
 3000①松沢弥瑞子(日体大) 5分30秒4 ②今村(日体大) 5分31秒2 ③野原(中京短大) 5分33秒8
 得点①日体大60.5②中京短大45③大東大18.5

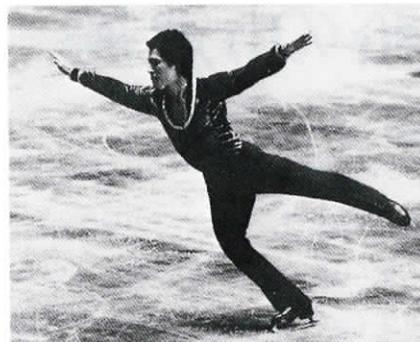
Figure

男子シングル①佐野稔(日大) 席次5、得点98.68②大西(法大) ③籠本(法大)
 得点①明大101②日大92③富士短大81
 女子シングル①武山修子(法大) 5、90.39②李賢珠(専大) ③岡崎(富士短大)
 得点①専大77②富士短大77③明大69

Hockey

1 回 戦	日 大 20 - 1 近 大	同 大 7 - 0 神奈川大
	専 大 11 - 0 愛知学大	中 京 大 8 - 2 甲 南 大
	帯広畜大 6 - 0 東北学大	青 学 大 3 - 2 立 大
	福 岡 大 8 - 0 成 城 大	東 海 大 5 - 3 東 大
2 回 戦	法 大 5 - 0 日 大	東 洋 大 18 - 0 青 学 大
	専 大 5 - 3 中 大	早 大 4 - 0 福 岡 大
	帯広畜大 6 - 4 大阪商大	慶 大 4 - 2 中 京 大
	大 東 大 15 - 0 東 海 大	明 大 14 - 0 同 大
準々決勝	法 大 8 - 2 専 大	明 大 14 - 0 慶 大
	大 東 大 9 - 5 東 洋 大	早 大 5 - 1 帯広畜大
準決勝	明 大 5 - 2 大 東 大	法 大 9 - 3 早 大

3 位 戦 大 東 大 6 - 5 早 大
 決 勝 法 大 4 (0 - 0) 1 明 大
 (2 - 0)
 (2 - 1)



1977年世界選手権で銅メダルを獲得した佐野(日大)のフリー



佐野 稔(日大在学)

昭和50年のインカレは、僕にとって最初で最後の大学生だけの試合でした。

今思うに、昭和50年という年は、いい思い出というものも少なく、あまりピンとこないような気がします。ですが、インカレに出場してよかったなと思うことが一つだけあるようです。それは、3部門が一緒になってスケートというものを競いあうということです。僕はフィギュアをやっていて、どうしても朝早く氷の上に乗らなければならない都合上、合宿

所に入ることはできませんでした。それでリンクの近くに下宿してやっていたわけでしたが、そうすると、学校でもあまり同じ部の人と顔を合わせることもないので、どうしてもクラブと遠ざかってしまいます。まあヒマな時に、合宿所に行って皆とつきあえばよかったのですが、僕にはそういった時間もあまりなかったのです。

そのような状態でインカレに行った僕は、最初かなりとまどいました。誰が先輩だか同輩だかわからず、とても苦労しました。しかし、それも最初のうちで、だんだん慣れてくるうちにおもしろくなってきました。フィギュアの世界にはないものが、あの場にはあったように思われます。大学のクラブというものはこういうものなのかなと、わかったような気もしました。試合にいて、そんなことを思っているのは、ちょっとおかしいかもしれませんが、僕にとっては、滑ったことより、そのような思い出の方が、はるかに多いようです。

さて、そんなアマチュア生活を終わり、今はプロのスケーターとしてやらせていただいております。

日本にはないアイスショーというものをつくらうと奮闘中です。一日も早くこしらせて幕を開けたいと思っております。

皆様、どうぞよろしく。

PAG	法 大	明 大	GAP
002	唐 牛	古 山	000
010	斎 藤	柿 沼	000
001	中 島	志 村	001
010	蔦 森	小 賀	001
000	鈴木浩	吉 江	100
001	石 井	星	000
000	後 藤	鹿 間	000
000	関 川	大 竹	000
200	河 淵	大 本	000
010	佐 原	笠 崎	000
100	村 尾	小 金	000
000	鈴木一	小 西	000
000	岩 崎	小 米	011
000	森	福 原	000
010	菅 井	後 藤	000
000	木 谷		000
344	計	113	

ホッケー 法大、余裕の5連勝

Speed

男子 500①福田薫 (日大) 40秒0 ②鈴木勝 (明大) 40秒2 = 以上大会新③野村 (明大) 40秒7
 1500①三樹清一 (日大) 2分8秒1 = 大会新②菱田 (東洋大) 2分10秒2 ③大向 (日体大) 2分10秒5
 5000①本橋努 (東洋大) 7分42秒1 ②三樹 (日大) 7分43秒7 ③東出 (法大) 7分45秒8 = 以上大会新
 10000①本橋努 (東洋大) 15分54秒3 ②東出 (法大) 15分59秒3 ③萩原 (大東大) 16分12秒9
 2000リレー①明大 (牛田、鈴木、野村、菅原) 2分43秒1 = 日本新②日大③東洋大
 得点①日大50.5②明大36③東洋大26
 女子 500①鈴木みゆき (専大) 加藤妙子 (日体大) 46秒2 ③北本 (日体大) 46秒8
 1000①加藤妙子 (日体大) 1分36秒8 ②北本 (日体大) 1分37秒1 ③鈴木 (専大) 1分37秒8
 1500①青木典子 (中京短大) 2分28秒6 = 大会新②野原 (中京短大) 2分32秒5 ③松沢 (日体大) 2分37秒7
 3000①松沢弥瑞子 (日体大) 5分11秒0 = 大会新②青木 (中京短大) 5分20秒3 ③野原 (中京短大) 5分22秒2
 2000リレー①日体大 (松沢、和田、北本、加藤) 3分12秒6 ②中京短大③大東大
 得点①日体大58.5②中京短大47③大東大28.5

Figure

男子シングル①大西勝敏 (法大) 席次数6、得点98.7②清川 (明大) ③木村 (京都産大)
 得点①明大101②法大98③富士短大70
 女子シングル①李賢珠 (専大) 5、97.7②武山 (法大) ③岡崎 (富士短大)
 得点①富士短大110②専大92③帝塚山学大82

Hockey

1 回 戦	立 大 3 - 1 中 京 大	関 大 8 - 6 東 海 大
	福 岡 大 4 - 1 明 学 大	中 大 12 - 0 大 阪 商 大
	東 北 学 大 5 - 0 札 幌 大	愛 知 学 大 10 - 1 神 奈 川 大
	日 大 12 - 0 近 大	同 大 13 - 3 横 浜 国 大
2 回 戦	専 大 4 - 3 中 大	早 大 11 - 0 立 大
	法 大 12 - 2 日 大	大 東 大 17 - 1 福 岡 大
	帯 広 畜 大 4 - 4 同 大	慶 大 5 - 2 東 北 学 大
	(帯 広 は PS で 3 - 2)	明 大 10 - 0 愛 知 学 大
	東 洋 大 22 - 1 関 大	

準々決勝	早 大 11 - 0 帯 広 畜 大
	大 東 大 18 - 2 慶 大
	法 大 8 - 4 専 大
	明 大 3 - 2 東 洋 大
準決勝	法 大 11 - 4 早 大
	明 大 8 - 5 大 東 大
3 位 戦	大 東 大 9 - 7 早 大
決 勝	法 大 10 $\left(\begin{matrix} 4 - 0 \\ 3 - 0 \\ 3 - 1 \end{matrix} \right)$ 1 明 大

PG	法 大	明 大	GP
0 1	葛 藤	古 日 山	0 2
0 1	斎 藤	吉 江	1 0
1 1	中 島	小 賀 坂	0 0
0 1	唐 牛	星	0 0
0 1	川 村	柿 沼	0 0
0 4	関 川	亀 本	0 0
1 0	伊 藤	高 村	0 0
0 1	東 井	福 原	0 1
0 0	藤 井	小 西	0 0
0 0	菅 井	菊 地	0 0
1 0	鈴 木	尾 形	0 0
1 0	村 尾	尾 沢	0 0
0 0	金 子	後 藤	0 0
4 10	計		1 3



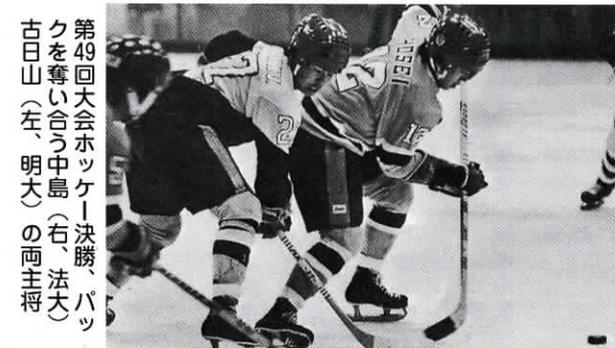
川村 克俊 (法大OB)

僕には、45回、48回大会を忘れることは出来ません。そしてこの大会前の二度の敗戦が、現在のインカレ6連勝につながっていると思います。

45回大会の戦力を振り返ってみると、星野さん中心の明治が強く、大会前のリーグ戦で敗れました。その後、打倒明治を目指し猛練習をして大会に臨み、決勝戦で明治を接戦の末破り、2年連続優勝することが出来ました。この時、僕達は練習に勝るものはないことを知ったのです。

48回大会の行われたシーズンは、戦力的にはどこのチームよりも勝っていたのですが、大会前のリーグ戦で敗れ、精神面の重要性を教えられました。同じ失敗を繰り返さないよう個々の力を出し、納得のゆく試合をしようということで、全員が一丸となって決勝戦の明治に当たり10対1というスコアで圧勝することが出来たのです。

卒業後もプレーを続けている僕には、忘れてはいけないことであり、二度と同じ失敗を繰り返すことのないよう努力しなければならないことです。



第49回大会ホッケー決勝、パルクを奪い合う中島(右、法大)古日山(左、明大)の両主将

法大、初の総合優勝

Speed

男子 500①福田薫 (日大) 40秒3 ②野村 (明大) 紺屋 (日体大) 41秒2
 1500①菱田泰志 (東洋大) 三樹清一 (日大) 2分9秒5 ③市村 (明大) 2分10秒7
 5000①東出俊一 (法大) 7分45秒8 ②田名部 (日大) 7分49秒4 ③三樹 (日大) 7分49秒8
 10000①東出俊一 (法大) 15分43秒7 ②榎 (日大) 16分2秒0 ③田名部 (日大) 16分5秒0
 2000リレー①明大 (市村、鈴木、斎藤、野村) 2分43秒5 ②東洋大 2分47秒1 ③日体大 2分48秒0
 得点①日大53.5②明大43③東洋大21.5
 女子 500①鈴木みゆき (専大) 46秒9 ②藤森 (日体大) 47秒5 ③高見沢 (大東大) 47秒7
 1000①鈴木みゆき (専大) 1分36秒5 ②小林 (日体大) 1分37秒2 ③高見沢 (大東大) 1分38秒0
 1500①松沢弥瑞子 (日体大) 2分29秒0 ②小林 (日体大) 2分33秒6 ③岩松 (大東大) 2分33秒9
 3000①松沢弥瑞子 (日体大) 5分11秒3 ②和田 (日体大) 5分23秒2 ③岩松 (大東大) 5分23秒7
 得点①日体大59②中京短大33③専大24

Figure

男子シングル①大西勝敬 (法大) 席次数8、得点96.9②清川 (明大) ③木村 (京都産大)
 得点①法大81②明大80③日大45
 女子シングル①李富蓉 (専大) 5、89.7②高木 (富士短大) ③浅香 (帝塚山学大)
 得点①富士短大76②専大73③帝塚山学大65

Hockey

1 回 戦 近 大 4 - 0 同 大 福岡大 15 - 2 横浜市大
 立 大 5 - 5 東北学大 関 大 7 - 4 中京大
 (立大はPSで2-0) 日 大 4 - 2 北 大
 中 大 11 - 2 大阪商大 東海大 6 - 5 都立大
 愛知学大 6 - 0 駒 大
 2 回 戦 法 大 18 - 1 福岡大 帯広畜大 2 - 2 日 大
 明 大 10 - 1 愛知学大 (帯広はPSで2-1)
 中 大 6 - 3 慶 大 大東大 6 - 0 立 大
 東洋大 16 - 4 近 大 専 大 11 - 0 東海大
 早 大 13 - 0 関 大

準々決勝	法大 23 - 2 中大	PAG 法大 013	唐牛	明大 GAP 小賀坂 010
	東大 11 - 1 帯広畜大	001	東	古日山 000
	東洋大 5 - 4 早大	121	田中	亀本 000
	明大 6 - 0 専大	013	関川	峰 000
準決勝	法大 7 - 1 東洋大	010	中島	小西 000
	明大 5 - 4 大東大	012	伊藤	柿沼 000
		000	岩花	星 000
3位戦	東洋大 5 - 3 大東大	000	倉田	福原 100
		000	後藤	大竹 000
		000	鈴木	小沢 000
決勝	法大 11 (3-0)	000	河津	菊池 100
	2 (2-1)	021	菅井	尾形 002
	6 (6-1)	100	沢田	成田 000
		010	小山内	後藤 000
		000	金子	
		2911	計	212



米倉 幸子 (旧姓斎藤、東洋大OG)

ここ2、3年インカレを見て物足りなさを感じて帰ってくるのは、迫力に欠けるせいかもしれない。簡単にいえば、記録が出ないということ。記録に挑戦すべき世界で、記録の出ないことほど、つまらないことはない。

そうした年が何年か続いて、今では新聞を開いても、よほど注意しなければインカレの結果を見逃してしまう。学生がもっと奮起して盛り上がりある大会にしなければならぬ。

思い出してみると私が1年生の時、日中大大会が行われたが、その招待にさざかった選手の社会人と学生の割合は半々だったし、その年の世界選手権代表は3人とも学生だった。

この時の世界選手権は私にとって初めての経験で、時差狂いと乾燥した寒さにすっかりまいり、ソ連のステニナが一步一步踏みおさえる様な特徴あるスケートイングで北鮮のキムを逆転し選手権を獲得したのを、遠い気持で見ていた。札幌オリンピックで1500mに優勝したダイアナ・ホルムも初出場で16才、その時も父親と一緒に来ていた。私のスケートイングは、X脚というハンデからかなり屈折したものであったが、その時のダイアナも決してほめたスケートイングではなく、私の500の記録が46秒台と知ると、ひどく(アメリカ的に)おどろいて見せた。

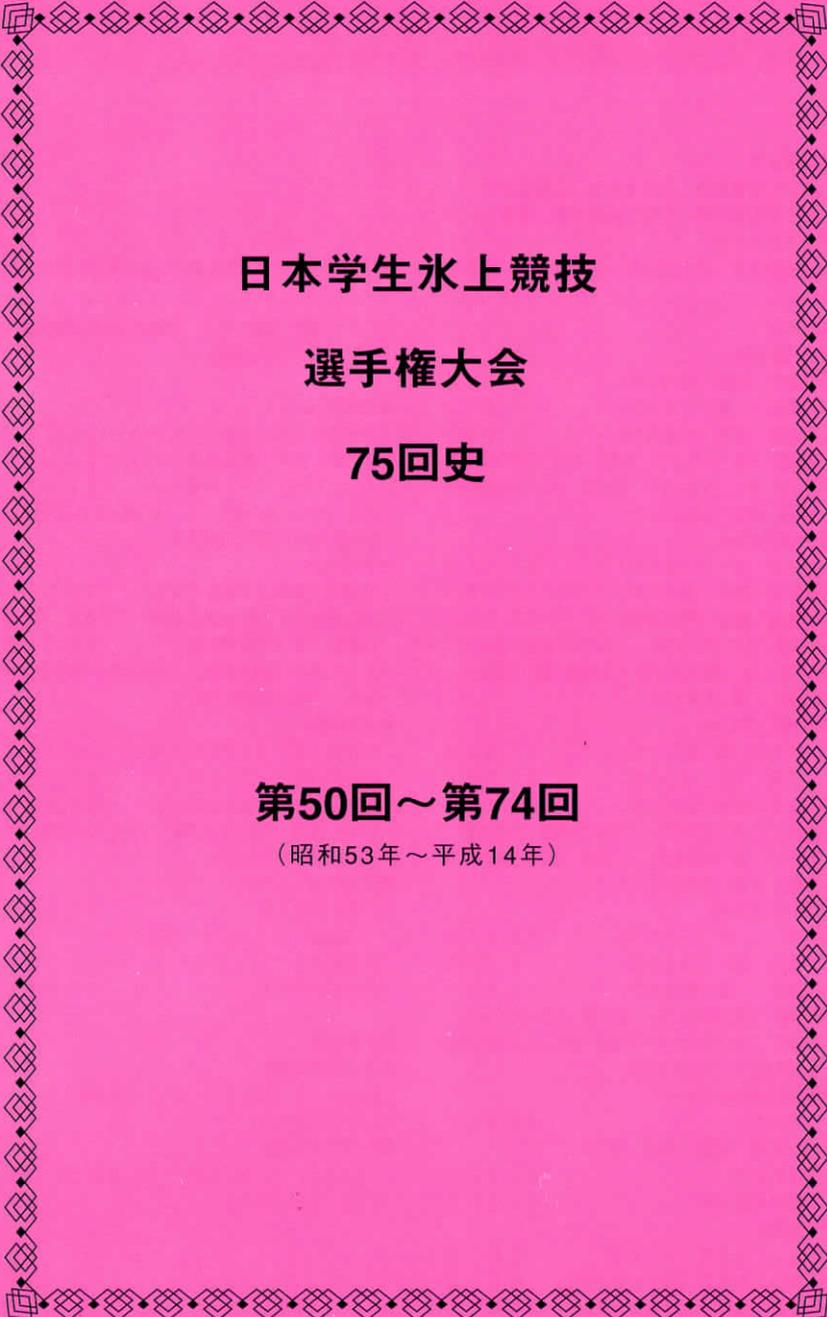
しかし翌年は私がダイアナ以上におどろく番だった。ソッ歯の矯正を終えて笑っても人並みの歯を見せる様になったダイアナは、世界選手権の前の大会で同僚のメアリーと共に45秒3などという好記録を出したのだ。(当時の世界記録はボロニナの44秒9)

彼女ら自身、思いもよらぬ結果に氷をたたいて喜んでいて、結局彼女らはそのまま突っ走り、選手権の500でも46秒と46秒1で1、2位を独占し、ダイアナは総合で3位に入った。私は46秒9で7位に入るのが精一杯だった。

その後、短距離王国アメリカらしくメアリーの後にはヘニング、ヤングなど次々と若手が現われ、ダイアナが国内でも500を独占するのは難しくなったためだろうか、グルノーブル以後、500一本ではなく札幌では1500の王者になってしまった。

私も国内記録はかなり更新したつもりだが、出しても出しても世界との差は1秒から1.5秒。その間隔を短縮することは出来なかった。

世界には、このダイアナのように、みるみるうちに成長してゆく選手が沢山いる。足踏み状態を続けてはならないのだ。



日本学生氷上競技

選手権大会

75回史

第50回～第74回

(昭和53年～平成14年)

第50回

昭和53年1月5日(日)～8日(水)
栃木県日光市

フィギュア

- 男子①専修大学 ②日本大学 ③明治大学
女子①専修大学 ②富士短期大学 ③明治大学

アイスホッケー

- ①法政大学 ②明治大学 ③東洋大学 ④専修大学 ⑤立教大学/大東文化大学/中央大学/早稲田大学

スピード

男子1部500m

- ①市村 和昭 (明治大学) 39.6
②福田 薫 (日本大学) 39.8
③佐藤 博義 (明治大学) 40.2
④斉藤 恒存 (明治大学) ⑤紺屋 裕司 (日本体育大学)
⑥菱田 泰志 (東洋大学) ⑦千葉 浩次 (早稲田大学)
⑦羽賀 勝雄 (大東文化大学)

男子1部1500m

- ①三樹 清一 (日本大学) 02.06.8
②菱田 泰志 (東洋大学) 02.07.9
③佐藤 博義 (明治大学) 02.08.2
④斉藤 恒存 (明治大学) ⑤市村 和昭 (明治大学)
⑥千葉 浩二 (早稲田大学) ⑦板橋 博三 (東洋大)
⑧福田 薫 (日本大学)

男子1部 5000m

- ①依田 清 (明治大学) 07.37.8
②篠原 弘 (明治大学) 07.39.4
③東出 俊一 (法政大学) 07.40.6
④榎 稔 (日本大学) ⑤田名部幸夫 (日本大学)
⑥東 徹 (明治大学) ⑦田近 次郎 (日本体育大学)
⑧清水 勝 (日本大学)

男子1部10000m

- ①榎 稔 (日本大学) 15.57.3
②東出 俊一 (法政大学) 16.01.9
③篠原 弘 (明治大学) 16.06.1
④加部 善基 (明治大学) ⑤本橋 努 (東洋大学)
⑥依田 清 (明治大学) ⑦渡辺 武久 (大東文化大学)
⑧田名部正人 (日本体育大学)

男子1部2000mリレー

- ①明治大学 02.38.7
(市村 斉藤 佐藤 鈴木)
②日本大学 02.43.3
③日本体育大学 02.45.7

女子500m

- ①島 かおる (中京大学) 04.6.9
②和田 あや子 (日本体育大学) 04.7.0
③藤森 香代子 (日本体育大学) 04.7.5

- ④市川 敬子 (専修大学) ⑤鈴木みゆき (専修大学)
⑥関 多栄子 (中京短期大学)

女子1000m

- ①有賀ますみ (大東文化大学) 01.36.8
②宮子 正子 (日本体育大学) 01.37.0
③小林 明子 (日本体育大学) 01.37.2
④島 かおる (中京短期大学) ⑤鈴木みゆき (専修大学)
⑥佐藤 博子 (中京短期大学)

女子1500m

- ①岩松 亮子 (大東文化大学) 02.30.3
②松沢弥瑞子 (日本体育大学) 02.30.6
③黒岩 専子 (専修大学) 02.31.2
④小林 明子 (日本体育大学) ⑤有賀ますみ (大東文化大学)
⑥畑 早苗 (中京短期大学)

女子3000m

- ①岩松 亮子 (大東文化大学) 05.12.5
②松沢弥瑞子 (日本体育大学) 05.12.8
③和田あや子 (日本体育大学) 05.19.1
④黒岩 恵子 (専修大学) ⑤畑 早苗 (中京短期大学)
⑥篠原 久子 (専修大学)

女子2000mリレー

- ①日本体育大学 03.09.2
(藤森 宮子 小林 和田)
②専修大学 03.11.6
③中京短期大学 03.23.5

フィギュア

男子シングル1部

- ①松村 充 (専修大学) ②木村 (京都産業大学)
③清川 (明治大学)

女子シングル1部

- ①高木智恵子 (富士短期大学) ②李 (専修大学)
③松尾 (帝塚山学園大学)

アイスホッケー

1回戦

札幌大学	5-3	中京大学
北海道大学	4-1	関東学院大学
立教大学	13-2	神奈川大学
専修大学	5-0	慶應義塾大学
愛知学院大学	7-1	関西大学
福岡大学	14-1	都立大学
同志社大学	7-3	国土舘大学
早稲田大学	11-0	駒沢大学
中央大学	10-4	大阪商科大学
青山学院大学	4-3	東北学院大学
日本大学	10-0	近畿大学
北海学院大学	3-3	東海大学

(PS 1-0)

2回戦

法政大学	13-1	札幌大学
立教大学	3-2	北海道大学
専修大学	10-3	愛知学院大学
中央大学	8-1	福岡大学
東洋大学	16-1	同志社大学
大東文化大学	7-1	青山学院大学
早稲田大学	9-1	日本大学
明治大学	17-0	北海学園大学

準々決勝戦

法政大学	19-1	立教大学
専修大学	5-1	大東文化大学
東洋大学	13-5	中央大学
明治大学	10-1	早稲田大学

準決勝戦

法政大学	11-0	専修大学
明治大学	5-2	東洋大学

3位決定戦

東洋大学	7-5	専修大学
------	-----	------

決勝戦

法政大学 13-1 明治大学

法政大学

- 鈴木 一広 DF
藤岡 昭宏 DF
菅井 裕二 DF
東 修司 FW
関川 道昭 FW
種沢 省二 DF
村岡 亨 FW
三沢 忍 FW
桑田 充 FW
河淵 聰 FW
沢田 透 FW
安田 将人 DF
佐藤 正義 DF
伊藤 信之 FW
日野 正樹 GK
森谷 直樹 DF
倉田 和明 FW
鈴木 博明 FW
今泉 芳幸 DF
後藤 明史 FW
河淵 勅 DF
岩花 雄一 FW
田中誠二郎 FW
村岡 知 FW
工藤 英樹 FW
高橋 司 DF
小川 裕二 FW
川村 宏 FW
蛭田 望 DF
村木 幸一 FW
野村 聡 FW
山本 富之 GK
田中 昭弘 DF
菅原 裕 DF
運上 一美 FW
倉田 幹也 FW
鈴木 精二 DF
尾形 優 FW
高久 嘉秀 FW

明治大学

- 柿沼 久雄 FW
大竹 友仁 GK
鹿間 昭仁 FW
小西 勇二 FW
中村 匠彦 FW
亀本 和克 FW
神能 弘忠 GK
佐藤 茂 FW
尾形 利男 DF
今村 一敏 DF
上面 英樹 DF
菊池 巖弘 DF
大島 政幸 DF
西田中喜徳 FW
荒牧 勉 DF
樋富 信也 FW
岩佐 洋雄 DF
峯 紳樹 DF
峯 宏樹 FW
猪狩 章博 FW
福田 敏行 FW
星野 利明 DF
神山 修 GK
亀永 博之 FW
金沢 政明 FW
成田 真琴 DF
柳原 尚司 FW
渡辺 雅弘 FW
大黒 秀賢 DF
宇野沢富規 DF
田名部喜司治 FW
宮崎 昌広 GK
三崎 龍 FW

風吹く中のコンパルソリー

村松 充 (専修大OB)

インターカレッジは、全日本選手権大会終了後、そして世界選手権大会の強化合宿前ということで、シーズンの中でも体調やコンディションを整えることが自分にとってもっとも難かしい時期にありました。ピークを世界選手権やオリンピックに合わせる為、年間の練習計画を作ります。当時の大会は、コンパルソリーの課題等が、世界選手権と異なって練習時間が、更に増えてしまいメニューを消化させるのに苦労したものです。試合では、アウトリンクで風の吹く中コンパルソリー競技をしたり、太陽の光がジャンプを跳ぶ方向と重なり平行間隔が無くなる等、普段と違ったアウトリンクで滑べる難かしさを経験しました。現在は施設や課題等も含め高記録が出るよう工夫され環境が整っていますが、どれを取り上げても時代の流れと技術の進歩を感じます。またインカレは、個人で戦いながらも大学単位で争う面白さと協調性や他の学生達とも交流があり、他のスポーツを知る上でも特別なイベントでもあります。今振り返れば、難しい試合でしたが沢山の感動や友人、先輩等貴重な体験をさせて頂き参加出来たことを心より感謝いたします。

“スーパースター達とチームワーク”

鈴木 一広 (法大OB)

私にとって、節目の大会になった50回記念大会は今となっては遠き良き思い出として残っております。

当時の法政アイスホッケー部は春・秋のリーグ戦及びインカレで破竹の連勝記録をつくっており、向かうところ敵無し状況でした。同級生では日本リーグでも活躍した菅井君、関川君、下級生では倉田兄弟等々がおり勝つ事が義務付けられている様な雰囲気を感じております。

しかし、そんな集団にあってもチーム内の競争は厳しく、約40名の部員が日々、各人が自分の利点を更に高め、又欠点を修正すべく努力しておりました。このような虎視眈眈としたレギュラー争いがあり、この50回大会に望みました。

当然のごとく全ての部員が出場する事はできず辛い思をした部員もおりましたが、“全員一丸”となり各試合に臨んだ事が無事に、優勝できたものと日々考えております。

現在もこれからも、一人一人を活かすチームワークを日々の教訓として生活したいと思う次第であります。

良き思い出をありがとう。

第51回

昭和54年1月7日(日)～11日(木)
栃木県日光市 日光スケートセンター

スピード

男子①明治大学 ②日本体育大学 ③法政大学
女子①日本体育大学 ②大東文化大学 ③専修大学

フィギュア

男子①専修大学 ②明治大学 ③法政大学
女子①日本大学 ②上智大学 ③専修大学

アイスホッケー

①法政大学 ②明治大学 ③東洋大学 ④専修大学 ⑤日本大学/大東文化大学/昭和大/早稲田大学

スピード

男子1部500m

①市村 和昭 (明治大学) 39.28
②ワシコフ ウラジミール (ソ連) 39.47
③斎藤 恒存 (明治大学) 39.48
④佐藤 博義 (明治大学) ⑤千葉 浩治 (早稲田大学)
⑥コシエリヤフ ウラジミール (ソ連)
⑦アンドリアノフ イワン(ソ連) ⑧西村 康弘 (法政大学)

男子1部1500m

①アンドリアノフ (ソ連) 02.01.19
②モジェロフ (ソ連) 02.03.26
③東出 俊一 (法政大学) 02.03.82
④斎藤 恒存 (明治大学) ⑤依田 清 (明治大学)
⑥斎藤 孝司 (東洋大学) ⑦仁科 恭典 (日本体育大学)
⑧千葉 浩次 (早稲田大学)

男子1部 5000m

①戸田 博司 (中京大学) 07.15.33
②アンドリアノフ イワン (ソ連) 07.17.37
③篠原 弘 (明治大学) 07.21.47
④田名部正人 (日本体育大学) ⑤チモフェフ (ソ連)
⑥モジェロフ (ソ連) ⑦東出 俊一 (法政大学)
⑧依田 清 (明治大学)

男子1部10000m

①田名部正人 (日本体育大学) 15.05.53
②チモフェフ (ソ連) 15.20.92
③篠原 弘 (明治大学) 15.24.24
④戸田 博司 (中京大学) ⑤柳 稔 (日本大学)
⑥ボルコフ (ソ連) ⑦本橋 努 (東洋大学)
⑧渡辺 竹久 (大東文化大学)

男子1部2000mリレー

①明治大学 02.38.94
(市村 斎藤 佐藤 依田)
②法政大学 02.42.51
③日本体育大学 02.43.58

女子500m

①チャソスキフ ナジェンダ (ソ連) 43.64
②加藤 美佳 (中京大学) 45.06
③ワシリーエフ ナジェンダ (ソ連) 45.07
④エゴローフ ナジェンダ (ソ連) ⑤加藤 美晴 (日本体育大学)
⑥山本美智子 (大東文化大学) ⑦森 千津子 (日本体育大学)
⑧鈴木みゆき (専修大学)

女子1000m

①ワシリーエフ (ソ連) 01.29.42
②チャソスキフ (ソ連) 01.30.64
③加藤 美佳 (中京大学) 01.31.77
④和田あや子 (日本体育大学) ⑤有賀ますみ (大東文化大学)
⑥宮子 正子 (日本体育大学) ⑦鈴木みゆき (専修大学)
⑧小林 紀子 (中京短期大学)

女子1500m

①エゴローフ (ソ連) 02.19.45
②ワシリーエフ (ソ連) 02.20.34
③チャソスキフ ナジェンダ (ソ連) 02.24.62
④鷹野 貴子 (日本体育大学) ⑤小林 明子 (日本体育大学)
⑥岩崎 亮子 (大東文化大学) ⑦桑原美奈子 (岡山理科大学)
⑧村崎ひとみ (中京短期大学)

女子3000m

①エゴローフ (ソ連) 05.04.15
②鷹野 貴子 (日本体育大学) 05.15.55
③小林 明子 (日本体育大学) 05.15.96
④桑原美奈子 (岡理大学) ⑤村崎ひとみ (中京短期大学)
⑥畑 早苗 (中京短期大学) ⑦黒岩 恵子 (専修大学)
⑧岩松 亮子 (大東文化大学)

女子2000mリレー

①日本体育大学 03.09.48
(森 宮子 和田 鷹野)
②専修大学 03.11.77
③大東文化大学 03.14.27

フィギュア

男子シングル1部

- ①中島 由貴 (法政大学) ②石沢 洋 (専修大学)
③近藤 市朗 (大阪経済大学)

女子シングル1部

- ①渡部 絵美 (上智大学) ②足土 英子 (法政大学)
③竹崎 睦 (日本大学)

アイスホッケー

1回戦

東海大学	3-3	近畿大学
国士館大学	7-6	八戸工業大学
北海道大学	4-0	拓殖大学
愛知学院大学	8-1	神奈川大学
日本大学	5-3	中央大学
大東文化大学	4-1	帯広畜産大学
立教大学	6-2	同志社大学
早稲田大学	10-0	関西大学
昭和大学	5-1	慶應義塾大学
青山学院大学	9-0	大阪大学
札幌大学	12-0	関西学院大学
福岡大学	6-2	駒沢大学

2回戦

法政大学	18-1	東海大学
東洋大学	12-0	国士館大学
日本大学	5-1	北海道大学
大東文化大学	16-0	愛知学院大学
昭和大学	6-1	立教大学
早稲田大学	6-5	青山学院大学
専修大学	10-0	札幌大学
明治大学	17-1	福岡大学

準々決勝戦

法政大学	12-1	日本大学
東洋大学	8-6	大東文化大学
専修大学	14-0	昭和大学
明治大学	10-4	早稲田大学

準決勝戦

法政大学	13-1	専修大学
明治大学	7-2	東洋大学

3位決定戦

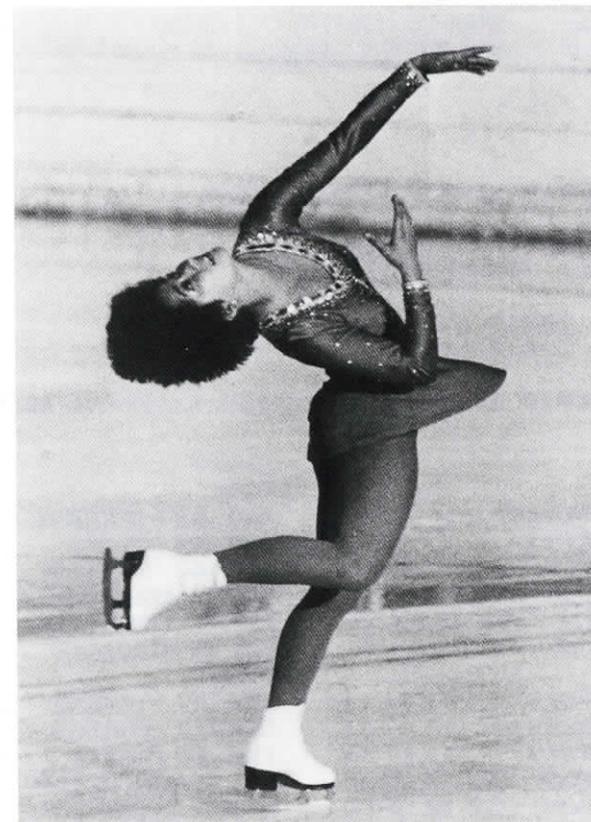
東洋大学	10-5	専修大学
------	------	------

決勝戦

法政大学	7-2	明治大学
------	-----	------



男子10,000mで15分5秒53の日本新を出した田名部正人 (日体大)



女子フィギュアフリー 余裕ある演技で優勝した渡部絵美 (上智大)

第52回

昭和55年1月8日(日)~11日(水)
栃木県日光市 日光スケートセンター

総合

①明治大学 ②法政大学 ③日本大学 ④専修大学 ⑤東洋大学

スピード

男子①明治大学 ②日本体育大学 ③日本大学

女子①日本体育大学 ②中京短期大学 ③大東文化大学

フィギュア

男子①法政大学 ②専修大学 ③日本大学

女子①日本大学 ②法政大学 ③同志社大学

アイスホッケー

①法政大学 ②東洋大学 ③明治大学 ④日本大学 ⑤早稲田大学/大東文化大学/専修大学/駒沢大学

スピード

男子1部500m

①千葉 浩次 (早稲田大学) 3 9.6 2
②佐藤 博義 (明治大学) 3 9.7 7
③西村 康弘 (法政大学) 3 9.8 1
④斎藤 恒存 (明治大学) ⑤深井 靖士 (早稲田大学)
⑥加部 雅美 (東洋大学) ⑦斎藤 孝司 (東洋大学)
⑧橋本 裕治 (日本大学)

男子1部1500m

①戸田 博司 (中京大学) 0 2.0 4.9 9
②田近 次郎 (日本体育大学) 0 2.0 7.8 3
③竹下 正範 (専修大学) 0 2.0 7.8 8
④千葉 浩次 (早稲田大学) ⑤依田 清 (明治大学)
⑥深井 靖士 (早稲田大学) ⑦佐藤 博義 (明治大学)
⑧榎屋 健一 (法政大学)

男子1部 5000m

①菅原 秀一 (日本大学) 0 7.3 1.4 4
②田名部正人 (日本体育大学) 0 7.3 2.5 4
③榎 稔 (日本大学) 0 7.3 7.6 1
④羽多野純司 (専修大学) ⑤黒岩 菊男 (明治大学)
⑥竹下 正範 (専修大学) ⑦宮崎 奉文 (明治大学)
⑧工藤 忠彦 (専修大学)

男子1部10000m

①田名部正人 (日本体育大学) 1 5.0 7.4 2
②戸田 博司 (中京大学) 1 5.1 5.9 1
③榎 稔 (日本大学) 1 5.2 4.2 4
④菅原 秀一 (日本大学) ⑤田近 次郎 (日本体育大学)
⑥羽多野純司 (専修大学) ⑦黒岩 菊男 (明治大学)
⑧前野 浩二 (中京大学)

男子1部2000mリレー

①明治大学 0 2.4 1.8 3
(斎藤 依田 佐藤 小金沢)
②専修大学 0 2.4 3.3 1

③法政大学

0 2.4 3.3 4

女子500m

①浅井 登喜江 (中京短期大学) 4 5.7 1
②加藤 美佳 (中京大学) 4 6.7 8
③十日市順子 (日本体育大学) 4 7.6 3
④山本美智江 (大東文化大学) ⑤宮子 正子 (日本体育大学)
⑥井出のぞみ (中京短期大学) ⑦市川 敬子 (専修大学)
⑧山本 晴美 (東京女子体育大学)

女子1000m

①鷹野 貴子 (日本体育大学) 0 1.3 3.9 4
②浅井登喜江 (中京短期大学) 0 1.3 4.4 4
③加藤 美佳 (中京大学) 0 1.3 5.3 9
④宮子 正子 (日本体育大学) ⑤内藤のり子 (大東文化大学)
⑥山本美智江 (大東文化大学) ⑦今野いずみ (中京短期大学)
⑧篠原 久子 (専修大学)

女子1500m

①松本 優子 (日本体育大学) 0 2.2 3.1 5
②鷹野 貴子 (日本体育大学) 0 2.2 3.7 4
③有賀ますみ (大東文化大学) 0 2.2 4.2 8
④長田みのり (中京短期大学) ⑤内藤のり子 (大東文化大学)
⑥中村 治美 (中京短期大学) ⑦桑原美奈子 (岡山理科大学)
⑧黒岩 恵子 (専修大学)

女子3000m

①松本 優子 (日本体育大学) 0 5.0 4.2 3
②長田みのり (中京短期大学) 0 5.0 7.5 4
③坂口 路代 (日本体育大学) 0 5.0 7.8 6
④中村 治美 (中京短期大学) ⑤桑原美奈子 (岡山理科大学)
⑥有賀ますみ (大東文化大学) ⑦鎌田美千代 (東京女子体育大学)
⑧井上 薫 (大東文化大学)

女子2000mリレー

①日本体育大学 0 3.0 4.0 4
(十日市 宮子 鷹野 松本)
②大東文化大学 0 3.0 9.1 5

③中京短期大学

0 3.1 0.1 9

決勝戦

法政大学

8—3

東洋大学

フィギュア

男子シングル1部

①無良 隆志 (日本大学) ②染矢 慎二 (法政大学)
③中島 由貴 (法政大学) ④石沢 洋 (専修大学)
⑤潮谷 真 (専修大学) ⑥小林 永夫 (専修大学)

女子シングル1部

①小林れい子 (同志社大学) ②吉田万里子 (法政大学)
③竹崎 睦 (日本大学) ④足土 英子 (法政大学)
⑤井口 えり (早稲田大学) ⑥榎 美栄 (同志社大学)

アイスホッケー

1回戦

慶應義塾大学	4—1	北海道大学
関西大学	3—2	神奈川大学
中央大学	8—0	愛知学院大学
青山学院大学	1 2—1	近畿大学
札幌大学	1 9—2	福岡大学
駒沢大学	6—5	同志社大学
関西学院大学	6—2	立教大学
東北学院大学	7—1	横浜国立大学

2回戦

法政大学	1 7—1	慶應義塾大学
東洋大学	1 3—1	関西大学
早稲田大学	2—2	中央大学
(PS 4—2)		
大東文化大学	8—1	青山学院大学
日本大学	1 4—3	札幌大学
駒沢大学	7—3	昭和大学
専修大学	1 5—0	関西学院大学
明治大学	2 1—0	東北学院大学

準々決勝戦

法政大学	1 2—0	早稲田大学
東洋大学	7—2	大東文化大学
日本大学	6—4	専修大学
明治大学	1 9—0	駒沢大学

準決勝戦

法政大学	1 2—0	日本大学
東洋大学	4—2	明治大学

3位決定戦

明治大学	6—5	日本大学
------	-----	------

法政大学

岩花 雄一 FW
田中誠二郎 FW
河洲 勲 DF
今泉 芳幸 DF
後藤 明史 FW
村岡 知 FW
工藤 英樹 FW
高橋 司 DF
小川 裕二 FW
村木 幸一 FW
川村 宏 FW
蛭田 望 DF
田中 昭弘 DF
山本 富之 GK
野村 聡 FW
菅原 裕 DF
倉田 幹也 FW
蓮上 一美 FW
尾形 優 FW
高久 嘉秀 FW
渡辺 利行 FW
金野 隆史 FW
八反田孝行 DF
鹿野 文吾 FW
菅原 聡 FW
青木 泰憲 GK
紙西 匡哉 DF
加藤 嘉孝 FW
藤田 竹利 DF

東洋大学

近惣 志伸 FW
松原 良尚 FW
北沢 弘之 DF
千葉 法文 FW
酒井 博 FW
遠藤 貞芳 GK
村田 佳明 GK
吉木 和裕 DF
寺坂 伸也 FW
鈴木 実 FW
森 敏一 FW
黒木 清 DF
吉江 広志 FW
広瀬 晃二 FW
相澤 誠 FW
村田 典也 DF
村井 一美 GK
鈴木 雅人 DF
六郷 宗平 DF
江幡 吉彦 FW
土岐 雅亜 FW
渡辺 祐次 FW
小山内茂仁 FW
熊沢 善信 FW
谷藤 敏雄 DF

インカレは貴重な経験の場

無良 隆志 (日大OB)

私の思い出は、2度の総合優勝が出来たことと、インカレを通じて、最後にユニバーシアードで優勝出来たことです。

フィギュアスケートは、個人の採点競技で、団体で争うことは、国体などで経験はありました。がしかし、アイスホッケー、スピードスケート、フィギュアスケートの3競技で、大学同志が力を合わせて競うインカレは、又、燃えるものがありました。当時、バランス良く強い大学は決っていましたので、インカレ総合優勝は、責任感とプレッシャーを学び、人生の中でも貴重な経験となりました。良い結果が残せるだけの練習は積み重ねてはいました。

いざ本番が寒さや風、天気によって左右されるアウトドアリンクでのFreeスケーティングは、思い描いた演技をさせてくれませんでした。経験不足と、まだ成熟していなかった精神力不足が、この原因であり、心残りでした。

その4年後に、私のスケート人生で最高のユニバーシアードに望み、幸いにも優勝することが出来ました。いまふりかえれば、インカレを始め多くの試合経験の後の優勝は、私にとって忘れられない思い出でした。

私はインストラクターを仕事としています。今後も学生スポーツをかげながら応援していきます。



男子フィギュア優勝の無良選手 (左端)

第53回

昭和56年1月6日(日)~9日(水)
栃木県日光市 日光スケートセンター

総合

①日本大学/法政大学 ③専修大学 ④明治大学 ⑤中京大学 ⑥日本体育大学/東洋大学

スピード

男子①専修大学 ②日本大学 ③日本体育大学

女子①日本体育大学 ②中京短期大学 ③大東文化大学

フィギュア

男子①日本大学 ②法政大学 ③専修大学

女子①法政大学 ②同志社大学 ③専修大学

アイスホッケー

①法政大学 ②明治大学 ③東洋大学 ④日本大学 ⑤北海学園大学/早稲田大学/専修大学/大東文化大学

スピード

男子1部500m

①黒岩 彰 (専修大学) 39.15
②松本 修 (専修大学) 40.11
③西村 康弘 (法政大学) 40.18
④中村 裕信 (法政大学) ⑤沼田 和彦 (専修大学)
⑥戸田 博司 (中京大学) ⑦新井 貢 (日本大学)
⑧遠藤 正和 (日本体育大学)

男子1部1500m

①黒岩 彰 (専修大学) 02.00.85
②深井 靖士 (早稲田大学) 02.03.31
③戸田 博司 (中京大学) 02.03.68
④菅原 和彦 (日本大学) ⑤小野寺正昭 (日本大学)
⑥田近 次郎 (日本体育大学) ⑦中村 裕信 (法政大学)
⑧本間 康彦 (早稲田大学)

男子1部 5000m

①田名部正人 (日本体育大学) 07.23.49
②羽多野純司 (専修大学) 07.23.82
③南 泰典 (日本大学) 07.30.64
④竹下 正範 (専修大学) ⑤菅原 秀一 (日本大学)
⑥宮崎 泰文 (明治大学) ⑦菅原 和彦 (日本大学)
⑧井出 敏彦 (日本体育大学)

男子1部10000m

①菅原 秀一 (日本大学) 15.13.38
②田名部正人 (日本体育大学) 15.14.65
③羽多野純司 (専修大学) 15.23.05
④竹下 正範 (専修大学) ⑤橋本 祐嗣 (日本大学)
⑥南 泰典 (日本大学) ⑦宮崎 泰文 (明治大学)
⑧井出 敏彦 (日本体育大学)

男子1部2000mリレー

①専修大学 02.38.51
(松本 竹下 四十物 黒岩)
②日本体育大学 02.41.95

スピード

女子500m

①石井 知恵 (専修大学) 44.46
②渡辺 優子 (中京短期大学) 45.21
③十日市順子 (日本体育大学) 45.38
④加藤 美佳 (中京大学) ⑤天野久美子 (日本体育大学)
⑥浅井登喜江 (中京短期大学) ⑦山本美智江 (大東文化大学)
⑧宮沢 二葉 (大東文化大学)

女子1000m

①石井 知恵 (専修大学) 01.29.18
②渡辺 優子 (中京短期大学) 01.30.52
③松本 優子 (日本体育大学) 01.31.31
④天野久美子 (日本体育大学) ⑤浅井登喜江 (中京短期大学)
⑥内藤のり子 (大東文化大学) ⑦加藤 美佳 (中京大学)
⑧山本美智江 (大東文化大学)

女子1500m

①鷹野 貴子 (日本体育大学) 02.24.25
②松本 優子 (日本体育大学) 02.24.30
③猪熊 裕子 (中京短期大学) 02.24.80
④田村 洋子 (大東文化大学) ⑤長田みのり (中京短期大学)
⑥中島 芳子 (中京大学) ⑦内藤のり子 (大東文化大学)
⑧羽田 太美 (東京女子体育大学)

女子3000m

①田村 洋子 (大東文化大学) 04.57.44
②伊東 千晶 (日本体育大学) 04.59.51
③鷹野 貴子 (日本体育大学) 05.03.84
④猪熊 裕子 (中京短期大学) ⑤湯山 喜江 (東京女子体育大学)
⑥羽田 太美 (東京女子体育大学) ⑦長田みのり (中京短期大学)
⑧中島 芳子 (中京大学)

女子2000mリレー

①日本体育大学 03.01.33
(天野 十日市 鷹野 松本)
②中京短期大学 03.04.18

フィギュア

男子シングル1部

- ①無良 隆志 (日本大学) ②染矢 慎二 (法政大)
 ③小林 永夫 (専修大学) ④田仲 憲治 (日本大学)
 ⑤小塚 猛仁 (中京大学) ⑥鈴木 弘幸 (明治大学)

女子シングル1部

- ①吉田万里子 (法政大学) ②竹崎 睦 (日本大学)
 ③足土 英子 (法政大学) ④榎 美栄 (同志社大学)
 ⑤井口 えり (早稲田大学) ⑥野口喜久子 (富士短期大学)

アイスホッケー

1回戦

中央大学	8-1	愛知学院大学
立教大学	3-1	近畿大学
横浜国立大学	5-3	関西学院大学
青山学院大学	7-0	関西大学
福岡大学	7-1	上智大学
神奈川大学	7-2	東北学院大学
札幌大学	6-3	同志社大学
慶應義塾大学	6-4	名古屋大学

2回戦

法政大学	8-1	中央大学
明治大学	15-0	立教大学
北海学園大学	13-2	横浜国立大学
早稲田大学	8-2	青山学院大学
専修大学	13-1	福岡大学
大東文化大学	15-1	神奈川大学
日本大学	15-2	札幌大学
東洋大学	8-2	慶應義塾大学

準々決勝戦

法政大学	42-0	北海学園大学
明治大学	7-2	早稲田大学
日本大学	3-2	専修大学
東洋大学	5-4	大東文化大学

準決勝戦

法政大学	16-1	日本大学
明治大学	12-5	東洋大学

3位決定戦

東洋大学	11-7	日本大学
------	------	------

法政大学

尾形 優	FW
田中 昭弘	DF
山本 富之	GK
野村 聡	FW
菅原 裕	DF
倉田 幹也	FW
暹上 一美	FW
高久 嘉秀	FW
渡辺 利行	FW
金野 隆史	FW
八反田孝行	DF
鹿野 文吾	FW
菅原 聡	FW
青木 泰憲	GK
加藤 嘉孝	FW
藤田 竹利	DF
金 滋人	FW
川上 雅樹	DF
湊谷 匡晃	FW
河原 英博	DF
塚本 正人	DF
守屋 英樹	FW
二本木康弘	GK
神山 博	GK
横川 将也	FW
鈴木 直広	FW

明治大学

DF 大黒 秀賢
FW 三崎 龍
FW 渡辺 雅弘
FW 柳原 尚司
DF 宇野沢富規
FW 田名部喜司治
GK 宮崎 昌広
FW 大越 忠
DF 井上 一也
FW 長江 肇
FW 小賀坂 康
FW 山形 真二
GK 加藤 茂
DF 志水 博行
DF 荒尾 剛志
DF 田辺 正人
FW 倉田 一郎
DF 梶川 文彦
DF 畑井 尚也
FW 高橋 保博
FW 中村 匠樹
FW 渡辺 正雄
FW 大藤 浩司
FW 畠館 庸泰
GK 仁和 裕昭

学生時代の思い出

竹下 正範 (専修大OB)

私は、専修大学に入学(昭和54年度)するとき、前嶋孝監督から「大学4年間で日本学生氷上競技選手権大会(以下「学生選手権」という。)で優勝する」という目標で入学を決めました。

入学後数か月はスケートの練習ではなく身体づくりを行っていました。その後、組織作りの研究者による「勝つためにはどうするか」について、昼夜を問わず部員全員で議論し、無言になるときや、口角泡を飛ばすとき、あるいは話を中止せざる得ないときがありました。結果として「勝つために練習をする、学生選手権優勝を目指す」であり、その為には生活環境や上下関係を見直し、厳しい練習時間以外は自由な時間とすることでした。これは、自ら規律をつくることでもありました。

この結果に基づき、部活動を再開していくなかで、今までの部の慣習を継承する上級生と、勝つために練習をする下級生との間に溝ができスケート部は二つに分かれてしまいました。下級生の私達は、分裂によって何としても勝ちたいという思いがより強くなり、共に厳しい練習を行い、その甲斐あって第53回学生選手権男子スピード部門4位、翌年には新たな部員が入学し、第54回大会では男子スピード部門で優勝することができました。入学当初の目標は2年目で達成することができ、陰で支えて下さった関係者に感謝いたします。

卒業後20年が経ち、目標が問われることがあります。その都度大学4年間で学ばせてもらった貴重な体験を思い出すことがあります。



全日本学生選手権 初優勝 56.1.9

第54回

昭和56年12月22日(日)～25日(水)
栃木県日光市 日光スケートセンター

スピード

男子①専修大学 ②日本大学 ③明治大学
女子①日本体育大学 ②中京短期大学 ③大東文化大学

フィギュア

男子①日本大学 ②法政大学 ③明治大学
女子①同志社大学 ②日本大学 ③専修大学

アイスホッケー

①法政大学 ②明治大学 ③東洋大学 ④日本大学 ⑤大東文化大学/早稲田大学/札幌大学/専修大学

スピード

男子1部500m

①黒岩 彰 (専修大学) 3 7.8 6
②北沢 欣浩 (法政大学) 3 8.7 2
③戸田 金作 (専修大学) 3 8.8 0
④深井 靖士 (早稲田大学) ⑤新井 貢 (日本大学)
⑥丸山 一夫 (専修大学) ⑦小金沢秀男 (明治大学)
⑧中村 裕信 (法政大学)

男子1部1500m

①黒岩 彰 (専修大学) 0 2.0 1.5 9
②浜谷 公宏 (専修大学) 0 2.0 4.3 0
③鹿島 彰 (明治大学) 0 2.0 5.8 3
④村崎 利雄 (日本体育大学) ⑤深井 靖士 (早稲田大学)
⑥北沢 欣浩 (法政大学) ⑦丸山 一夫 (専修大学)
⑧井出 敏彦 (日本体育大学)

男子1部 5000m

①今村 俊明 (日本大学) 0 7.2 7.8 9
②宮崎 奉文 (明治大学) 0 7.2 9.5 5
③羽多野純司 (専修大学) 0 7.3 7.1 4
④菅原 秀一 (日本大学) ⑤藤村 秀憲 (明治大学)
⑥竹下 正範 (専修大学) ⑦黒岩 崇治 (専修大学)
⑧橋本 祐嗣 (日本大学)

男子1部10000m

①今村 俊明 (日本大学) 1 5.2 0.0 9
②羽多野純司 (専修大学) 1 5.3 5.3 0
③井出 敏彦 (日本体育大学) 1 5.3 5.4 8
④菅原 秀一 (日本大学) ⑤竹下 正範 (専修大学)
⑥宮崎 奉文 (明治大学) ⑦藤村 秀憲 (明治大学)
⑧後藤 誠 (明治大学)

男子1部2000mリレー

①専修大学 0 2.3 6.7 9
(松本 戸田 四十物 黒岩)
②明治大学 0 2.3 9.9 7
③日本大学 0 2.4 0.3 8

女子500m

①石井 和恵 (専修大学) 4 3.4 6
②渡辺 優子 (中京短期大学) 4 4.3 7
③粥川千恵子 (中京短期大学) 4 5.4 6
④天野久美子 (日本体育大学) ⑤加藤 美佳 (中京大学)
⑥井出 敬子 (日本体育大学) ⑦飯島 圭子 (東京女子体育大学)
⑧山本美智江 (大東文化大学)

女子1000m

①渡辺 優子 (中京短期大学) 0 1.3 1.0 3
②天野久美子 (日本体育大学) 0 1.3 1.8 0
③加藤 美佳 (中京大学) 0 1.3 2.6 6
④粥川千恵子 (中京短期大学) ⑤十日市順子 (日本体育大学)
⑥高見沢裕子 (大東文化大学) ⑦山本美智江 (大東文化大学)
⑧福田久美子 (東京女子体育大学)

女子1500m

①田村 洋子 (大東文化大学) 0 2.1 9.9 2
②土屋 一子 (専修大学) 0 2.2 0.0 2
③松本 優子 (日本体育大学) 0 2.2 0.9 2
④伊東 千晶 (日本体育大学) ⑤長崎みゆき (中京短期大学)
⑥猪熊 裕子 (中京短期大学) ⑦猿谷千恵美 (東京女子体育大学)
⑧羽田 太美 (東京女子体育大学)

女子3000m

①田村 洋子 (大東文化大学) 0 4.5 4.0 4
②松本 優子 (日本体育大学) 0 4.5 6.5 6
③土屋 一子 (専修大学) 0 5.0 1.2 5
④伊東 千晶 (日本体育大学) ⑤猪熊 裕子 (中京短期大学)
⑥猿谷千恵美 (東京女子体育大学) ⑦工藤 恵子 (中京短期大学)
⑧羽田 太美 (東京女子体育大学)

女子2000mリレー

①大東文化大学 0 3.1 0.6 7
(山本 高見沢 谷津 田村)
②東京女子体育大学 0 3.1 3.7 1

フィギュア

男子シングル1部

①五十嵐文男 (慶應大学) ②無良 隆志 (日本大学)
③染矢 慎二 (法政大学) ④小林 永夫 (専修大学)
⑤田仲 憲治 (日本大学) ⑥伊東 秀仁 (明治大学)

女子シングル1部

①吉田万理子 (法政大学) ②小林れい子 (同志社大学)
③坂野 浩子 (専修大学) ④青谷めぐみ (東洋大学)
⑤竹崎 睦 (日本大学) ⑥榎 美栄 (同志社大学)

アイスホッケー

1回戦

北海道大学 6-2 同志社大学
愛知大学 8-4 青山学院大学
福岡大学 5-1 明治学院大学
慶應義塾大学 1 7-2 名古屋大学
札幌大学 4-2 横浜国立大学
神奈川大学 4-3 関西学院大学
関西大学 4-4 東京大学
中央大学 1 0-1 近畿大学

2回戦

法政大学 2 1-0 北海道大学
東洋大学 1 5-1 愛知大学
大東文化大学 7-0 福岡大学
早稲田大学 5-2 慶應義塾大学
札幌大学 6-2 東北学院大学
専修大学 1 3-1 神奈川大学
日本大学 1 4-0 関西大学
明治大学 7-2 中央大学

準々決勝戦

法政大学 1 3-2 大東文化大学
東洋大学 7-1 早稲田大学
日本大学 1 8-3 札幌大学
明治大学 9-4 専修大学

準決勝戦

法政大学 8-5 日本大学
明治大学 8-4 東洋大学

3位決定戦

東洋大学 1 0-5 日本大学

決勝戦

法政大学 3 $\begin{pmatrix} 0-0 \\ 1-1 \\ 2-0 \end{pmatrix}$ 1 明治大学

法政大学

金野 隆史 FW
鹿野 文吾 FW
菅原 聡 FW
渡辺 利行 FW
八反田孝行 DF
加藤 嘉孝 FW
青木 泰憲 GK
藤田 竹利 DF
金 滋人 FW
川上 雅樹 DF
湊谷 匡晃 FW
河原 英博 DF
守屋 英樹 FW
塚本 正人 DF
二本木康弘 GK
神山 博 GK
横川 将也 FW
岩花三八雄 DF
田中 健二 FW
鈴木 司 FW
鈴木 堅一 DF
瀬下 忠男 FW
石井 澄 FW
中浜 年秋 DF
阿部 康伯 FW
田口 昭吉 DF
吉本 潤司 FD
原 洋一郎 DF

明治大学

長江 肇 FW
大越 忠 FW
井上 一也 DF
山形 真二 FW
加藤 茂 GK
小賀坂 康 FW
荒尾 剛志 DF
志水 博行 DF
田辺 正人 DF
梶川 文彦 DF
畑井 尚也 DF
高橋 保博 FW
中村 匠樹 FW
渡辺 正雄 FW
大藤 浩司 FW
中西 重人 DF
更谷 泰宣 FW
磯部 城司 FW
高橋 健次 FW
北田 良宣 FW
田名部勝敏 DF
兼村 仁 FW
竜滝 良之 GK
西脇 正治 FW
奥澤 公明 GK
三浦 康次 DF
畠舘 康泰 FW
倉田 一郎 FW
仁和 裕昭 GK
高木 邦男 DF
佐藤 雅俊 FW



男子フュギュア初出場で優勝した五十嵐文男（慶大）

「雪中戦」

運上 一美（法大OB）

インカレには、50回～53回大会に参加させていただきました。常勝法政大学に入部していた私が唯一もしかしてと思った試合が4年生（53回大会）の時の2回戦の中央大学との試合でした。当日の試合会場は屋外の細尾リンクで朝から雪が降っている状態での最悪のコンディションになり実力以外の不安を抱えた試合となりました。案の定ラインは見えなくなってくるし数分後にはバックも埋まってくるまさに雪との格闘になりました。

いらだちの中同僚、後輩たちと冷静さを取り戻しチーム一丸となって勝利を手にしたことを今でも思い出します。

1年生の時には古河電工リンクが最後の屋外リンクとして、そして今は無き古河電工リンクですべてのインカレで優勝できたことインカレと言えば日光、日光と言えば古河電工リンクと私のアイスホッケー人生の中では欠かせない1ページとなっています。

第55回

昭和57年12月21日(日)～24日(水)
栃木県日光市 日光スケートセンター

スピード

男子①専修大学 ②日本大学 ③日本体育大学
女子①専修大学 ②日本体育大学 ③中京短期大学

フィギュア

男子①明治大学 ②日本大学 ③法政大学
女子①専修大学 ②同志社大学 ③富士短期大学

アイスホッケー

①法政大学 ②明治大学 ③東洋大学 ④専修大学 ⑤大東文化大学/日本大学/札幌大学/早稲田大学

スピード

男子1部500m

①黒岩 彰（専修大学） 38.40
②深井 靖士（早稲田大学） 38.79
③丸山 一夫（専修大学） 38.79
④戸田 金作（専修大学） ④北沢 欣浩（法政大学）
⑥中村 裕信（法政大学） ⑦遠藤 庄宏（明治大学）
⑧林 徹哉（日本大学）

男子1部1500m

①浜谷 公宏（専修大学） 02.00.85
②黒岩 彰（専修大学） 02.01.23
③林 徹哉（日本大学） 02.02.47
④玉垣 範夫（法政大学） ⑤佐藤 英樹（日本体育大学）
⑥菅原 和彦（日本大学） ⑦村崎 利雄（日本体育大学）
⑧鹿島 彰（明治大学）

男子1部 5000m

①竹下 正範（専修大学） 07.21.88
②今村 俊明（日本大学） 07.22.79
③井出 敏彦（日本体育大学） 07.25.19
④橋本 祐嗣（日本大学） ⑤羽多野純司（専修大学）
⑥樽本 覚（東洋大学） ⑦竹原 信男（専修大学）
⑧藤村 秀憲（明治大学）

男子1部10000m

①樽本 覚（東洋大学） 15.28.53
②井出 敏彦（日本体育大学） 15.28.61
③今村 俊明（日本大学） 15.39.85
④竹下 正範（専修大学） ⑤橋本 祐嗣（日本大学）
⑥藤村 秀憲（明治大学） ⑦羽多野純司（専修大学）
⑧篠原 務（日本体育大学）

男子1部2000mリレー

①専修大学 02.36.09
（松本 戸田 丸山 黒岩）
②日本体育大学 02.44.53
③早稲田大学 02.45.98

女子500m

①渡辺 優子（中京短期大学） 42.57
②石井 和恵（専修大学） 43.98
③中島由美子（専修大学） 44.35
④洞田千鶴子（日本体育大学） ⑤宮路 典子（中京短期大学）
⑥井出 敬子（日本体育大学） ⑦宮沢 二葉（大東文化大学）
⑧福田久美子（東京女子体育大学）

女子1000m

①渡辺 優子（中京短期大学） 01.28.21
②石井 和恵（専修大学） 01.29.96
③平 智聡（専修大学） 01.30.66
④洞田千鶴子（日本体育大学） ⑤宮原 静子（日本体育大学）
⑥宮路 典子（中京短期大学） ⑦福田久美子（東京女子体育大学）
⑧羽田 太美（東京女子体育大学）

女子1500m

①土屋 一子（専修大学） 02.19.12
②伊東 千晶（日本体育大学） 02.19.18
③平 智聡（専修大学） 02.19.72
④松本 優子（日本体育大学） ⑤長崎みゆき（中京短期大学）
⑥田村 洋子（大東文化大学） ⑦石田 寿子（大東文化大学）
⑧工藤 恵子（中京短期大学）

女子3000m

①土屋 一子（専修大学） 04.53.74
②松本 優子（日本体育大学） 04.54.30
③伊東 千晶（日本体育大学） 04.57.32
④田村 洋子（大東文化大学） ⑤渡辺 良子（東京女子体育大学）
⑥長崎みゆき（中京短期大学） ⑦工藤 恵子（中京短期大学）
⑧飯島佐紀子（東京女子体育大学）

女子2000mリレー

①専修大学 03.00.66
（中島 土屋 平 石井）
②日本体育大学 03.04.51
③中京短期大学 03.07.86

フィギュア

男子シングル1部

- ①染谷 慎二 (法政大学) ②無良 隆志 (日本大学)
- ③小林 永夫 (専修大学)

女子シングル1部

- ①青谷めぐみ (東洋大学) ②坂野 浩子 (専修大学)
- ③高山 登美 (同志社大学)

アイスホッケー

1回戦

慶應義塾大学	9-2	近畿大学
明治学院大学	13-3	九州大学
東海大学	9-2	同志社大学
大阪商科大学	4-2	東京大学
札幌大学	9-2	福岡大学
専修大学	10-0	関西大学
中央大学	4-1	横浜国立大学
中央大学	13-1	愛知学院大学
東北学院大学	棄権	関西学院大学
北海道大学	5-1	明星大学

2回戦

明治大学	10-0	慶應義塾大学
日本大学	6-1	明治学院大学
大東文化大学	13-3	東海大学
専修大学	12-1	大阪商科大学
札幌大学	8-4	中央大学
早稲田大学	7-0	中央大学
東洋大学	10-1	東北学院大学
法政大学	18-1	北海道大学

準々決勝戦

明治大学	8-5	大東文化大学
専修大学	10-6	日本大学
東洋大学	14-1	札幌大学
法政大学	15-2	早稲田大学

準決勝戦

明治大学	4-0	東洋大学
法政大学	11-7	専修大学

3位決定戦

東洋大学	8-7	専修大学
------	-----	------

決勝戦

法政大学	6	$\begin{pmatrix} 2-0 \\ 2-1 \\ 2-1 \end{pmatrix}$	2	明治大学
------	---	---	---	------

法政大学

青木 泰憲	GK
金 滋人	FW
川上 雅樹	DF
湊谷 匡晃	FW
河原 英博	DF
塚本 正人	DF
守屋 英樹	FW
二本木康弘	GK
神山 博	GK
横川 将也	FW
岩花三八雄	DF
田中 健二	FW
鈴木 司	FW
吉本 潤司	FW
原 洋一郎	DF
瀬下 忠男	FW
鈴木 堅一	FW
石井 澄	FW
中浜 年秋	DF
阿部 康伯	FW
田口 昭吉	FW
伊藤 理	DF
菊池 秀之	FW
笹森 裕史	GK
大頭 健	FW
千葉 恒哉	FW
吉田 隆介	FW
藤原 修士	FW
外久保利光	FW

明治大学

GK 加藤 茂
FW 小賀坂 康
FW 山形 真二
FW 荒尾 剛志
DF 志水 博行
FW 大藤 浩司
FW 渡辺 正雄
FW 高橋 保博
FW 畑井 尚也
FW 島館 庸泰
FW 中村 匠樹
FW 倉田 一郎
DF 梶川 文彦
DF 田辺 正人
GK 仁和 裕昭
DF 高木 邦男
DF 田名部勝敏
DF 中西 重人
DF 三浦 康次
FW 磯部 城司
FW 佐藤 雅俊
FW 更谷 泰宣
FW 高橋 健次
FW 北田 良宣
FW 兼村 仁
FW 西脇 正治
GK 竜滝 良之
GK 奥澤 公明
DF 平野 利明
DF 工藤 雅人
FW 阪 和憲
FW 福田 昭仁
FW 佐々木 清
FW 鳥海 誠吾
GK 鎌田 司
GK 高橋 徹

インカレと大学4年間

黒岩 彰 (専修大OB)

今でこそ、スケートといえば、イベントがあるたびにマスコミに大きく扱われる様になって来たが、私が大学に入学した年、全日本スプリント選手権大会で初めて総合優勝した時、翌日の新聞記事を期待していたものの、予想外の小さな記事掲載にガッカリした記憶がある。これがスケートに対する社会的評価なのか、新聞で一面はどうすれば取れるか考え、世界で勝って認めてもらうしかない、という答えを出したものだ。世界を目指す者として絶対不可欠と言われたインカレだったが、我々の専修大学は当時短距離の層が厚く、世界スプリントに出場するより、インカレの500Mのレギュラーになるほうが難しい状況の中で、個々が努力を惜しまないチームになっていた。55回大会で3連覇、最終的には4連覇出来た訳だが、インカレでの優勝、世界スプリント選手権の総合優勝、卒業後のカルガリー五輪での銅メダルと、タイトルを取る事が出来たが、私にとっては、一つ一つの通過点としか受け止めていなかった。大学時代の生活そして、インカレの存在は現在の私の生活を支える価値のある4年間であったことは間違い無い。

当時我々の合言葉で「インカレを制するものは世界を制す」と言う言葉を今でも思い出す。



アイスホッケー決勝戦 (法一明)
第2ピリオド13分38秒、ゴール前混戦で法政大頭 (左) 4点目を入れ、ガッツポーズ

第56回

昭和58年12月19日(日)~23日(木)
栃木県日光市 日光スケートセンター

スピード

男子①専修大学 ②日本大学 ③法政大学 ④日本体育大学 ⑤東洋大学 ⑥明治大学
⑦大東文化大学 ⑧早稲田大学

女子①日本体育大学 ②専修大学 ③中京短期大学 ④大東文化大学 ⑤東京女子大学 ⑥八戸大学

男子①明治大学 ②日本大学 ③専修大学
女子①日本大学 ②同志社大学 ③専修大学

アイスホッケー

①明治大学 ②法政大学 ③東洋大学 ④専修大学 ⑤日本大学/早稲田大学/中央大学/大東文化大学

スピード

男子1部500m

①黒岩 彰(専修大学) 37.87
②北沢 欣浩(法政大学) 38.12
③新井 貢(日本大学) 38.48
④戸田 金作(専修大学) ⑤丸山 一夫(専修大学)
⑥新保 哲(日本大学) ⑦中村 裕信(法政大学)
⑧土屋 幸彦(日本体育大学)

男子1部1500m

①金浜 康光(専修大学) 02.00.87
②浜谷 公宏(専修大学) 02.01.96
③土屋 幸彦(日本体育大学) 02.02.13
④佐々木 隆(法政大学) ⑤黒岩 彰(専修大学)
⑥玉垣 範夫(法政大学) ⑦林 徹哉(日本大学)
⑧上田 佳秋(明治大学)

男子1部 5000m

①今村 俊明(日本大学) 07.24.98
②竹原 信男(専修大学) 07.26.96
③樽本 覚(東洋大学) 07.31.95
④石川 善文(日本体育大学) ⑤橋本 祐嗣(日本大学)
⑥菅井栄一郎(大東文化大学) ⑦上田 佳秋(明治大学)
⑧井出 敏彦(日本体育大学)

男子1部10000m

①今村 俊明(日本大学) 14.57.39
②竹原 信男(専修大学) 15.18.32
③樽本 覚(東洋大学) 15.23.40
④橋本 祐嗣(日本大学) ⑤石川 善文(日本体育大学)
⑥井出 敏彦(日本体育大学) ⑦藤村 秀憲(明治大学)
⑧篠原 務(日本体育大学)

男子1部2000mリレー

①専修大学 02.35.08
(加部 戸田 丸山 金浜)
②法政大学 02.36.23
③日本大学 02.38.98

女子500m

①渡辺 優子(中京短期大学) 42.98
②宮路 典子(中京短期大学) 43.87
③平 智聡(専修大学) 44.02
④中島由美子(専修大学) ⑤佐藤 弘子(日本体育大学)
⑥大石 好美(東京女子体育大学) ⑦星野公美子(東京女子体育大学)
⑧板橋江里子(八戸大学)

女子1000m

①中島由美子(専修大学) 01.28.97
②宮路 典子(中京短期大学) 01.29.10
③洞田千鶴子(日本体育大学) 01.29.91
④平 智聡(専修大学) ⑤渡辺 優子(中京短期大学)
⑥天野久美子(日本体育大学) ⑦大石 好美(東京女子体育大学)
⑧星野公美子(東京女子体育大学)

女子1500m

①洞田千鶴子(日本体育大学) 02.17.44
②土屋 一子(専修大学) 02.18.58
③辻 ゆかり(日本体育大学) 02.19.59
④内藤 良子(中京短期大学) ⑤石田 寿子(大東文化大学)
⑥長久保鈴子(中京短期大学) ⑦田村 洋子(大東文化大学)
⑧飯島佐紀子(東京女子体育大学)

女子3000m

①土屋 一子(専修大学) 04.55.94
②伊東 千晶(日本体育大学) 04.58.15
③辻 ゆかり(日本体育大学) 04.58.95
④内藤 良子(中京短期大学) ⑤田村 洋子(大東文化大学)
⑥石田 寿子(大東文化大学) ⑦渡辺 良子(東京女子体育大学)
⑧渡辺まつみ(中京短期大学)

女子2000mリレー

①日本体育大学 02.57.60
(佐藤 花谷 天野 洞田)
②専修大学 02.57.64
③中京短期大学 03.00.42

フィギュア

男子シングル1部

①大池 弘之(明治大学) ②田仲 憲治(日本大学)
③伊東 秀仁(明治大学)

女子シングル1部

①吉盛ゆかり(日本大学) ②柳原 恵(日本大学)
③青谷めぐみ(東洋大学)

アイスホッケー

1回戦

愛知学院大学	不戦勝	慶應義塾大学
関西大学	5-2	横浜国立大学
日本大学	6-1	北海道大学
早稲田大学	15-1	大阪商科大学
東海大学	5-1	福岡大学
明星大学	5-3	同志社大学
中京大学	6-2	東北学院大学
立教大学	7-5	九州大学
中央大学	11-0	札幌大学
大東文化大学	21-1	京都大学
北海学園大学	13-5	近畿大学
日本体育大学	11-3	立命館大学

2回戦

法政大学	34-0	愛知学院大学
日本大学	8-0	関西大学
早稲田大学	8-3	東海大学
専修大学	11-0	明星大学
東洋大学	8-0	中京大学
中央大学	19-0	立教大学
大東文化大学	11-4	北海学園大学
明治大学	12-3	日本体育大学

準々決勝戦

法政大学	14-0	日本大学
専修大学	9-6	早稲田大学
東洋大学	6-4	中央大学
明治大学	11-1	大東文化大学

準決勝戦

法政大学	9-1	専修大学
明治大学	14-4	東洋大学

3位決定戦

東洋大学	10-2	専修大学
------	------	------

決勝戦

明治大学 6-5

法政大学

明治大学

梶川 文彦 DF
高橋 保博 FW
畑井 尚也 FW
大藤 浩司 FW
渡辺 正雄 FW
倉田 一郎 FW
田辺 正人 DF
仁和 裕昭 GK
中村 匠樹 FW
梶谷 庸泰 FW
高木 邦男 DF
田名部勝敏 DF
佐藤 雅俊 FW
中西 重人 FW
更谷 泰宣 FW
磯部 城司 FW
高橋 健次 FW
北田 良宣 FW
兼村 仁 FW
西脇 正治 FW
龍瀧 良之 GK
奥澤 公明 GK
三浦 康次 DF
鎌田 司 GK
工藤 雅人 DF
阪 和憲 FW
平野 利明 DF
福田 昭仁 FW
佐々木 清 FW
鳥海 誠吾 FW
高橋 徹 GK
坂井 寿如 DF
工藤 篤緒 DF
中谷 伸一 DF
建部 彰弘 DF
高木 英克 DF
進藤 久明 FW
橋本 雅志 FW
斉藤 毅 FW
宮崎 秀彦 FW
佐藤 弘一 FW

法政大学

金 滋人 FW
湊谷 匡晃 FW
河原 英博 DF
塚本 正人 DF
守屋 英樹 FW
二本木康弘 GK
神山 博 GK
横川 将也 FW
鈴木 司 FW
吉本 潤司 FW
瀬下 忠男 FW
石井 澄 FW
中浜 年秋 DF
田口 昭吉 FW
阿部 康伯 FW
伊藤 理 DF
菊池 秀之 FW
大頭 健 FW
千葉 恒哉 DF
外久保利光 FW
藤原 脩士 FW
吉田 隆介 FW
笹森 裕史 GK
斉藤 竜志 FW
山口 透 DF
田中 康朝 FW
下谷内英樹 FW
庄司 久永 FW
松田 進 FW
丹山 敬三 FW
新町 豊 DF

大きな財産 インカレ目指した4年間

今村 俊明 (日大OB)

現在とは異なり、当時のインカレは毎年栃木県日光市で開催されていた。現在の“アーデル霧降”リンクとは違う場所で今市市よりに位置していた。定かではないが20年近く日光で固定開催されていたと思う。私のような関東地区の学生にとっては、近隣地区での開催であるため何かと都合がよかった。また、東京から駆けつけてくれたチームメイト以外の学友たちの応援もあった。

スピードスケートは個人競技でありながら、このインカレだけは大学対抗で競われるためチームが丸となって参加したことが何よりの思い出である。当時、チームの長距離のエースであった私は毎年5000mと10000mで2冠達成を期待されていた。

1年目は怖いもの知らずで無我夢中でひたすらがんばって目標を達成した。3年目はサラエボオリンピックの選考会後のインカレで、学生の長距離では唯一人オリンピック代表に選考された私は勝つのが当たり前と周囲から見られていた。日本記録を狙った10000mでは僅かに及ばなかったものの国内初となる15分の壁を破り2冠を達成した。途中まで日本記録を上回るペースで滑走していたとき、チームを超えて他の大学の先輩方が送ってくださった大声援が昨日のこのように思い出される。主将として臨んだ4年目はチームの得点に有利と考え、最初の種目5000mで後輩に第1、第2シードを譲り、第3シードで出場した。第1シードに起用された後輩が逆に責任を感じ、力んだ滑りで力を発揮できなかったものの、結果はこの年も2冠達成を果たすことができた。しかし、学校対抗が2位に甘んじたため、喜びはほとんどなかった。

自分の4年連続2冠の夢は上述していない2年の時の5000m 2位と10000m 3位で絶たれた。5000メートルは僅差の敗退だったが完敗だった。10000mは優勝、準優勝の方には悪いがリンク条件の差は明らかだったと思う。私は4組で、5000mの優勝者は前の3組で滑走したが、2人とも1組滑走の優勝、準優勝のタイムにははるかに及ばなかった。第3シードの9組からはもう水浸しの中を滑走していた。条件の差は競技特性上仕方がないことかもしれないがこの2年のときだけが勝てなかったので本音を言えばちょっぴり残念である。

しかし、なんといっても大学4年間で同じ寮生活を送った仲間と苦労をともにしたことが、そして良き先輩後輩と出会えたことがインカレでの個人記録よりも何倍もすばらしい思い出に、そして今でも私を支えてくれている大きな財産になっていると確信している。

第57回

昭和59年12月17日(日)～21日(木)
栃木県日光市 日光スケートセンター

スピード

男子①専修大学 ②日本大学 ③明治大学 ④法政大学 ⑤日本体育大学 ⑥大東文化大学
⑦東洋大学 ⑧山梨学院大学

女子①日本体育大学 ②中京短期大学 ③専修大学 ④大東文化大学 ⑤東京女子体育大学

フィギュア

男子①明治大学 ②日本大学 ③中京大学

女子①日本大学 ②専修大学 ③同志社大学

アイスホッケー

①明治大学 ②東洋大学 ③法政大学 ④中央大学 ⑤早稲田大学/日本大学/専修大学/大東文化大学

スピード

男子1部500m

①北沢 欣浩 (法政大学) 38.62
②戸田 金作 (専修大学) 39.04
③黒岩 康志 (専修大学) 39.08
④浜谷 公宏 (専修大学) ⑤長崎 克己 (法政大学)
⑥河瀬 祐二 (日本大学) ⑦平田 博之 (明治大学)
⑧林 徹哉 (明治大学)

男子1部1500m

①金浜 康光 (専修大学) 02.00.13
②林 徹哉 (日本大学) 02.00.24
③上田 佳秋 (明治大学) 02.00.72
④浜谷 公宏 (専修大学) ⑤佐々木 隆 (法政大学)
⑥玉垣 範夫 (法政大学) ⑦上田 勝人 (日本大学)
⑧加部 裕昭 (専修大学)

男子1部 5000m

①今村 俊明 (日本大学) 07.31.11
②河島 誠一 (明治大学) 07.33.25
③上田 佳秋 (明治大学) 07.33.36
④竹原 信男 (専修大学) ⑤石川 善文 (日本体育大学)
⑥羽田 静夫 (日本体育大学) ⑦末永 達彦 (大東文化大学)
⑧本間 直樹 (日本大学)

男子1部10000m

①今村 俊明 (日本大学) 15.01.15
②河島 誠一 (明治大学) 15.29.30
③石川 善文 (日本体育大学) 15.30.99
④竹原 信男 (専修大学) ⑤末永 達彦 (大東文化大学)
⑥本間 直樹 (日本大学) ⑦篠原 務 (日本体育大学)
⑧境 義一 (専修大学)

男子1部2000mリレー

①専修大学 02.33.17
(広瀬誠 戸田金作 丸山一夫 黒岩康志)
②法政大学 02.35.78
③明治大学 02.37.57

女子500m

①石川さおり (日本体育大学) 44.00
②中島由美子 (専修大学) 44.20
③徳橋 深雪 (大東文化大学) 45.40
④宮路 典子 (中京短期大学) ⑤大石 好美 (東京女子体育大学)
⑥市沢千賀子 (中京短期大学) ⑦宮崎由紀子 (大東文化大学)
佐藤 弘子 (日本体育大学) 失格

女子1000m

①洞田千鶴子 (日本体育大学) 01.27.97
②中島由美子 (専修大学) 01.30.93
③宮路 典子 (中京短期大学) 01.31.22
④徳橋 深雪 (大東文化大学) ⑤黒岩 良子 (専修大学)
⑥望月 美加 (中京短期大学) ⑦花谷 修子 (日本体育大学)
⑧大石 好美 (東京女子体育大学)

女子1500m

①洞田千鶴子 (日本体育大学) 02.18.09
②辻 ゆかり (日本体育大学) 02.18.11
③野上 真理子 (中京短期大学) 02.19.25
④土屋 一子 (専修大学) ⑤内藤 良子 (中京短期大学)
⑥佐々木寿子 (大東文化大学) ⑦石田 寿子 (大東文化大学)
⑧黒岩 良子 (専修大学)

女子3000m

①野上真理子 (中京短期大学) 04.54.44
②土屋 一子 (専修大学) 04.56.14
③伏見 克代 (日本体育大学) 04.59.72
④石田 寿子 (大東文化大学) ⑤内藤 良子 (中京短期大学)
⑥佐々木寿子 (大東文化大学) ⑦吉原 映子 (日本体育大学)

女子2000mリレー

①日本体育大学 02.55.60
(佐藤弘子 花谷修子 洞田千鶴子 石川さおり)
②専修大学 02.56.64
③中京短期大学 03.01.76

フィギュア

男子シングル1部

- ①藤井 辰哉 (明治大学) ②大島 淳 (中京大学)
- ③佐々木敬祐 (日本大学)

女子シングル1部

- ①吉盛ゆかり (日本体育大学) ②小沢 樹里 (専修大学)
- ③柳原 恵 (日本大学)

アイスホッケー

1回戦

立教大学	4-2	立命館大学
東海大学	6-3	関西大学
明治学院大学	10-0	鹿児島大学
青山学院大学	5-3	京都大学
早稲田大学	14-2	東北学院大学
日本大学	9-2	中京大学
中央大学	14-0	同志社大学
大東文化大学	17-2	成蹊大学
愛知学院大学	7-6	北海学園大学
札幌大学	11-0	九州大学
帯広畜産大学	3-0	福岡大学
日本体育大学	8-3	大阪商科大学

2回戦

明治大学	24-1	立教大学
東洋大学	9-2	東海大学
早稲田大学	11-1	明治学院大学
日本大学	22-3	青山学院大学
中央大学	23-2	愛知学院大学
大東文化大学	14-2	札幌大学
専修大学	10-1	帯広畜産大学
法政大学	12-1	日本体育大学

準々決勝戦

明治大学	18-5	早稲田大学
東洋大学	3-0	日本大学
中央大学	7-5	専修大学
法政大学	20-4	大東文化大学

準決勝戦

明治大学	14-1	中央大学
東洋大学	5-4	法政大学

3位決定戦

法政大学	15-4	中央大学
------	------	------

決勝戦

明治大学	5	$\begin{pmatrix} 2-1 \\ 1-0 \\ 2-1 \end{pmatrix}$	2	東洋大学
------	---	---	---	------

反PAG 明治大学

1000	鳥海 誠吾
0110	佐藤 雅俊
0000	佐々木 清
2211	阪 和憲
0211	坂井 寿如
1101	宮崎 秀彦
0101	磯部 城司
0101	高橋 健次
0110	西脇 正治
0000	佐藤 弘一
0000	更谷 泰宣
0000	本間 康弘
0000	平野 利明
0110	工藤 篤緒
0110	高木 英克
0000	田名部勝敏
0000	建部 彰弘
0000	三浦 康次
0000	龍滝 良之

東洋大学 GAP 反

2021	田村 光男
0110	渋谷 伸一
0000	谷間 敬一
0000	藤井 雅則
0000	伊藤 美樹
0000	伊藤 彰
0000	石藤 寿也
0001	秋山 豊
0000	佐藤 嘉晃

0111	式部 睦二
0110	小笠原慎吾
0000	熊木 和彦
0000	新 一元
0000	山崎 隆志
0001	田中 義仁

0000	間野 直樹	0001
41165	計	2355

「勝って兜の緒を締める」

北澤 欣浩 (法大OB)

私は54回大会から4年間インカレに出場しておりますが、中でも生涯忘れられぬ思い出となったのは、4年時の57回大会の開会式において、この年から前シーズンの国内外で行なわれた大会で優秀な成績を取めた者を顕彰するため、新たに設けられた特別表彰を受けたことでもあります。

壇上で橋本会長から表彰状を頂いた後に、総裁の寛仁親王殿下から純銀製の御紋入りの一輪挿しを賜り、続いて江守後援会長から純銀製の兜の置物を頂き、大変感激したことが今でも思い出として残っています。

さらに、当日は荒天に悩まされ、降り続く雪のため、競技開始が5時間半遅れての実施となり、顔面は硬直し、地に足がつかず、まるでロボットのような状態でスタートラインに立ち、とにかく上体を浮かせないように氷を押さえ、ゴールラインを切ったあのサラエボオリンピック500mでの銀メダル獲得のシーンが、脳裏をかすめ、感慨を新たにしました。

その開会式の翌日、500mが行なわれましたが、学生生活4年間の集大成として、初優勝を飾ることができ、まさに「勝って兜の緒を締める」でありました。



総裁殿下より表彰を受ける北沢選手

第58回

昭和60年12月16日(日)~20日(木)
栃木県日光市 日光スケートセンター

スピード

- 男子①専修大学 ②明治大学 ③法政大学 ④日本大学 ⑤日本体育大学 ⑥大東文化大学
⑦東洋大学
女子①日本体育大学 ②中京短期大学 ③専修大学 ④大東文化大学 ⑤東京女子体育大学
⑥東洋大学

フィギュア

- 男子①明治大学 ②日本大学 ③専修大学
女子①専修大学 ②明治大学 ③日本大学

アイスホッケー

- ①明治大学 ②東洋大学 ③早稲田大学 ④法政大学 ⑤日本大学/東海大学/中央大学/専修大学

スピード

男子1部500m

- ①黒岩 康志(専修大学) 3 8.0
②広瀬 誠(専修大学) 3 8.2
③金浜 康光(専修大学) 3 8.2
④三谷 幸宏(法政大学) ⑤土屋 幸彦(日本体育大学)
⑥新保 哲(日本大学) ⑦鎌倉 友樹(日本体育大学)
⑦長崎 克己(法政大学)

男子1部1500m

- ①境 義一(専修大学) 0 2.0 1.4
②金浜 康光(専修大学) 0 2.0 1.7
③林 徹哉(日本大学) 0 2.0 2.6
④黒岩 康志(専修大学) ⑤樽本 覚(東洋大学)
⑥上田 佳秋(明治大学) ⑦三谷 幸宏(法政大学)
⑧志田 恒美(日本体育大学)

男子1部 5000m

- ①黒岩 宗久(専修大学) 0 7.2 4.3
②河島 誠一(明治大学) 0 7.3 0.3
③加藤 和彦(明治大学) 0 7.3 1.4
④境 義一(専修大学) ⑤上田 佳秋(明治大学)
⑥佐々木 隆(法政大学) ⑦番場新一郎(日本大学)
⑧末永 達彦(大東文化大学)

男子1部10000m

- ①黒岩 宗久(専修大学) 1 5.1 5.7
②加藤 和彦(明治大学) 1 5.2 5.4
③番場新一郎(日本大学) 1 5.3 1.3
④末永 達彦(大東文化大学) ⑤小金沢 栄(法政大学)
⑥河島 誠一(明治大学) ⑦佐藤 良浩(日本体育大学)
⑧松田 伸二(日本体育大学)

男子1部2000mリレー

- ①法政大学 0 2.3 3.7 0
(長崎克己 朝田志朗 玉垣範夫 三谷幸宏)
②日本大学 0 2.3 5.7 5

女子500m

- ①石川さおり(日本体育大学) 4 3.6
②中島由美子(専修大学) 4 4.0
③黒岩 良子(専修大学) 4 4.4
④山村 順子(東洋大学) ④大岡 鈴子(日本体育大学)
⑥徳橋 深雪(大東文化大学) ⑦細田 ユカ(中京短期大学)
⑧高橋 直美(中京短期大学)

女子1000m

- ①黒岩 良子(専修大学) 0 1.3 0.1 2
②中島由美子(専修大学) 0 1.3 1.5 0
③辻 ゆかり(日本体育大学) 0 1.3 1.9 5
④徳橋 深雪(大東文化大学) ⑤石川さおり(日本体育大学)
⑥山村 順子(東洋大学) ⑦平林 勝代(中京短期大学)
⑧最上 裕美(大東文化大学)

女子1500m

- ①洞田千鶴子(日本体育大学) 0 2.1 5.0
②野上真理子(中京短期大学) 0 2.1 7.3
③辻 ゆかり(日本体育大学) 0 2.1 9.8
④望月 美加(中京短期大学) ⑤長岡紀美子(東京女子体育大学)
⑥宮崎由紀子(大東文化大学) ⑦飯島佐紀子(東京女子体育大学)
⑧丸茂みち代(大東文化大学)

女子3000m

- ①野上真理子(中京短期大学) 0 4.5 2.1 5
②洞田千鶴子(日本体育大学) 0 4.5 3.6 6
③望月 美加(中京短期大学) 0 5.0 9.3 6
④花谷 修子(日本体育大学) ⑤長岡紀美子(東京女子体育大学)
⑥宮崎由紀子(大東文化大学) ⑦石田 寿子(大東文化大学)

女子2000mリレー

- ①日本体育大学 0 2.5 2.5 9
(辻ゆかり 大岡鈴子 洞田千鶴子 石川さおり)
②中京短期大学 0 2.5 6.3 4
③大東文化大学 0 3.0 5.6 3

フィギュア

男子シングル1部

- ①藤井 辰哉(明治大学) ②宮手 浩(明治大学)
③佐々木敬祐(日本大学)

女子シングル1部

- ①小沢 樹里(専修大学) ②加藤 雅子(明治大学)
③三輪真佐江(明治大学)

アイスホッケー

1回戦

福岡大学	5-2	明星大学
日本体育大学	19-0	関西大学
北海道大学	6-1	同志社大学
東海大学	6-1	関西学院大学
日本大学	8-5	札幌大学
大東文化大学	13-0	上智大学
早稲田大学	34-0	九州大学
専修大学	6-3	愛知学院大学
帯広畜産大学	6-0	大阪商科大学
中京大学	7-4	横浜国立大学
慶應義塾大学	5-3	立命館大学
東北大学	8-0	広道修道大学
中央大学	13-1	国士舘大学

2回戦

明治大学	24-0	福岡大学
法政大学	11-2	日本体育大学
日本大学	14-4	北海道大学
東海大学	7-4	大東文化大学
早稲田大学	19-2	帯広畜産大学
専修大学	16-4	中京大学
中央大学	4-0	慶應義塾大学
東洋大学	23-0	東北大学

準々決勝戦

明治大学	17-1	日本大学
法政大学	14-0	東海大学
早稲田大学	10-3	中央大学
東洋大学	8-3	専修大学

準決勝戦

明治大学	17-3	早稲田大学
東洋大学	5-3	法政大学

3位決定戦

早稲田大学	11-7	法政大学
-------	------	------

決勝戦

明治大学	8	$\begin{pmatrix} 2-1 \\ 3-0 \\ 3-1 \end{pmatrix}$	2	東洋大学
------	---	---	---	------

反PAG 明治大学

0 0 0 0	佐藤 弘一
1 6 1 5	坂井 寿如
0 4 4 0	阪 和憲
0 0 0 0	田沢 欣也
0 1 1 0	加藤 哲也
1 1 0 1	宮崎 秀彦
1 0 0 0	鳥海 誠吾
1 0 0 0	福田 仁志
0 0 0 0	斉藤 毅
0 0 0 0	福田 昭仁
0 0 0 0	白井 貴一
0 0 0 0	藁澤 智之
0 2 2 0	工藤 篤緒
0 2 1 1	高木 英克
0 2 1 1	本間 康弘
0 0 0 0	平野 利明
0 0 0 0	建部 彰弘
0 0 0 0	中谷 伸一
0 0 0 0	木村 拓也
0 0 0 0	引木 修也

東洋大学 GAP 反

石藤 寿也	0 1 1 1
谷間 敬一	0 0 0 0
伊藤 彰	1 0 1 0
佐藤 嘉晃	0 0 0 2
石浦 裕仁	0 0 0 0
秋山 豊	0 0 0 0
山崎 隆志	0 0 0 0
藤井 雅則	0 0 0 0
中川 雅博	1 0 1 0
野田 雅章	0 0 0 0
磯部 義浩	0 0 0 0
城内 和人	0 0 0 0
式部 睦二	0 0 0 1
小笠原慎悟	0 0 0 1
熊木 和彦	0 0 0 0
新 一之	0 0 0 0
田中 義仁	0 1 1 2
磯江 哲也	0 0 0 0

0 0 0 0	鎌田 司	GK	間野 直樹	0 0 0 0
4 18 10 8		計		2 2 4 7

男女ともV5達成

金濱 康光 (専修大OB)

昭和60年第58回大会、我々は先輩方が築いてくれた連続優勝を継承するべく競技に挑んだ。

当時、専修大学の部員は男子10名、女子4名、少数ではあるが全員が日本トップレベルの選手であった。明けても暮れても苦しい練習に励んだ日々、17年前のことではあるが昨日のように一人一人のなつかしい笑顔と涙が次々に脳裏を駆け巡る。お互いがライバルではあったが、それぞれが認め合い更には励まし合い、100分の1秒のために切磋琢磨する。そんなすばらしい環境の中、前嶋監督の下で部員たちは伸び伸びと練習、競技に励んだ。インカレはそんな雰囲気が生かされる最たるものであった。自分だけではなく、他の部員のために心から協力、応援をした。それが専修大学スケート部の自然な姿でもあった。結果、皆がベストを尽くし殆んどの種類を制覇、男女共に“V5”を達成することが出来た。

主将として素晴らしい仲間を支えられ、そして出会えたことに感謝したい。現在頑張っている選手たちが、悔いの無い、そしてこの様な競技者人生を送れることを心からお祈りする。



アイスホッケー決勝戦 (明治-東洋)
第3ピリオド3分16秒、東洋大ゴールを攻める明大の阪和憲選手 (右端)

第59回

昭和61年12月22日(日)~26日(木)
栃木県日光市 日光スケートセンター

スピード

男子①専修大学 ②法政大学 ③日本大学 ④日本体育大学 ⑤明治大学 ⑥大東文化大学
⑦山梨学院大学 ⑧東洋大学

女子①日本体育大学 ②中京短期大学 ③大東文化大学 ④東洋大学 ⑤筑波大学 ⑥帯広短期大学
⑦東京女子体育大学 ⑧群馬大学

フィギュア

男子①明治大学 ②日本大学 ③近畿大学

女子①明治大学 ②専修大学 ③帝塚山学園大学

アイスホッケー

①東洋大学 ②明治大学 ③法政大学 ④専修大学 ⑤東海大学/日本体育大学/日本大学/中央大学

スピード

男子1部500m

①三谷 幸宏 (法政大学) 37.87
②河瀬 祐二 (日本大学) 38.04
③黒岩 康志 (専修大学) 38.12
④広瀬 誠 (専修大学) ⑤黒岩 悟 (専修大学)
⑥森山 秀実 (日本大学) ⑦長崎 克己 (法政大学)
⑧朝田 志朗 (法政大学)

男子1部1500m

①中村 卓也 (法政大学) 01.59.93
②三谷 幸宏 (法政大学) 01.59.95
③黒岩 康志 (専修大学) 02.00.30
④奥原 親雄 (日本大学) ⑤境 義一 (専修大学)
⑥森山 秀実 (日本大学) ⑦上田 佳秋 (明治大学)
⑧佐々木 隆 (法政大学)

男子1部 5000m

①黒岩 宗久 (専修大学) 07.24.36
②中村 卓也 (法政大学) 07.26.57
③石川 善文 (日本体育大学) 07.30.95
④佐藤 和弘 (専修大学) ⑤河島 誠一 (明治大学)
⑥加藤 和彦 (明治大学) ⑦市川 英彦 (日本体育大学)
⑧末永 達彦 (大東文化大学)

男子1部10000m

①黒岩 宗久 (専修大学) 15.03.31
②佐藤 和弘 (専修大学) 15.17.74
③石川 善文 (日本体育大学) 15.18.62
④市川 英彦 (日本体育大学) ⑤平間 茂英 (日本大学)
⑥小金沢 栄 (法政大学) ⑦末永 達彦 (大東文化大学)
⑧椿 央 (日本大学)

男子1部2000mリレー

①日本大学 02.33.39
(河瀬祐二 黒岩育生 奥原親雄 森山秀実)
②専修大学 02.34.04

③法政大学

02.35.44

女子500m

①石川さおり (日本体育大学) 42.86
②山村 順子 (東洋大学) 43.06
③大岡 鈴子 (日本体育大学) 43.31
④星野 淳子 (群馬大学) ⑤久保 惠美 (帯広短期大学)
⑥徳橋 深雪 (大東文化大学) ⑦細田 ユカ (中京短期大学)
⑧小池加奈子 (中京短期大学)

女子1000m

①山村 順子 (東洋大学) 01.29.10
②石川さおり (日本体育大学) 01.29.18
③辻 ゆかり (日本体育大学) 01.29.53
④小池加奈子 (中京短期大学) ⑤久保 惠美 (帯広短期大学)
⑥徳橋 深雪 (大東文化大学) ⑦星野 淳子 (群馬大学)
⑧徳橋 優 (帯広短期大学)

女子1500m

①野上真理子 (中京短期大学) 02.15.32
②吉原 映子 (日本体育大学) 02.18.10
③依田智恵子 (筑波大学) 02.18.70
④辻 ゆかり (日本体育大学) ⑤最上 裕美 (大東文化大学)
⑥長岡紀美子 (東京女子体育大学) ⑦布野 宝 (中京短期大学)
⑧小林 砂織 (東京女子体育大学)

女子3000m

①野上真理子 (中京短期大学) 04.43.71
②依田智恵子 (筑波大学) 04.53.03
③吉原 映子 (日本体育大学) 04.54.93
④最上 裕美 (大東文化大学) ⑤長岡紀美子 (東京女子体育大学)
⑥花谷 修子 (日本体育大学) ⑦宮崎由紀子 (大東文化大学)
⑧黒田 真理 (中京短期大学)

女子2000mリレー

①日本体育大学 02.56.82
(辻ゆかり 倉内留美 大岡鈴子 石川さおり)

②中京短期大学 03.01.03
 ③大東文化大学 03.07.23

決勝戦 東洋大学 5-4 明治大学

フィギュア

男子シングル1部

①藤井 辰哉 (明治大学) ②谷内 紀友 (近畿大学)
 ③山崎 羊一 (明治大学)

女子シングル1部

①加藤 雅子 (明治大学) ②小沢 樹里 (専修大学)
 ③結城 幸枝 (明治大学)

アイスホッケー

1回戦

愛知学院大学	17-0	獨協大学
日本体育大学	5-1	関西学院大学
札幌大学	10-0	名古屋大学
立命館大学	10-0	成城大学
東海大学	5-4	中京大学
専修大学	24-0	香川大学
日本大学	25-0	関西大学
中央大学	23-1	同志社大学
北海学園大学	4-2	福岡大学
北海道大学	10-2	大阪商科大学
慶應義塾大学	5-0	立教大学
大東文化大学	13-4	東北大学
法政大学	31-1	鹿児島大学

2回戦

明治大学	21-1	愛知学院大学
日本体育大学	5-2	早稲田大学
東海大学	7-1	札幌大学
専修大学	7-1	立命館大学
日本大学	6-2	北海学園大学
中央大学	11-2	北海道大学
法政大学	12-1	慶應義塾大学
東洋大学	4-0	大東文化大学

準々決勝戦

明治大学	17-0	東海大学
専修大学	6-3	日本体育大学
法政大学	7-2	日本大学
東洋大学	11-5	中央大学

準決勝戦

明治大学	12-4	法政大学
東洋大学	9-2	専修大学

3位決定戦

法政大学	9-2	専修大学
------	-----	------

東洋大学

石藤 寿也	FW
石浦 裕二	FW
中村 仁	GK
藤原 正則	FW
城内 和人	DF
間野 直樹	GK
藤井 雅則	FW
山崎 隆志	FW
伊藤 彰	FW
熊木 和彦	DF
小笠原慎悟	DF
田中 義仁	DF
磯江 哲也	DF
佐藤 明紀	DF
平内 浩行	DF
中岡 裕二	FW
古村 道昭	GK
門間 賢	DF
江渡 賢慈	DF
大久保昭二	FW
加藤 伸一	FW
青江 正盛	FW
村田 光成	FW
小野 格	DF

明治大学

DF 工藤 篤緒
DF 建部 彰弘
FW 坂井 寿如
DF 中谷 伸一
DF 高木 英克
FW 斉藤 毅
FW 佐藤 弘一
FW 進藤 久明
FW 橋本 雅志
FW 宮崎 秀彦
FW 臼井 貴一
FW 加藤 哲也
GK 金子 勝藏
FW 田沢 欣也
FW 永田 大介
DF 引木 修也
DF 本間 康弘
FW 井下 孝典
DF 成田 務
DF 長谷川和広
FW 福田 仁志
DF 木村 拓也
FW 山下 一浩
GK 湯沢 政典
FW 藁沢 智之
DF 池田 智明
DF 伊東 淳一
FW 小野 哲
FW 日下部克弥
GK 笹田 啓明
FW 鄭 東民
FW 藤井 匡智
DF 松橋 徹

強豪を倒し初優勝

石藤 壽也 (東洋大OB)

私は、57回・58回・59回大会の3大会に出場しました。その中でも59回大会が忘れられません。これまで大学リーグでも優勝に縁がなく、この大会でも2年連続して決勝に進出しながら明治大学の厚い選手層に屈していました。しかし、この大会で創部28年目にしての初優勝と私自身初めての日本一だったからです。

私達は大会前の大学リーグで、明治大学・法政大学に負け、日本大学に引き分けてやっと3位という成績でした。その後のミーティングで、インカレをどのように戦うか話し合いました。そこで出されたのは、決勝戦の最後まで戦える脚力をつける。相手のよい所を出させずに嫌がられるプレーをする。チームのためになるプレーをする。レフェリーとは戦わない。そして、どの試合が終わった時でも「みんなと一緒にやれてよかった。」と、思えるように一生懸命プレーしようと決めました。

この59回大会は、日本代表3名を擁する明治大学が実力ナンバーワンで、3年連続の同一カードの決勝戦となりました。スコアは、5対4で試合終了2秒前に決勝点が決まる劇的な優勝体験をすることが出来ました。



アイスホッケー決勝戦 (東洋-明治)
 試合終了2秒前に決勝点を入れ、大喜びの東洋大チーム

第60回

昭和62年12月21日(日)~25日(木)
栃木県日光市 日光スケートセンター

スピード

- 男子①専修大学 ②日本大学 ③日本体育大学 ④法政大学 ⑤明治大学 ⑥大東文化大学
⑦筑波大学 ⑧山梨学院大学
女子①日本体育大学 ②中京短期大学 ③東洋大学 ④筑波大学 ⑤早稲田大学 ⑥大東文化大学
⑦山梨学院大学 ⑧東京女子体育大学

フィギュア

- 男子①明治大学 ②日本大学 ③近畿大学
女子①明治大学 ②専修大学 ③富士短期大学

アイスホッケー

- ①明治大学 ②東洋大学 ③法政大学 ④日本体育大学 ⑤中央大学/東海大学/専修大学/日本大学

スピード

男子1部500m

- ①河瀬 祐二 (日本大学) 3 7.7 5
②結城 匡哲 (筑波大学) 3 7.9 1
③森山 秀実 (日本大学) 3 8.0 1
④広瀬 誠 (専修大学) ⑤三谷 幸宏 (法政大学)
⑥黒岩 康志 (専修大学) ⑦黒岩 悟 (専修大学)
⑧藤本 亮 (日本体育大学)

男子1部1500m

- ①森山 秀実 (日本大学) 0 1.5 8.5 5
②黒岩 康志 (専修大学) 0 2.0 0.7 7
③中村 卓也 (法政大学) 0 2.0 0.8 2
④両角陽一郎 (明治大学) ⑤奥原 親雄 (日本大学)
⑥末永 達彦 (大東文化大学) ⑦黒岩 敏幸 (日本大学)
⑧境 義一 (専修大学)

男子1部 5000m

- ①青柳 徹 (日本体育大学) 0 7.1 5.8 1
②佐藤 和弘 (専修大学) 0 7.2 1.4 7
③末永 達彦 (大東文化大学) 0 7.2 1.7 5
④黒岩 宗久 (専修大学) ⑤市川 英彦 (日本体育大学)
⑥加藤 和彦 (明治大学) ⑦中村 卓也 (法政大学)
⑧平間 茂英 (日本大学)

男子1部10000m

- ①青柳 徹 (日本体育大学) 1 5.0 4.9 2
②加藤 和彦 (明治大学) 1 5.1 2.7 8
③市川 英彦 (日本体育大学) 1 5.2 1.0 0
④黒岩 宗久 (専修大学) ⑤小金沢 栄 (法政大学)
⑥佐藤 和弘 (専修大学) ⑦平間 茂英 (日本大学)
⑧坂口 陽一 (大東文化大学)

男子1部2000mリレー

- ①日本大学 0 2.3 2.1 1
(河瀬祐二 黒岩育生 奥原親雄 森山秀実)
②日本体育大学 0 2.3 4.5 4

③専修大学

0 2.3 4.5 9

女子500m

- ①石川さおり (日本体育大学) 4 2.6 2
②山村 順子 (東洋大学) 4 3.1 5
③大岡 鈴子 (日本体育大学) 4 3.7 6
④小池加奈子 (中京短期大学) ⑤星野 淳子 (群馬大学)
⑥紙谷 三奈 (中京短期大学) ⑦青木美奈子 (大東文化大学)
⑧久保 恵美 (帯広短期大学)

女子1000m

- ①石川さおり (日本体育大学) 0 1.2 8.1 1
②倉内 留美 (日本体育大学) 0 1.2 8.8 1
③山村 順子 (東洋大学) 0 1.2 9.5 5
④小池加奈子 (中京短期大学) ⑤山田恵理子 (中京短期大学)
⑥青木美奈子 (大東文化大学) ⑦山村 公乃 (山梨学院大学)
⑧星野 淳子 (群馬大学)

女子1500m

- ①野上真理子 (中京短期大学) 0 2.2 3.2 0
②小軽米智子 (早稲田大学) 0 2.2 6.2 8
③依田智恵子 (筑波大学) 0 2.2 6.4 5
④吉原 映子 (日本体育大学) ⑤黒田 真理 (中京短期大学)
⑥平塚 麻起 (日本体育大学) ⑦小林 砂織 (東京女子体育大学)
⑧最上 裕美 (大東文化大学)

女子3000m

- ①野上真理子 (中京短期大学) 0 4.4 8.0 5
②依田智恵子 (筑波大学) 0 4.5 2.9 4
③小軽米智子 (早稲田大学) 0 4.5 3.2 1
④吉原 映子 (日本体育大学) ⑤黒田 真理 (中京短期大学)
⑥小林 砂織 (東京女子体育大学) ⑦久保田圭子 (山梨学院大学)
⑧最上 裕美 (大東文化大学)

女子2000mリレー

- ①日本体育大学 0 2.5 6.1 8
(大岡鈴子 平塚麻起 高橋昭子 石川さおり)
②中京短期大学 0 3.0 1.1 4

③山梨学院大学

0 3.0 7.1 8

フィギュア

男子シングル1部

- ①藤井 辰哉 (明治大学) ②谷内 紀友 (近畿大学)
③工藤 満治 (日本大学) ④山崎 羊一 (明治大学)
⑤阿部 鉄雄 (日本大学) ⑥有江 亮二 (専修大学)

女子シングル1部

- ①結城 幸枝 (明治大学) ②小沢 樹里 (専修大学)
③青谷いづみ (明治大学) ④松若 尚美 (帝塚山学院大学)
⑤綱井みちる (法政大学) ⑥伊藤 俊美 (専修大学)

アイスホッケー

1回戦

- 関西学院大学 8-5 立教大学
北海道大学 6-4 愛知学院大学
立命館大学 4-4 札幌大学

(PS 1-0)

- 東北学院大学 5-3 同志社大学
中央大学 8-5 早稲田大学
東海大学 9-2 東北大学
日本体育大学 11-1 福岡大学
日本大学 20-0 関西大学
大東文化大学 8-2 中京大学
青山学院大学 14-2 鹿児島大学
慶應義塾大学 6-4 大阪商科大学
明治学院大学 9-3 広島修道大学
専修大学 14-0 北海学園大学

2回戦

- 東洋大学 11-4 関西学院大学
法政大学 9-0 北海道大学
中央大学 9-2 立命館大学
東海大学 13-1 東北学院大学
日本体育大学 5-2 大東文化大学
日本大学 13-2 青山学院大学
専修大学 6-1 慶應義塾大学
明治大学 22-0 明治学院大学

準々決勝戦

- 東洋大学 8-3 中央大学
法政大学 11-3 東海大学
日本体育大学 4-3 専修大学
明治大学 5-1 日本大学

準決勝戦

- 東洋大学 10-0 日本体育大学
明治大学 5-1 法政大学

3位決定戦

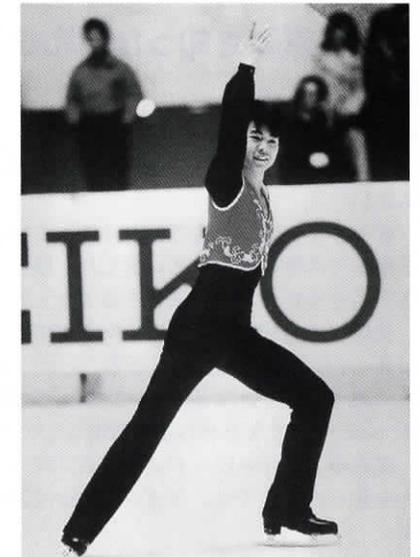
- 法政大学 11-2 日本体育大学

決勝戦

明治大学 4 (0-1)
4 (4-1) 2 東洋大学
0-0

反PAG 明治大学

明治大学	東洋大学	GAP	反
0 3 0 3	藤井 匡智	佐藤 明紀	0 0 0 0
1 0 0 0	松浦 浩史	藤井 雅則	0 0 0 0
1 0 0 0	福田 仁忠	伊藤 彰	0 0 0 0
0 0 0 0	臼井 貴一	加藤 伸一	0 0 0 0
0 0 0 0	小野 哲之	瀬尾 邦治	0 0 0 0
1 0 0 0	藁沢 智之	石藤 秀満	0 0 0 0
0 0 0 0	田沢 欣也	村田 光成	0 0 0 0
0 0 0 0	加藤 哲也	スコット・ホフキス	0 0 0 1
2 0 0 0	白鳥 昭仁	千里 俊之	0 0 0 0
0 0 0 0	山下 一浩	長谷川 厚	0 0 0 0
0 0 0 0	井下 孝典	大久保昭二	0 0 0 0
0 0 0 0	永田 大介	村田 光成	0 0 0 0
0 0 0 0	日下部克弥	小笠原慎悟	1 0 1 0
0 2 1 1	本間 康弘	小野 格	0 0 0 1
0 0 0 0	高松 一弘	熊木 和彦	0 0 0 0
2 0 0 0	本村 拓也	田中 義仁	1 0 1 2
1 0 0 0	成田 務	山崎 隆志	0 0 0 0
0 0 0 0	伊東 淳一	谷津 英幸	0 0 0 0
0 0 0 0	長谷川和広	磯江 哲也	0 0 0 0
0 0 0 0	引木 修也	江波 賢慈	0 0 0 0
0 0 0 0	岩崎 伸一	間野 直樹	0 0 0 0
0 0 0 0	金子 勝蔵	柳山 亨	0 0 0 0
8 5 1 4	計		2 0 2 4



フィギュア男子 優勝した藤井選手 (明大)

「本気でぶつかる」ということ

藤井 辰哉 (明大OB)

「本気でぶつかっていくこと」

言葉は簡単ですが、本格的にスポーツを志す者には生易しい行為ではないと思います。アスリートとしての生活と共に大学での生活も維持する。このような環境の中で、逃げずに挑戦していくには、常識的な考え方では通用は可能です。更なる強靱な心と体を、自らの力と工夫によって養っていかなくてはなりません。

私の考える真のアスリートというのは、日常的な世界から自分を遠ざけてスキルアップを追求すればするほど自分と向き合う時間が多くなり、それが強烈な個性になります。だからこそ、一般の人はそんなアスリートの迫真のプレーの中に彼らが自分と向き合ってきた時間の多さと密度を察知し、心を揺り動かされるのではないのでしょうか。

大学進学校全日本選手権3位が4度。悪くない実績であるものの打破できない何か重いものをしよっていた私自身が「本気でぶつかる」ことの本当の意味を理解できたのは、引退する最後のシーズンでした。

現役アスリートの皆さん、一瞬のきらめく宝石のような青春の時間の中で、これからも私達の心を凄い勢いで揺さぶるような、迫真のプレーを見せてくれることを期待しています。

1 点の重みを知った昭和62年大会

臼井 貴一 (明大OB)

ここ数年続く、明治、東洋、法政の3強時代は、この年も例外ではありませんでした。

前年のインカレ大会では東洋に、この年の東京でのリーグ戦では法政に、いずれも僅差での敗北を喫していました。勝つことの難しさを味わい、そして勝つために何が足りなかったかを反省することとなりました。

決勝での東洋戦は第3ピリオドまで1点を追う苦しい展開が続いたものの、最後は3-1での逆転勝利を取めることができました。今振り返ると、1点を取ることにへの集中と1点を与えないことへの徹底を、一つの試合のなかでうまくコントロールできたその年の明治らしいゲール展開であったと思います。

試合中、1点のビハインドが長く続いたときも第3ピリオドの終盤に明治がリードを奪ったときでも、ゲームを動かす次の1点を大切にしていたことを思い出します。

第61回

昭和63年12月19日(日)~23日(木)
栃木県日光市 日光スケートセンター

スピード

- 男子①専修大学 ②日本大学 ③日本体育大学 ④法政大学 ⑤明治大学 ⑥東洋大学 ⑦筑波大学
⑧大東文化大学
女子①中京短期大学 ②日本体育大学 ③筑波大学 ④専修大学 ⑤東洋大学 ⑥早稲田大学
⑦大東文化大学 ⑧中京大学

フィギュア

- 男子①明治大学 ②日本大学 ③近畿大学
女子①明治大学 ②専修大学 ③日本大学

アイスホッケー

- ①明治大学 ②法政大学 ③日本大学 ④東洋大学 ⑤東海大学/早稲田大学/日本体育大学/専修大学

スピード

男子1部500m

- ①黒岩 育生 (日本大学) 3 8.1 3
②森山 秀実 (日本大学) 3 8.3 0
③三谷 幸宏 (法政大学) 3 8.3 1
④黒岩 悟 (専修大学) ⑤奥原 親雄 (日本大学)
⑥井出 一彦 (専修大学) ⑦中村 卓也 (法政大学)
⑧本間 章 (日本体育大学)

男子1部1500m

- ①黒岩 宗久 (専修大学) 0 1.5 8.2 0
②森山 秀実 (日本大学) 0 2.0 0.3 6
③中村 卓也 (法政大学) 0 2.0 0.6 9
④鐵田 武典 (東洋大学) ⑤佐々木俊行 (東洋大学)
⑥両角陽一郎 (明治大学) ⑦小平 寛 (法政大学)
⑧奥原 親雄 (日本大学)

男子1部 5000m

- ①黒岩 宗久 (専修大学) 0 7.1 8.2 2
②佐藤 和宏 (専修大学) 0 7.2 1.5 9
③青柳 徹 (日本体育大学) 0 7.2 1.8 2
④清水 祥之 (日本大学) ⑤加藤 和彦 (明治大学)
⑥大村 正彦 (専修大学) ⑦市川 英彦 (日本体育大学)
⑧小平 寛 (法政大学)

男子1部10000m

- ①青柳 徹 (日本体育大学) 1 4.5 5.2 6
②佐藤 和宏 (専修大学) 1 4.5 5.7 0
③清水 祥之 (日本大学) 1 5.0 9.2 1
④大村 正彦 (専修大学) ⑤加藤 和弘 (明治大学)
⑥市川 英彦 (日本体育大学) ⑦小嶋 剛志 (日本大学)
⑧岩下 清人 (専修大学)

男子1部2000mリレー

- ①日本大学 0 2.3 2.7 0
(黒岩育生 梶原奇 奥原親雄 森山秀実)
②法政大学 0 2.3 4.2 5

女子500m

- ①大月 利恵 (専修大学) 4 2.9 3
②山村 順子 (東洋大学) 4 3.0 3
③小野田由美 (中京短期大学) 4 3.9 2
④椿 文子 (中京短期大学) ⑤平塚 麻起 (日本体育大学)
⑥川淵 美華 (大東文化大学) ⑦星野 淳子 (群馬大学)
⑧勝田麻実衣 (東京女子体育大学)

女子1000m

- ①大月 利恵 (専修大学) 0 1.2 7.7 1
②平塚 麻起 (日本体育大学) 0 1.2 7.7 8
③小野田由美 (中京短期大学) 0 1.2 8.5 2
④山村 順子 (東洋大学) ⑤飯島恵美子 (筑波大学)
⑥椿 文子 (中京短期大学) ⑦川淵 美華 (大東文化大学)
⑧倉内 留美 (日本体育大学)

女子1500m

- ①楠瀬 志保 (日本体育大学) 0 2.1 5.1 7
②依田智恵子 (筑波大学) 0 2.1 5.2 6
③田中 恵美 (中京短期大学) 0 2.1 6.0 0
④飯島恵美子 (筑波大学) ⑤齋藤 香苗 (専修大学)
⑥小軽米智子 (早稲田大学) ⑦目黒ひとみ (中京短期大学)
⑧麻生 和代 (日本体育大学)

女子3000m

- ①依田智恵子 (筑波大学) 0 4.4 4.0 4
②楠瀬 志保 (日本体育大学) 0 4.5 0.1 2
③田中 恵美 (中京短期大学) 0 4.5 0.5 3
④小軽米智子 (早稲田大学) ⑤浅井 景子 (中京大学)
⑥目黒ひとみ (中京短期大学) ⑦齋藤 香苗 (専修大学)
⑧樋口 元子 (筑波大学)

女子2000mリレー

- ①日本体育大学 0 2.5 6.1 9
(平塚麻起 倉内留美 高橋昭子 楠瀬志保)
②中京短期大学 0 2.5 6.5 1

③大東文化大学 0 2.5 9.5 8

決勝戦
 明治大学 5 $\begin{pmatrix} 0-0 \\ 4-0 \\ 1-2 \end{pmatrix}$ 2 法政大学

フィギュア

男子シングル1部

- ①竹内 光明 (明治大学) ②谷内 紀友 (近畿大学)
- ③阿部 鉄雄 (日本大学) ④村田 光弘 (明治大学)
- ⑤西川 大祐 (同志社大学) ⑥春木 潤 (盛岡大学)
- ⑦山崎 羊一 (明治大学) ⑧水民 潤 (早稲田大学)

女子シングル1部

- ①青谷いずみ (明治大学) ②梅原 律子 (青山学院大学)
- ③阿部 京子 (専修大学) ④佐藤 享子 (日本大学)
- ⑤樋口美穂子 (中京大学) ⑥三輪真佐江 (明治大学)
- ⑦村岡 直美 (盛岡大学) ⑧西田 美和 (明治大学)

アイスホッケー

1回戦

同志社大学	4-3	東北大学
関西学院大学	7-4	北海道大学
北海学園大学	6-5	大阪商科大学
早稲田大学	15-5	愛知学院大学
東海大学	13-0	熊本大学
中央大学	6-2	大東文化大学
日本大学	10-1	札幌大学
専修大学	4-0	立命館大学
慶應義塾大学	2-1	広島大学
福岡大学	7-2	青山学院大学
中京大学	3-2	成蹊大学
関西大学	9-0	学習院大学
日本体育大学	22-0	九州大学

2回戦

明治大学	11-0	同志社大学
法政大学	17-0	関西学院大学
東海大学	6-3	北海学園大学
早稲田大学	4-2	中央大学
日本大学	15-1	慶應義塾大学
専修大学	15-0	福岡大学
日本体育大学	8-2	中京大学
東洋大学	19-0	関西大学

準々決勝戦

明治大学	8-2	東海大学
法政大学	6-4	早稲田大学
日本大学	16-2	日本体育大学
東洋大学	5-3	専修大学

準決勝戦

明治大学	7-2	日本大学
法政大学	4-1	東洋大学

3位決定戦

日本大学	4-3	東洋大学
------	-----	------

反PAG 明治大学	法政大学 GAP 反
1 0 0 0 福田 仁志	佐藤 篤司 1 0 1 1
0 2 2 0 小野 哲	外久保栄次 0 0 0 1
2 2 1 1 藁沢 智之	橋山 雄一 0 1 1 1
0 1 1 0 藤井 匡智	坂尻 賢一 1 0 1 0
0 0 0 0 西島 貴裕	勝田 紳嗣 0 0 0 1
1 3 0 3 松浦 浩史	高橋 淳一 0 0 0 0
0 0 0 0 白鳥 昭仁	杉浦 正 0 0 0 0
0 0 0 0 井下 孝典	入江 孝明 0 0 0 1
0 0 0 0 小野 修	小平 忠 0 0 0 0
0 0 0 0 山下 一造	杉田 直也 0 0 0 0
0 0 0 0 太田 憲介	富樫 智輝 0 0 0 0
0 1 0 1 佐久慎太郎	山崎 学 0 0 0 0
2 0 0 0 本村 拓也	吉田 準 0 0 0 2
0 1 1 0 日下部克弥	山田 智昭 0 0 0 0
0 0 0 0 平沢 利秀	奥山 竹彦 0 0 0 1
0 0 0 0 矢野 文靖	小林 秀 0 1 1 0
0 0 0 0 伊藤 淳一	川村 一彦 0 0 0 0
1 0 0 0 本郷 尚司	坪井 博二 0 0 0 2
0 0 0 0 成田 務	田名部光弘 0 0 0 0
0 0 0 0 長谷川和宏	宮原 宏行 0 0 0 0
0 0 0 0 湯沢 政典	大高 辰也 0 0 0 0
0 0 0 0 岩崎 伸一	浅坂 正広 0 0 0 0
7 10 5 5 計	2 2 4 10

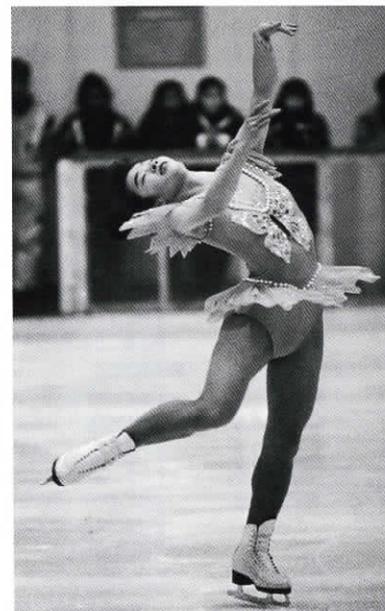
あの朝いつもの日光で

宮部 保範 (慶大OB)

冬の合宿はいつも日光。日光でのインカレに4年間2部で出場した。88年カルガリーを境に有力処が去り日本代表の多くは学生で、インカレ1部は熾烈を極めた。だが2部には派手さもなく、朝早い試合に人影は疎らだった。当時トレーニングをしていてデビューの予感があった。ただ、それまでの選抜大会では歯車がかみ合わず、空回りした未熟な体が出しうる結果に、試合のたびに首を傾けた。

あの2部の500mの朝、正直必要以上の欲はなかった。そこは日々仲間と周回を重ねたリンク、アップを淡々とこなし、念入りにスケートを磨きスタートに向う。号砲とともに体は自ずと動く。密かな予感が初めて手応えとなった。記録は37秒98。欲はなかった。続く1部の面々もこれを上回ることはなかった。しかし2部だ。その日、日光で500mを一番速く滑った。インカレ61回大会500m優勝ではない。どうすれば、予感を現実に変えられるか、あのインカレ2部のレースを通して、実感することができた。あの日が私にとっての、デビューの時だ。張りつめたレースでは得ることのなかったチャンスを、私はあの朝、2部のレースでものにした。

※宮部選手 (慶大) は、男子2部500mに出場し、37秒98で優勝した。これは、1部優勝タイムより0.15秒速いタイムであった。1、2部制を発足させてから17シーズン目の快挙で、幻のチャンピオンと言われた。



フギュア女子優勝の青谷いずみ (明大) の華麗な演技

第62回

平成元年12月21日(日)~24日(水)
 苫小牧ハイランドスポーツセンター

スピード

男子①日本大学 ②専修大学 ③日本体育大学 ④法政大学 ⑤山梨学院大学 ⑥東洋大学
 ⑦明治大学 ⑧筑波大学

女子①中京短期大学 ②日本体育大学 ③専修大学 ④大東文化大学 ⑤山梨学院大学 ⑥筑波大学
 ⑦早稲田大学

フィギュア

男子①明治大学 ②日本大学 ③同志社大学

女子①明治大学 ②日本大学 ③法政大学

アイスホッケー

①法政大学 ②明治大学 ③東洋大学 ④専修大学 ⑤早稲田大学/日本大学/日本体育大学/東海大学

スピード

男子1部500m

- ①黒岩 育生 (日本大学) 3 8.0 0
- ②黒岩 悟 (専修大学) 3 8.3 5
- ③森山 秀実 (日本大学) 3 8.8 9
- ④藤本 祐司 (専修大学) ⑤近藤 広輝 (山梨学院大学)
- ⑥井出 一彦 (専修大学) ⑦道下 隆宏 (法政大学)
- ⑧奥原 親雄 (日本大学)

男子1部1500m

- ①青柳 徹 (日本体育大学) 0 2.0 2.5 0
- ②黒岩 敏幸 (日本大学) 0 2.0 2.8 2
- ③森山 秀実 (日本大学) 0 2.0 3.1 6
- ④藤本 祐司 (専修大学) ⑤清水 祥之 (日本大学)
- ⑥松井 錦次 (日本体育大学) ⑦佐々木俊行 (東洋大学)
- ⑧土屋 純二 (明治大学)

男子1部 5000m

- ①大村 正彦 (専修大学) 0 7.3 5.9 7
- ②清水 祥之 (日本大学) 0 7.4 0.2 4
- ③市川 英彦 (日本体育大学) 0 7.4 1.0 8
- ④佐藤 充裕 (日本大学) ⑤村瀬 宏孝 (法政大学)
- ⑥松井 錦次 (日本体育大学) ⑦岩瀬 秀晃 (法政大学)
- ⑧石原 宏希 (日本体育大学)

男子1部10000m

- ①佐藤 和弘 (専修大学) 1 5.0 6.0 8
- ②大村 正彦 (専修大学) 1 5.2 6.6 6
- ③青柳 徹 (日本体育大学) 1 5.3 4.9 2
- ④中根 則和 (山梨学院大学) ⑤市川 英彦 (日本体育大学)
- ⑥佐藤 充裕 (日本大学) ⑦三宅 賢一 (日本体育大学)
- ⑧折川 典央 (専修大学)

男子1部2000mリレー

- ①日本大学 0 2.3 2.7 6
 (黒岩育生 黒岩敏幸 奥原親雄 森山秀実)
- ②東洋大学 0 2.3 5.8 5

③法政大学

0 2.3 5.8 8

女子500m

- ①椿 文子 (中京短期大学) 4 4.4 4
- ②山北しのぶ (大東文化大学) 4 4.5 0
- ③大月 利恵 (専修大学) 4 4.5 1
- ④小笠原治子 (日本体育大学) ⑤小野田由美 (中京短期大学)
- ⑥高橋 昭子 (日本体育大学) ⑦出羽 清美 (山梨学院大学)
- ⑧山本絵里子 (山梨学院大学)

女子1000m

- ①楠瀬 志保 (日本体育大学) 0 1.2 8.1 4
- ②小野田由美 (中京短期大学) 0 1.3 0.7 1
- ③大月 利恵 (専修大学) 0 1.3 1.0 0
- ④小笠原治子 (日本体育大学) ⑤椿 文子 (中京短期大学)
- ⑥出羽 清美 (山梨学院大学) ⑦山北しのぶ (大東文化大学)
- ⑧川淵 美華 (大東文化大学)

女子1500m

- ①楠瀬 志保 (日本体育大学) 0 2.1 3.7 1
- ②依田智恵子 (筑波大学) 0 2.1 6.0 6
- ③大沢 和世 (山梨学院大学) 0 2.1 9.1 4
- ④田中 恵美 (中京短期大学) ⑤堀内 佳子 (大東文化大学)
- ⑥菊池美千子 (専修大学) ⑦齋藤 香苗 (専修大学)
- ⑧日黒ひとみ (中京短期大学)

女子3000m

- ①田中 恵美 (中京短期大学) 0 4.4 6.2 3
- ②依田智恵子 (筑波大学) 0 4.4 7.9 0
- ③堀内 佳子 (大東文化大学) 0 4.5 2.4 7
- ④大沢 和世 (山梨学院大学) ⑤小軽米智子 (早稲田大学)
- ⑥菊池美千子 (専修大学) ⑦齋藤 香苗 (専修大学)
- ⑧土屋 雪枝 (日本体育大学)

女子2000mリレー

- ①日本体育大学 0 2.5 6.3 4
 (小笠原治子 麻生和代 高橋昭子 楠瀬志保)
- ②中京短期大学 0 2.5 7.0 7

③山梨学院大学

0 3.0 0.4 2

決勝戦

法政大学 7 $\begin{pmatrix} 2-2 \\ 1-1 \\ 4-2 \end{pmatrix}$ 5 明治大学

フィギュア

男子シングル1部

- ①竹内 光明 (明治大学) ②谷内 紀友 (近畿大学)
- ③西川 大祐 (同志社大学) ④白井 将人 (日本大学)
- ⑤菊池 大介 (専修大学) ⑥塩谷 健 (明治大学)
- ⑦薄田 隆哉 (明治大学) ⑧水尻 潤 (早稲田大学)

女子シングル1部

- ①青谷いづみ (明治大学) ②荻野由香子 (福山女学園大学)
- ③西田 美和 (明治大学) ④柏木 深幸 (関西大学)
- ⑤村岡 直美 (盛岡大学) ⑥佐藤 享子 (日本大学)
- ⑦重野富士子 (法政大学) ⑧結城 幸枝 (明治大学)

アイスホッケー

1回戦

中央大学	2 9-1	熊本大学	
東北大学	4-1	広島修道大学	
立命館大学	1 5-2	成蹊大学	
大東文化大学	4-4	福岡大学	
	(PS 3-2)		
早稲田大学	1 3-1	北海道工業大学	
日本体育大学	1 5-2	大阪商科大学	
専修大学	8-0	愛知学院大学	
札幌大学	1 4-0	名古屋大学	
東海大学	2-0	北海学園大学	
関西大学	2-0	横浜国立大学	
同志社大学	7-1	明治学院大学	
東洋大学	1 3-1	札幌医科大学	
慶應義塾大学	7-4	関西学院大学	

2回戦

東洋大学	5-3	中央大学	
日本大学	1 0-0	東北大学	
早稲田大学	1 0-2	立命館大学	
専修大学	4-1	大東文化大学	
日本体育大学	6-3	札幌大学	
東海大学	6-1	同志社大学	
東洋大学	1 4-2	関西大学	
法政大学	1 2-1	慶應義塾大学	

準々決勝戦

明治大学	9-5	早稲田大学	
専修大学	8-4	日本大学	
東洋大学	1 3-0	日本体育大学	
法政大学	1 2-1	東海大学	

準決勝戦

明治大学	2-2	東洋大学	
	(PS 3-2)		
法政大学	5-1	専修大学	

3位決定戦

東洋大学	6-4	専修大学	
------	-----	------	--

反PAG 法政大学

0 0 0 0	入江 聡
0 0 0 0	外久保栄次
0 3 0 3	高橋 淳一
0 1 0 1	坂尻 賢一
0 3 1 2	入江 孝明
0 2 2 0	勝田 神嗣
0 0 0 0	杉浦 正
0 0 0 0	富樫 智輝
0 0 0 0	小平 忠
0 0 0 0	高橋 英児
0 0 0 0	嘉悦 一寿
0 0 0 0	松田 満
0 0 0 0	川村 一彦
1 1 1 0	奥山 竹彦
1 1 0 1	山田 智昭
0 1 1 0	小林 秀
0 0 0 0	大山 貴広
0 0 0 0	田名部光弘
0 0 0 0	佐々木 崇
0 0 0 0	岸 耕太郎
0 0 0 0	鈴木 秀之
---	浅坂 正広
2 12 5 7	計

明治大学 GAP 反

小野 修	0 0 0 0
小野 哲	0 0 0 0
藤井 匡智	1 0 1 0
松浦 浩史	1 1 2 1
引木 達也	0 1 1 0
西島 貴裕	2 0 2 0
出町 大輔	0 0 0 0
村上 裕幸	1 0 1 1
佐久慎太郎	0 0 0 0
大田 憲介	0 0 0 0
永田圭之進	0 0 0 0
葛西 弘和	0 0 0 0
高松 一弘	0 0 0 1
本間 靖之	0 0 0 0
矢野 文靖	0 0 0 0
伊東 淳一	0 0 0 0
平沢 利秀	0 0 0 0
本郷 尚司	0 0 0 0
鄭 東民	0 0 0 0
村田 覚	0 0 0 0
岩崎 伸一	0 0 0 0
笹田 啓明	---
5 2 7 3	計

「7年ぶりのインカレ優勝」

岡本 季充 (法大OB)

62回大会は18年ぶりに日光を離れ苦小牧での開催となりました。

私が入部する以前の56回大会から61回大会までの6年間、我校はインカレ優勝から遠ざかっており、4年生にとって最後になるこの大会こそはと、日々の練習に励みベストコンディションで大会に臨みました。

直前の関東大学アイスホッケーリーグで優勝し、チームのモチベーションは最高でしたし、外久保主将以下、チームの一体感も最高の状態でした。

大会がはじまり、順調にトーナメントを勝ち進み、12月24日強豪明治大学との決勝戦を迎えました。

フェイスオフから試合終了までの間、一進一退の攻防の中高橋のハットトリックや、鈴木的好守で接戦を制し、悲願の7年ぶりの優勝を飾る事が出来ました。

日々の努力が結果につながるということをこのときほど感じたことはありませんでした。



7年ぶりの優勝を決め喜ぶ法大チーム

第63回

平成2年 12月21日(日)～24日(水)
青森県八戸市長根公園スケートセンター

スピード

男子①日本大学 ②専修大学 ③日本体育大学 ④山梨学院大学 ⑤明治大学 ⑥東洋大学
⑦法政大学 ⑧大東文化大学

女子①日本体育大学 ②山梨学院大学 ③中京短期大学 ④大東文化大学 ⑤専修大学 ⑥筑波大学
⑦秋田大学 ⑧山形女子短期大学

フィギュア

男子①日本大学 ②明治大学 ③専修大学

女子①日本大学 ②明治大学 ③専修大学

アイスホッケー

①早稲田大学 ②明治大学 ③日本大学 ④東洋大学 ⑤法政大学/日本体育大学/中央大学/慶應義塾大学

スピード

男子1部500m

①黒岩 敏幸 (日本大学) 3 7.5 5
②井上 純一 (日本大学) 3 7.7 4
③藤本 祐司 (専修大学) 3 8.0 8
④浜道 隆寛 (日本大学) ⑤井出 一彦 (専修大学)
⑥菊池由喜男 (山梨学院大学) ⑦堀井 学 (専修大学)
⑧村崎 匡裕 (東洋大学)

男子1部1500m

①青柳 徹 (日本体育大学) 0 2.0 1.0 4
②黒岩 敏幸 (日本大学) 0 2.0 1.0 8
③松井 錦次 (日本体育大学) 0 2.0 2.3 9
④清水 祥之 (日本大学) ⑤小原 聡 (専修大学)
⑥荒井 律生 (明治大学) ⑦松坂 直樹 (山梨学院大学)
⑧菊地 清司 (日本体育大学)

男子1部 5000m

①黒岩 正行 (日本大学) 0 7.1 7.5 8
②岩下 清人 (専修大学) 0 7.2 0.4 4
③松井 錦次 (日本体育大学) 0 7.2 1.3 4
④瀧口 一樹 (日本大学) ⑤大村 正彦 (専修大学)
⑥黒沢 政弘 (山梨学院大学) ⑦折川 典央 (専修大学)
⑧清水 祥之 (日本大学)

男子1部10000m

①黒岩 正行 (日本大学) 1 5.4 2.4 9
②青柳 徹 (日本体育大学) 1 5.4 5.6 5
③遠藤 亮治 (日本体育大学) 1 5.5 9.2 1
④大村 正彦 (専修大学) ⑤高村 竜司 (日本大学)
⑥三宅 賢一 (日本体育大学) ⑦大山 祥輔 (明治大学)
⑧佐藤 英則 (明治大学)

男子1部2000mリレー

①日本大学 0 2.3 1.2 3
(井上純一 塚原倫朗 浜道隆寛 黒岩敏幸)
②専修大学 0 2.3 2.8 8

スピード

③東洋大学 0 2.3 3.3 5

女子500m

①門田 千代 (日本体育大学) 4 2.8 2
②山本絵里子 (山梨学院大学) 4 3.3 5
③山北しのぶ (大東文化大学) 4 3.4 3
④大月 利恵 (専修大学) ⑤出羽 清美 (山梨学院大学)
⑥山本 尚子 (日本体育大学) ⑦五十嵐 環 (秋田大学)
⑧紙谷 三奈 (中京短期大学)

女子1000m

①楠瀬 志保 (日本体育大学) 0 1.2 7.4 3
②大月 利恵 (専修大学) 0 1.2 8.2 2
③紙谷 三奈 (中京短期大学) 0 1.2 9.3 3
④門田 千代 (日本体育大学) ⑤山本絵里子 (山梨学院大学)
⑥五十嵐 環 (秋田大学) ⑦坂下 香里 (中京短期大学)
⑧三野宮 環 (山形女子短期大学)

女子1500m

①楠瀬 志保 (日本体育大学) 0 2.1 4.7 4
②堀内 佳子 (大東文化大学) 0 2.1 6.3 3
③上原 三枝 (日本体育大学) 0 2.1 6.3 5
④田中 恵美 (中京短期大学) ⑤飯島恵美子 (筑波大学)
⑥三野宮 環 (山形女子短期大学) ⑦小軽米智子 (早稲田大学)
⑧大沢 和世 (山梨学院大学)

女子3000m

①上原 三枝 (日本体育大学) 0 4.4 7.0 7
②堀内 佳子 (大東文化大学) 0 4.4 8.4 0
③飯島恵美子 (筑波大学) 0 4.4 9.0 7
④大沢 和世 (山梨学院大学) ⑤田中 恵美 (中京短期大学)
⑥齋藤 香苗 (専修大学) ⑦小軽米智子 (早稲田大学)
⑧高橋真理子 (日本体育大学)

女子2000mリレー

①日本体育大学 0 2.5 5.9 5
(門田千代 上原三枝 山本尚子 楠瀬志保)
②山梨学院大学 0 2.5 7.8 7

③中京短期大学 0 2 . 5 9 . 4 4

フィギュア

男子シングル1部

- ①小山 朋昭 (日本大学) ②村田 光弘 (明治大学)
- ③菊池 大介 (専修大学) ④白井 将人 (日本大学)
- ⑤岩崎 努 (法政大学) ⑥水民 潤 (早稲田大学)
- ⑦中村 和 (日本大学) ⑧薄田 隆哉 (明治大学)

女子シングル1部

- ①青谷いずみ (明治大学) ②須田 敦子 (明治大学)
- ③西 優子 (日本大学) ④坂積真三子 (日本大学)
- ⑤白戸 陽子 (東京女子体育大学) ⑥荻野由香子 (桐山女学院大学)
- ⑦柏木 深幸 (関西大学) ⑧梅原 律子 (青山学院大学)

アイスホッケー

1回戦

国土館大学	9-2	九州産業大学
大東文化大学	3-3	同志社大学
(PS 3-2)		
横浜国立大学	8-0	島根大学
早稲田大学	12-2	北海学園大学
福岡大学	9-7	八戸大学
日本大学	19-1	京都産業大学
日本体育大学	8-6	東北学院大学
北海道工業大学	17-2	愛媛大学
立命館大学	10-4	東海大学
札幌大学	12-3	名古屋大学
慶應義塾大学	13-0	中京大学
中央大学	5-4	専修大学
青山学院大学	4-4	関西学院大学

(PS 2-1)		
東洋大学	12-1	関西大学

2回戦

法政大学	13-0	国土館大学
東洋大学	5-2	大東文化大学
早稲田大学	16-3	横浜国立大学
日本体育大学	5-3	福岡大学
日本大学	20-0	北海道工業大学
慶應義塾大学	9-3	立命館大学
中央大学	6-0	札幌大学
明治大学	20-1	青山学院大学

準々決勝戦

早稲田大学	4-1	法政大学
東洋大学	10-0	日本体育大学
日本大学	8-2	中央大学
明治大学	11-0	慶應義塾大学

準決勝戦

早稲田大学	7-2	日本大学
明治大学	7-1	東洋大学

3位決定戦

日本大学 5-3 東洋大学

決勝戦

早稲田大学 4 $\begin{pmatrix} 1-2 \\ 2-0 \\ 1-1 \end{pmatrix}$ 3 明治大学

反 P A G 早稲田大学	明治大学 G A P 反
1 2 1 1 林 雅隆	戸部 政人 0 0 0 0
1 2 0 2 荒沢 義寛	西島 貴裕 0 0 0 1
0 0 0 0 雨宮 義昭	白鳥 昭仁 0 0 0 1
2 0 0 0 小笠原光則	小野 修 0 0 0 1
2 0 0 0 助川 淳二	引木 達也 0 2 2 1
0 0 0 0 斉藤 出	松浦 浩史 2 1 3 1
0 0 0 0 雨宮 秀寿	出町 教輔 0 0 0 0
0 0 0 0 樹川 浩司	村上 裕幸 1 0 1 1
0 0 0 0 橋本 達明	佐久慎太郎 0 0 0 0
0 0 0 0 児玉知三郎	出町 大輔 0 0 0 0
0 0 0 0 岡田 光雄	永田圭之進 0 0 0 0
0 0 0 0 手賀 義孝	栗橋 淳 0 0 0 0
0 1 1 0 小堀 恭之	高松 一弘 0 0 0 0
1 0 0 0 岡崎 達也	平沢 利秀 0 0 0 0
0 0 0 0 土田 健一	高橋 哲之 0 1 1 0
0 3 2 1 岡田 直人	矢野 文靖 0 0 0 0
0 0 0 0 小村 肇	本間 靖之 0 0 0 1
0 0 0 0 宮川 健次	大田 憲介 0 0 0 0
0 0 0 0 島田 基行	岡田 一実 0 0 0 0
0 0 0 0 赤羽 弘明	村田 覚 0 0 0 0
0 0 0 0 内藤 正樹	岩崎 伸一 0 0 0 0
0 0 0 0 仲見 真樹	山田 雅之 0 0 0 0
7 8 4 4	計 3 4 7 7

仲間との楽しい時

森野 志保 (日体大OB)

一年生のインカレ、開会式で4連場を達成した先輩の表彰式を見て「すごい人も居るものだな」と心から拍手を送った。1500mでの思いがけない優勝に、このまま4年間勝ち続けられたらと少し夢を見た。その翌年も勝ち、迎えた63回八戸大会…。

気合の入る大会前は無性に髪の毛を切りたくなる私、この時もちり切った。正直言ってレースの記憶はゼロ。しかし、思い出深い大会だった事は間違いなく、絶対勝てないと思っていた1500mで3連覇を果たした時は心底ほっとした。又、全日本の大会と違い、インカレだけは部員が勢揃いするので嬉しかった。後輩が彼へのクリスマスプレゼント用のセーターが編み上がらずに困っていたのを手伝ったり、大部屋でがやがや過ごした時間が懐かしい。大会後、4年生と女子を食事に連れて行ってくれた田中先生。みんながウニだ海老だと調子づいて頼むものだから、請求額が二十万円超…渋々カードを出す困り果てた顔は、語り草となっており今まで思い出すたびに笑いがこみあげる。ご馳走様でした。

どちらかと言うとスケートに集中しきれてなかったけど、「仲間との楽しい時」が凝縮された4年間をずっと愛しく思っている。

氷上で歌う「都の西北」

林 雅隆 (早大OB)

第63回大会の戦力を振り返ってみると、インカレ前の秋季リーグ戦を圧倒的な力で制した明治が優勝の大本命であった。松浦、岩崎、西島、引木、村上等々錚々たる顔ぶれで早稲田は三年の小堀、荒澤、樹川の三羽鳥がチームの中心であった。

リーグ戦終了後、インカレに向け「しっかり守ってから攻める」というテーマのもと盛岡にて事前合宿を行い、八戸入りした。そして大会が始まり、順調に勝ち上がり、決勝で明治と戦うことになった。ここまで、早稲田は地元八戸出身の助川、小笠原、斉藤の奮闘とGK内藤の堅守など、四年の活躍が目をつけた。

決勝戦、八戸新井田リンクは超満員で両校OBのエル交換など、盛り上がりは最高潮。中野監督はチームの中心である三羽鳥を試合状況によって組み替え、明治の意表を突いた。そして、少ないチャンスを確実に決め、4対3で勝利することが出来た。チーム全員が体を張って守り、一丸となれたのは当時、病を患い、病床にいた前監督の吉島さんに「優勝報告をするぞ」という想いだった。試合後、氷上で歌った校歌は今でも最高の思い出だ。

第64回

平成3年12月21日(日)~24日(水)
北海道帯広市 帯広の森スピードスケート場

スピード

- 男子①日本大学 ②専修大学 ③日本体育大学 ④山梨学院大学 ⑤明治大学 ⑥東洋大学
⑦法政大学 ⑧関東学院大学
女子①日本体育大学 ②山梨学院大学 ③大東文化大学 ④秋田大学 ⑤専修大学
⑥山形女子短期大学 ⑦中京短期大学 ⑧東京女子体育大学

フィギュア

- 男子①明治大学 ②日本大学 ③同志社大学
女子①日本大学 ②東洋大学 ③同志社大学

アイスホッケー

- ①明治大学 ②早稲田大学 ③東洋大学 ④日本大学 ⑤慶應義塾大学/立命館大学/中央大学/法政大学

スピード

男子1部500m

- ①堀井 学 (専修大学) 38.2.2
②浜道 隆寛 (日本大学) 38.2.6
③菊池由喜男 (山梨学院大学) 38.4.7
④後村 文範 (日本大学) ⑤藤本 祐司 (専修大学)
⑥井上 純一 (日本大学) ⑦佐藤 康成 (専修大学)
⑧加藤 将司 (東洋大学)

男子1部1500m

- ①清水 祥之 (日本大学) 02.00.0.66
②鈴木幸太郎 (専修大学) 02.01.5.0
③松井 錦次 (日本体育大学) 02.02.0.0
④小原 聡 (専修大学) ⑤荒井 律生 (明治大学)
⑥澤口 一樹 (日本大学) ⑦菊池 清司 (日本体育大学)
⑧荒木 徳彦 (専修大学)

男子1部 5000m

- ①黒岩 正行 (日本大学) 07.25.8.1
②高村 竜司 (日本大学) 07.27.7.2
③清水 祥之 (日本大学) 07.28.2.3
④山下 洋明 (専修大学) ⑤松井 錦次 (日本体育大学)
⑥大村 正彦 (専修大学) ⑦遠藤 亮亮 (日本体育大学)
⑧大山 祥輔 (明治大学)

男子1部10000m

- ①黒岩 正行 (日本大学) 15.11.7.5
②大村 正彦 (専修大学) 15.18.4.5
③大山 祥輔 (明治大学) 15.22.6.6
④岩下 清人 (専修大学) ⑤高村 竜司 (日本大学)
⑥三宅 英美 (専修大学) ⑦佐藤 充裕 (日本大学)
⑧板東 力 (日本体育大学)

男子1部2000mリレー

- ①日本大学 02.33.4.6
(浜道隆寛 後村文範 塚原倫朗 井上純一)
②山梨学院大学 02.34.2.4

③東洋大学

02.34.8.4

女子500m

- ①野村 和代 (日本体育大学) 43.5.6
②門田 千代 (日本体育大学) 43.7.7
③出羽 清美 (山梨学院大学) 43.8.5
④大月 利恵 (専修大学) ⑤山北しのぶ (大東文化大学)
⑥小池 好美 (東京女子体育大学) ⑦佐藤千栄子 (中京短期大学)
⑧相坂美香子 (東京女子体育大学)

女子1000m

- ①楠瀬 志保 (筑波大学) 01.26.1.7
②山本絵里子 (山梨学院大学) 01.29.2.9
③出羽 清美 (山梨学院大学) 01.30.6.1
④山本 尚子 (日本体育大学) ⑤山北しのぶ (大東文化大学)
⑥佐藤千栄子 (中京短期大学) ⑦相坂美香子 (東京女子体育大学)
⑧佐々木直子 (中京短期大学)

女子1500m

- ①上原 三枝 (日本体育大学) 02.14.9.1
②楠瀬 志保 (日本体育大学) 02.15.9.7
③堀内 佳子 (大東文化大学) 02.20.0.1
④三野宮 環 (山形女子短期大学) ⑤若宮 育子 (秋田大学)
⑥菊池美千子 (専修大学) ⑦飯島恵美子 (筑波大学)
⑧鈴木 聡子 (山梨学院大学)

女子3000m

- ①上原 三枝 (日本体育大学) 04.44.4.3
②堀内 佳子 (大東文化大学) 04.46.6.6
③若林 育子 (秋田大学) 04.53.0.8
④大沢 和世 (山梨学院大学) ⑤土屋 雪枝 (日本体育大学)
⑥三野宮 環 (山形女子短期大学) ⑦菊池美千子 (専修大学)
⑧飯島恵美子 (筑波大学)

女子2000mリレー

- ①日本体育大学 02.51.0.3
(野村和代 門田千代 山本尚子 楠瀬志保)
②山梨学院大学 02.53.8.4

③大東文化大学

03.00.9.0

フィギュア

男子シングル1部

- ①村田 光弘 (明治大学) ②竹内 光明 (明治大学)
③岩崎 努 (法政大学) ④谷内 悟史 (近畿大学)
⑤白井 将人 (日本大学) ⑥西川 大祐 (同志社大学)
⑦塩谷 務 (明治大学) ⑧小山 朋昭 (日本大学)

女子シングル1部

- ①今川 知子 (甲南女子大学) ②須田 敦子 (明治大学)
③坂橋真三子 (日本大学) ④西 優子 (日本大学)
⑤酒井亜由美 (同志社大学) ⑥山本 雅江 (東洋大学)
⑦吉田 了美 (日本大学) ⑧白戸 陽子 (東京女子体育大学)

アイスホッケー

1回戦

- | | | |
|---------|------|--------|
| 京都大学 | 2-1 | 帯広畜産大学 |
| 日本大学 | 23-0 | 岡山大学 |
| 札幌大学 | 13-2 | 名古屋大学 |
| 大東文化大学 | 15-2 | 関西大学 |
| 慶應義塾大学 | 5-1 | 専修大学 |
| 立命館大学 | 9-1 | 立教大学 |
| 中央大学 | 11-1 | 同志社大学 |
| 日本体育大学 | 8-1 | 八戸大学 |
| 北海道工業大学 | 5-1 | 愛知大学 |
| 法政大学 | 26-0 | 関西学院大学 |
| 福岡大学 | 2-0 | 明治学院大学 |
| 北海道大学 | 5-1 | 京都産業大学 |
| 東洋大学 | 7-1 | 東海大学 |
| 国士舘大学 | 3-0 | 九州大学 |

2回戦

- | | | |
|--------|------|---------|
| 早稲田大学 | 19-0 | 京都大学 |
| 日本大学 | 13-2 | 大東文化大学 |
| 慶應義塾大学 | 8-6 | 札幌大学 |
| 立命館大学 | 6-2 | 日本体育大学 |
| 中央大学 | 11-0 | 北海道工業大学 |
| 法政大学 | 16-0 | 北海道大学 |
| 東洋大学 | 8-0 | 福岡大学 |
| 明治大学 | 24-2 | 国士舘大学 |

準々決勝戦

- | | | |
|-------|------|--------|
| 早稲田大学 | 12-1 | 慶應義塾大学 |
| 日本大学 | 6-2 | 立命館大学 |
| 東洋大学 | 3-2 | 中央大学 |
| 明治大学 | 11-7 | 法政大学 |

準決勝戦

- | | | |
|-------|-----|------|
| 早稲田大学 | 8-2 | 東洋大学 |
| 明治大学 | 5-3 | 日本大学 |

3位決定戦

- | | | |
|------|-----|------|
| 東洋大学 | 4-3 | 日本大学 |
|------|-----|------|

決勝戦

明治大学 7 (5-0, 1-2, 1-2) 4 早稲田大学

反PAG 明治大学

- | | |
|-------|-------|
| 1211 | 村上 雅章 |
| 0312 | 村上 裕之 |
| 2110 | 平田 耕司 |
| 0211 | 戸部 政人 |
| 1321 | 引木 達也 |
| 1211 | 出町 教輔 |
| 0101 | 小林 智紀 |
| 2000 | 井原 将 |
| 0110 | 中村 直樹 |
| 0000 | 熊谷 和哉 |
| 0000 | 田村 鎮宏 |
| 0000 | 大田 憲介 |
| 0000 | 高橋 哲之 |
| 0000 | 矢野 文靖 |
| 0000 | 本間 靖之 |
| 1110 | 平沢 利秀 |
| 0000 | 金田 寛行 |
| 1000 | 松本 誠 |
| 0000 | 岡田 一実 |
| 0000 | 本郷 尚司 |
| 0000 | 山田 雅之 |
| 0000 | 佐良土雅久 |
| 91697 | 計 |

早稲田大学 GAP 反

- | | |
|-------|------|
| 根本 博士 | 0000 |
| 樹川 裕司 | 2241 |
| 上山 寛道 | 0000 |
| 手賀 義孝 | 0000 |
| 荒沢 義寛 | 0116 |
| 雨宮 隆昭 | 0000 |
| 児玉知三郎 | 0000 |
| 岡崎 達也 | 0000 |
| 雨宮 秀寿 | 0000 |
| 田島 淳一 | 0000 |
| 小中 真 | 0000 |
| 松谷 憲孝 | 0000 |
| 小堀 恭之 | 1121 |
| 沢口 誠介 | 0000 |
| 土田 健一 | 1010 |
| 岡田 直人 | 0000 |
| 島田 基行 | 0000 |
| 小村 肇 | 0000 |
| 木村 真嘉 | 0000 |
| 坂上 傑 | 0000 |
| 柴田 浩伸 | 0000 |
| 仲見 真樹 | 0000 |
| 4488 | 計 |



5,000m、10,000mを制覇した黒岩正行選手（日大）

「個々の技術とチームの結束力」

矢野 文靖（明大OB）

大学生活において私が身を持って体験したのが、「チームとして結束していなければ、いかに個々が優れた技術を持っていても勝利には結びつかない」ということです。

チームの結束力の大切さは、幾度となく聞き教えられてきた訳ですが、身を持って体験したのは、大学4年のインカレの時でした。

当時明治大学は、他校を寄せ付けぬ戦力を誇り、秋のリーグ戦の予選では、全勝で1位通過。しかし、決勝トーナメント初戦でこれまで一度も破れた事のない中央大学に破れ姿を消す事となってしまいました。

このリーグ戦敗退後、コーチ宅にて話し合いがもたれました。意気揚がる学生が自分を抑えることなく正直な気持ちを、仲間・コーチにぶつけた訳ですから、途中一触即発の雰囲気にもなりました。個々の「がむしゃらに勝ちたい」という気持だけでは「チームの勝利へは結びつかない」、勝つためには何が必要なのか、何が欠落していたのか…最終的な答えは、「チームの結束力」、誰もが知っているチームワークだったのです。当たり前といえば当たり前すぎる結論でしたが、その認識は私達の力をより一層発揮させてくれるものとなりました。

本当の意味で一つの目標を理解し臨んだインカレは圧倒的な強さで、優勝という最高の形で終えることができました。その時味わった喜びと感動、またそれを味わうための過程は、今も忘れることのできない最高の思い出であり財産となっております。

第65回

平成4年12月20日(日)～23日(水)
アーデル霧降スポーツパレイ

スピード

- 男子①日本大学 ②専修大学 ③山梨学院大学 ④日本体育大学 ⑤東洋大学 ⑥法政大学
⑦大東文化大学 ⑧明治大学
女子①日本体育大学 ②山梨学院大学 ③大東文化大学 ④東京女子体育大学 ⑤早稲田大学
⑥中京短期大学 ⑦秋田大学 ⑧埼玉大学

フィギュア

- 男子①日本大学 ②明治大学 ③法政大学
女子①日本大学 ②同志社大学 ③東洋大学

アイスホッケー

- ①明治大学 ②東洋大学 ③早稲田大学 ④中央大学 ⑤専修大学/法政大学/日本大学/慶應義塾大学

スピード

男子1部500m

- ①堀井 学（専修大学） 37.19
②浜道 隆寛（日本大学） 37.36
③井上 純一（日本大学） 37.45
④藤本 祐司（専修大学）⑤出羽 秀敏（山梨学院大学）
⑥後村 文範（日本大学）⑦佐藤 康成（専修大学）
⑧前川 佳奈己（東洋大学）

男子1部1000m

- ①清水 宏保（日本大学） 01.14.87
②井上 純一（日本大学） 01.14.99
③堀井 学（専修大学） 01.15.32
④藤本 祐司（専修大学）⑤出羽 秀敏（山梨学院大学）
⑥黒沢 誠（日本体育大学）⑦佐藤 康成（専修大学）
⑧浜道 隆寛（日本大学）

男子1部1500m

- ①清水 宏保（日本大学） 01.59.44
②村中 賢治（山梨学院大学） 01.59.69
③松井 錦次（日本体育大学） 01.59.94
④黒岩 哲（日本大学） ⑤黒沢 誠（日本体育大学）
⑥折川 典央（専修大学）⑦松坂 直樹（山梨学院大学）
⑧三宅 賢一（日本体育大学）

男子1部 5000m

- ①澤口 一樹（日本大学） 07.27.04
②高村 竜司（日本大学） 07.28.00
③篠原 淳晃（日本体育大学） 07.28.71
④白幡 圭史（専修大学） ⑤小原 聡（専修大学）
⑥大槻 嘉（山梨学院大学）⑦村中 賢治（山梨学院大学）
⑧黒岩 正行（日本大学）

男子1部10000m

- ①白幡 圭史（専修大学） 15.03.57
②高村 竜司（日本大学） 15.30.46
③大槻 嘉（山梨学院大学） 15.32.41

- ④遠藤 亮治（日本体育大学）⑤篠原 淳晃（日本体育大学）
⑥黒岩 正行（日本大学） ⑦澤口 一樹（日本大学）
⑧川原木徳友（法政大学）

男子1部2000mリレー

- ①専修大学 02.30.68
（堀井学 佐藤康成 横尾光博 藤本祐司）
②山梨学院大学 02.33.17
③東洋大学 02.34.10

女子500m

- ①門田 千代（日本体育大学） 42.42
②山本絵里子（山梨学院大学） 42.51
③野村 和代（日本体育大学） 42.90
④市川もとよ（山梨学院大学）⑤五味 利恵（大東文化大学）
⑥田中 千景（東京女子体育大学）⑦山北しのぶ（大東文化大学）
⑧小池 好美（東京女子体育大学）

女子1000m

- ①門田 千代（日本体育大学） 01.26.56
②小林 和代（大東文化大学） 01.26.67
③山本絵里子（山梨学院大学） 01.26.97
④田中 千景（東京女子体育大学）⑤長岡 弥生（早稲田大学）
⑥五味 利恵（大東文化大学）⑦野村 和代（日本体育大学）
⑧市川もとよ（山梨学院大学）

女子1500m

- ①上原 三枝（日本体育大学） 02.08.61
②長岡 弥生（早稲田大学） 02.15.52
③大沢 和世（山梨学院大学） 02.16.05
④小林 和代（大東文化大学）⑤佐々木清美（中京短期大学）
⑥小林 栄子（山梨学院大学）⑦若林 育子（秋田大学）
⑧名取 美香（日本体育大学）

女子3000m

- ①上原 三枝（日本体育大学） 04.36.29
②堀内 佳子（大東文化大学） 04.51.18
③大沢 和世（山梨学院大学） 04.52.76

- ④土屋 雪枝 (日本体育大学) ⑤小林 栄子 (山梨学院大学)
- ⑥若林 育子 (秋田大学) ⑦佐々木清美 (中京短期大学)
- ⑧黒沢 円 (東京女子体育大学)

女子2000mリレー

- ①山梨学院大学 0 2.5 1.3 1
(山本絵里子 大貫真希 小野寺郁子 市川ともよ)
- ②大東文化大学 0 2.5 6.7 5
- ③東京女子体育大学 0 2.5 7.1 1

フィギュア

男子シングル1部

- ①小山 朋昭 (日本大学) ②岩崎 努 (法政大学)
- ③竹内 義明 (明治大学) ④谷内 悟史 (近畿大学)
- ⑤白井 将人 (日本大学) ⑥天野 真 (明治大学)
- ⑦及川 史弘 (早稲田大学) ⑧浅井健太郎 (明治大学)

女子シングル1部

- ①浅沼 まり (同志社大学) ②今川 知子 (甲南女子大学)
- ③山本 雅江 (東洋大学) ④西 優子 (日本大学)
- ⑤坂橋真三子 (日本大学) ⑥奥山 容子 (同志社大学)
- ⑦須田 敦子 (明治大学) ⑧吉田 了美 (日本大学)

アイスホッケー

1回戦

東海大学	3-0	関西学院大学
東北学院大学	9-2	京都大学
同志社大学	15-1	北海道大学
日本体育大学	4-3	関西大学
専修大学	4-3	立命館大学
法政大学	8-0	福岡大学
中央大学	16-0	久留米大学
慶應義塾大学	7-1	上智大学
国士舘大学	16-1	名古屋大学
札幌大学	10-1	岡山大学
大東文化大学	16-0	中京大学
愛知学院大学	10-3	北海道工業大学
日本大学	11-0	八戸大学

2回戦

明治大学	15-2	東海大学
東洋大学	20-2	東北学院大学
専修大学	7-1	同志社大学
法政大学	8-0	日本体育大学
中央大学	7-2	国士舘大学
慶應義塾大学	6-1	札幌大学
日本大学	6-3	大東文化大学
早稲田大学	14-1	愛知学院大学

準々決勝戦

明治大学	15-1	専修大学
東洋大学	7-4	法政大学
中央大学	4-3	日本大学
早稲田大学	10-2	慶應義塾大学

準決勝戦

明治大学	11-1	中央大学
東洋大学	3-2	早稲田大学

3位決定戦

早稲田大学	4-2	中央大学
-------	-----	------

決勝戦

明治大学	10	2	東洋大学
	(4-0)		
	(2-2)		
	(4-0)		

反PAG 明治大学

1000	高橋 哲之
1000	煤孫 泰司
1110	金田 寛行
1000	引木 雅章
0000	本間 靖之
0000	松本 誠
0110	狩野 豊
0000	林 誠司
1220	平田 耕司
1202	村上 裕幸
2321	村上 雅章
0413	戸部 政人
0110	中村 直樹
0211	小林 智紀
0422	出町 教輔
0211	井原 将
0220	井原 朗
1000	木立 章義
0000	熊谷 和哉
1000	板橋 伸一
0000	山田 雅之
0000	佐良土雅久
10241410	計

東洋大学 GAP 反

0000	宮嶋 譲
0110	山野 剛
0110	南條 直樹
0000	松浦 智哉
0002	マイク・ラローズ
0000	梶川 貴之
0000	前島 臣政
0000	高橋 勝則
1010	川瀬 哲哉
0001	久保 英樹
0000	築瀬 研一
0000	佐藤 博人
1010	数野 哲史
0000	谷 一将
0000	遠藤 順司
0000	森 雅明
0000	山崎 宏二
0001	中村 道考
0000	石山 雅啓
0000	成田 智
0000	石原 寛
0000	黒川 修平
2244	計

プレッシャーとの戦い

上原 三枝 (日体大OB)

「上原さん、3000M終わりました。」後輩が私のもとに走ってくる。どうやら朝寝すごし、自分のレースに遅れたようだ。「そんな…4連覇かかったのに…」がっくりと肩を落とした瞬間に目が覚める。四年生になってから何度も何度もこの夢を見ました。

一年生で幸運にも3000Mで優勝できてからそのプレッシャーと付き合うことになりました。なんだかよくわからず滑った一年。二年の時にはレース直前、一五分前に靴の紐が切れ、慌てて先輩の紐を借りて出場。三年では女子の総合得点争いを考えると絶対に負けられない状況。四年の時には例の悪夢が本当になるのではないかと前日なかなか寝付くことができなかった。連覇が重なる度、自分が自分にかかるプレッシャーはどんどん膨みました。4回という限られたチャンスを全て生かすというのは何かの条件が一つでもずれていたら、叶わなかったことだと思います。そんな中で少しだけの強運と周りの皆さんの温かい支えのおかげで四連覇を成しとげられました。四年の時是一年間ずいぶん悩まされましたが、今考えると、学生にしか作ることができないよい思い出ができました。

自分を育てたインカレ

白幡 圭史 (専修大OB)

初めてのインカレ、インターハイとは違い異様なまでの雰囲気だった。この時、初めて滑るのが恐く感じた時だった。個人の戦いとは違い、自分の力だけでなく部全員の力がひとつになって滑る緊張感があった。10000M、25周ではあるが、100分の1秒まで大切に滑り切った。

栃木県日光市、当日の気温も上がり10000Mのレースとしてはかなりきついレースだった。滑っている時も汗がふき出て、氷の状態もやわらかかった。ただ一歩ずつしっかりと前に進むことしか考えていなかった。途中とても苦しく何度もくじけそうになったが、リンクサイドで真剣に応援してくれる先輩たちを見て死にものぐるいで滑りきった。けっして一人で滑ったのではなく、皆で滑りきった充実感があった。結果は15分1秒と自己記録にはおぼなかつたものの、当時のリンクレコードで優勝することができた。個人スポーツでありながら、チームの大切さを知った大会でもあった。とくに今大会は、今後の自分を大きく飛躍させた大会であった。

第66回

平成6年1月6日(日)～9日(水)
長野県軽井沢市 軽井沢スケートセンター

スピード

- 男子①日本大学 ②専修大学 ③日本体育大学 ④山梨学院大学 ⑤東洋大学 ⑥法政大学
⑦筑波大学 ⑧大東文化大学
女子①日本体育大学 ②山梨学院大学 ③大東文化大学 ④早稲田大学 ⑤信州大学
⑥東京女子体育大学 ⑦秋田大学 ⑧中京短期大学

フィギュア

- 男子①明治大学 ②早稲田大学 ③法政大学
女子①明治大学 ②専修大学 ③立命館大学

アイスホッケー

- ①明治大学 ②東洋大学 ③早稲田大学 ④中央大学 ⑤立命館大学/法政大学/日本大学/同志社大学

スピード

男子1部500m

- ①堀井 学 (専修大学) 3 7.0 5
②清水 宏保 (日本大学) 3 7.0 8
③浜道 隆寛 (日本大学) 3 7.3 2
④加藤 将司 (東洋大学) ⑤井上 純一 (日本大学)
⑥千葉 良範 (専修大学) ⑦湯田 淳 (筑波大学)
⑧佐藤 嘉泰 (法政大学)

男子1部1000m

- ①堀井 学 (専修大学) 0 1.1 5.9 1
②井上 純一 (日本大学) 0 1.1 5.9 8
③山影 博明 (日本大学) 0 1.1 6.6 4
④黒沢 誠 (日本体育大学) ⑤村中 賢治 (山梨学院大学)
⑥浜道 隆寛 (日本大学) ⑦千葉 良範 (専修大学)
⑧高橋 慶樹 (日本体育大学)

男子1部1500m

- ①白幡 圭司 (専修大学) 0 1.5 4.6 7
②野明 弘幸 (日本体育大学) 0 1.5 5.7 2
③黒沢 誠 (日本体育大学) 0 1.5 6.6 3
④石岡 守 (日本大学) ⑤山口 秀人 (専修大学)
⑥小原 聡 (専修大学) ⑦村中 賢治 (山梨学院大学)
⑧松坂 直樹 (山梨学院大学)

男子1部 5000m

- ①糸川 敏彦 (専修大学) 0 7.1 6.7 5
②篠原 淳晃 (日本体育大学) 0 7.1 9.6 5
③野崎 貴裕 (日本大学) 0 7.1 9.7 5
④野明 弘幸 (日本体育大学) ⑤丸山 秀義 (日本体育大学)
⑥山口 秀人 (専修大学) ⑦高村 竜司 (日本大学)
⑧小原 聡 (専修大学)

男子1部10000m

- ①野崎 貴裕 (日本大学) 1 4.4 5.0 1
②糸川 敏彦 (専修大学) 1 4.4 9.4 0
③篠原 淳晃 (日本体育大学) 1 4.4 9.7 2

- ④白幡 圭司 (専修大学) ⑤高村 竜司 (日本大学)
⑥大槻 嘉 (山梨学院大学) ⑦川原木徳友 (法政大学)
⑧澤口 一樹 (日本大学)

男子1部2000mリレー

- ①日本大学 0 2.2 7.5 7
(浜道隆寛 後村文範 清水宏保 井上純一)
②専修大学 0 2.2 9.0 2
③山梨学院大学 0 2.3 0.2 1

女子500m

- ①門田 千代 (日本体育大学) 4 2.4 8
②野村 和代 (日本体育大学) 4 2.6 0
③市川ともよ (山梨学院大学) 4 3.1 0
④柿崎由紀子 (山梨学院大学) ⑤五味 利恵 (大東文化大学)
⑥金井 悦子 (大東文化大学) ⑦田中 千景 (東京女子体育大学)
⑧小池 好美 (東京女子体育大学)

女子1000m

- ①門田 千代 (日本体育大学) 0 1.2 5.3 8
②長岡 弥生 (早稲田大学) 0 1.2 7.0 9
③市川ともよ (山梨学院大学) 0 1.2 7.5 7
④野村 和代 (日本体育大学) ⑤五味 利恵 (大東文化大学)
⑥田中 千景 (東京女子体育大学) ⑦大貫 真希 (山梨学院大学)
⑧小林 和代 (大東文化大学)

女子1500m

- ①上原 三枝 (日本体育大学) 0 2.0 9.4 2
②清水 美映 (信州大学) 0 2.0 9.7 6
③長岡 弥生 (早稲田大学) 0 2.1 1.9 9
④小林 栄子 (山梨学院大学) ⑤降籬 克子 (日本体育大学)
⑥小林 和代 (大東文化大学) ⑦小原 貴枝 (東京女子体育大学)
⑧小野寺都子 (山梨学院大学)

女子3000m

- ①上原 三枝 (日本体育大学) 0 4.3 7.4 7
②降籬 克子 (日本体育大学) 0 4.4 7.9 1
③若林 育子 (秋田大学) 0 4.5 3.7 9

- ④清水 美映 (信州大学) ⑤小林 栄子 (山梨学院大学)
⑥小池真奈美 (大東文化大学) ⑦佐口 和江 (大東文化大学)
⑧野口 直子 (東京女子体育大学)

女子2000mリレー

- ①日本体育大学 0 2.4 6.7 2
(野村和代 山本尚子 門田千代 上原三枝)
②山梨学院大学 0 2.5 2.1 5
③大東文化大学 0 2.5 2.4 4

フィギュア

男子シングル1部

- ①竹内 義明 (明治大学) ②天野 真 (明治大学)
③重松 宗隆 (明治大学) ④杉崎 晴通 (専修大学)
⑤水本 量也 (愛知学院大学) ⑥岡崎 央 (広島経済大学)
⑦菅 望 (早稲田大学) ⑧細井 真人 (京都大学)

男子シングル2部

- ①鈴木 環輝 (東京大学) ②大久保昌一 (近畿大学)
③山北 敬男 (愛知大学) ④浅野 由揮 (愛知学院大学)
⑤清水 裕文 (横浜国立大学) ⑥江崎 康浩 (千葉大学)
⑦藤井 康 (大阪大学)

女子シングル1部

- ①佐野 裕見 (明治大学) ②須田 敦子 (明治大学)
③柏木 真幸 (立命館大学) ④円城亜貴子 (富士短期大学)
⑤小林 真理 (同志社大学) ⑥本郷 裕子 (東北福祉大学)
⑦吉川 陽子 (福岡大学) ⑧宮崎 郁 (淑徳短期大学)

女子シングル2部

- ①北原 千鶴 (白百合女子大学) ②徳田美穂子 (香川大学)
③吉田 絵里 (國學院大学) ④西村 由美 (熊本短期大学)
⑤今井 洋子 (神戸女子薬科大学) ⑥岩下 麻美 (熊本短期大学)
⑦須川 久子 (大垣女子短期大学) ⑧本田 牧子 (福岡大学)

アイスホッケー

1回戦

- | | | |
|--------|------|---------|
| 八戸大学 | 4-1 | 横浜国立大学 |
| 青山学院大学 | 11-0 | 岡山大学 |
| 立命館大学 | 7-4 | 大東文化大学 |
| 関西大学 | 12-1 | 新潟大学 |
| 慶應義塾大学 | 9-1 | 北海道工業大学 |
| 法政大学 | 10-0 | 東北学院大学 |
| 日本大学 | 10-0 | 関西学院大学 |
| 専修大学 | 16-0 | 福岡工業大学 |
| 国士館大学 | 3-2 | 札幌学院大学 |
| 同志社大学 | 4-0 | 上智大学 |
| 東海大学 | 6-1 | 札幌大学 |
| 日本体育大学 | 7-3 | 愛知学院大学 |
| 中央大学 | 10-1 | 福岡大学 |

2回戦

- | | | |
|-------|------|--------|
| 明治大学 | 18-0 | 八戸大学 |
| 早稲田大学 | 10-3 | 青山学院大学 |
| 立命館大学 | 7-0 | 慶應義塾大学 |

- | | | |
|-------|------|--------|
| 法政大学 | 13-2 | 関西大学 |
| 日本大学 | 9-1 | 国士館大学 |
| 同志社大学 | 5-2 | 専修大学 |
| 中央大学 | 6-2 | 東海大学 |
| 東洋大学 | 6-0 | 日本体育大学 |

準々決勝戦

- | | | |
|-------|------|-------|
| 明治大学 | 11-1 | 立命館大学 |
| 早稲田大学 | 5-1 | 法政大学 |
| 中央大学 | 6-2 | 日本大学 |
| 東洋大学 | 9-3 | 同志社大学 |

準決勝戦

- | | | |
|----------|-----|-------|
| 明治大学 | 7-4 | 中央大学 |
| 東洋大学 | 2-2 | 早稲田大学 |
| (PS 2-1) | | |

3位決定戦

- | | | |
|-------|-----|------|
| 早稲田大学 | 3-0 | 中央大学 |
|-------|-----|------|

決勝戦

- | | | | | |
|------|---|---|---|------|
| 明治大学 | 3 | $\begin{pmatrix} 0-0 \\ 2-0 \\ 1-0 \end{pmatrix}$ | 0 | 東洋大学 |
|------|---|---|---|------|

反PAG	明治大学	東洋大学	GAP	反
0 0 0 0	佐良士雅久	} GK	0 0 0 0	石原 寛 0 0 0 0
0 0 0 0	徳弘 篤俊		0 0 0 0	黒川 修平 0 0 0 0
0 0 0 0	引木 雅章	} DF	0 0 0 0	南條 直樹 0 0 0 0
1 0 0 0	煤孫 泰司		0 0 0 0	江畑 豊 0 0 0 0
0 0 0 0	金田 覚行	} DF	0 0 0 0	松浦 智哉 0 0 0 0
1 0 0 0	狩野 豊		0 0 0 0	古川 秀樹 0 0 0 1
0 0 0 0	林 誠司	} DF	0 0 0 0	梶川 貴之 0 0 0 0
0 0 0 0	高橋 哲之		0 0 0 0	前島 臣政 0 0 0 0
0 0 0 0	山岸 大樹	} FW	0 0 0 0	小林 乙哉 0 0 0 0
0 0 0 0	荒城 近晴		0 0 0 0	沖 輝行 0 0 0 0
0 2 2 0	村上 雅章	} FW	0 0 0 0	佐藤 博人 0 0 0 0
0 1 0 1	中村 直樹		0 0 0 0	久保 英樹 0 0 0 0
0 1 0 1	平田 耕司	} FW	0 0 0 0	井上晋一郎 0 0 0 0
0 1 1 0	小林 智紀		0 0 0 0	川瀬 哲哉 0 0 0 1
1 0 0 0	井原 将	} FW	0 0 0 0	藪野 哲史 0 0 0 0
0 1 0 1	熊谷 和哉		0 0 0 0	川瀬 伸也 0 0 0 0
0 0 0 0	板橋 伸一	} FW	0 0 0 0	遠藤 慎治 0 0 0 0
0 0 0 0	井原 朗		0 0 0 0	森 雅明 0 0 0 0
0 0 0 0	荒城 啓介	} FW	0 0 0 0	成田 智 0 0 0 0
0 0 0 0	監物 大吉		0 0 0 0	坪子 誠 0 0 0 0
0 0 0 0	伊部 尚宏	} FW	0 0 0 0	荒田 貴充 0 0 0 0
0 0 0 0	大畠 靖史		0 0 0 0	下瀬 裕明 0 0 0 0
3 6 3 3	計		0 0 0 2	

充足した4年間

堀井 学 (専修大OB)

専修大学4年主将として、このインカレでの私の思いは、特別なものでありました。個人での目標、そしてなによりも、チームの総合優勝という大きな目標を掲げて望んだ大会でありました。夏期の練習から、チームとして主将として、何度も口に出した目標でありました。「インカレで優勝する」

その士気は、チーム全体の底上げとなり、また私個人の自己誓約となりました。主将として何をすべきか、もちろん個人二種目の優勝であり、チームメイトのモチベーションを引き上げることでした。練習は4年間で一番充実した内容となり、チームとしては最高のメンバーで望むことが出来ました。総合の結果は、日大と一点差で負けを味わいましたが、私自身、チームの主将としてあの1993年専修大学スケート部は、持てる力を最大限発揮し、全力で戦った勝ちに等しい負けではなかったのではないかと、今でも記憶に残っています。大会終了後、黒岩彰監督を前にし、全員が悔し涙を流した時、私の主将としての役割を終えました。一致団結し望んだインカレ、目標の一つに辛い事を乗り越えた練習、世界を目指し共に学んだ大学での生活は、私の今の人生の糧となり、今でも胸に深く切り刻まれています。

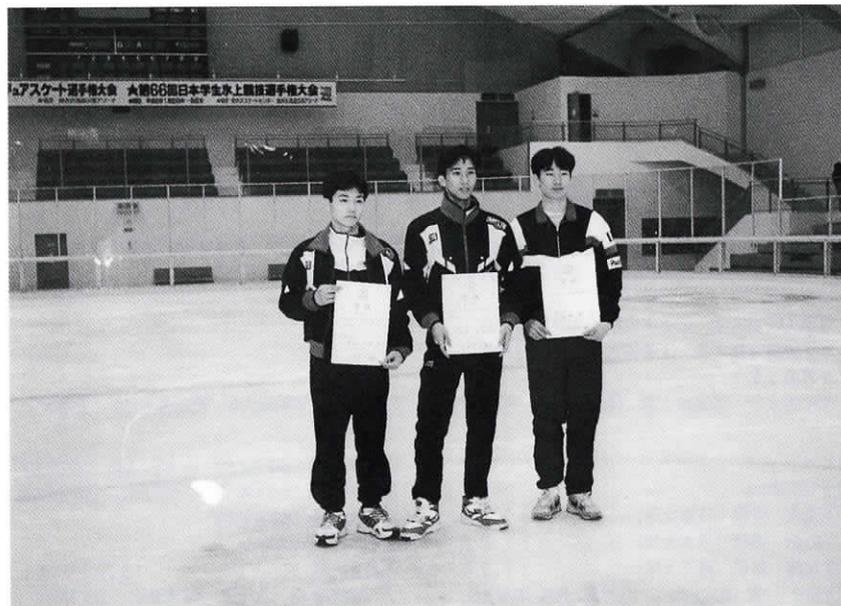
常勝明治復活 40年ぶりに1～3位独占

竹内 義明 (明大OB)

総合優勝！それはスケート部員として駿河台の門をくぐる者の運命である。

第65回日本学生氷上競技選手権大会(日光)はそれを胸に深く刻んだ大会となった。少なくとも、フィギュア部門は連覇するはずだった。ところが、宿敵日本大学に接戦の末敗れた。スピード部門も奮わず、アイスホッケー部門が唯一名門の意地を見せて連覇したが、総合優勝には届かなかった。納会では、ただひたすら泣き、皆に詫び、ミスした自分を恥じた。

以来、「常勝明治復活」を合言葉に伊東監督の指導のもと練習を重ね、第66回軽井沢大会に臨んだ。オリンピック代表候補選手をズラリと揃えた明治大学は出場選手3人で1～3位を独占し優勝した。40年ぶりの快挙だった。女子の部でも出場選手2名が1～2位を独占し、優勝に華を添えた。ここに「常勝明治復活」の狼煙があがった。続いてスピード部門が健闘、アイスホッケー部門が貫禄で3連覇を果たし、悲願の総合優勝を飾った。祝勝会は歓喜に湧き、この時全員で歌った校歌は今でも最高の思い出である。なお、余談だが私の父も40年前のメンバーであり、親子2代にわたってこの記録に関わったことは、なんとも感慨深いものである。



左より 3位 重松(当時1年) 優勝 竹内(当時4年) 2位 天野(当時2年)

第67回

平成7年1月6日(日)~9日(水)

北海道苫小牧市 苫小牧ハイランドスポーツセンター

スピード

- 男子①日本大学 ②専修大学 ③日本体育大学 ④山梨学院大学 ⑤東洋大学 ⑥法政大学
⑦筑波大学 ⑧明治大学
女子①日本体育大学 ②大東文化大学 ③山梨学院大学 ④早稲田大学 ⑤東京女子体育大学
⑥秋田大学 ⑦信州大学 ⑧中京短期大学/慶應義塾大学/都留文科大学

フィギュア

- 男子①明治大学 ②日本大学 ③早稲田大学
女子①同志社大学 ②東洋大学 ③明治大学

アイスホッケー

- ①明治大学 ②東洋大学 ③法政大学 ④中央大学 ⑤日本大学/早稲田大学/慶應義塾大学/東海大学

スピード

男子1部500m

- ①清水 宏保 (日本大学) 3 7.6 6
②山影 博明 (日本大学) 3 8.0 2
③加藤 将司 (東洋大学) 3 8.2 0
④湯田 淳 (筑波大学) ⑤横尾 光博 (専修大学)
⑥後藤 陽 (日本体育大学) ⑦吉井 龍平 (専修大学)
⑧加藤 勝広 (山梨学院大学)

男子1部1000m

- ①清水 宏保 (日本大学) 0 1.1 7.0 9
②山影 博明 (日本大学) 0 1.1 8.2 2
③後村 文範 (日本大学) 0 1.1 8.7 1
④矢崎 文也 (法政大学) ⑤田中 慎也 (専修大学)
⑥加藤 将司 (東洋大学) ⑦加藤 勝広 (山梨学院大学)
⑧佐藤 尊 (日本体育大学)

男子1部1500m

- ①野明 弘幸 (日本体育大学) 0 2.0 2.7 0
②白幡 圭史 (専修大学) 0 2.0 3.5 0
③石岡 守 (日本大学) 0 2.0 5.4 2
④赤沼 健一 (日本大学) ⑤田中 慎也 (専修大学)
⑥井出 和友 (法政大学) ⑦日向 功 (明治大学)
⑧山口 秀人 (専修大学)

男子1部 5000m

- ①野崎 貴裕 (日本大学) 0 7.0 9.7 5
②糸川 敏彦 (専修大学) 0 7.1 0.1 9
③野明 弘幸 (日本体育大学) 0 7.1 7.1 8
④篠原 淳晃 (日本体育大学) ⑤大場 正樹 (山梨学院大学)
⑥丸子 秀義 (日本体育大学) ⑦石岡 守 (日本大学)
⑧吉田 大介 (明治大学)

男子1部10000m

- ①野崎 貴裕 (日本大学) 1 4.4 8.0 7
②白幡 圭史 (専修大学) 1 4.5 1.5 6
③糸川 敏彦 (専修大学) 1 4.0 4.3 0

- ④篠原 淳晃 (日本体育大学) ⑤大場 正樹 (山梨学院大学)
⑥丸子 秀義 (日本体育大学) ⑦高見澤 二 (山梨学院大学)
⑧宮木 大吾 (日本体育大学)

男子1部2000mリレー

- ①日本大学 0 2.3 3.9 3
(羽石国臣 高橋進 湯浅儀紀 山影博明)
②日本体育大学 0 2.3 4.6 2
③専修大学 0 2.3 7.6 3

女子500m

- ①野村 和代 (日本体育大学) 4 2.2 3
②大竹口 綾 (早稲田大学) 4 3.4 3
③市川もとよ (山梨学院大学) 4 3.5 9
④土屋和花子 (信州大学) ⑤柿崎由紀子 (山梨学院大学)
⑥五味 利恵 (大東文化大学) ⑦鈴木 敬子 (大東文化大学)
⑧荒崎 江美 (日本体育大学)

女子1000m

- ①小林 和代 (大東文化大学) 0 1.2 6.7 3
②長岡 弥生 (早稲田大学) 0 1.2 7.5 4
③荒崎 江美 (日本体育大学) 0 1.2 8.1 4
④大竹口 綾 (早稲田大学) ⑤野村 和代 (日本体育大学)
⑥市川もとよ (山梨学院大学) ⑦土屋和花子 (信州大学)
⑧五味 利恵 (大東文化大学)

女子1500m

- ①長岡 弥生 (早稲田大学) 0 2.2 3.2 2
②小林 和代 (大東文化大学) 0 2.2 4.6 0
③田中 千景 (東京女子体育大学) 0 2.2 5.6 8
④若林 育子 (秋田大学) ⑤青山 美穂 (大東文化大学)
⑥佐藤由美子 (山梨学院大学) ⑦五十嵐朋美 (日本体育大学)
⑧小林 栄子 (山梨学院大学)

女子3000m

- ①降藤 克子 (日本体育大学) 0 4.5 1.4 9
②田中 千景 (東京女子体育大学) 0 4.5 3.3 8
③井神さおり (山梨学院大学) 0 4.5 7.0 7

- ④山本 和恵 (山梨学院大学) ⑤若林 育子 (秋田大学)
⑥小池真奈美 (大東文化大学) ⑦小坂 直子 (東京女子体育大学)
⑧名取 美香 (日本体育大学)

女子2000mリレー

- ①日本体育大学 0 3.0 1.5 7
(野村和代 中村純子 原田希世子 荒崎江美)
②大東文化大学 0 3.0 3.2 2
③山梨学院大学 0 3.0 4.9 8

フィギュア

男子シングル1部

- ①相吉 学 (明治大学) ②重松 宗隆 (明治大学)
③天野 真 (明治大学) ④水本 量也 (愛知学院大学)
⑤中村 和 (日本大学) ⑥楠下 敬之 (大阪大学)
⑦渡辺 憲司 (成城大学) ⑧杉崎 晴通 (専修大学)

男子シングル2部

- ①山北 敬男 (愛知大学) ②飯塚 崇 (学習院大学)
③清水 裕文 (横浜国立大学) ④森久保哲也 (中央大学)
⑤江尻 貴行 (東京大学) ⑥小笠原 真 (山梨学院大学)
⑦里見 誠 (関西学院大学) ⑧中村 成志 (名古屋大学)

女子シングル1部

- ①山本 雅江 (東洋大学) ②佐野 裕見 (明治大学)
③酒井亜由美 (同志社大学) ④森 真澄 (同志社大学)
⑤小林 真理 (同志社大学) ⑥奥山 麻 (明治大学)
⑦柏木 真幸 (立命館大学) ⑧小杉 陽子 (慶應義塾大学)

女子シングル2部

- ①白川 晴美 (学習院大学) ②中山 亜里 (甲南女子大学)
③吉田 絵理 (國學院大学) ④絵川 麗実 (甲南女子大学)
⑤新開さやか (立命館大学) ⑥小泉 泰子 (富士短期大学)
⑦日高満佐樹 (上智大学) ⑧鈴木 直子 (女子美術短期大学)

アイスホッケー

1回戦

- | | | |
|--------|------|---------|
| 関西大学 | 3-1 | 札幌大学 |
| 京都産業大学 | 6-0 | 金沢大学 |
| 東北学院大学 | 5-0 | 福岡工業大学 |
| 専修大学 | 4-2 | 関西学院大学 |
| 日本大学 | 6-0 | 青山学院大学 |
| 法政大学 | 7-1 | 八戸大学 |
| 慶應義塾大学 | 6-4 | 同志社大学 |
| 東海大学 | 3-1 | 立命館大学 |
| 愛知学院大学 | 20-1 | 新潟大学 |
| 札幌学院大学 | 13-0 | 岡山大学 |
| 大東文化大学 | 9-2 | 京都大学 |
| 日本体育大学 | 6-2 | 福岡大学 |
| 中央大学 | 15-1 | 北海道工業大学 |

2回戦

- | | | |
|-------|------|--------|
| 明治大学 | 10-1 | 関西大学 |
| 早稲田大学 | 24-0 | 京都産業大学 |
| 日本大学 | 10-4 | 東北学院大学 |

- | | | |
|--------|------|--------|
| 法政大学 | 7-3 | 専修大学 |
| 慶應義塾大学 | 8-7 | 愛知学院大学 |
| 東海大学 | 6-4 | 札幌学院大学 |
| 中央大学 | 10-2 | 大東文化大学 |
| 東洋大学 | 6-3 | 日本体育大学 |

準々決勝戦

- | | | |
|------|-----|-------|
| 明治大学 | 9-2 | 日本大学 |
| 法政大学 | 5-3 | 早稲田大学 |
| 中央大学 | 6-2 | 慶應大学 |
| 東洋大学 | 7-2 | 東海大学 |

準決勝戦

- | | | |
|------|-----|------|
| 明治大学 | 8-2 | 中央大学 |
| 東洋大学 | 7-1 | 法政大学 |

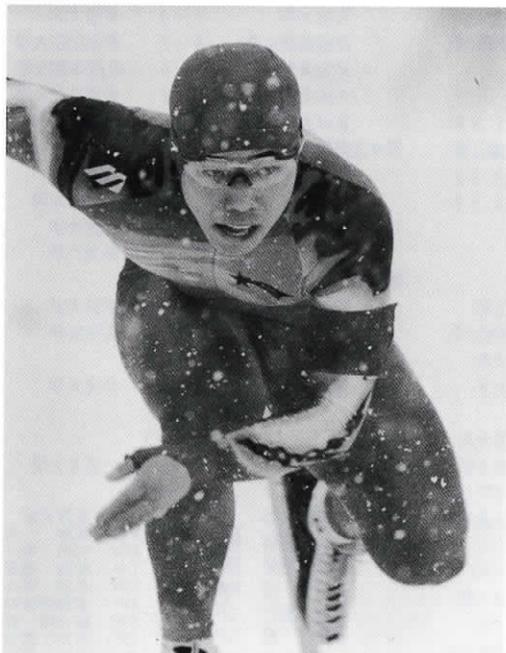
3位決定戦

- | | | |
|------|-----|------|
| 法政大学 | 4-1 | 中央大学 |
|------|-----|------|

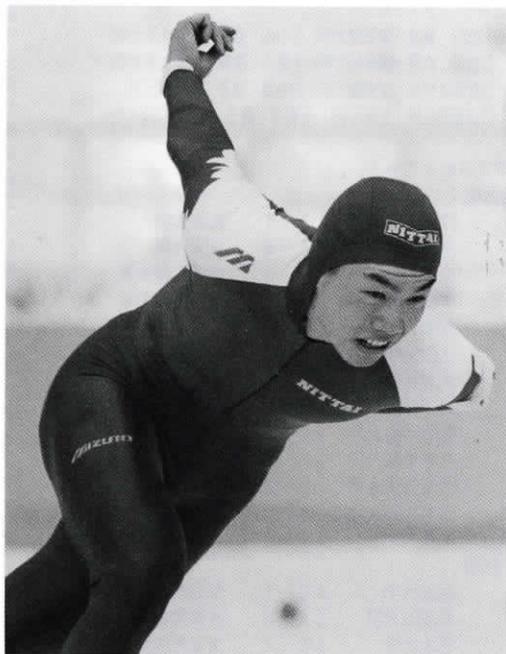
決勝戦

- | | | | | |
|------|---|---|---|------|
| 明治大学 | 4 | $\begin{pmatrix} 0-1 \\ 0-1 \\ 4-1 \end{pmatrix}$ | 3 | 東洋大学 |
|------|---|---|---|------|

- | | | | | | |
|------|----|--------|------|----|--------|
| 明治大学 | FW | 中村 直樹 | 東洋大学 | FW | 畷 一 |
| | DF | 荒城 近晴 | | FW | 行田 竜 |
| | FW | 井原 将 | | DF | 松浦 智哉 |
| | DF | 金田 覚行 | | DF | 久保 英樹 |
| | DF | 狩野 豊 | | DF | 波多野 智晴 |
| | DF | 北村 栄基 | | DF | 佐々木 誠 |
| | FW | 熊谷 和哉 | | DF | 古川 秀樹 |
| | FW | 小林 智紀 | | FW | 前島 臣政 |
| | GK | 佐良士 雅久 | | DF | 黒川 修平 |
| | GK | 徳弘 篤俊 | | FW | 堀口 慎治 |
| | FW | 村上 雅章 | | FW | 垣原 泰弘 |
| | FW | 板橋 伸一 | | GK | 下瀬 裕相 |
| | FW | 井原 朗 | | GK | 佐藤 博人 |
| | DF | 煤孫 泰司 | | DF | 石原 寛 |
| | DF | 羽毛田 昌寛 | | DF | 小森 乙哉 |
| | DF | 引木 雅章 | | FW | 御影 明宏 |
| | FW | 村上 望 | | FW | 橋本 大輔 |
| | FW | 森谷 宏巨 | | DF | 堀 友一 |
| | DF | 小林 幸樹 | | DF | 堀南 直樹 |
| | DF | 山岸 大樹 | | FW | 南條 直之 |
| | FW | 伊部 尚宏 | | DF | 数野 哲 |
| | GK | 佐藤 篤史 | | FW | 江畑 豊 |
| | FW | 大島 靖史 | | FW | 井上 晋一郎 |
| | FW | 荒城 啓介 | | FW | 川瀬 伸也 |
| | FW | 監物 大吉 | | FW | 丸井 貴也 |
| | FW | 高橋 朋成 | | DF | 内藤 俊明 |
| | DF | 大田 俊育 | | GK | 坪子 剛志 |
| | FW | 大野 直人 | | DF | 沖 輝行 |
| | GK | 経塚 剛之 | | FW | 古谷 圭之 |
| | DF | 柴田 大 | | FW | 黒川 圭太郎 |
| | DF | 戸成 悦典 | | DF | 黒川 貴人 |
| | FW | 西島 克成 | | DF | 酒井 雅樹 |
| | FW | 脇本 崇夫 | | DF | 酒井 修 |
| | FW | 渡邊 康広 | | FW | 大野 伸季 |
| | | | | DF | 村井 忠寛 |
| | | | | FW | 有沢 寛司 |
| | | | | DF | 富沢 貴徳 |
| | | | | DF | 工藤 涉 |
| | | | | FW | 秋田 純 |
| | | | | FW | 杉本 幸康 |
| | | | | DF | 山田 内山 |
| | | | | FW | 近藤 公浩 |
| | | | | FW | 近藤 亮 |



男子500mで初優勝した
清水宏保選手（日大）



男子1500mで初優勝した
野明弘幸選手（日大）

生涯の思い出

中村 直樹（明大OB）

一九九五年一月九日、私のアイスホッケー人生の中でこれほど記憶に残る試合はありません。

常勝軍団と言われ、タレントぞろいの我が明治大学は私が入学してからインカレでは一度も負けた事がなく、しかも地元である苫小牧での開催、卒業後に王子製紙入社も決まっておき、色々な意味でプレッシャーがありました。

決勝戦の相手は東洋大学、現在コクドの鈴木貴人が一年生で点取り屋として活躍し、簡単に勝てるチームではなく、インカレ前に一度、負けており嫌な相手であった。

試合が始まり、先制したのは東洋、第三ピリオド11分まで3対0で東洋のリードだった。この時だれもが東洋の勝利を確信していただろう。

しかし、3点差がつき守りに入った東洋は足の動きが止まりペナルティーが多くなり、12分に明治がパワープレーで得点し、15秒後に得点そしてもう1点を入れ同点となる。

こうなると我が明治の底力はすごく、19分58秒に決勝ゴールを入れ、インカレ4連覇を達成した。

私は主将として何も出来なかったが、このチーム、この大学でプレー出来た事を誇りに思い。生涯この試合の事は忘れる事はありません。



アイスホッケー決勝戦（明治－東洋）
試合終了2秒前、劇的な勝ち越しゴールを決め喜ぶ明大井原朗選手（左端）

第68回

平成8年1月6日(日)～9日(水)
北海道釧路市 柳町スピードスケート場

スピード

男子①日本大学 ②専修大学 ③日本体育大学 ④山梨学院大学 ⑤大東文化大学 ⑥東洋大学
⑦法政大学 ⑧筑波大学

女子①大東文化大学 ②山梨学院大学 ③日本体育大学 ④信州大学 ⑤東京女子体育大学
⑥早稲田大学 ⑦中京短期大学 ⑧日本女子体育大学

フィギュア

男子①明治大学 ②専修大学 ③福岡大学 ④近畿大学 ⑤千葉工業大学 ⑥早稲田大学 ⑦岩手大学
⑧法政大学

女子①愛知学院大学 ②同志社大学 ③龍谷大学 ④明治大学 ⑤東洋大学 ⑥日本大学
⑦東京女子体育大学 ⑧京都産業大学

アイスホッケー

①東洋大学 ②明治大学 ③法政大学 ④大東文化大学 ⑤早稲田大学/東海大学/慶應義塾大学/日本大学

スピード

男子1部500m

①清水 宏保 (日本大学) 37.65
②山影 博明 (日本大学) 38.17
③山口 優 (大東文化大学) 38.32
④後藤 陽 (日本体育大学) ⑤羽石 国臣 (日本大学)
⑥加藤 勝広 (山梨学院大学) ⑦吉井 龍平 (専修大学)
⑧高橋 慶樹 (日本体育大学)

男子1部1000m

①野明 弘幸 (日本体育大学) 01.17.23
②清水 宏保 (日本大学) 01.17.59
③山影 博明 (日本大学) 01.18.59
④田中 慎也 (専修大学) ⑤篠原裕太郎 (専修大学)
⑥加藤 勝広 (山梨学院大学) ⑦笹淵 峰尚 (日本大学)
⑧村中 賢治 (山梨学院大学)

男子1部1500m

①野明 弘幸 (日本体育大学) 01.58.14
②田中 慎也 (専修大学) 02.00.52
③赤沼 健一 (日本大学) 02.01.68
④石岡 守 (日本大学) ⑤一之瀬竜也 (専修大学)
⑥村中 賢治 (山梨学院大学) ⑦山口 秀人 (専修大学)
⑧丸子 秀義 (日本体育大学)

男子1部 5000m

①白幡 圭史 (専修大学) 07.17.94
②根本 茂一 (日本大学) 07.18.12
③糸川 敏彦 (専修大学) 07.20.23
④篠原 淳晃 (日本体育大学) ⑤野崎 貴裕 (日本大学)
⑥石岡 守 (日本大学) ⑦宮本 大吾 (日本体育大学)
⑧大場 正樹 (山梨学院大学)

男子1部10000m

①白幡 圭史 (専修大学) 15.04.92

②糸川 敏彦 (専修大学) 15.07.63

③根本 茂一 (日本大学) 15.11.30

④宮本 大吾 (日本体育大学) ⑤野崎 貴裕 (日本大学)

⑥篠原 淳晃 (日本体育大学) ⑦高見沢敬二 (山梨学院大学)

⑧大場 正樹 (山梨学院大学)

男子1部2000mリレー

①日本大学 02.31.69
(高橋進 湯浅儀紀 山影博明 清水宏保)
②日本体育大学 02.35.23
③専修大学 02.35.31

女子500m

①五味 利恵 (大東文化大学) 42.61
②土屋和花子 (信州大学) 43.76
③柿崎由紀子 (山梨学院大学) 43.81
④市川もとよ (山梨学院大学) ⑤原田希世子 (日本体育大学)
⑥大久保歌澄 (日本体育大学) ⑦鈴木 敬子 (大東文化大学)
⑧浅野 克恵 (東京女子体育大学)

女子1000m

①清水 美映 (信州大学) 01.27.47
②長岡 弥生 (早稲田大学) 01.28.48
③五味 利恵 (大東文化大学) 01.29.05
④小林 和代 (大東文化大学) ⑤柿崎由紀子 (山梨学院大学)
⑥荒崎 江美 (日本体育大学) ⑦市川もとよ (山梨学院大学)
⑧土屋 和花子 (信州大学)

女子1500m

①清水 美映 (信州大学) 02.12.36
②井神さおり (山梨学院大学) 02.16.34
③五十嵐朋美 (日本体育大学) 02.16.66
④小林 和代 (大東文化大学) ⑤佐藤由美子 (山梨学院大学)
⑥青山 美穂 (大東文化大学) ⑦黒羽 絵美 (東京女子体育大学)
⑧長岡 弥生 (早稲田大学)

女子3000m

①井神さおり (山梨学院大学) 04.45.94
②隆旗 克子 (日本体育大学) 04.51.70
③鹿野 里美 (東京女子体育大学) 04.54.87
④田中 千景 (東京女子体育大学) ⑤青山 美穂 (大東文化大学)
⑥小林 栄子 (山梨学院大学) ⑦白川さゆり (大東文化大学)
⑧名取 美香 (日本体育大学)

女子2000mリレー

①大東文化大学 02.55.90
(鈴木敬子 五味幸恵 小林和代 五味利恵)
②東京女子体育大学 03.00.11
③日本体育大学 03.04.75

フィギュア

男子シングル1部

①杉崎 晴通 (専修大学) ②鈴木 誠一 (明治大学)
③岡崎 真 (福岡大学) ④相吉 学 (明治大学)
⑤天野 真 (明治大学) ⑥松浦 功 (近畿大学)
⑦高橋 貴則 (千葉工業大学) ⑧菅 望 (早稲田大学)

男子シングル2部

①江尻 貴行 (東京大学) ②三島 隆伸 (岡山大学)
③石原 淳 (大阪経済大学) ④飯塚 崇 (学習院大学)
⑤川邊 貴宏 (京都大学) ⑥福家 正輝 (大阪経済大学)
⑦江崎 康浩 (千葉大学) ⑧西村 剛 (京都大学)

女子シングル1部

①佐野 裕見 (明治大学) ②辻 英恵 (同志社大学)
③奥山 容子 (同志社大学) ④奥山 麻 (明治大学)
⑤宇多村真理 (龍谷大学) ⑥新野 陽子 (武庫川女子大学)
⑦山田 真実 (日本体育大学) ⑧小杉 陽子 (慶應義塾大学)

女子シングル2部

①伊藤 綾子 (敬愛大学) ②広田 晶子 (日本女子体育大学)
③ジュニアロー (上智大学) ④松本 早苗 (盛岡大学)
⑤荻野 まゆ (相山女学園大学) ⑥戸谷 香 (近畿大学)
⑦吉田 絵理 (國學院大学) ⑧小泉 泰子 (富士短期大学)

アイスホッケー

1回戦

室蘭工業大学	12-3	関西学院大学
法政大学	17-0	東北学院大学
日本体育大学	4-1	仙台大学
同志社大学	9-5	千葉工業大学
早稲田大学	6-4	立命館大学
八戸大学	4-2	明星大学
慶應義塾大学	5-2	札幌学院大学
東海大学	13-0	福岡大学
国土館大学	5-4	関西大学
日本大学	14-1	釧路公立大学
大東文化大学	8-1	北陸大学
武蔵工業大学	3-1	岡山大学
中央大学	6-1	愛知学院大学
上智大学	5-1	久留米大学

2回戦

明治大学	13-2	室蘭工業大学
法政大学	8-1	同志社大学
早稲田大学	12-2	日本体育大学
東海大学	6-2	八戸大学
慶應義塾大学	8-2	国土館大学
日本大学	19-0	武蔵工業大学
大東文化大学	4-2	中央大学
東洋大学	21-1	上智大学

準々決勝戦

明治大学	3-2	早稲田大学
法政大学	6-3	東海大学
大東文化大学	9-1	慶應義塾大学
東洋大学	9-0	日本大学

準決勝戦

明治大学	5-4	大東文化大学
東洋大学	7-1	法政大学

3位決定戦

法政大学	7-4	大東文化大学
------	-----	--------

決勝戦
東洋大学 4 $\begin{pmatrix} 1-0 \\ 2-2 \\ 1-1 \end{pmatrix}$ 3 明治大学

反 P A G	東洋大学	明治大学	G A P	反
0 0 0 0	石原 寛	経塚 剛之	0 0 0 0	
0 0 0 0	高橋 宏和	佐藤 篤史	0 0 0 0	
0 0 0 0	江畑 豊	戸成 悦典	0 0 0 0	
2 1 1 0	内山 正浩	煤孫 泰司	0 0 0 2	
1 0 0 0	村井 忠寛	引木 雅章	1 0 1 2	
2 1 1 0	大久保智仁	山岸 大樹	0 0 0 2	
0 0 0 0	有沢 寛司	大津 一郎	0 0 0 0	
2 0 0 0	南條 直樹	小林 幸樹	0 0 0 0	
0 0 0 0	高嶋 大輔	太田 俊斉	0 0 0 0	
0 0 0 0	橋本 修	柴田 大	0 0 0 0	
1 0 0 0	坪子 誠	渡辺 康広	0 0 0 0	
0 3 0 3	藪野 哲史	板橋 伸一	1 0 1 0	
0 1 1 0	川瀬 伸也	竹原 洋一	0 0 0 0	
1 1 1 0	鈴木 貴人	井原 朗	1 1 2 1	
1 0 0 0	豊田 和典	大野 直人	0 1 1 3	
0 0 0 0	滝沢 賢一	高橋 朋成	0 0 0 0	
1 1 0 1	井上晋一郎	荒城 啓介	0 0 0 0	
0 1 1 0	藪野 伸季	伊部 尚宏	0 0 0 0	
0 0 0 0	御影 明宏	監物 大吉	0 0 0 0	
0 0 0 0	佐藤 博人	西島 克成	0 0 0 0	
0 0 0 0	富沢 貴徳	八戸 利彦	0 0 0 0	
0 0 0 0	近藤 充	大島 靖史	0 0 0 0	
119 5 4	計	3 2 5 10		



アイスホッケー決勝戦（東洋—明治） 明大陣へ攻め込む藪野哲史選手（東洋大）

1000mで初優勝

野明 弘幸（日体大OB）

私にとってインカレの一番の思い出は大学3年生の時です。全日本選手権が終り翌日という大変な日程でしたが1000mと1500mに出場しました。得意の1500Mに比べて1000Mでの得点する自信はなりませんでしたが、朝起きてみたところ天候は雪。私にもチャンスが到来しました。短距離選手中心のこの種目において、長距離選手としては持久力で勝負したいところでした。悪天候となると残り一周の勝負になります。残りの一周で勝負しようとスタートラインにつきました。最初から全力で飛ばし残り一周になりました。ここから気持ちを切り換え気持ちだけは負けないようにしました。その結果短距離選手を抑え優勝することができました。「学生」という限られた4年間の中で1000Mという種目で優勝できたことがとても私のスケート人生において転換期になったと思います。私の競技人生の中でいい思い出になりました。

「4度目の正直」

藪野 哲史（東洋大OB）

昨季まで3年連続で決勝に進みながら、3度とも明治大の壁にはね返されていた。とくに、昨年、第3ピリオド序盤で3点リードを奪いながら、明治大にまさかの逆転負けを喫している。また、終了2秒前に奪われた勝ち越しゴールの場面は、1年間、頭の中から消えることがなかった。その敗戦の経験が9年ぶり2度目の優勝につながったと思います。

試合を振り返ってみると、もちろん明治大も王者の名にふさわしいプレーを随所に見せしーソーゲームとなったが、気迫と精神力で勝った、わが東洋大が大学日本一の座を奪い取ることができた。

また、私自身も、決勝の明治大戦で3得点し、主将としてプレーでチームを引っ張ることができ、最高の大学ラストゲームでした。

第69回

平成9年1月6日(日)~9日(水)
青森県八戸市 長根公園パイピングスケート場

スピード

- 男子①日本大学 ②専修大学 ③日本体育大学 ④法政大学 ⑤明治大学 ⑥山梨学院大学
⑦東洋大学
女子①日本体育大学 ②山梨学院大学 ③東京女子体育大学 ④大東文化大学 ⑤日本女子体育大学
⑥都留文科大学

フィギュア

- 男子①明治大学 ②日本大学 ③慶應義塾大学
女子①同志社大学 ②東洋大学 ③法政大学

アイスホッケー

- ①東洋大学 ②明治大学 ③法政大学 ④大東文化大学 ⑤早稲田大学/専修大学/東海大学/仙台大学

スピード

男子1部500m

- ①西岡 和哉 (専修大学) 4 0.1 5
②羽石 国臣 (日本大学) 4 0.3 3
③小須田典之 (専修大学) 4 0.8 3
④天野 正也 (日本体育大学) ⑤高橋 進 (日本大学)
⑥市村 雅 (法政大学) ⑦湯浅 儀紀 (日本大学)
⑧加藤 勝広 (山梨学院大学)

男子1部1000m

- ①西岡 和哉 (専修大学) 0 1.1 9.1 1
②石岡 守 (日本大学) 0 1.1 9.1 2
③田中 慎也 (専修大学) 0 1.1 9.7 6
④宮川 洋平 (専修大学) ⑤矢崎 文也 (法政大学)
⑥赤沼 健一 (日本大学) ⑦日向 功 (明治大学)
⑧松坂 和久 (山梨学院大学)

男子1部1500m

- ①石岡 守 (日本大学) 0 2.0 1.9 7
②赤沼 健一 (日本大学) 0 2.0 3.1 5
③高橋 壮一 (日本体育大学) 0 2.0 3.3 7
④宮川 洋平 (専修大学) ⑤長岡 淳一 (専修大学)
⑥宮本 信唯 (専修大学) ⑦伊藤 大理 (明治大学)
⑧丸子 秀義 (日本体育大学)

男子1部 5000m

- ①糸川 敏彦 (専修大学) 0 7.2 8.2 3
②野崎 貴裕 (日本大学) 0 7.3 3.9 4
③山口 秀人 (専修大学) 0 7.3 6.7 0
④高橋 壮一 (日本体育大学) ⑤根本 茂一 (日本大学)
⑥大場 正樹 (山梨学院大学) ⑦渡邊 充 (専修大学)
⑧丸子 秀義 (日本体育大学)

男子1部10000m

- ①根本 茂一 (日本大学) 1 6.0 7.1 9
②野崎 貴裕 (日本大学) 1 6.0 8.8 0
③山口 秀人 (専修大学) 1 6.1 2.1 4

- ④米倉 大介 (明治大学) ⑤高村 洋平 (日本大学)

- ⑥林 秀智 (東洋大学) ⑦長岡 淳一 (専修大学)
⑧中嶋 昇秀 (法政大学)

男子1部2000mリレー

- ①日本大学 0 2.3 1.3 8
(高橋進 湯浅儀紀 羽石国臣 石岡守)
②専修大学 0 2.3 2.5 7
③法政大学 0 2.3 5.7 5

女子500m

- ①荒崎 江美 (日本体育大学) 4 8.4 7
②原田季世子 (日本体育大学) 4 9.1 7
③浅野 克恵 (東京女子体育大学) 4 9.9 4
④宮川真紀子 (日本女子体育大学) ⑤田谷 直子 (大東文化大学)
⑥今井沙衣子 (山梨学院大学) ⑦柿崎由紀子 (山梨学院大学)
⑧小林 美恵 (大東文化大学)

女子1000m

- ①荒崎 江美 (日本体育大学) 0 1.2 9.6 7
②林 志帆子 (日本体育大学) 0 1.3 1.3 1
③今井沙衣子 (山梨学院大学) 0 1.3 2.3 5
④柿崎由紀子 (山梨学院大学) ⑤井内美奈子 (大東文化大学)
⑥小林 美恵 (大東文化大学) ⑦深宣しのぶ (東京女子体育大学)
⑧鎌田由起子 (東京女子体育大学)

女子1500m

- ①黒羽 絵美 (東京女子体育大学) 0 2.1 3.8 2
②岡田奈緒子 (日本体育大学) 0 2.1 4.5 1
③林 志帆子 (日本体育大学) 0 2.1 7.3 8
④鹿野 里美 (東京女子体育大学) ⑤小澤 幸 (山梨学院大学)
⑥井内美奈子 (大東文化大学) ⑦佐口 和江 (大東文化大学)
⑧川原木美恵子 (都留文科大学)

女子3000m

- ①黒羽 絵美 (東京女子体育大学) 0 4.5 3.3 5
②降旗 克子 (日本体育大学) 0 4.5 8.3 8
③土橋 貴子 (山梨学院大学) 0 5.0 0.3 0

- ④佐藤由美子 (山梨学院大学) ⑤青山 美穂 (大東文化大学)
⑥佐口 和江 (大東文化大学) ⑦岡田奈緒子 (日本体育大学)
⑧川原木美恵子 (都留文科大学)

女子2000mリレー

- ①日本体育大学 0 2.5 4.3 1
(神戸さち子 大久保歌澄 原田季世子 荒崎江美)
②山梨学院大学 0 2.5 6.5 8
③東京女子体育大学 0 2.5 9.0 6

フィギュア

男子シングル1部

- ①鈴木 誠一 (明治大学) ②重松 直樹 (日本大学)
③重松 宗隆 (明治大学) ④相吉 学 (明治大学)
⑤永田 象平 (同志社大学) ⑥山本 高士 (慶應義塾大学)
⑦渡辺 大介 (日本大学) ⑧小笠原健雄 (日本大学)

男子シングル2部

- ①立石 敏隆 (大阪大学) ②甲斐 将剛 (近畿大学)
③西垣 嘉史 (関西学院大学) ④福家 正輝 (大阪経済大学)
⑤三浦 敦史 (大阪経済大学) ⑥伊藤 栄紀 (京都大学)
⑦小笠原 真 (山梨学院大学) ⑧西村 剛 (京都大学)

女子シングル1部

- ①辻 英恵 (同志社大学) ②小林 真理 (同志社大学)
③藤野 有未 (法政大学) ④稲葉 裕子 (東北学院大学)
⑤山室 慶子 (法政大学) ⑥今井 恵子 (愛知学院大学)
⑦宇多村真理 (龍谷大学) ⑧奥山 麻 (明治大学)

女子シングル2部

- ①阪野 晴奈 (愛知学院大学) ②三浦 舞子 (東海学園女子短期大学)
③豊田 玲子 (同志社大学) ④中山 亜里 (甲南女子大学)
⑤赤塚 真弓 (青山学院大学) ⑥荻野 まゆ (福山女学院大学)
⑦伊藤 綾子 (敬愛大学) ⑧後藤 貴子 (名古屋女子大学)

アイスホッケー

1回戦

- | | | |
|--------|------|--------|
| 龍谷大学 | 9-4 | 札幌学院大学 |
| 法政大学 | 13-1 | 札幌大学 |
| 青山学院大学 | 12-1 | 室蘭工業大学 |
| 立教大学 | 8-1 | 久留米大学 |
| 早稲田大学 | 22-0 | 関西大学 |
| 専修大学 | 3-1 | 北陸大学 |
| 東海大学 | 19-1 | 東北学院大学 |
| 慶應義塾大学 | 8-0 | 岡山大学 |
| 立命館大学 | 13-0 | 帝京大学 |
| 仙台大学 | 4-1 | 日本大学 |
| 八戸大学 | 6-3 | 神奈川大学 |
| 愛知学院大学 | 13-1 | 武蔵工業大学 |
| 大東文化大学 | 10-4 | 京都産業大学 |
| 中央大学 | 7-1 | 同志社大学 |

2回戦

- | | | |
|------|------|------|
| 東洋大学 | 20-3 | 龍谷大学 |
| 法政大学 | 28-1 | 立教大学 |

- | | | |
|--------|------|--------|
| 早稲田大学 | 6-1 | 青山学院大学 |
| 専修大学 | 4-1 | 慶應義塾大学 |
| 東海大学 | 2-1 | 立命館大学 |
| 仙台大学 | 16-2 | 愛知学院大学 |
| 大東文化大学 | 6-0 | 八戸大学 |
| 明治大学 | 5-2 | 中央大学 |

準々決勝戦

- | | | |
|--------|----------|-------|
| 東洋大学 | 9-1 | 早稲田大学 |
| 法政大学 | 13-0 | 専修大学 |
| 大東文化大学 | 4-4 | 東海大学 |
| | (PS 2-1) | |
| 明治大学 | 7-2 | 仙台大学 |

準決勝戦

- | | | |
|------|-----|--------|
| 東洋大学 | 7-3 | 大東文化大学 |
| 明治大学 | 5-2 | 法政大学 |

3位決定戦

- | | | |
|------|-----|--------|
| 法政大学 | 4-3 | 大東文化大学 |
|------|-----|--------|

決勝戦

- | | | | | |
|------|---|---|---|------|
| 東洋大学 | 1 | $\begin{pmatrix} 0-0 \\ 0-0 \\ 1-1 \end{pmatrix}$ | 1 | 明治大学 |
| | | (延長0-0) | | |
| | | (PS 2-0) | | |

反PAG 東洋大学

- | | | | | |
|---------|-------|-------|---------|---------|
| 0 0 0 0 | 天坂 智徳 | } GK | 経塚 剛之 | 0 0 0 0 |
| 0 0 0 0 | 高橋 宏和 | | 佐藤 篤史 | 0 0 0 0 |
| 0 0 0 0 | 村井 忠寛 | } DF | 山岸 大樹 | 0 0 0 0 |
| 0 0 0 0 | 大久保智仁 | | 白井 一 | 0 0 0 0 |
| 1 0 0 0 | 江畑 豊 | | 戸成 悦典 | 0 0 0 0 |
| 0 0 0 0 | 酒井 雅樹 | | 大田 俊吾 | 0 0 0 0 |
| 1 0 0 0 | 内山 正浩 | | 石岡 仁 | 0 0 0 0 |
| 0 1 0 1 | 有沢 寛司 | | 鷲田 康博 | 0 0 0 0 |
| 0 0 0 0 | 橋本 修 | | 小林 幸樹 | 0 0 0 0 |
| 0 0 0 0 | 藤田 成則 | | 韓 聖贊 | 0 0 0 0 |
| 1 0 0 0 | 川瀬 伸也 | | 荒城 啓介 | 0 0 0 1 |
| 0 0 0 0 | 豊田 和典 | | 大野 直人 | 1 0 1 0 |
| 0 0 0 0 | 荻野 伸季 | 竹原 洋一 | 0 0 0 0 | |
| 0 0 0 0 | 坪子 誠 | 高橋 朋成 | 0 0 0 0 | |
| 0 0 0 0 | 秋田 純 | 八戸 利彦 | 0 0 0 0 | |
| 1 0 0 0 | 富沢 貴徳 | 伊部 尚宏 | 0 0 0 0 | |
| 0 0 0 0 | 辻 健治郎 | 大島 靖史 | 0 0 0 0 | |
| 1 0 0 0 | 佐曾谷亮平 | 脇本 崇夫 | 0 0 0 1 | |
| 3 0 0 0 | 田中 貴章 | 渡辺 康広 | 0 0 0 0 | |
| 0 0 0 0 | 近藤 充 | 監物 大吉 | 0 0 0 0 | |
| 0 0 0 0 | 荒田 貴充 | 小平 憲彦 | 0 0 0 0 | |
| 0 0 0 0 | 滝沢 賢一 | 西島 克成 | 0 0 0 0 | |

8 1 0 1 計 1 0 1 2

第70回

平成10年1月4日(日)～7日(水)
北海道 苫小牧市 苫小牧ハイランドスポーツセンター

スピード

男子①専修大学 ②日本大学 ③明治大学 ④山梨学院大学 ⑤日本体育大学 ⑥法政大学
⑦東洋大学

女子①日本体育大学 ②山梨学院大学 ③東京女子体育大学 ④大東文化大学

フィギュア

男子①日本大学 ②明治大学 ③慶應義塾大学

女子①愛知学院大学 ②東北学院大学 ③東洋大学

アイスホッケー

①東洋大学 ②法政大学 ③明治大学 ④同志社大学 ⑤中央大学/日本大学/大東文化大学/早稲田大学

スピード

男子1部500m

①湯浅 儀紀 (日本大学) 3 7.5 9
②西岡 和哉 (専修大学) 3 7.8 2
③笹淵 峰尚 (日本大学) 3 7.8 5
④加藤 勝広 (山梨学院大学) ④小須田典之 (専修大学)
⑥高橋 進 (日本大学) ⑦山崎 裕哉 (専修大学)
⑧美馬 威仁 (山梨学院大学)

男子1部1000m

①西岡 和哉 (専修大学) 0 1.1 5.8 0
②宮川 洋平 (専修大学) 0 1.1 6.1 2
③笹淵 峰尚 (日本大学) 0 1.1 6.2 4
④田中 慎也 (専修大学) ⑤加藤 勝広 (山梨学院大学)
⑥高橋 進 (日本大学) ⑦安藤 真幸 (明治大学)
⑧矢崎 文也 (法政大学)

男子1部1500m

①宮川 洋平 (専修大学) 0 1.5 9.9 7
②田中 慎也 (専修大学) 0 1.5 9.9 8
③伊藤 大理 (明治大学) 0 2.0 0.8 5
④平田 浩一 (日本大学) ⑤長岡 淳一 (専修大学)
⑥高橋 社一 (日本体育大学) ⑦中島 昇秀 (法政大学)
⑧井出 良直 (法政大学)

男子1部 5000m

①根本 茂一 (日本大学) 0 7.1 7.6 2
②吉田 大介 (明治大学) 0 7.1 8.6 8
③平田 浩一 (日本大学) 0 7.1 8.7 6
④高見沢敬二 (山梨学院大学) ⑤大里 崇 (明治大学)
⑥渡辺 充 (専修大学) ⑦米倉 大介 (明治大学)
⑧小林 武広 (山梨学院大学)

男子1部10000m

①吉田 大介 (明治大学) 1 4.3 9.7 9
②根本 茂一 (日本大学) 1 4.4 9.2 9
③渡辺 充 (専修大学) 1 4.5 5.8 4
④米倉 大介 (明治大学) ⑤高見沢敬二 (山梨学院大学)

⑥福田 洋司 (専修大学) ⑦大里 崇 (明治大学)

⑧伊勢 俊一 (専修大学)

男子1部2000mリレー

①専修大学 0 2.3 2.2 3
(小須田典之 篠原裕太郎 山崎裕哉 西岡和哉)
②日本体育大学 0 2.4 0.2 2
③法政大学 0 2.4 1.8 2

女子500m

①原田 季世子 (日本体育大学) 4 2.9 8
②惣田 由美子 (山梨学院大学) 4 3.1 5
③今井 沙衣子 (山梨学院大学) 4 3.2 0
④深萱 佳永 (日本体育大学) ⑤石母田真弓 (東京女子体育大学)
⑥上原 千聖 (山梨学院大学) ⑦神戸さち子 (日本体育大学)
⑧吉井 真琴 (東京女子体育大学)

女子1000m

①惣田由美子 (山梨学院大学) 0 1.2 5.7 9
②今井沙衣子 (山梨学院大学) 0 1.2 6.6 3
③深萱 佳永 (日本体育大学) 0 1.2 6.7 1
④原田季世子 (日本体育大学) ⑤井内美奈子 (大東文化大学)
⑥遠藤 弘恵 (日本体育大学) ⑦深萱しのぶ (東京女子体育大学)
⑧吉田美穂子 (山梨学院大学)

女子1500m

①安田 有希 (日本体育大学) 0 2.1 2.3 6
②井内美奈子 (大東文化大学) 0 2.1 6.4 2
③鹿野 里美 (東京女子体育大学) 0 2.1 9.3 3
④岡田奈緒子 (日本体育大学) ⑤林 志帆子 (日本体育大学)
⑥青山 美穂 (大東文化大学) ⑦吉田美穂子 (山梨学院大学)
⑧高橋さゆり (山梨学院大学)

女子3000m

①安田 有希 (日本体育大学) 0 4.3 6.8 4
②高橋さゆり (山梨学院大学) 0 4.4 7.5 3
③岡田奈緒子 (日本体育大学) 0 4.4 8.1 7
④青山 美穂 (大東文化大学) ⑤小坂 直子 (東京女子体育大学)
⑥林 志帆子 (日本体育大学) ⑦鹿野 里美 (東京女子体育大学)

⑧菅野奈緒子 (山梨学院大学)

女子2000mリレー

①山梨学院大学 0 2.5 5.4 9
(惣田由美子 上原千聖 吉田美穂子 今井沙衣子)
②日本体育大学 0 2.5 5.7 5
③東京女子体育大学 0 3.0 2.5 8

フィギュア

男子シングル1部

①重松 直樹 (日本大学) ②平池 大人 (近畿大学)
③鈴木 誠一 (明治大学) ④相吉 学 (明治大学)
⑤高木 正志 (札幌学院大学) ⑥山本 高士 (慶應義塾大学)
⑦永田 象平 (同志社大学) ⑧森山 直樹 (愛知学院大学)

男子シングル2部

①中脇 洋介 (法政大学) ②長田 穂 (東海大学)
③三浦 敦史 (大阪経済大学) ④吉成 建二 (愛知工業大学)
⑤安藤 大樹 (秋田大学) ⑥甲斐 将剛 (近畿大学)
⑦立石 敏隆 (大阪大学) ⑧大西 公一郎 (京都大学)

女子シングル1部

①金澤 由香 (東北学院大学) ②井上 怜奈 (早稲田大学)
③永橋 紘子 (東京外国語大学) ④辻 英恵 (同志社大学)
⑤大石 昌代 (近畿大学) ⑥川崎由紀子 (麗澤大学)
⑦須山 愛子 (愛知学院大学) ⑧若松 史子 (東北福祉大学)

女子シングル2部

①後藤 貴子 (名古屋女子大学) ②豊田 玲子 (同志社大学)
③田中身和子 (日本体育大学) ④中山 亜里 (甲南女子大学)
⑤中川 結子 (同志社大学) ⑥鈴木 直子 (女子美術短期大学)
⑦絵川 麗実 (甲南女子大学) ⑧加治屋陽子 (神奈川大学)

アイスホッケー

1回戦

立命館大学	4-2	北陸大学
慶應義塾大学	17-1	九州国際大学
中央大学	2-1	愛知学院大学
札幌学院大学	2-1	明星大学
専修大学	16-0	久留米大学
日本大学	11-1	関西大学
東海大学	5-1	札幌大学
早稲田大学	6-0	仙台大学
同志社大学	5-2	日本体育大学
龍谷大学	11-0	横浜国立大学
八戸大学	5-0	国士舘大学
明治学院大学	2-1	岡山大学
大東文化大学	5-0	京都産業大学

2回戦

東洋大学	16-1	立命館大学
法政大学	4-2	慶應義塾大学
中央大学	8-0	専修大学
日本大学	9-0	札幌学院大学
同志社大学	4-1	東海大学

早稲田大学	9-2	龍谷大学
大東文化大学	4-2	八戸大学
明治大学	39-0	明治学院大学

準々決勝戦

東洋大学	6-2	中央大学
法政大学	7-1	日本大学
同志社大学	4-4	大東文化大学

(PS 1-0)

明治大学	3-3	早稲田大学
------	-----	-------

(PS 2-0)

準決勝戦

東洋大学	9-4	同志社大学
法政大学	1-0	明治大学

3位決定戦

明治大学	6-3	同志社大学
------	-----	-------

決勝戦

東洋大学	4	$\begin{pmatrix} 0-1 \\ 2-0 \\ 2-1 \end{pmatrix}$	2	法政大学
------	---	---	---	------

反PAG 東洋大学

0 0 0 0	高橋 宏和	GK	0 0 0 0	菊池 尚哉
0 0 0 0	天坂 智徳		0 0 0 0	萩野 順二
1 1 1 0	村井 忠寛		0 0 0 0	星野 祥隆
0 0 0 0	大久保智仁		0 0 0 1	斎藤 太樹
1 0 0 0	内山 正浩		1 0 1 0	辻本 拓磨
2 1 0 1	有沢 寛司		0 0 0 0	丸橋 真樹
0 0 0 0	山口 和良		0 0 0 1	小山 辰也
1 0 0 0	大澤 秀之		0 0 0 1	本間 久晶
0 0 0 0	橋本 修		0 0 0 0	小西 健二
0 0 0 0	酒井 雅樹		0 0 0 0	木村 一豊
1 1 0 1	萩野 伸季	0 0 0 2	千葉 広樹	
0 0 0 0	豊田 和典	0 0 0 0	廣本 昌幸	
0 0 0 0	富沢 貴徳	1 1 2 0	北川 聡	
1 1 0 1	鈴木 貴人	0 0 0 0	大北 照彦	
0 0 0 0	佐曾谷亮平	0 0 0 0	三浦 智博	
1 2 1 1	滝沢 賢一	0 0 0 0	澤口 祥	
1 0 0 0	伊藤 雅俊	0 1 1 0	新里 智樹	
0 0 0 0	東 克彦	0 0 0 0	山口 鉄平	
0 0 0 0	田中 貴章	0 0 0 0	山下 泰崇	
0 0 0 0	近藤 充	0 0 0 0	森 邦文	
0 0 0 0	秋田 純	0 0 0 0	茅森 健一	
0 0 0 0	辻 健治郎	0 0 0 1	村井 啓太	

法政大学 GAP 反

0 0 0 0	高橋 宏和	GK	0 0 0 0	菊池 尚哉
0 0 0 0	天坂 智徳		0 0 0 0	萩野 順二
1 1 1 0	村井 忠寛		0 0 0 0	星野 祥隆
0 0 0 0	大久保智仁		0 0 0 1	斎藤 太樹
1 0 0 0	内山 正浩		1 0 1 0	辻本 拓磨
2 1 0 1	有沢 寛司		0 0 0 0	丸橋 真樹
0 0 0 0	山口 和良		0 0 0 1	小山 辰也
1 0 0 0	大澤 秀之		0 0 0 1	本間 久晶
0 0 0 0	橋本 修		0 0 0 0	小西 健二
0 0 0 0	酒井 雅樹		0 0 0 0	木村 一豊
1 1 0 1	萩野 伸季	0 0 0 2	千葉 広樹	
0 0 0 0	豊田 和典	0 0 0 0	廣本 昌幸	
0 0 0 0	富沢 貴徳	1 1 2 0	北川 聡	
1 1 0 1	鈴木 貴人	0 0 0 0	大北 照彦	
0 0 0 0	佐曾谷亮平	0 0 0 0	三浦 智博	
1 2 1 1	滝沢 賢一	0 0 0 0	澤口 祥	
1 0 0 0	伊藤 雅俊	0 1 1 0	新里 智樹	
0 0 0 0	東 克彦	0 0 0 0	山口 鉄平	
0 0 0 0	田中 貴章	0 0 0 0	山下 泰崇	
0 0 0 0	近藤 充	0 0 0 0	森 邦文	
0 0 0 0	秋田 純	0 0 0 0	茅森 健一	
0 0 0 0	辻 健治郎	0 0 0 1	村井 啓太	

9 6 2 4	計	2 2 4 6
---------	---	---------

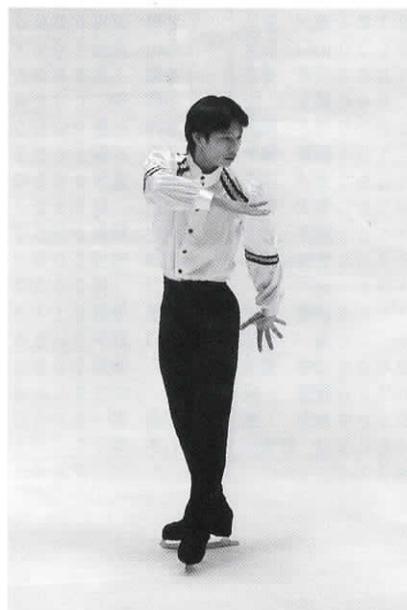
インカレは素晴らしい経験をくれた

重松 直樹 (日大OB)

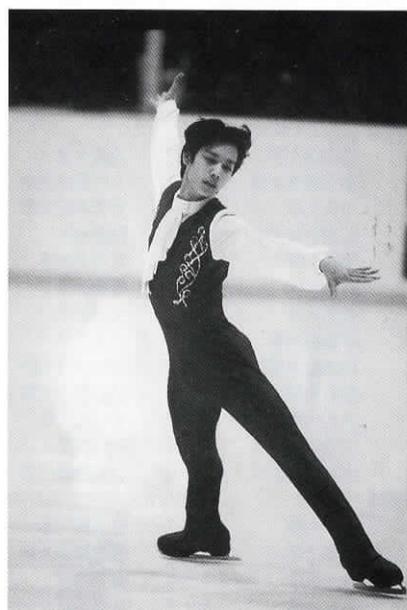
私は、第69回大会から第72回大会の4回の大会に出場し、そのうち、第70～72回大会において、部門別優勝(フィギュア部門)をすることが出来ました。これは、監督をはじめ、様々な方の協力や大会に出場した部員全員が優勝という目標に向かって持てる力を出し切った結果だと思います。フィギュアスケートというのは、主に個人競技なので、このように同じ目標に向かって力を合わせるという経験があまりなく、大変貴重な経験をする事が出来ました。

こうして今振り返ってみると、シーズン中はインカレだけではなく、全日本選手権やユニバーシアードなどの国際大会もあり、コンディションを維持していくことにずいぶん苦勞しましたが、こういった経験も現在指導する立場である自分にとって大きなプラスになっていると思います。

インカレは私にとって素晴らしい経験を積ませてくれた大会であり、忘れることの出来ない思い出です。今後も選手にとって素晴らしい大会であり続けてほしいと願っています。



フギュア男子1部で優勝した重松直樹選手(日大)の演技



アイスホッケー決勝戦(東洋-法政) 鈴木(東洋)のシュート決る。



アイスホッケー3連覇を果して喜ぶ東洋大チーム

第71回

平成11年1月6日(日)～9日(水)
栃木県日光市 日光霧降スケートセンター

スピード

男子①専修大学 ②日本大学 ③明治大学
女子①日本体育大学 ②山梨学院大学 ③東京女子体育大学

フィギュア

男子1部①日本大学 ②近畿大学 ③慶應義塾大学/法政大学 ④東北学院大学
⑤福岡大学/東北福祉大学 ⑥同志社大学
男子2部①東京大学 ②大阪大学 ③関西学院大学 ④近畿大学 ⑤関西大学 ⑥京都大学
⑦神戸大学 ⑧法政大学
女子1部①愛知学院大学 ②東洋大学 ③法政大学 ④東北学院大学 ⑤専修大学 ⑥東北福祉大学
⑦中京女子大学 ⑧東京女子体育大学
女子2部①東京女子体育大学 ②共立大学 ③相愛大学 ④実践福祉 ⑤同志社大学/京都大学
⑦名古屋女子大学 ⑧甲子園大学

アイスホッケー

①東洋大学 ②早稲田大学 ③法政大学 ④日本大学 ⑤中央大学/早稲田大学/同志社大学/大東文化大学

スピード

男子1部500m

①笹淵 峰尚 (日本大学) 3 6.1.1
②西岡 和哉 (専修大学) 3 6.2.7
③小須田典之 (専修大学) 3 6.4.0
④篠原裕太郎 (専修大学) ⑤伊藤 和孝 (山梨学院大学)
⑥井出 真博 (法政大学) ⑦笠原 健司 (東洋大学)
⑧清水 亮平 (日本大学)

男子1部1000m

①笹淵 峰尚 (日本大学) 0 1.1.2.1.5
②西岡 和哉 (専修大学) 0 1.1.3.5.3
③篠原裕太郎 (専修大学) 0 1.1.3.7.0
④井出 真博 (法政大学) ⑤宮川 洋平 (専修大学)
⑥笠原 健司 (東洋大学) ⑦田辺 昌利 (法政大学)
⑧柳平 一寿 (東洋大学)

男子1部1500m

①根本 茂一 (日本大学) 0 1.5.5.5.4
②今井 裕介 (山梨学院大学) 0 1.5.5.5.6
③長岡 淳一 (専修大学) 0 1.5.6.1.7
④高橋 壮一 (日本体育大学) ⑤篠原 泰洋 (山梨学院大学)
⑥中島 昇秀 (法政大学) ⑦伊藤 大理 (明治大学)
⑧宮川 洋平 (専修大学)

男子1部5000m

①徳村 光晃 (明治大学) 0 6.5.9.1.0
②米倉 大介 (明治大学) 0 7.0.0.0.8
③渡辺 充 (専修大学) 0 7.0.5.5.5
④平田 浩一 (日本大学) ⑤小湊 勇樹 (日本大学)
⑥大里 崇 (明治大学) ⑦中島 昇秀 (法政大学)
⑧伊勢 秀一 (専修大学)

男子1部10000m

①徳村 光晃 (明治大学) 1 4.2.6.5.2
②半崎 泰生 (明治大学) 1 4.3.8.9.9
③根本 茂一 (日本大学) 1 4.4.0.1.0
④米倉 大介 (明治大学) ⑤渡辺 充 (専修大学)
⑥小湊 勇樹 (日本大学) ⑦伊勢 俊一 (専修大学)
⑧平田 浩一 (日本大学)

男子1部2000mリレー

①専修大学 0 2.2.5.1.7
(山崎裕哉 小須田典之 篠原裕太郎 西岡和哉)
②山梨学院大学 0 2.2.7.2.8
③日本大学 0 2.2.7.6.1

女子500m

①惣田由美子 (山梨学院大学) 4 0.2.7
②新谷志保美 (筑波大学) 4 0.4.6
③茂木美保子 (日本体育大学) 4 1.1.6
④上原 千聖 (山梨学院大学) ⑤神戸さち子 (日本体育大学)
⑥遠藤 弘恵 (日本体育大学) ⑦今井沙衣子 (山梨学院大学)
⑧宮崎 佳奈 (大東文化大学)

女子1000m

①惣田由美子 (山梨学院大学) 0 1.2.3.0.4
②遠藤 弘恵 (日本体育大学) 0 1.2.4.0.7
③茂木美保子 (日本体育大学) 0 1.2.4.2.3
④深萱 佳永 (日本体育大学) ⑤今井沙衣子 (山梨学院大学)
⑥宮崎 佳奈 (大東文化大学) ⑦樽石友紀世 (北海道女子大学)
⑧米森比早子 (東京女子体育大学)

女子1500m

①安田 有希 (日本体育大学) 0 2.0.7.5.5
②竹ノ内由香 (日本体育大学) 0 2.1.0.0.2

③岡田奈緒子 (日本体育大学) 0 2.1.0.3.2
④鹿野 里美 (東京女子体育大学) ⑤小澤 幸 (山梨学院大学)
⑥中村 由美 (東京女子体育大学) ⑦木原さとみ (山梨学院大学)
⑧米森比早子 (東京女子体育大学)

女子3000m

①安田 有希 (日本体育大学) 0 4.2.7.4.2
②竹ノ内由香 (日本体育大学) 0 4.2.8.6.2
③小澤 幸 (山梨学院大学) 0 4.3.3.9.3
④山本 絵美 (日本体育大学) ⑤鹿野 里美 (東京女子体育大学)
⑥木原さとみ (山梨学院大学) ⑦中村 由美 (東京女子体育大学)
⑧井内美奈子 (大東文化大学)

女子2000mリレー

①山梨学院大学 0 2.4.7.9.9
(今井沙衣子 三浦知子 上原千聖 惣田由美子)
②日本体育大学 0 2.4.9.0.9
③大東文化大学 0 2.5.2.1.7

フィギュア

男子シングル1部

①田村 岳斗 (東北学院大学) ②重松 直樹 (日本大学)
③岡崎 真 (福岡大学) ④竹内 洋輔 (法政大学)
⑤永田 象平 (同志社大学) ⑥山本 高士 (慶應義塾大学)
⑦渡辺 大介 (日本大学) ⑧高木 正志 (札幌学院大学)

男子シングル2部

①立石 敏隆 (大阪大学) ②小北 知也 (近畿大学)
③守脇 洋介 (法政大学) ④甲斐 将剛 (近畿大学)
⑤長瀬 憲 (京都大学) ⑥中村 有也 (東京大学)
⑦内田 勇輔 (東京大学) ⑧坂本 雅直 (大阪大学)

女子シングル1部

①金澤 由香 (東北学院大学) ②横谷 花絵 (淑徳大学)
③藤野 有未 (法政大学) ④高橋香奈子 (専修大学)
⑤永桶 紘子 (東京外国語大学) ⑥大石 昌代 (近畿大学)
⑦木下 紀子 (中京女子大学) ⑧山室 慶子 (法政大学)

女子シングル2部

①中川 紘子 (同志社大学) ②唐田 憲子 (東京女子体育大学)
③後藤 貴子 (名古屋女子大学) ④正木 彩香 (甲子園大学)
⑤佐々木美姫子 (中京大学) ⑥晁岡 倫代 (東京女子体育大学)
⑦河辺 郁予 (東京女子体育大学) ⑧松下 真理 (獨協大学)

アイスホッケー 1回戦

仙台大学	1 8-0	愛媛大学
東海大学	1 2-1	関西大学
専修大学	4-3	京都産業大学
北陸大学	5-0	帝京大学
中央大学	2-0	立命館大学
早稲田大学	6-0	愛知学院大学
日本大学	8-0	札幌学院大学
大東文化大学	9-1	札幌大学
武蔵工業大学	4-2	九州産業大学
龍谷大学	8-0	明治学院大学
青山学院大学	5-3	八戸大学
慶應義塾大学	6-3	福岡大学
同志社大学	2 8-0	広島修道大学

2回戦

東洋大学	1 1-1	仙台大学
明治大学	7-1	東海大学
中央大学	8-1	専修大学
早稲田大学	1 8-1	北陸大学
日本大学	2 4-0	武蔵工業大学
大東文化大学	1 0-3	龍谷大学
同志社大学	4-1	青山学院大学
法政大学	1 0-3	慶應義塾大学

準々決勝戦

東洋大学	8-0	中央大学
明治大学	4-5	早稲田大学
日本大学	4-3	同志社大学
法政大学	7-4	大東文化大学

準決勝戦

東洋大学	6-1	日本大学
早稲田大学	7-4	法政大学

3位決定戦

法政大学	5-3	日本大学
------	-----	------

M V P 大久保智仁 (東洋大学)
得点王 高橋 秀幸 (日本大学)
アシスト王 三浦 智博 (法政大学)

決勝戦
東洋大学 3 $\begin{pmatrix} 0-1 \\ 3-1 \\ 0-0 \end{pmatrix}$ 2 早稲田大学

反 A G 東洋大学		早稲田大学 G A 反
0 0 0 天坂 智徳	} GK	{ 和多田朋宏 0 0 1
0 0 0 高橋 宏和		{ 星野 太志 0 0 0
0 0 0 大久保智仁	RD	山崎 浩市 0 0 0
0 1 0 高嶋 大輔	LD	増子 洋平 0 0 0
2 0 1 山口 和良	RD	川口 栄 0 0 0
0 0 0 大澤 秀之	LD	荻原 靖也 0 0 1
1 0 0 川端 正樹	RD	瀬口 剛嗣 0 0 0
1 1 0 任田 大秦	LD	山下 猛 0 0 0
1 1 0 滝沢 賢一	RW	畠山 貴宏 0 0 0
0 0 0 豊田 和典	C	北村 学 0 0 0
0 0 0 東 克彦	LW	小林 裕樹 0 0 2
0 0 0 伊藤 雅俊	RW	高橋 一馬 0 0 1
0 0 0 今 洋祐	C	澤口 雄次 0 0 1
0 1 1 佐曾谷亮平	LW	赤川 勇二 0 0 0
0 0 0 金子 正憲	RW	酒井 隆行 1 0 0
0 0 0 阿部 明	C	北側 雄哉 0 0 1
0 0 1 辻 健治郎	LW	神野 徹 1 0 0
0 0 0 大澤 洋介	RW	畑山 賢樹 0 0 0
0 0 0 高木慎太郎	C	金入 常郎 0 0 1
0 0 0 春日 剛史	LW	高見 和利 0 0 0
0 0 0 野津手康弘	RD	林 巧 0 0 0
0 0 0 酒井 友和	LD	遠藤 慶至 0 0 0
5 4 3	計	2 0 8

インカレを目指すなかで得た感謝の気持ち

金澤 由香 (東北学院大OB)

私の15年間のフィギュアスケート人生の中で、インカレでの優勝は引退した今でも決して忘れることができません。

練習の時にはできていても、本番ではどうしても失敗してしまい悔し涙を流すことが多かったあの頃。本番で成功して笑顔で滑り切ることができた時、嬉しさと充実感でいっぱいでした。そして、あらためて今までフィギュアスケートを続けてきて良かったと感じました。

ですが、それまで楽しいことばかりではありませんでした。やはり、一番大変だったのは、学業との両立だったかもしれません。大会に出場する時は、授業を欠席しなくてはならずとても不安でした。ですが、そんな時には友人や学校の先生、いろいろな方々に助けていただいて本当に励みになりました。迷ったり、悩んだりしましたが、私がやってきたことは間違っていなかったんだと今は自信を持ってそう言うことができます。辛くて苦しくて、何度もやめようと思いましたが、最後まで続けてこれたのは、やっぱりスケートが好きだったからかもしれません。そして、それは自分の力だけではなくいろいろな方々に支えられてきたからなのだと思います。

感謝の気持ちは言葉にできないほどですがこのような気持ちを忘れずにこれからの人生も頑張っていきたいと思います。

第72回

平成12年1月6日(日)～9日(水)
北海道帯広市 帯広の森スピードスケート場

スピード

男子①明治大学 ②専修大学 ③日本大学
女子①日本体育大学 ②大東文化大学 ③山梨学院大学

フィギュア

男子①日本大学 ②明治大学 ③慶應義塾大学/法政大学 ⑤近畿大学 ⑥東洋大学 ⑦同志社大学
⑧関西学院大学
女子①東洋大学 ②専修大学 ③京都産業大学 ④東北学院大学 ⑤東京女子体育大学 ⑥近畿大学
⑦富士短期大学 ⑧麗澤学院大学/愛知学院大学

アイスホッケー

①東洋大学 ②法政大学 ③早稲田大学 ④同志社大学 ⑤明治大学/日本大学/大東文化大学/中央大学

スピード

男子1部500m

①西岡 和哉 (専修大学) 3 7.0 9
②笠原 健司 (東洋大学) 3 7.1 4
③清水 亮平 (日本大学) 3 7.2 6
④沢 友和 (専修大学) ⑤山手新太郎 (日本体育大学)
⑥川田 知範 (日本体育大学) ⑦藤ヶ森誠司 (山梨学院大学)
⑧田辺 昌利 (法政大学)

男子1部1000m

①今井 裕介 (山梨学院大学) 0 1.1 3.4 2
②西岡 和哉 (専修大学) 0 1.1 5.0 9
③小林 正暢 (明治大学) 0 1.1 5.1 8
④山手新太郎 (日本体育大学) ⑤沢 友和 (専修大学)
⑥田辺 昌利 (法政大学) ⑦小佐野俊之 (日本大学)
⑧清水 亮平 (日本大学)

男子1部1500m

①今井 裕介 (山梨学院大学) 0 1.5 4.9 8
②小林 正暢 (明治大学) 0 1.5 6.9 1
③渡辺 充 (専修大学) 0 1.5 7.7 2
④菱沼 雅仁 (明治大学) ⑤伊勢 秀一 (専修大学)
⑥井出 良直 (法政大学) ⑦篠原 泰洋 (山梨学院大学)
⑧野本 繁 (日本体育大学)

男子1部 5000m

①米倉 大介 (明治大学) 0 7.0 4.0 6
②渡辺 充 (専修大学) 0 7.0 6.1 0
③菱沼 雅仁 (明治大学) 0 7.1 0.4 3
④小湊 勇樹 (日本大学) ⑤徳村 光晃 (明治大学)
⑥平田 浩一 (日本大学) ⑦小澤 晴樹 (東洋大学)
⑧黒岩 雅昭 (日本大学)

男子1部10000m

①米倉 大介 (明治大学) 1 4.3 3.5 5
②徳村 光晃 (明治大学) 1 4.4 2.0 6
③平田 浩一 (日本大学) 1 4.5 0.8 8

④小湊 勇樹 (日本大学) ⑤半崎 泰生 (明治大学)
⑥武田 敏之 (東洋大学) ⑦栢田 憲司 (専修大学)
⑧伊勢 俊一 (専修大学)

男子1部2000mリレー

①専修大学 0 2.2 6.7 1
(沢友和 川村久洋 小須田典之 西岡和哉)
②山梨学院大学 0 2.2 7.9 0
③日本体育大学 0 2.2 8.4 9

女子500m

①新谷 志保美 (筑波大学) 4 1.2 7
②惣田 由美子 (山梨学院大学) 4 2.1 4
③栗林 美奈子 (大東文化大学) 4 3.3 4
④藤井 有加 (日本体育大学) ⑤田谷 直子 (大東文化大学)
⑥角谷 絵美 (日本体育大学) ⑦今井沙衣子 (山梨学院大学)
⑧石母田真弓 (東京女子体育大学)

女子1000m

①新谷志保美 (筑波大学) 0 1.2 4.2 7
②惣田由美子 (山梨学院大学) 0 1.2 5.8 8
③遠藤 弘恵 (日本体育大学) 0 1.2 5.9 9
④藤井 有加 (日本体育大学) ⑤栗林美奈子 (大東文化大学)
⑥今井沙衣子 (山梨学院大学) ⑦深董 佳永 (日本体育大学)
⑧井内美奈子 (大東文化大学)

女子1500m

①安田 有希 (日本体育大学) 0 2.1 1.0 2
②大木 房美 (大東文化大学) 0 2.1 2.3 1
③竹ノ内由香 (日本体育大学) 0 2.1 2.6 9
④遠藤 弘恵 (日本体育大学) ⑤井内美奈子 (大東文化大学)
⑥米森比早子 (東京女子体育大学) ⑦高橋さゆり (山梨学院大学)
⑧道政 直美 (山梨学院大学)

女子3000m

①竹ノ内由香 (日本体育大学) 0 4.3 2.7 9
②安田 有希 (日本体育大学) 0 4.3 5.1 2
③大木 房美 (大東文化大学) 0 4.3 6.0 2

④山本 絵美 (日本体育大学) ⑤米森比早子 (東京女子体育大学)
⑥木原さとみ (山梨学院大学) ⑦宮崎美代子 (大東文化大学)
⑧一ノ瀬智恵子 (大東文化大学)

男子2000mリレー

①山梨学院大学 0 2.5 0.7 5
(今井沙衣子 三浦知子 高橋さゆり 惣田由美子)
②大東文化大学 0 2.5 1.3 3
③東京女子体育大学 0 2.5 5.3 3

フィギュア

男子シングル1部

①重松 直樹 (日本大学) ②竹内 洋輔 (法政大学)
③岩本 英嗣 (日本大学) ④渡辺 大介 (日本大学)
⑤永田 象平 (同志社大学) ⑥岡本 晃 (明治大学)
⑦森垣 茂也 (関西学院大学) ⑧上野 貴史 (明治大学)

男子シングル2部

①小北 知也 (近畿大学) ②内田 勇輔 (東京大学)
③中村 有也 (東京大学) ④太田 太一 (京都大学)
⑤小森 敏史 (京都大学) ⑥阿部 諭 (岡山理科大学)
⑦今川 正継 (青山学院大学) ⑧赤羽 準治 (関西学院大学)

女子シングル1部

①川崎由紀子 (麗澤大学) ②金澤 由香 (東北学院大学)
③大塚 路子 (東洋大学) ④太石 昌代 (近畿大学)
⑤永橋 結子 (東京外国語大学) ⑥佐藤佳奈子 (専修大学)
⑦高橋 恵 (日本大学) ⑧鍵田 祐子 (甲南女子大学)

女子シングル2部

①藤藤 貴子 (名古屋女子大学) ②村上美沙子 (龍谷大学)
③鈴木 里菜 (共立女子大学) ④唐田 憲子 (東京女子体育大学)
⑤中川 結子 (同志社大学) ⑥三輪久美子 (東京女子体育大学)
⑦田向 恵 (東京女子体育大学) ⑧浅川はるか (四條学院短期大学)

アイスホッケー

1回戦

北陸大学	5-1	関西学院大学
日本体育大学	6-2	神戸大学
明治大学	6-0	愛知学院大学
同志社大学	3-2	八戸大学
立命館大学	3-2	専修大学
札幌大学	4-1	神奈川大学
日本大学	19-1	福岡大学
東海大学	27-0	広島大学
青山学院大学	4-3	仙台大学
大東文化大学	24-0	久留米大学
中央大学	10-0	北海学園大学
京都産業大学	5-4	千葉工業大学
国士舘大学	4-1	関西大学

2回戦

東洋大学	20-0	北陸大学
明治大学	20-1	日本体育大学
同志社大学	8-4	立命館大学

日本大学	7-2	札幌大学
法政大学	7-3	東海大学
大東文化大学	8-2	青山学院大学
中央大学	13-5	京都産業大学
早稲田大学	20-1	国士舘大学

準々決勝

東洋大学	5-3	明治大学
同志社大学	5-3	日本大学
法政大学	10-0	大東文化大学
早稲田大学	4-3	中央大学

準決勝

東洋大学	5-1	同志社大学
法政大学	5-2	早稲田大学

3位決定戦

早稲田大学	11-2	同志社大学
-------	------	-------

M V P 天坂 智徳 (東洋大学)
得点王 新里 智樹 (法政大学)
アシスト王 三浦 智博 (法政大学)

決勝戦
 東洋大学 $2 \begin{pmatrix} 1-1 \\ 1-0 \\ 0-1 \end{pmatrix} 2$ 法政大学
 (PS 1-0)

反 A G 東洋大学		法政大学 G A 反
0 0 0 天坂 智徳	} GK	{ 萩野 順二 0 0 0
0 0 0 谷口 弘和		{ 尾野 晶亮 0 0 0
1 0 0 任田 大泰	RD	園田 智弘 0 0 0
0 0 0 大澤 秀之	LD	河村 正博 0 0 1
0 0 0 藤田 成則	RD	松本 拓也 0 0 0
1 0 0 山口 和良	LD	中田 圭亮 0 0 1
0 0 0 佐々木啓之	RD	齋藤 太樹 0 0 0
1 0 0 酒井 友和	LD	荒井 亮太 0 0 0
0 0 0 石山 晋平	RW	星野 則康 0 0 0
0 0 0 川端 正樹	C	未松 大一 0 0 0
3 0 1 佐曾谷亮平	LW	澤口 祥 0 0 0
1 0 1 今 洋祐	RW	茅森 健一 0 0 0
0 0 0 東 克彦	C	波多野誉行 0 0 0
2 0 0 金子 正憲	LW	千葉 広樹 0 0 0
0 1 1 田中 貴章	RW	伊藤 悟 2 0 1
0 1 0 伊藤 雅俊	C	茅森 康二 0 0 1
0 0 0 森田 大介	LW	新里 智樹 0 0 0
1 0 0 阿部 明	RW	番澤真一郎 0 0 1
0 0 0 辻 健治郎	C	三浦 智博 0 1 0
0 0 0 佐々木伸吾	LW	山下 泰崇 0 0 0
0 0 0 荒木 卓三	RD	酒井 大輔 0 0 0
0 0 0 大澤 洋介	LD	渋谷 一樹 0 0 1
102 3	計	2 1 6

20年ぶりの優勝

米倉 大介 (明大OB)

72回大会は、明治大学スピード部門にとっても、僕にとっても心に残る大会でした。それは、20季ぶりのスピード部門優勝と、僕自身が大学時代通しての初優勝が重なったからです。

会場の帯広では珍しく大雪になり、その為タイムテーブルの大幅な変更等があり、条件の良い大会とはいえませんでした。でも、最後のインカレ、しかも主将となるとそんな事を気にしてられません。後からビデオで観る自分の自分らしくないレース。本当に必死だったなと思います。だからこそ余計に、個人優勝ができた事は印象深く残っています。でも、それ以上に部門優勝した嬉しさは格別でした。部員全員が、1日が終わる度に得点を計算しながら優勝を意識していったと思います。それが最後の1500mが終わって現実のものになった時、全員凄く興奮しながら喜んだことを覚えています。

20季ぶりの優勝になるということは後から知り、もちろん意識もしていませんでした。でも、その時のメンバーでしかも主将であった事は、誇りに思うと同時に僕の自慢です。



20季ぶり優勝の明大スピード陣

第73回

平成13年1月6日(日)～9日(水)
北海道釧路市 柳町スピードスケート場

総合

男子①日本大学 ②東洋大学 ③明治大学 ④法政大学 ⑤専修大学 ⑥中央大学
女子①日本体育大学/東北福祉大学 ③山梨学院大学/東洋大学 ⑤大東文化大学/専修大学

スピード

男子1部①明治大学 ②日本大学 ③専修大学 ④日本体育大学 ⑤東洋大学 ⑥山梨学院大学
⑦法政大学 ⑧大東文化大学
男子2部①関東学院大学 ②仙台大学 ③神奈川大学 ④国土館大学/京都産業大学 ⑥信州大学
⑦早稲田大学 ⑧立命館大学
女子①日本体育大学 ②山梨学院大学 ③大東文化大学 ④筑波大学 ⑤東京女子体育大学
⑥関東学院大学 ⑦信州大学 ⑧都留文科大学

フィギュア

男子1部①日本大学 ②法政大学 ③明治大学 ④東洋大学 ⑤札幌学院大学/近畿大学
⑦慶應義塾大学 ⑧関西学院大学
男子2部①東京大学 ②京都大学 ③岡山大学 ④愛知大学 ⑤近畿大学 ⑥信州大学/名古屋大学
⑧昭和大学
女子1部①東北福祉大学 ②東洋大学 ③専修大学 ④京都産業大学 ⑤近畿大学 ⑥龍谷大学
⑦同志社大学 ⑧東京女子体育大学
女子2部①東京女子体育大学 ②共立女子大学 ③慶應義塾大学 ④近畿大学 ⑤日本女子体育大学
⑥神奈川大学 ⑦中京大学 ⑧第一経済大学

アイスホッケー

①東洋大学 ②法政大学 ③日本大学 ④中央大学 ⑤明治大学/同志社大学/早稲田大学/立命館大学

スピード

男子1部500m

①川田 知帆 (日本体育大学) 0 0.3 7.7 7
②渡辺壮一郎 (日本大学) 0 0.3 7.8 3
③沢 友和 (専修大学) 0 0.3 7.9 3
④小林 正暢 (明治大学) ⑤清水 亮平 (日本大学)
⑥植津 悦典 (日本大学) ⑦寺島賢寿生 (日本体育大学)
⑦山崎 裕哉 (専修大学)

男子1部1000m

①沢 友和 (専修大学) 0 1.1 6.6 2
②小林 正暢 (明治大学) 0 1.1 6.6 2
③小佐野俊之 (日本大学) 0 1.1 6.8 0
④柳平 一寿 (東洋大学) ⑤小澤 晴樹 (東洋大学)
⑥山手新太郎 (日本体育大学) ⑦川村 久洋 (専修大学)
⑦清水 亮平 (日本大学)

男子1部1500m

①牛山 貴広 (明治大学) 0 1.5 6.5 2
②菱沼 雅仁 (明治大学) 0 1.5 8.0 8
③小澤 晴樹 (東洋大学) 0 1.5 8.1 6
④篠原 泰洋 (山梨学院大学) ⑤小林 和朗 (明治大学)
⑥伊勢 秀一 (専修大学) ⑦小佐野俊之 (日本大学)
⑧福田 洋司 (専修大学)

男子1部 5000m

①宮崎今佐人 (明治大学) 0 7.0 7.5 2
②牛山 貴広 (明治大学) 0 7.0 8.3 8
③徳村 光晃 (明治大学) 0 7.1 4.5 2
④菊地 千年 (専修大学) ⑤平田 浩一 (日本大学)
⑥袴田 憲司 (専修大学) ⑦野本 繁 (日本体育大学)
⑧遠藤幸太郎 (日本大学)

男子1部10000m

①宮崎今佐人 (明治大学) 1 4.4 9.5 9
②徳村 光晃 (明治大学) 1 4.5 8.3 8
③小原 英志 (日本大学) 1 5.1 1.8 5
④遠藤幸太郎 (日本大学) ⑤平田 浩一 (日本大学)
⑥村崎 高夫 (東洋大学) ⑦伊勢 俊一 (専修大学)
⑧袴田 憲司 (専修大学)

男子1部2000mリレー

①日本大学 0 2.2 7.8 8
(清水亮平 植津悦典 渡辺壮一郎 柿沢与一郎)
②日本体育大学 0 2.2 8.1 4
③専修大学 0 2.2 8.4 7

男子2部500m

①土屋 清貴 (関東学院大学) 3 9.1 9
②齊藤 仁 (仙台大学) 3 9.5 3

③本田 浩史 (仙台大学) 3 9.9 0
④立田 章二 (京都産業大学) ⑤市村 充 (関東学院大学)
⑥三戸 伸崇 (立命館大学) ⑦松田 理 (国土館大学)
⑧外山 健 (東北大学)

男子2部1500m

①大内 智則 (関東学院大学) 0 2.0 5.9 4
②芹田 亮 (関東学院大学) 0 2.0 6.8 6
③須藤 勇気 (信州大学) 0 2.0 8.3 6
④立田 章二 (京都産業大学) ⑤上原 啓一 (仙台大学)
⑥林 伸哉 (国土館大学) ⑦柳町 博行 (仙台大学)
⑧三戸 伸崇 (立命館大学)

男子2部3000m

①高橋 秀明 (神奈川大学) 0 4.2 9.1 2
②小嶋 直也 (関東学院大学) 0 4.3 4.9 0
③黒岩 史倫 (関東学院大学) 0 4.3 6.1 4
④林 伸哉 (国土館大学) ⑤柳町 博行 (仙台大学)
⑥上原 啓一 (仙台大学) ⑦須藤 勇気 (信州大学)
⑧高野 正樹 (早稲田大学)

男子2部5000m

①高橋 秀明 (神奈川大学) 0 7.3 4.4 7
②小嶋 直也 (関東学院大学) 0 8.0 3.3 4
③土居 隼人 (関東学院大学) 0 8.2 0.2 3
④高野 正樹 (早稲田大学) ⑤本田 浩史 (仙台大学)

男子2部2000mリレー

①関東学院大学 0 2.3 7.2 8
(土屋清貴 長田学 市村充 西尾直記)
②仙台大学 0 2.3 9.6 5

女子500m

①新谷志保美 (筑波大学) 4 0.4 9
②惣田由美子 (山梨学院大学) 4 2.4 6
③三浦 理香 (日本体育大学) 4 3.0 1
④栗林美奈子 (大東文化大学) ⑤谷地田美花 (日本体育大学)
⑥宮崎 佳奈 (大東文化大学) ⑦深董 佳永 (日本体育大学)
⑧三浦 知子 (山梨学院大学)

女子1000m

①新谷志保美 (筑波大学) 0 1.2 3.1 0
②惣田由美子 (山梨学院大学) 0 1.2 6.6 4
③栗林美奈子 (大東文化大学) 0 1.2 8.8 1
④角谷 絵美 (日本体育大学) ⑤遠藤 弘恵 (日本体育大学)
⑥谷地田美花 (日本体育大学) ⑦山本 早里 (東女子体育大学)
⑧三浦 知子 (山梨学院大学)

女子1500m

①竹ノ内由香 (日本体育大学) 0 2.1 2.0 9
②大木 房実 (大東文化大学) 0 2.1 4.7 2
③高橋さゆり (山梨学院大学) 0 2.1 5.7 3
④山本 絵美 (日本体育大学) ⑤道政 直美 (山梨学院大学)
⑥遠藤 弘恵 (日本体育大学) ⑦木原さとみ (山梨学院大学)
⑧米森比早子 (東京女子体育大学)

女子3000m

①竹ノ内由香 (日本体育大学) 0 4.3 6.7 1

②大木 房実 (大東文化大学) 0 4.4 4.4 9
③高橋さゆり (山梨学院大学) 0 4.4 5.7 4
④木原さとみ (山梨学院大学) ⑤栗林しのぶ (日本体育大学)
⑥一ノ瀬智恵子 (大東文化大学) ⑦高見澤理恵 (山梨学院大学)
⑧八木 由紀 (関東学院大学)

女子2000mリレー

①日本体育大学 0 2.5 1.3 6
(三浦理香 深董佳永 遠藤弘恵 谷地田美花)
②山梨学院大学 0 2.5 2.5 0
③東京女子体育大学 0 2.5 6.4 9

フィギュア

男子シングル1部

①田村 岳斗 (日本大学) ②竹内 洋輔 (法政大学)
③岩本 英嗣 (日本大学) ④高木 正志 (札幌学院大学)
⑤竹村 潤一 (法政大学) ⑥小川 泰夫 (慶應義塾大学)
⑦上野 貴史 (明治大学) ⑧岡本 晃 (明治大学)

男子シングル2部

①北北 知也 (近畿大学) ②大谷 康雄 (信州大学)
③浜崎 祐紀 (東京大学) ④山田 哲也 (昭和大学)
⑤中川 慶一 (東京大学) ⑥島居 誠司 (常磐会学園大学)
⑦大口 悠司 (岡山大学) ⑧渡辺 潤 (京都大学)

女子シングル1部

①若松 詩子 (東北福祉大学) ②大石 昌代 (近畿大学)
③竹内 理恵 (同志社大学) ④佐藤 佳奈子 (専修大学)
⑤高橋香奈子 (専修大学) ⑥荒井 万里絵 (東北福祉大学)
⑦鎌田 祐子 (甲南女子大学) ⑧伊沢 摩衣 (東洋大学)

女子シングル2部

①唐田 憲子 (東京女子体育大学) ②坂口 悦子 (神奈川大学)
③佐々木美姫子 (中京大学) ④鈴木 里菜 (共立女子大学)
⑤武智 一美 (第一経済大学) ⑥鈴木 絵美 (名古屋短期大学)
⑦三輪久美子 (東京女子体育大学) ⑧金子 由佳 (日本体育大学)

アイスホッケー

1回戦

苫小牧駒沢大学 5-0 関西学院大学
帝京大学 7-2 広島修道大学
明治大学 10-0 愛知学院大学
日本大学 14-0 苫小牧駒沢大学
大東文化大学 6-4 東北福祉大学
専修大学 13-1 愛知大学
慶應義塾大学 15-0 関西大学
同志社大学 8-0 八戸工業大学
早稲田大学 5-0 北陸大学
日本体育大学 7-0 福岡大学
札幌大学 6-5 国土館大学
中央大学 16-0 九州国際大学
大東文化大学 13-1 釧路公立大学
立命館大学 2-1 東海大学
京都産業大学 3-2 青山学院大学

2回戦

東洋大学	2 8-0	苫小牧駒沢大学
明治大学	2 6-0	帝京大学
日本大学	8-1	専修大学
同志社大学	4-3	慶應義塾大学
早稲田大学	2 2-1	日本体育大学
中央大学	1 2-1	札幌大学
立命館大学	5-4	大東文化大学
法政大学	1 2-1	京都産業大学

準々決勝戦

東洋大学	7-3	明治大学
日本大学	6-3	同志社大学
中央大学	4-3	早稲田大学
法政大学	8-1	立命館大学

準決勝戦

東洋大学	5-3	日本大学
法政大学	3-0	中央大学

3位決定戦

日本大学	1 0-2	中央大学
------	-------	------

M V P 大澤 秀之 (東洋大学)
 得点王 根本 昌堅 (日本大学)
 アシスト王 根本 昌堅 (日本大学)

決勝戦

東洋大学	5	$\begin{pmatrix} 2-2 \\ 1-1 \\ 2-1 \end{pmatrix}$	4	法政大学
------	---	---	---	------

反 A G 東洋大学		法政大学 G A 反
0 0 0 石川 央	} GK	{ 萩野 順二 0 0 0
0 0 0 谷口 弘和		{ 金丸 祐介 0 0 0
2 0 0 佐々木啓之	RD	斉藤 太樹 0 0 0
0 0 0 五十嵐貴志	LD	園田 智弘 0 0 0
1 1 0 大澤 秀之	RD	河村 正博 0 1 1
0 0 1 任田 大泰	LD	松田 圭介 1 1 0
0 1 0 川端 正樹	RD	中田 圭亮 0 1 0
0 0 0 酒井 友和	LD	松本 拓也 0 1 1
0 0 0 石山 晋平	RD	荒井 亮太 0 0 0
0 0 0 大久 一海	LD	萩原 優吾 0 0 0
0 0 1 今 政則	RW	千葉 良平 0 1 1
3 0 0 今 洋祐	C	衣笠 伸正 0 1 0
0 0 0 森田 大介	LW	山下 泰崇 0 0 0
0 0 1 伊藤 雅俊	RW	千葉 広樹 0 0 0
0 3 0 瀬高 哲夫	C	伊藤 悟 0 0 1
1 0 1 東 克彦	LW	茅森 康二 1 0 2
0 2 0 金子 正憲	RW	波多野 誉行 1 0 2
1 0 0 阿部 明	C	茅森 健一 0 0 1
1 0 1 大澤 洋介	LW	渋谷 一樹 1 0 1
1 0 0 佐々木伸吾	RW	酒井 大輔 0 0 0
0 0 0 荒木 卓三	C	番澤 真一朗 0 0 0
0 0 0 辻 康治郎	LW	末松 大一 0 1 0
107 5	計	4 7 10

5000mで1、2、3位独占

宮崎 今佐人 (明大OB)

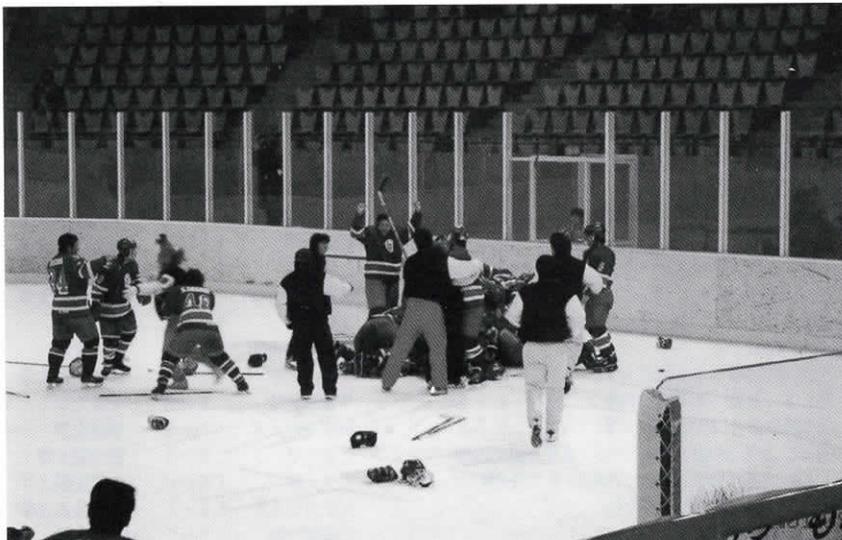
凍えるような冷さの中、第73回インカレが北海道釧路市で開催された。群馬県出身の私はインターハイや国体などで北海道には行った事はありませんでした。そのため釧路のリンクで滑るのは2回目でした。初めて滑ったのは前年度の全日本選手権の時でした。その時に5000mで3位に入り、私にとって思い出深く相性の良いリンクに感じました。当時、一年生だった私は初めてのインカレという事もありとても緊張していました。そして私は5000m、10000m共に第3シードで滑る事になりました。5000mでは私が滑る事には同期の牛山がトップ、3年生の徳村さんが2位と明治大学の選手が1、2位に居ました。そこで私が3位以内に入れば、1、2、3位が独占できると思いトップの牛山のタイムを追って行きました。釧路のリンクはとても風が強く、ラップをキープするのがとても大変でした。そして牛山をギリギリでかわし、優勝、そして5000mで1、2、3位を独占する事ができました。3部門総合では優勝できなかったですが、スピード部門では優勝する事ができました。今年は75回という記念すべき大会なので、3部門優勝を目指して、頑張りたいと思います。

最後に大切なもの

大澤 秀之 (東洋大OB)

私達がインカレに望むにあたって2つの大きなタイトルがかかっていました。春、秋、インカレの3冠とインカレ6連覇です。当時の東洋大のメンバーはインカレにおいて1度も負けた事はありません。インカレのトーナメントを勝ち抜く辛さ、意味、価値を今までの経験の中で各個人が自然に頭と身体で理解していたように思います。そういう意識が合宿や大会の中であます事なく出ていたと思います。合宿では私が「こうしよう」というような事は一度もなく、誰が何を言わなくても4年生を中心にチーム全体が、何をやらなきゃならないのかを理解していました。そういう姿勢がチームの力になっていきました。

決勝ではシーソーゲームになり、どちらが勝ってもおかしくない試合になりました。勝負を分けたのは勝ちたいという強い気持ちとどれだけチームメイトを信頼していたかだと思います。その部分で少し勝っていた結果が優勝だと思います。インカレでの優勝の最後のブザーは今でも忘れえぬ瞬間です。最後にこのチームでプレー出来た事を誇りに思います。



アイスホッケー決勝戦 (東洋-法政) 試合終了ブザーの瞬間、小躍りしてよるこぶ東洋大チーム

第74回

平成14年1月6日(日)～9日(水)
群馬県総合スポーツセンター 伊香保リンク

総合

男子①明治大学 ②法政大学 ③日本大学 ④東洋大学 ⑤早稲田大学 ⑥日本体育大学
女子①山梨学院大学/日本体育大学/東北福祉大学 ④専修大学 ⑤信州大学/東洋大学

スピード

男子1部①明治大学 ②日本大学 ③日本体育大学 ④専修大学 ⑤東洋大学 ⑥山梨学院大学
⑦法政大学 ⑧関東学院大学
男子2部①大東文化大学 ②仙台大学 ③筑波大学 ④都留文科大学 ⑤信州大学 ⑥京都産業大学
⑦早稲田大学 ⑧東北大学/国士舘大学
女子①山梨学院大学 ②日本体育大学 ③信州大学 ④筑波大学 ⑤東京女子体育大学
⑥大東文化大学 ⑦関東学院大学 ⑧都留文科大学

フィギュア

男子①日本大学 ②法政大学 ③明治大学 ④東洋大学 ⑤福岡大学 ⑥立命館大学
⑦慶應義塾大学 ⑧早稲田大学
女子①東北福祉大学 ②専修大学 ③東洋大学 ④京都産業大学 ⑤同志社大学 ⑥愛知学院大学
⑦甲南女子大学 ⑧日本体育大学

アイスホッケー

①明治大学 ②法政大学 ③早稲田大学 ④青山学院大学 ⑤東洋大学/中央大学/札幌大学/東北福祉大学

スピード

男子1部500m
①川田 知範 (日本体育大学) 3 6.5 0
②長島圭一郎 (日本大学) 3 6.7 2
③沢 友和 (専修大学) 3 6.7 7
④清水 亮平 (日本大学) ⑤小林 正暢 (明治大学)
⑥山手新太郎 (日本体育大学) ⑦今野真太郎 (山梨学院大学)
⑧清水 悠紀 (日本大学)

男子1部1000m

①篠原 泰洋 (山梨学院大学) 0 1.1 3.9 9
②小林 正暢 (明治大学) 0 1.1 5.3 6
③小佐野俊之 (日本大学) 0 1.1 5.3 9
④沢 友和 (専修大学) ⑤山手新太郎 (日本体育大学)
⑥金子 悟志 (明治大学) ⑦川端 文平 (専修大学)
⑧長島圭一郎 (日本大学)

男子1部1500m

①小林 和朗 (明治大学) 0 1.5 3.0 1
②牛山 貴広 (明治大学) 0 1.5 3.4 3
③小澤 晴樹 (東洋大学) 0 1.5 4.1 2
④小佐野俊之 (日本大学) ⑤菱沼 雅仁 (明治大学)
⑥伊勢 秀一 (専修大学) ⑦菊池 千年 (専修大学)
⑧野本 繁 (日本体育大学)

男子1部 5000m

①宮崎今佐人 (明治大学) 0 6.5 5.0 7
②牛山 貴広 (明治大学) 0 6.5 7.8 2
③菅野 晶彦 (日本体育大学) 0 7.0 5.0 2

④村崎 高夫 (東洋大学) ⑤橋原 昌伸 (日本大学)
⑥島山 薫 (日本体育大学) ⑦徳村 光晃 (明治大学)
⑧遠藤幸太郎 (日本大学)

男子1部10000m

①宮崎今佐人 (明治大学) 1 4.2 4.1 4
②安田 直樹 (日本体育大学) 1 4.3 7.5 6
③小原 英志 (日本大学) 1 4.4 3.8 5
④出島 茂幸 (専修大学) ⑤遠藤幸太郎 (日本大学)
⑥東 健太郎 (明治大学) ⑦小笠原裕太 (専修大学)
⑧高橋 理生 (東洋大学)

男子1部2000mリレー

①専修大学 0 2.2 5.6 2
(宮川亮祐 川端文平 西村誉人 沢友和)
②明治大学 0 2.2 6.9 9
③日本体育大学 0 2.2 7.0 0

男子2部500m

①石黒 弘希 (大東文化大学) 3 8.3 4
②齊藤 仁 (仙台大学) 3 9.2 7
③立田 章二 (京都産業大学) 3 9.9 8
④本田 浩史 (仙台大学) ⑤遠藤 誉仁 (大東文化大学)
⑥紅根 英信 (筑波大学) ⑦西尾 賢佑 (都留文科大学)
⑧角倉 徹哉 (筑波大学)

男子2部1500m

①伊藤 隼 (大東文化大学) 0 2.0 2.2 4
②柳町 亨 (大東文化大学) 0 2.0 2.7 5
③須藤 勇気 (信州大学) 0 2.0 5.0 6

④柳町 博行 (仙台大学) ⑤立田 章二 (京都産業大学)
⑥高野 正樹 (早稲田大学) ⑦上原 啓一 (仙台大学)
⑧大野 裕介 (筑波大学)

男子2部3000m

①柳町 亨 (大東文化大学) 0 4.2 4.5 3
②伊藤 隼 (大東文化大学) 0 4.2 5.5 3
③須藤 勇気 (信州大学) 0 4.3 9.9 1
④上原 啓一 (仙台大学) ⑤柳町 博行 (仙台大学)
⑥高野 正樹 (早稲田大学) ⑦西尾 賢佑 (都留文科大学)
⑧瀧本 和樹 (都留文科大学)

男子2部5000m

①鈴木 一 (大東文化大学) 0 7.3 3.7 8
②多田 浩輔 (大東文化大学) 0 7.4 7.3 9
③桜庭 洋介 (都留文科大学) 0 8.4 3.8 3
④境入 憲司 (筑波大学) ⑤児玉 健 (筑波大学)
⑥山田 昭博 (都留文科大学)

男子2部2000mリレー

①仙台大学 0 2.4 1.1 3
(斎藤仁 上原啓一 柳町博行 本田浩史)
②大東文化大学 0 2.5 0.0 9
③筑波大学 0 3.0 1.2 2

女子500m

①新谷志保美 (筑波大学) 4 0.2 1
②加治木 彩 (信州大学) 4 1.1 8
③伊藤 靖恵 (山梨学院大学) 4 1.4 3
④原 美樹 (山梨学院大学) ⑤小林 幸枝 (東女体育大学)
⑥藤井 有加 (日本体育大学) ⑦谷地田美花 (日本体育大学)
⑧三浦 知子 (山梨学院大学)

女子1000m

①新谷志保美 (筑波大学) 0 1.2 0.9 5
②谷地田美花 (日本体育大学) 0 1.2 2.3 1
③原 美樹 (山梨学院大学) 0 1.2 2.4 6
④加治木 彩 (信州大学) ⑤伊藤 靖恵 (山梨学院大学)
⑥三浦 知子 (山梨学院大学) ⑦小林 幸枝 (東女体育大学)
⑧角谷 絵美 (日本体育大学)

女子1500m

①竹ノ内由香 (日本体育大学) 0 2.0 8.0 0
②中島 織七 (山梨学院大学) 0 2.0 9.3 8
③大松由香利 (信州大学) 0 2.0 9.4 8
④山本 絵美 (日本体育大学) ⑤菅原 瑞枝 (山梨学院大学)
⑥樺石 祐佳 (大東文化大学) ⑦原 亜希 (山梨学院大学)
⑧大木 匠実 (大東文化大学)

女子3000m

①大松由香利 (信州大学) 0 4.3 2.4 9
②竹ノ内由香 (日本体育大学) 0 4.3 3.5 5
③菅原 瑞枝 (山梨学院大学) 0 4.3 6.2 1
④山本 絵美 (日本体育大学) ⑤茅野 理奈 (日本体育大学)
⑥中島 織七 (山梨学院大学) ⑦道政 直美 (山梨学院大学)
⑧八木 由紀 (関東学院大学)

女子2000mリレー

①山梨学院大学 0 2.4 4.9 5
(三浦知子 伊藤靖恵 中島織七 原美樹)
②信州大学 0 2.4 5.8 7
③日本体育大学 0 2.4 6.4 7

フィギュア

男子シングル1部

①田村 岳斗 (日本大学) ②岩本 英嗣 (日本大学)
③中庭 健介 (福岡大学) ④津留 豊 (法政大学)
⑤吉田 晋也 (立命館大学) ⑥小川 泰夫 (慶應義塾大学)
⑦中井 駿 (早稲田大学) ⑧竹村 潤一 (法政大学)

男子シングル2部

①青木 大輔 (早稲田大学) ②松下 泰之 (獨協大学)
③大谷 康雄 (信州大学) ④大口 悠司 (岡山大学)
⑤福井 秀明 (日本体育大学) ⑥浜崎 祐紀 (東京大学)
⑦中川 慶一 (東京大学) ⑧中野 剛 (京都大学)

女子シングル1部

①荒川 静香 (早稲田大学) ②高橋香奈子 (専修大学)
③若松 詩子 (東北福祉大学) ④荒井万里絵 (東北福祉大学)
⑤鎌田 祐子 (甲南女子大学) ⑥佐藤佳奈子 (専修大学)
⑦竹内 理恵 (同志社大学) ⑧長谷部 文 (東洋大学)

女子シングル2部

①松尾衣里子 (東洋大学) ②佐竹 裕子 (実践女子大学)
③日向野美華 (神田外語大学) ④青木 みあ (東京女子大学)
⑤中林あずさ (立命館大学) ⑥鈴木 絵美 (名古屋短期大学)
⑦佐々木美穂子 (中京大学) ⑧金子 由佳 (日本体育大学)

アイスホッケー

1回戦

専修大学	6—0	九州産業大学
神戸大学	5—3	武蔵工業大学
早稲田大学	4 2—0	京都大学
明治大学	1 4—0	苫小牧駒沢大学
大東文化大学	1 2—0	関西大学
東海大学	1 5—0	福岡大学
中央大学	1 1—0	八戸工業大学
日本大学	5—3	愛知学院大学
青山学院大学	1 0—1	関西学院大学
北陸大学	3—2	国士舘大学
札幌大学	4—2	同志社大学
東北福祉大学	4—4	立命館大学

(PS 1—0)

京都産業大学	5—3	慶應義塾大学
日本体育大学	1 4—1	岡山大学

2回戦

東洋大学	1 0—0	専修大学
早稲田大学	1 8—0	神戸大学
明治大学	9—1	大東文化大学
中央大学	3—0	東海大学

青山学院大学	3-2	日本大学
札幌大学	6-1	北陸大学
東北福祉大学	6-1	京都産業大学
法政大学	17-1	日本体育大学
準々決勝戦		
早稲田大学	7-4	東洋大学
明治大学	4-1	中央大学
青山学院大学	6-1	札幌大学
法政大学	8-1	東北福祉大学
準決勝戦		
明治大学	6-3	早稲田大学
法政大学	11-0	青山学院大学
3位決定戦		
早稲田大学	5-1	青山学院大学

M V P 加藤 貴人 (明治大学)
 得点王 伊藤 悟 (法政大学)
 アシスト王 石黒 大 (明治大学)

決勝戦				
明治大学	4	$\begin{pmatrix} 1-0 \\ 1-0 \\ 1-0 \end{pmatrix}$	0	法政大学

明治大学		法政大学	
加藤 貴人	GK	GK 片山 和人	
越智隆一郎	GK	GK 金丸 祐介	
坂元 和也	DF	FW 千葉 良平	
本間 千照	DF	FW 番澤真一郎	
川村 洋介	DF	FW 茅森 康二	
木元 太一	DF	DF 園田 智弘	
曾山 雄大	DF	DF 中田 圭亮	
森田 祐造	DF	FW 波多野誉行	
水本 祥太	FW	FW 伊藤 悟	
石山 洋平	FW	FW 渋谷 一樹	
柳 定承	FW	FW 松田 圭介	
安田 将人	FW	DF 河村 正博	
石黒 大	FW	FW 北側 勝哉	
本田 一郎	FW	FW 衣笠 伸正	
後藤 雄真	FW	FW 末松 大一	
新妻 弘紳	DF	DF 松本 拓也	
工藤 修平	FW	DF 林 寛和	
南條 知	FW	FW 木村 光一	
飯村 善則	DF	FW 酒井 大輔	
秦 健一郎	FW	FW 向坂 康弘	
中川 昌洋	DF	DF 萩原 優吾	
荻原 通太	L	DF 原 豪亮	

得難い雰囲気インカレ

新谷志保美 (筑波大OB)

伊香保で行われた第74回大会は、私にとって最後のインカレでした。年末に行われた全日本スプリント選手権で、結果を出せなかった悔しさがあったまま年明けを向かえ、インカレになりました。2年生のときから、500mおよび1000mで2冠・2連覇していて、周囲の人達からは「今年も2冠するだろう」と期待されていたと思います。私としても、最後のインカレを満足のいく結果で終えたいと思っていましたし、実際終わってみると、無事2冠することができ、同時に3連覇の達成ということになりました。レース自体は、良い滑りだったと言い切れない面はありましたが、それでも、やはり、嬉しかったです。

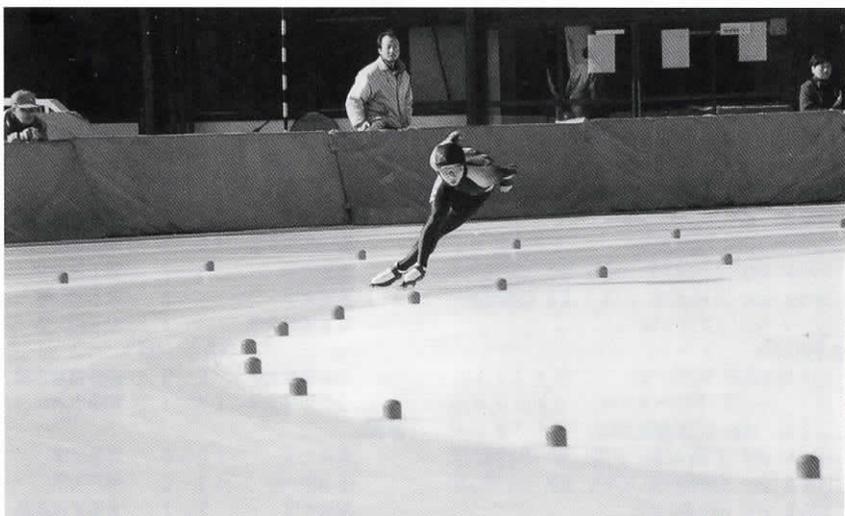
この伊香保大会は、他にも数名の筑波大のスケート部員が参加しており、応援されたり応援したりという楽しさもありました。

大学の4年間はあっという間に過ぎてしまいましたが、インカレは他の大会と少し違う雰囲気がありました。そのインカレを良い結果で締めくくれたことは、私の一生の思い出です。

夢にまで見た優勝

坂元 和也 (明大OB)

インカレで優勝できた時のあの感激は、時が過ぎた今でも、胸が熱くなります。人生で最大といっていいほど、最高の思い出です。1年間をとおして、チームをまとめる為に、いろいろ悩んだこともありましたが、指導者やみんなに支えられ、後輩達の力を借りて、最後に最高のチームを作ることができました。僕たちは今までインカレで、ベスト16以上、勝ち上がったことがありませんでした。最初の山はそのベスト16を越えることでした。なんとしても勝ちあがろうと特に4年生が必死でした。それに後輩達がついてきてくれました。その結果、勝つことができ、初めての準決勝に進むことができ、仲間がとても頼もしく感じました。そして夢にまで見た決勝。頭の中では優勝したいというのはもちろんですが、この最高のチームでのアイスホッケーを精一杯楽しみ、試合に出る人、出ない人関係なく全員で闘った結果が優勝につながったのだと思います。とにかく最高のチームでした。



女子500m、1000m2冠、3連覇を果たした新谷志保美選手 (筑波大)

清水宏保選手、西谷岳文選手、
長野オリンピックで金メダル！！



清水宏保選手



西谷岳文選手

日本大学時代、リレハンメルオリンピックで初参加し、長野で頂点に立った清水宏保選手（三協精機・日大卒）と、若干19歳でショートトラックで初の金メダルをもたらした西谷岳文選手（阪南大1年）。好対照の二人であるが、共に日本人に感動を与え、学生選手の手本となったことは確かである。長野の感動を再び当時掲載されたインタビューとコメントで紹介する。

清水宏保選手について

清水が断案の強さで、日本スケート連盟悲願の金メダルを獲得した。1回目はスタートから、100mで何回もの失敗があり、必ずしも良い出来ではなかったが、2位に2/100の差をつけて勝ち、2回目はスタートもその後の滑りも、ほぼ完璧に滑りきり、オリンピック記録で完勝した。それは清水という選手が彼に課せられた全ての物に勝った感動の勝利でもあった。

（オリンピック報告書、スピードスケート監督・石幡忠雄氏）

清水宏保（三協精機）がスピードスケート500m（2回目）で、前日に続き最高タイムの35秒59のオリンピック新記録をマークし、日本スケート界初の金メダルを獲得した。95年10月に日本選手の中で最も早くオリンピック代表に決定、2年以上にわたるプレッシャーをはねのけての快挙だった。興奮に包まれたのは、会場のエムウェーブだけでなく、国内の各所でテレビに釘付けになる風景が見られ、長野オリンピック人気が一気に盛り上がった。

（オリンピック組織委員会報告書）

インタビュー

— 500mの2本目をゴールした後は「ヤッター！」と声を出していましたが、今、落ち着いてみると、どうですか。

清水 やっぱりホッとしましたね、こころのどこかで不安がありましたから。

— どんな不安ですか。

清水 金メダルを取れなかったらどうなるんだろう、というような……。外からの情報は気にならなかったけど、不安というのは突然襲ってくるんです。自分自身で考えていても、失敗を考えてしまうことがたまにありました。金メダルを取ったらどうだこうだという話は出ても、取らなかったら、という話はないじゃないですか。だから自分でもいろいろ考えてしまって。今はオリンピック前で注目されてて、いかかもしれないけど……とか。

— 初日が終わってからプレッシャーはなかったですか。それより、いける、という自信の方が大きかったんですか。

清水 自信というか、ほとんどレースのことは考えなかったですね。とりあえず初日に勝って嬉しかったので、素直にそれをその日は喜んで、次のレースのことは、明日になって考えればいいなと思っていました。翌日の朝も「今日はレースだな」と思ったけど、レースのことは会場に行ってから考え始めましたね。確かに、500mは2日間のレースになったから、重圧はかなりありますね。24時間の間合いとは、かなり嫌なものだろうと、僕もオリンピック前には考えていたけど、いざ入ってみると自然に集中していましたから。

— 1000mも終って、メダル2個を獲得した達成感はありましたか。

清水 今回は、僕の中で100点満点に近い出来ですけど、満足感というまでには、まだ達していませんね。また、さらに上のレベルを求めているというか……。まだ明確には見えてないけど、タイムとかではなく、自分の生き方、そう、スケートを通して、もっと価値のある生き方を目指していきたいなと思っているんです。ゴールが次のスタートラインというけど、まさにそんな感じですね。

— 次は500mで、史上初の34秒台ですか。

清水 実際まだ、誰も出したことがないし、35秒5を切っているのも僕だけです。やってみないと分からないですね。でも、記録は僕が塗り替えたいです。今までは、それ以前の古い固定観念を捨てて、新しいものをドンドン吸収することによって、今回のオリンピックの成績が残せました。2年後、3年後、そして4年後になると、今とは全く違った考えでオリンピックに臨めると思っているんです。

（2月18日収録）

オリンピック1998年5月号抜粋

清水選手は長野から四年後、ソルトレークシティオリンピックで銀メダルに輝いた。3/100秒、金には及ばなかったが、限りなく金に近い銀であった。彼は金でなかったことを弁解していない。その態度と風格からは、彼の目標がメダルを越えたところにあるかのように見えた。彼は身をもって、誰も見たことのない未知の領域の何かしらを、その感性と行動をもって我々に教えてくれる選手であろう。トリノでも何かやってくれそうだ。（亀岡記）

西谷岳文選手について

男子500mが始まった。2コースの西谷がロケットのようなスタートでトップに立った。ぐんぐんスピードを増した。2位のマーク・ガニオン(カナダ)が懸命に追った。しかし、西谷は速い。差は開いた。あと2週になった時、速さに堪えきれずガニオンが転倒した。中国のアンが2位に上がった。しかし、西谷との差は5m以上あった。3位には植松がいた。西谷はそのままゴールイン。金メダル。余裕の金メダルであった。

(オリンピック報告書、ショートトラック監督・亀岡寛治)

大会は15日目、ホワイトリングで夜に行なわれたショートトラックスピードスケート男子500m決勝で、爆発的なダッシュを見せた西谷岳文(阪南大)が金メダル、植松仁(ヴェローチェ)も銅メダルを獲得し、ホワイトリングが沸いた。西谷は19歳。日本の冬季オリンピック史上初の十代メダリストになった。今大会の日本選手のメダルも計10個と史上2けた台を記録した。

(オリンピック組織委員会報告書)

インタビュー

—— オリンピックの前は、どのくらいの成績なら、自分で納得できると思っていましたか。

西谷 成績はそんなに考えなかったけど、自分自身では、やれる自信はありました。滑っていても、相手の選手がそれほど大きく見えなかったし、スタートラインではかえって小さく見えるような気がして。スタート前でも、誰にも負けるような気はしませんでした。

—— 決勝に残るための戦略のようなものは考えていましたか。

西谷 それは別になかったですね。予選から、普通に自分のやりたいようにやって、お客さんが楽しんで、見に来て良かったと思ってくれればいいと思いました。だから、2番手が出るよりも、1番手で出た方が、お客さんも「オッ、日本人がトップじゃないか」と喜んでもらえるかと思ったから。

—— 最初の予選では2位でしたが。

西谷 調子自体は悪くないと思っていたけど、脚に多少不安が残る状態で試合を迎えたから、ここでは無理はできないなと思ったんです。次からは落ち着いて「ここ

で落ちてもいい」というような気持ちでしたね。でも、頭の中で、最低ラインは準決勝と思っていたから、ちょうどいい組に入れた準決勝では勝負しましたね。

—— 決勝ではスタートでトップに立ったら金メダルもと思っていましたが、西谷君の頭の中にもそんな思いはあったのでは。

西谷 普段の試合も1位か4位なんで、言ってみれば、金かメダル無し、ですよ。無しだったら、予選落ちと同じようなものですから……。そういう意味では、頭の中には、そういう思いもあったかもしれませんね。

—— これでショートトラックのエースになってしまいましたか。

西谷 エースと言われるまでには、まだまだですよ。そう言われるように頑張りたいけど、まずは寺尾さん、(悟、中京大)と勝負しなくては。やっぱり、ショートトラックと言ったら、寺尾悟というイメージがあるので、それを「寺尾もいるけど、西谷というヤツもいるな」と思われたいですね。だんだん知名度が上がって、最後には「西谷というやつはいいヤツだ」と思われたいいいんじゃないですか(笑)。

—— 表彰式での喜び方が、あまり派手ではありませんでしたが。

西谷 自分の中では、金メダルの価値が、他の人と比べると低いような気がしてるんです。杉尾コーチにも「おまえは金メダルを取らない方がいいよ。苦勞してないから。こんなんでも取っても、真の金メダルの価値が出ない。」と言われてたんです。だから、金メダルを取ってどうしたらいいだろうと、今、そればかり考えているんです。この後も、そっちの方で悩むと思いますよ。次のソルトレークでも、絶対勝てる訳じゃありませんから(笑)。

(2月18日収録)

オリンピック1998年5月号抜粋

史上最年少で獲った冬の金メダルであった。西谷選手にとっては飛び込んできた金メダルであったと思ったのであろう。メダリストとしては控えめであった。4年後のソルトレークシティでは金を狙っていた。真の実力もついた。ユニバーシアードの500mでも断突の金であった。しかし直前の2001年12月30日、左足首を骨折した。絶望と思えた西谷を、日本スケート連盟はソルトレークの代表に選んだ。大きなボルトを入れたまま、500mに出場、見事8位入賞であった。再び金を目指してトリノに向かって欲しい。(亀岡記)

歴代優勝校一覧

回数	年度	開催地	男子総合優勝	女子総合優勝	スピード男子	スピード女子	フィギュア男子	フィギュア女子	ホッケー
第1回	大正13年	長野県六助池	—		暖気中止		東京		早稲田
第2回	大正14年	長野県松原湖	—		早稲田		北海道		東京
第3回	昭和1年		大正天皇崩御のため中止						
第4回	昭和2年	長野県松原湖	—		早稲田		慶応		満医大
第5回	昭和3年	長野県松原湖	慶応		早稲田		慶応		慶応
第6回	昭和4年	長野県松原湖	慶応		早稲田		慶応		慶応
第7回	昭和5年	岩手県高松池	早稲田		早稲田		慶応		早稲田
第8回	昭和6年	岩手県高松池	暖気のため中止						
第9回	昭和7年	岩手県高松池	慶応		明治		慶応		慶応
第10回	昭和8年	栃木県日光市	慶応		明治		慶応		慶応
第11回	昭和9年	栃木県日光市他	慶応		明治		慶応		慶応
第12回	昭和10年	栃木県日光市	早稲田		明治		慶応		早稲田
第13回	昭和11年	栃木県日光市	明治		明治		慶応		立教
第14回	昭和12年	青森県八戸市	早稲田		明治		慶応		早稲田
第15回	昭和13年	長野県蓼の海他	明治		明治		明治		立教
第16回	昭和14年	栃木県日光市	明治		明治		明治		立教
第17回	昭和15年	青森県八戸市他	明治		早稲田		慶応		明治
第18回	昭和16年	栃木県日光市他	明治		明治		慶応		明治
第19回	昭和21年	長野県松原湖	立教		明治		早稲田		立教
第20回	昭和22年	長野県松原湖	早稲田		日本		早稲田		早稲田
第21回	昭和23年	岩手県高松池	早稲田		日本		関学大		早稲田
第22回	昭和24年	長野県蓼の海他	早稲田		日本		早稲田	神戸女学院	早稲田
第23回	昭和25年	北海道苫小牧市	明治		明治		明治	早稲田	早稲田
第24回	昭和26年	長野県蓼科湖他	明治		明治		明治	早稲田	早稲田
第25回	昭和27年	長野県蓼科湖他	明治		明治		明治	早稲田	明治
第26回	昭和28年	長野県美鈴湖他	明治		明治		明治	早稲田	早稲田
第27回	昭和29年	栃木県日光市	明治		明治		明治	神戸女学院	立教
第28回	昭和30年	長野県蓼の海	—		日本		明治	早稲田	暖気中止
第29回	昭和31年	長野県蓼の海	明治		日本		明治	慶応	明治
第30回	昭和32年	青森県八戸市	明治		日本		明治	早稲田	明治
第31回	昭和33年	長野県蓼の海他	明治		明治		明治	慶応	立教
第32回	昭和34年	北海道帯広市	明治		日本		同志社	立教	立教

注 開催期間を前の50回史では、年次で表記してましたが、75回史では、年度で表記し直してあります。
 昭和18年は全国学徒水上競技会の名称で長野県蓼の海で開催。
 昭和19、20、21年は第2次世界大戦のため中止。
 中止になった第3回大会を回数に入れない時期があったため、回数が変更された大会もあります。

回数	年度	開催地	男子総合優勝	女子総合優勝	スピード男子	スピード女子	フィギュア男子	フィギュア女子	ホッケー
第33回	昭和35年	青森県八戸市他	明治		明治		立教	慶応	明治
第34回	昭和36年	長野県軽井沢	明治		立教		明治	関学大	明治
第35回	昭和37年	長野県蓼科湖	明治		日本		明治	関学大	早稲田
第36回	昭和38年	長野県美鈴湖	暖気のため中止						
第37回	昭和39年	山梨県富士五湖他	明治		明治		明治	慶応	明治
第38回	昭和40年	北海道帯広市	明治		日本		早稲田	日本	明治
第39回	昭和41年	長野県蓼科湖	日本		日本		早稲田	玉川学大	早稲田
第40回	昭和42年	北海道苫小牧市	明治		日本	東洋	明治	日本	明治
第41回	昭和43年	長野県軽井沢	日本		日本	東洋	早稲田	専修	明治
第42回	昭和44年	長野県蓼科湖	明治		日本	東京女子体育	明治	関学大	明治
第43回	昭和45年	長野県浅間	明治		日本	専修	明治	専修	明治
第44回	昭和46年	山梨県富士スバル	明治		日本	専修	明治	富士短期	法政
第45回	昭和47年	栃木県日光市	明治		明治	専修	日本	日本	法政
第46回	昭和48年	栃木県日光市	明治		日本	日本体育	明治	日本	法政
第47回	昭和49年	栃木県日光市	明治		明治	日本体育	明治	専修	法政
第48回	昭和50年	栃木県日光市	明治		日本	日本体育	明治	富士短期	法政
第49回	昭和51年	栃木県日光市	法政		日本	日本体育	法政	富士短期	法政
第50回	昭和52年	栃木県日光市	明治		明治	日本体育	専修	専修	法政
第51回	昭和53年	栃木県日光市	明治		明治	日本体育	専修	日本	法政
第52回	昭和54年	栃木県日光市	明治		明治	日本体育	法政	日本	法政
第53回	昭和55年	栃木県日光市	日本 法政		専修	日本体育	日本	法政	法政
第54回	昭和56年	栃木県日光市	日本	専修	専修	日本体育	日本	法政	法政
第55回	昭和57年	栃木県日光市	法政	専修	専修	専修	明治	専修	法政
第56回	昭和58年	栃木県日光市	明治	専修	専修	日本体育	明治	日本	明治
第57回	昭和59年	栃木県日光市	明治	専修	専修	日本体育	明治	日本	明治
第58回	昭和60年	栃木県日光市	明治	専修	専修	日本体育	明治	専修	明治
第59回	昭和61年	栃木県日光市	明治	日体 明治	専修	日本体育	明治	明治	東洋
第60回	昭和62年	栃木県日光市	明治	日体 明治	専修	日本体育	明治	明治	明治
第61回	昭和63年	栃木県日光市	明治	専修	専修	中京短期	明治	明治	明治
第62回	昭和64年平成元	北海道苫小牧市	日本	専修	日本	中京短期	明治	明治	法政

日本学生氷上競技連盟加盟校一覧

平成14年(2002年)10月6日現在

回数	年度	開催地	男子総合優勝	女子総合優勝	スピード男子	スピード女子	フィギュア男子	フィギュア女子	ホッケー
第63回	平成2年	青森県八戸市	日本	専修	日本	日本体育	日本	日本	早稲田
第64回	平成3年	北海道帯広市	明治	日本日体	日本	日本体育	明治	日本	明治
第65回	平成4年	栃木県日光市	日本	日本日体	日本	日本体育	日本	日本	明治
第66回	平成5年	長野県軽井沢町	明治	明治日体	日本	日本体育	明治	明治	明治
第67回	平成6年	北海道苫小牧市	日本	日体	日本	日本体育	明治	同志社	明治
第68回	平成7年	北海道釧路市	明治	大東文化 愛知学院	日本	大東文化	明治	愛知学院	東洋
第69回	平成8年	青森県八戸市 三沢市 福地町	明治	日本体育 同志社	日本	日本体育	明治	同志社	東洋
第70回	平成9年	北海道苫小牧市	明治	東京女子体育	専修	日本体育	日本	愛知学院	東洋
第71回	平成10年	栃木県日光市	日本	愛知学院日体	専修	日本体育	日本	愛知学院	東洋
第72回	平成11年	北海道帯広市	明治	日体 東女体 東洋	明治	日本体育	日本	東洋	東洋
第73回	平成12年	北海道釧路市	日本	日体 東北福祉	明治	日本体育	日本	東北福祉	東洋
第74回	平成13年	群馬県前橋市 高崎市 伊香保町	明治	日体 山学 東北福祉	明治	山梨学院	日本	東北福祉	明治
第75回	平成14年	北海道苫小牧市							

優勝決定方法

部門別優勝

<スピード>

- 1距離8位までを入賞とし、1位8点、2位7点……8位1点を与える。ただしリレーは4位までを入賞とし、1位7点、2位5点、3位3点、4位1点とする。
- 以上の得点の合計点によって男女別学校順位を決定する。
- 同点の場合は上位入賞者の多い学校を優位とする。

<フィギュア>

- 出場者数の逆点法によって得点を与える。30人出場の場合は1位30点、2位29点……30位1点である。
- 以上の得点の合計点によって男女別学校順位を決定する。
- 同点の場合は上位入賞者の多い学校を優位とする。

<ホッケー>

- ベスト8進出校に得点を与える。1位8点、2位7点、3位6点、4位5点、他の4校2.5点ずつとする。

総合優勝

- 3部門の男子の学校順位で決定する。
- 3部門それぞれの1位校から8位校に1位8点、2位7点……8位1点の得点を与える。
- 以上の得点の合計点の最も多い学校を総合優勝とする。
- 同点の場合は上位入賞者の多い学校を優位とする。

	S	F	H
北海道地区			
帯広畜産大学			○
釧路公立大学			○
札幌大学			○
札幌医科大学			○
札幌学院大学	○	○	
苫小牧駒澤大学			○
藤女子大学			○
北海学園大学			○
北海道大学			○
北海道浅井学園大学	○	○	
北海道医療大学			○
北海道教育釧路大学			○
北海道工業大学			○
室蘭工業大学			○
酪農学園大学			○
東北地区			
秋田大学			休
岩手大学			○
仙台大学	○	○	
東北大学	○	○	○
東北学院大学	○	○	
東北福祉大学	○	○	
八戸大学	○	○	
八戸工業大学	○	○	
盛岡大学			○
山形大学			○
北信越地区			
金沢大学			○
信州大学	○	○	○
富山国際大学			○
新潟大学			○
福井県立大学	○		
北陸大学			○
関東地区			
青山学院大学	○	○	○
お茶の水女子大学	○		
学習院大学	○		
学習院女子大学	○		
神奈川大学	○	○	○

	S	F	H
神田外語大学	○		
関東学院大学	○		
北里大学	○	○	
共立女子大学	○		
慶應義塾大学	○	○	○
群馬県立医療短期大学	休		
国士館大学	○	○	○
埼玉大学	○		
実践女子大学	○		
淑徳大学	○		
上智大学	○		
昭和大学	○		
女子栄養大学	○		
聖学院大学	○		
聖徳大学	○		
成蹊大学	○		
成城大学			休
専修大学	○	○	○
大東文化大学	○	○	○
拓殖大学	○		○
千葉大学	○		
中央大学			○
筑波大学	○	○	○
都留文科大	○		
帝京大学	○		○
東海大学			○
東京大学	○		
東京外国語大学	○		
東京国際大学	○		
東京女子大学	○		
東京女子体育大学	○	○	
東京富士大学	○		
東京農業大学	○		
東洋大学	○	○	○
獨協大学	○	○	
日本大学	○	○	○
日本女子大学	○		
日本女子体育大学	○		
日本体育大学	○	○	○
法政大学	○	○	○
武蔵工業大学	○	○	
明治大学	○	○	○
明治学院大学	○		
山梨学院大学	○		
立教大学	○	○	○
早稲田大学	○	○	○

	S	F	H
中部地区			
愛知大学	○	○	○
愛知学院大学	○	○	○
愛知教育大学	○		
愛知工業大学	○		
愛知淑徳大学	○		
椋山女子学園大学	○		
中京大学	○	○	○
東海学園大学	○		
名古屋大学	○	○	○
名古屋女子大学	○		
南山大学			○
関西地区			
大阪大学		○	○
大阪市立大学			○
大阪経済大学	○	○	○
大阪芸術大学			○
大阪工業大学			○
関西大学	○	○	○
関西学院大学	○	○	○
京都大学	○	○	○
京都工芸繊維大学			○
京都産業大学	○	○	○
近畿大学	○		
甲南大学			○
甲南女子大学	○		
神戸大学	○	○	○
神戸学院大学	○		
神戸薬科大学	○		
四天王寺国際仏教大	○	○	○
常磐会学園大学	○		
同志社大学	○	○	○
奈良女子大学	○		
阪南大学	○		
姫路工業大学			○
佛光大学	○	○	
武庫川女子大学	○		
立命館大学	○	○	○
龍谷大学	○	○	○
流通科学大学	○		

	S	F	H
中・四国地区			
愛媛大学		○	○
岡山大学		○	○
岡山商科大学		○	
岡山理科大学		○	
香川大学		○	○
香川短期大学		○	○
川崎医療福祉大	○		
鳥取大学		○	○
ノートルダム清心女子大		○	
広島大学		○	○
広島工業大学		○	
広島修道大学		○	
松山東雲女子大		○	
山口大学			○
九州地区			
鹿児島大学			○
鹿児島国際大学			○
九州大学			○
九州工業大学			○
九州国際大学			○
九州産業大学			○
熊本大学			○
久留米大学			○
佐賀大学			○
西南学院大学			○
崇城大学			○
第一経済大学			休
筑紫学園大学			○
長崎大学			○
長崎総合科学大			○
中村学園大			○
福岡大学	○	○	○
福岡工業大			○
福岡学院大			○
琉球大学			○
部門別加盟校	36	94	91
延べ部門数	221		
総加盟校	150		

..... 歴代会長名

初代	平沼 亮三	大正 14 年	～	昭和 3 年
第 2 代	喜多 壮一郎	昭和 4 年	～	昭和 21 年
第 3 代	林 信雄	昭和 22 年	～	昭和 24 年
第 4 代	中川 一郎	昭和 25 年	～	昭和 27 年
第 5 代	中川 富弥	昭和 28 年	～	昭和 31 年
第 6 代	園 乾治	昭和 32 年	～	昭和 46 年
第 7 代	向後 政義	昭和 47 年	～	昭和 48 年
第 8 代	橋本 甲四郎	昭和 49 年	～	昭和 63 年
第 9 代	藤野 文雄	平成 元年	～	平成 6 年
第 10 代	南洞 邦夫	平成 7 年	～	平成 10 年
第 11 代	亀岡 寛治	平成 11 年	～	

.....

学生編集委員

奥山 俊介
 小林 志吏
 佐々井真知
 中川 慶一
 仁王頭香織
 袴田 優樹
 檜山 祥則
 松本 加奈
 三浦 佳子
 矢口 祐子
 吉田 慎悟

OB・OG編集委員

石澤 恒男	高橋 晶子
伊藤 義健	田中 邦雄
伊東 秀仁	富田 隆祐
今村 俊明	富田彦次郎
大井巳喜彦	富田 玲子
小笠原慎悟	中島 善彦
亀岡 寛治	南洞 邦夫
川村 宏	福田 敏行
島田 祐治	藤森美恵子
城田 憲子	堀口卓司郎
鈴木 恵一	前嶋 孝
関根 章	松村 充
高橋 博	安田 富男

(五十音順 敬称略)

編集後記

日本学生水上競技連盟の最大事業であるインターカレッジは、1925年(大正14年)に第1回大会を開催してから、今回第75回記念大会を迎えることになりました。この輝かしい歴史を記念して、ここに「75回史」を発行することにいたしました。

編集にあたり、この大会の折に配布することを前提にし、どのような基本方針で臨むか議論の結果、儀礼的なものは割愛し、できるだけ記録的なものを多く収録することとしました。各回の執筆者については、3部門で調整していただきました。1回～49回については、「50回史」の内容をそのまま掲載しました。

不備な点については、ご指摘いただいで今後に活かしたく存じます。ご協力いただいた沢山の方々に感謝いたし、厚くお礼申し上げます。

2003年1月6日

日本学生水上競技選手権大会75回史
 編集委員会 学生委員代表 中川慶一

日本学生氷上競技選手権大会75回史

平成15年1月6日 発行

発行 日本学生氷上競技連盟

東京都西東京市東伏見3-1-25

サントリー東伏見アイスアリーナ内

印刷所/コーハン株式会社

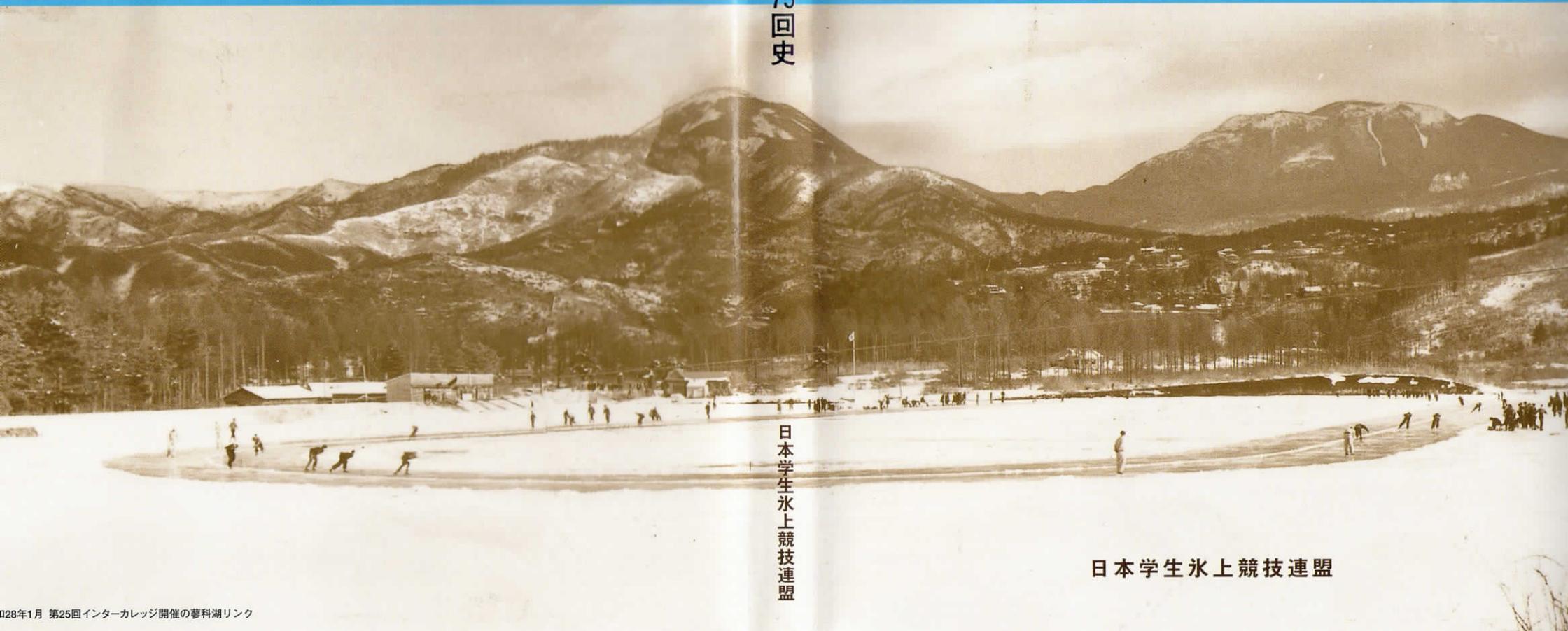


1928年1月 第25回インターカレッジ開催の夢科湖リンク



日本学生氷上競技選手権大会75回史

日本学生氷上競技 選手権大会 75回史



日本学生氷上競技連盟

日本学生氷上競技連盟